

平成 29 (2017) 年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

F D 活動報告書



大妻女子大学人間関係学部 F D 委員会

平成 29(2017)年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

F D 活動報告書



大妻女子大学人間関係学部F D委員会

平成 29 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって

平成 29 年度の人間関係学部 FD 報告書をお届けします。

ご承知のように、多摩キャンパスでは比較文化学部と社会情報学部の千代田キャンパス移転が進められており、平成 30 年度からは人間関係学部の 1 学部体制となります。そうした中、人間関係学部だけの多摩キャンパスは大丈夫かと心配する声もありましたが、お陰様で比較的順調に平成 30 年度を迎えられそうな状況です。新学部の設置を取り止めることになった平成 29 年度下半期には、多摩キャンパスに憂鬱な空気が流れたことも事実です。しかし、理事長の諮問により設置された「多摩キャンパスの活性化」に関わる次期中期計画検討部会において、人間関係学部は新たな学部・学科設置に頼るのではなく、学部本来の教育機能を高め、教育の質を向上することで多摩キャンパスの魅力を高めていくという方向性を選択しました。普段より FD 活動が積極的行われている本学部らしい選択であったように思います。少子高齢化と格差拡大が進む我が国において、社会学、心理学、福祉学は欠かすことのできない学問領域であり、地域に根差して、共生社会の実現に資する人材育成と研究を行っていくことは、時代に流されない本学部の普遍的なミッションです。そのミッションに沿って粛々と仕事をしていきたい。そうすれば自ずと成果はついてくるだろうという意味が、次期中期検討部会報告書には込められています。

危機感をバネに学部の在り方に向き合った平成 29 年度、人間関係学部の FD 活動は例年にも増して活発に行われました。特に注目されるのが、教育の方法や技術に焦点を当てた学部 FD 研修会です。また、個々の先生方が日々の FD 活動に大変熱心に取り組んで下さいました。本報告書からその雰囲気が伝われば幸いです。今後も人間関係学部の教育の質を向上させるべく、教職員の総力を上げて取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

人間関係学部長 小川 浩

目 次

平成 29 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって（小川 浩）

I	平成 29 年度人間関係学部の FD 活動について（嶋貫 真人）	1
II-1	授業に関するアンケート（前期・後期）（本田 周二）	3
II-2	授業アンケートへの対応（伊藤 美登里）	45
1	前期授業アンケートへの教員の主な回答	45
(1)	授業の改善点	45
(2)	施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望	46
(3)	学生に望むもの	48
2	後期授業アンケートへの教員の主な回答	48
(1)	授業の改善点	48
(2)	施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望	50
(3)	学生に望むもの	51
(4)	その他	51
III	学科・専攻における平成 29 年度 FD 活動への取り組み	53
1	人間関係学科	53
(1)	社会学専攻における FD 活動に関する取り組み（伊藤 美登里）	53
(2)	社会・臨床心理学専攻における FD 活動に関する取り組み（本田 周二）	57
2	人間福祉学科（嶋貫 真人）	64
(1)	人間福祉学専攻における FD 活動に関する取り組み（嶋貫 真人）	73
(2)	介護福祉学専攻における FD 活動に関する取り組み（金 美辰）	81
IV	保護者懇談会（金 美辰）	87
V	オフィスアワー（佐藤 富士子）	93
VI	平成 29 年度クラス指導について（福島 哲夫）	99
VII	平成 29 年度人間関係学部 FD 研修会について（嶋貫 真人）	105
VIII	非常勤講師との教育懇談会（嶋貫 真人）	111
IX	人間関係学部における FD 活動の課題（嶋貫 真人）	117
資 料		119

I 平成29年度人間関係学部のFD活動について

1. 人間関係学部におけるFD活動の取り組み

平成29年度においても、昨年度と同じく教育内容の向上のために下記のような取り組みを行った。

1) 学部FD研修会の実施

「授業をより良くするためのTips」という連続したテーマで3回目の研修を実施した（平成29年12月8日）。研修会の内容と参加者の意見については、本報告書のⅦで詳しく紹介されている。

2) 学生による授業評価

平成29年度においても、前期・後期の年2回、学生による授業アンケートを実施した。アンケートの結果に対しては、全教員が改善に向けたコメントを付してその内容を公表している。

3) 保護者懇談会の実施と参加者のアンケート

平成29年度においても、前期（6月3日：千代田キャンパス）・後期（11月28日：多摩キャンパス）の年2回、父母懇談会を実施した。懇談会の実施後には保護者から出された質問、意見、そしてそれに対する大学の改善策を集約して（もちろん個人情報に関する事柄は伏せたうえで）、教員全員が共有できるように工夫しており、またそれらの内容を本報告書のⅣで公開している。

4) オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のホームページ等でこれを公開している。本報告書のⅤで、今年度のオフィスアワーを振り返った各教員の所感と今後の取り組みの内容が掲載されている。

5) 各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためにはFD委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD活動の一層の充実を図っている。

6) 各学科・専攻におけるFD活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべきであるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みの内容が、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、後

述の学部 FD 研修会の機会を利用して全教員が共有できるようにしている。また、本報告書のⅢでは各学科における FD 活動の内容を具体的に紹介しているが、そこで述べられた内容を各教員が参考にしながら、今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

7) クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたり、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。本報告書のⅥでは各教員が1年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言を行っている。

8) 今後の課題

平成 30 年度から本学部単独で多摩キャンパスの教育・研究活動を展開していくことになっており、学生数の減少が学生の士気の低下や就学環境の悪化につながらないようにするために、どのような方策を打ち出していくのが強く問われている。今後は各学科・専攻と学生支援センター、就職支援センターなどの事務部門との緊密な連携を保ちつつ、学生の就学環境の向上のために努力していきたいと考えている。

Ⅱ－１ 授業に関するアンケート（前期・後期）

１．はじめに

学部授業の質の向上を目的に、本学部では平成 16 年度から、専任教員および非常勤講師が担当する授業について「学生による授業評価」（以下、授業アンケート）を実施している。特に、専任教員は全担当科目（卒業論文指導とゼミナールは原則として除く）の授業アンケートを 2 ヶ年にわたって実施するため、毎年度、担当科目の 2 分の 1 以上の授業アンケートを実施している。ただし、やむを得ない事由により実施対象から除外すべきと思われる科目の場合は FD 委員会において審議を行った上で、判断している。

調査後、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善等（①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください）について回答を求め、それらは本報告書並びにホームページにて公開している。ただし、各専任教員・非常勤講師は、書面により、アンケートの実施および評価結果ならびに意見・改善策等の掲載等を拒否することができる。

２．調査目的

授業に関するアンケートは、教員の学生に対する教育サービスの質と量の向上を図るとともに、よりよい教授法のあり方を考える基礎資料を得るための組織的活動である。

３．調査概要

（１）実施時期および手続き

前期は、平成 29 年 7 月 3 日（月）～7 月 22 日（土）の 3 週間に実施し、後期は、平成 29 年 11 月 27 日（月）～12 月 16 日（土）の 3 週間に実施した。また、授業アンケートの実施にあたり、例年同様、書面およびホームページ等を用いて、学生と各教員への周知と調査への協力を依頼した。さらに、平成 24 年度からは大学行事予定表に授業アンケート実施時期を掲載し、4 月の段階から広く周知するようになっている。

また、学生が率直に記入し、提出しやすいように無記名式で回答を行い、回収と提出は授業参加学生の有志に依頼する形式をとっている。そして、「授業内容や授業方法の改善を図るために実施するものであり、調査結果は統計的に処理され、個人が特定されるものではないこと、さらに成績に影響することは全くないこと」を書面と口頭により、繰り返し説明してから実施している。

（２）調査対象と回答率

前期の調査は、総科目数 187 のうち 168 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 8,672 名であった。そのうち有効回答者は 6,838 名であり、回答率は 78.85%であった。

後期の調査は、総科目数 178 のうち 161 科目で実施した。調査対象者は、調査対象科目の履修者 8,352 名であった。そのうち有効回答者は 5,955 名であり、回答率は 71.30%であった。前期・後期ともに、昨年度よりも回収率が高かった（昨年度前期 76.09%、後期 69.95%）。

前期・後期合わせて、総科目数 365 のうち 329 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 17,024 名であった。そのうち有効回答者は 12,793 名であり、回収率は 75.15%であった。

(3) 調査項目

授業アンケートの表面には、以下の 5 カテゴリー、21 項目があり、「5. そう思う」、「4. ややそう思う」、「3. どちらともいえない」、「2. あまりそう思わない」、「1. そう思わない」の 5 段階評価によって回答を求める形式であった。なお、No.14（この授業にどの程度出席しましたか）の回答ラベルは「5. 100%」、「4. 90%以上」、「3. 80%以上」、「2. 70%以上」、「1. 70%未満」、No.15（この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか）の回答ラベルは「5. 3 時間以上」、「4. 2 時間以上」、「3. 1 時間以上」、「2. 1 時間未満」、「1. していない」とした。その他、裏面に自由記入欄を設けた。本調査のアンケート用紙を次ページ以降に示した。

調査カテゴリーと項目

- ① 教員の授業の進め方について（7 項目）
- ② 授業の内容について（6 項目）
- ③ 学生自身の授業への取り組みとその成果について（5 項目）
- ④ 総合的な印象（1 項目）
- ⑤ 自由設定＝学部独自：担当教員がその場で設定する質問（2 項目）

自由記入欄

- ① 良かったと思う点
- ② 改善した方が良いと思う点
- ③ その他の意見や要望など

(4) 授業アンケート結果の活用ならびに情報公開と情報保護

- ① 各教員の担当科目ごとの調査結果（授業科目別集計）は、年度内に各教員に個別に通知する。
- ② 教員は、授業アンケートの結果に対して、意見や改善策等を FD 委員会に提出する。
- ③ ②の意見や改善策等は、FD 報告書ならびに学部ホームページ上に掲載し、一般公開する。ただし、各教員は、書面により掲載等を拒否することができる。
- ④ 調査データの処理は外部業者に委託し、集計結果の分析およびデータ保管は、FD 委員会の責任において行った。また、自由記入欄の内容は、FD 委員会の責任により、学生の筆跡の特定ができないようにタイピングし直した文章を各授業担当教員に配布した。なお、教員への配布物は、各教員が自己責任において管理・廃棄等を行うこととした。

大妻女子大学 「授業に関するアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。また、裏面の「自由記入欄」にはあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

1. 科目名・教員名

科目名

教員名

【注意】

1. H B の黒鉛筆のみ可。
2. 折り曲げ厳禁。

※右例のようなマークは、読みとることができません。(悪い例)

良いマーク⇒



2. 所属学科 (学科専攻・学年・組にマークしてください)

学 年	組
①	(A)
②	(B)
③	(C)
④	(D)
	(E)
	(F)

被服学科	⑦	社会情報学科	社会生活情報学専攻	⑧	
食物学科	食物学専攻	④	環境情報学専攻	⑨	
	管理栄養士専攻	②	情報デザイン専攻	⑩	
児童学科	児童学専攻	⑪	人間関係学科	社会学専攻	③
	児童教育専攻	⑤		社会・臨床心理学専攻	⑪
ライフデザイン学科	⑫	人間福祉学科	人間福祉学専攻	⑥	
日本文学科	⑬		介護福祉学専攻	⑦	
英文学科	⑭	比較文化学科	1 年生	⑬	
コミュニケーション文化学科	⑮		アジア文化コース	⑭	
			アメリカ文化コース	⑮	
			ヨーロッパ文化コース	⑯	
家政科	家政専攻	⑰	国文科	⑰	
	生活総合ビジネス専攻	⑱	英文科	⑱	
	食物栄養専攻	⑲			

3. 次の質問に対してあなたがどう思うか該当する数字の○にマークしてください

① 先生のこの授業の進め方について

- 1 先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった
- 2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った
- 3 私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした
※(授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5「そう思う」をマーク)
- 4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた
- 5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した
- 6 先生の学生に対する接し方は公平だった
- 7 授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた

そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

② この授業の内容について

- 8 授業は、学習の目標がはっきり示された
- 9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた
- 10 授業の内容は興味深いものだった
- 11 授業の内容はよく理解できるものであった
- 12 授業は自分の将来にとって意味があると思う
- 13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

③ この授業への取り組みとその成果について

- 14 この授業にどの程度出席しましたか
- 15 この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか
- 16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した
- 17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った
- 18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった

100%	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満
⑤	④	③	②	①
3 時間以上	2 時間以上	1 時間以上	1 時間未満	していない
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

④ 総合的な印象

- 19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う

⑤	④	③	②	①
---	---	---	---	---

⑤ 自由設定欄 (学部独自: ex 担当教員がその場で設定する質問)

20	⑤	④	③	②	①
21	⑤	④	③	②	①

自由記入欄は裏面にあります

KN628T 110kg

【自由記入欄】

①良かったと思う点

②改善した方が良くと思う点

③その他の意見や要望など

ご協力ありがとうございました

4. 調査結果の分析

以下に、人間関係学部全体のアンケート集計結果の概要について報告する。具体的には、はじめに「授業の総合的な印象」に関する評価平均点（5 点満点）について、今年度の結果と過年度を比較しながら分析する。ついで、「教員の授業の進め方」、「授業の内容」、「学生自身の授業への取り組み」の各項目について、今年度の結果と過年度の結果を比較しながら分析する。

① 「授業の総合的な印象」の評価

今年度前期授業アンケートにおける学生による「授業の総合的な印象」の評価平均値（5 点満点）は 4.18（前年度 4.22）であり、後期は 4.20（前年度 4.23）であった。前年度とほぼ同じであり、前期後期共に「総合的に見て、授業を受けて良かった」と肯定的に評価していることが示されている。

過年度と比較すると、前期は 2012 年度の評価平均値は 4.18、2013 年度、2014 年度はともに 4.27、2015 年度は 4.20、2016 年度は 4.22 であり、おおむねこれまでと大きく変化は見られない。後期は 2012 年度の評価平均値は 4.27、2013 年度は 4.31、2014 年度は 4.28、2015 年度は 4.23、2016 年度は 4.23 であり、こちらもそこまで大きな変化は見られない。十分に高い水準で安定して推移していることから、これまでの継続的な FD 活動の成果が示されているといえるだろう。

② 「教員の授業の進め方」の評価

今年度の授業アンケートにおける学生による「教員の授業の進め方」の 7 項目の評価平均値（5 点満点）は、前期が 4.27（前年度 4.27）であり、後期は 4.29（前年度 4.30）であった。前後期共に前年度とほぼ同じ数値となっており、「教員の授業の進め方」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2012 年度は 4.17、2013 年度は 4.26、2014 年度は 4.29、2015 年度は 4.22、2016 年度は 4.27 であり、おおむねこれまでと大きく変化は見られない。後期については、2012 年度は 4.24 であり、2013 年度は 4.33、2014 年度は 4.30、2015 年度は 4.28、2016 年度は 4.30 であり、こちらもこれまでと大きな変化は見られない。

「教員の授業の進め方」を構成する 7 項目の中で、今年度最も評価平均点の高かった項目は、前期が「教員の学生に対する接し方は公平だった（4.42）」であり、後期は「教員の学生に対する接し方は公平だった（4.42）」「授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた（4.42）」であった。これは、前年度と同じ結果であった。そして、前期・後期ともに 2 番目に評価平均点の高かった項目は「私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした（4.33、4.35）」であった。私語等に対する教員の対応に関する要望は、毎年一定数寄せられる。集中して授業を受けている学生のモチベーションに関わる重要なポイントであると考えられるため、この項目の評価平均点が高いことは非常に大切だと言える。

以上のことから、本学部の各教員の学生への接し方、担当授業に対して取り組む姿勢・熱意が学生にしっかりと伝わり、しかも高く評価されていることが理解できるだろう。これは昨年度もほぼ同様の結果であり、本学教員の教育の質の高さが表れているものと考えられる。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、過年度と同様に前期後期共に「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」であり、前期が 4.05、後期が 4.09 であった。ただ、低いとはいえ 5 点満点中 4 点以上であるので、改善の余地があるとはいえ、多様な授業形態がある中において、一定程度の評価を学生から受けているとも受け止めることができる。

③ 「授業の内容」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「授業の内容」の 6 項目の評価平均値（5 点満点）は 4.17（前年度 4.19）であり、後期は 4.19（前年度 4.20）であった。前期後期共に 4 点をを超えており、「授業の内容」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2012 年度は 4.02、2013 年度は 4.15、2014 年度は 4.20、2015 年度は 4.15、2016 年度は 4.19 であり、例年通りの数値と言える。後期に関して、2012 年度は 4.12、2013 年度は 4.22、2014 年度は 4.21、2015 年度、2016 年度は 4.20 であり、過去 3 年とほぼ同様の数値であった。教育内容が高いレベルに維持されていることを示しているものと考えられる。

「授業の内容」を構成する 6 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期共に「授業は、学習の目標がはっきり示された」であり、前期は 4.26、後期は 4.28 であり、過年度においても、毎年、最も評価平均点が高い項目となっている。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった」であり、前期が 4.04、後期が 4.09 であった。なお、この項目は、過去 3 年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていた。こちらに関しては、シラバスの内容をさらに改善することと共に、シラバスの活用方法について学生に丁寧に説明することで評価を上げることができる可能性がある。科目選択の際に、実際にどの程度シラバスを活用しているのかについて把握することも必要となるかもしれない。

④ 「学生自身の授業への取り組み」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「学生自身の授業への取り組み」の 5 項目の評価平均値（5 点満点）は 3.29（前年度 3.33）であり、後期は 3.34（前年度 3.35）であった。前期後期共に 4 点以下であり、他の調査カテゴリーと比較すると、「学生自身の授業への取り組み」には課題が残っていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2012 年度は 3.75、2013 年度は 3.33、2014 年度は 3.31、2015 年度は 3.29、2016 年度は 3.33 であり、2012 年度前期と比べると 0.4 ポイント近く低下した状況が続いている。後期に関して、2012 年度は 3.82、2013 年度は 3.35、2014 年度は 3.29、2015 年度は 3.32、2016 年度は 3.35 であり、過去 3 年とほぼ同様の数値であった。

「学生自身の授業への取り組み」を構成する 5 項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期共に「この授業にどの程度出席しましたか」であり、前期が 4.30（前年度 4.32）、後期が 4.27（前年度 4.24）であった。この結果は昨年度と同様であった。本学部の学生の授業出席はかなり高いものと判断できる。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「この授業のために予習・復

習合わせてどの程度自習しましたか」であり、前期が 1.67（前年度 1.75）、後期が 1.76（前年度 1.75）であった。この結果は昨年度と同様であった。なお、昨年度最も評価平均点が低い項目もこの項目であり、この項目の平均点の低さが「学生自身の授業への取り組み」全体を大幅に引き下げている。授業時間外の自習を増加させるための改善案の一つとして、昨年度と同様に本年度の学部主催 FD 研修会における分科会テーマの一つに、時間外学習を促すための方法が実施された。そこでは、学生・教員双方の負担があまり大きくならない形での授業時間外学習の方法について様々な情報共有がなされた。このような取り組みを継続的に実施していくことで、自習を促すことができるようになるのではないだろうか。しかし、アンケートを実施する教員側から、本項目に関して、学生が実際は授業外でレポート作成や課題を行っているにもかかわらず、それを予習・復習として認識していないために、数値が低くなるのではないか、という用語の曖昧さに関する意見も出てきている。アンケートの項目を改善するといった修正を検討することも必要かもしれない。

また、教員側から、アンケートの実施時期について要望も出てきている。具体的には、15 回の授業スケジュールであるにも関わらず、アンケート実施が授業の途中で行われることに対する改善要望が出ている。この点も、アンケート結果の活用という観点から、検討していくことが必要であろう。

5. 授業アンケート調査結果の活用

今年度も、授業アンケート調査結果を今後の授業改善に活用することを目的とし、調査後に、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等(①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善するべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください)について自由記述による回答を求めた。この自由記述データの分析結果については、Ⅱ－2において報告する。

2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体	
履修者数	8,352
回答者数	5,955

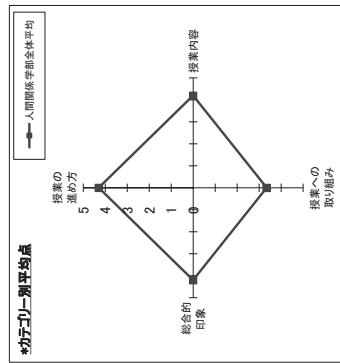
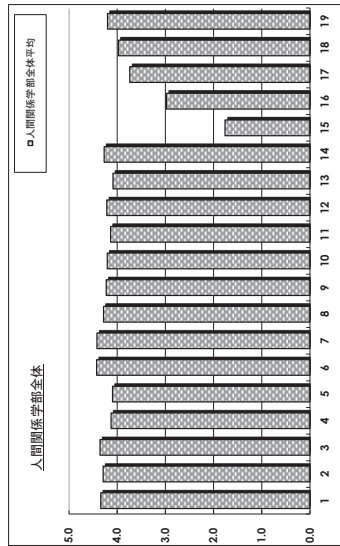
No.		教員文	当カテゴリー平均点					無効回答	標準偏差
			平均点	5	4	3	2		
1		教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.34	55.5	29.1	10.5	3.7	1.2	5,935
2		教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	52.3	30.5	12.8	2.9	1.6	5,927
3		私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、Sをマーク	4.35	57.0	26.0	13.6	2.5	1.0	5,929
4		授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.13	45.5	30.0	17.7	5.1	1.7	5,928
5		質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	44.6	29.2	19.1	5.0	2.1	5,920
6		教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	59.8	26.2	11.4	1.9	0.7	5,930
7		授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	58.2	28.4	11.0	1.7	0.7	5,920

No.		教員文	当カテゴリー平均点					無効回答	標準偏差
			平均点	5	4	3	2		
8		授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	51.8	30.3	13.4	3.4	1.2	5,934
9		授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.23	50.3	29.6	14.1	4.4	1.6	5,929
10		授業の内容は興味深いものだった	4.20	49.3	30.0	14.4	4.3	2.0	5,928
11		授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	45.3	31.6	16.0	5.1	1.9	5,926
12		授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.21	49.4	30.0	15.1	3.7	1.8	5,914
13		1「授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	43.1	29.9	21.6	3.5	2.0	5,894

No.		教員文	当カテゴリー平均点					無効回答	標準偏差
			平均点	5	4	3	2		
14		この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.8	26.9	13.0	5.1	1.2	5,905
15		この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	1.76	4.6	4.2	10.3	24.5	56.4	5,895
16		授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.98	19.5	18.1	26.4	12.7	23.3	5,835
17		この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.74	31.8	29.2	25.0	8.7	5.2	5,905
18		この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.97	39.3	31.7	19.7	5.8	3.5	5,887

No.		教員文	当カテゴリー平均点					無効回答	標準偏差
			平均点	5	4	3	2		
19		※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	48.7	29.9	15.6	3.7	2.0	5,709

Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体	
履修者数	8,672
回答者数	6,838

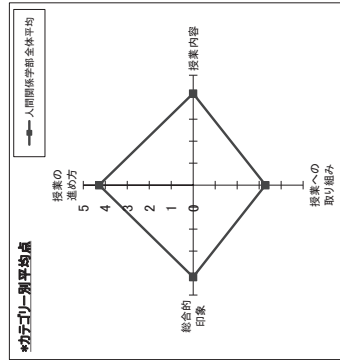
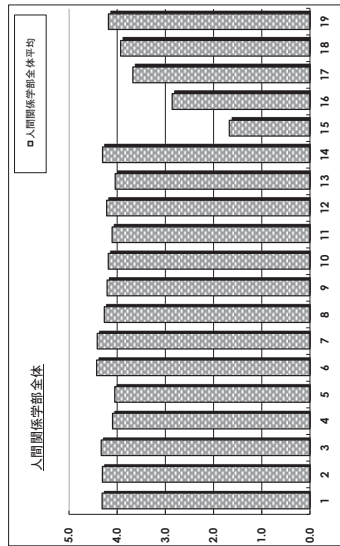
No.		教員文	当カテゴリー平均点					無効回答	標準偏差
			平均点	5	4	3	2		
1		教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.31	54.6	29.0	10.8	4.1	1.5	6,831
2		教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	52.9	30.1	12.8	2.9	1.3	6,822
3		私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、Sをマーク	4.33	56.4	25.8	13.2	3.3	1.2	6,824
4		授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	44.1	30.4	18.2	5.3	2.0	6,825
5		質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.05	44.0	27.9	19.7	5.7	2.7	6,816
6		教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	60.5	25.0	11.8	1.8	0.9	6,814
7		授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	58.1	27.9	11.6	1.8	0.7	6,805

No.		教員文	当カテゴリー平均点					無効回答	標準偏差
			平均点	5	4	3	2		
8		授業は、学習の目標がはっきり示された	4.26	51.3	30.0	14.0	3.5	1.3	6,815
9		授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.21	49.5	29.2	15.4	4.4	1.6	6,813
10		授業の内容は興味深いものだった	4.18	49.1	28.7	15.6	4.5	2.1	6,813
11		授業の内容はよく理解できるものであった	4.10	45.0	30.1	17.2	5.6	2.1	6,802
12		授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	50.1	29.1	15.2	3.7	2.0	6,812
13		1「授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	42.1	28.8	22.8	4.1	2.3	6,770

No.		教員文	当カテゴリー平均点					無効回答	標準偏差
			平均点	5	4	3	2		
14		この授業にどの程度出席しましたか	4.30	56.5	25.5	11.2	5.2	1.5	6,778
15		この授業のために毎回予習・復習合わせなどの程度自習しましたか	1.67	4.1	4.1	8.7	23.3	60.5	6,803
16		授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.86	18.6	15.8	25.3	13.3	27.0	6,727
17		この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.67	30.9	27.7	25.8	9.1	6.5	6,791
18		この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.93	38.4	30.1	21.3	6.0	4.2	6,766

No.		教員文	当カテゴリー平均点					無効回答	標準偏差
			平均点	5	4	3	2		
19		※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	49.9	27.6	15.7	4.1	2.7	6,555

Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科	社会学専攻
履修者数	—	—
回答者数	1,512	1,512

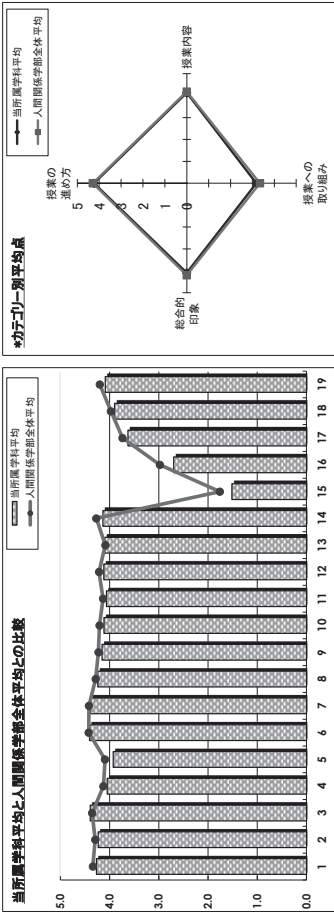
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.24	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.27	50.5	33.0	10.3	5.2	1.0	1,508	4	0.91			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.23	48.1	33.7	13.2	3.3	1.7	1,502	10	0.92			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.39	58.8	25.5	12.4	2.8	0.5	1,506	6	0.84			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	41.5	31.2	19.5	6.1	1.7	1,507	5	1.00			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93	39.0	28.3	22.1	7.8	2.9	1,504	8	1.08			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.41	57.5	28.6	11.5	2.1	0.3	1,509	3	0.80			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	55.0	31.9	11.0	1.8	0.3	1,506	6	0.78			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.13	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	48.5	32.6	14.1	3.9	0.9	1,508	4	0.90			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.15	45.7	32.0	15.9	4.8	1.6	1,508	4	0.96			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.11	44.3	32.2	16.1	5.6	1.8	1,507	5	0.99			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.06	41.5	33.1	17.8	5.9	1.8	1,503	9	0.99			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	43.9	32.2	17.4	4.9	1.6	1,505	7	0.97			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.10	41.7	32.1	21.3	3.9	1.0	1,500	12	0.93			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.18	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.14	46.5	29.9	16.0	5.9	1.7	1,503	9	1.00			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.52	2.8	3.3	6.5	17.6	69.8	1,503	9	0.96			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.70	15.4	16.5	24.0	10.5	33.5	1,489	23	1.46			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.63	27.5	28.8	27.8	10.8	5.1	1,501	11	1.14			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.90	34.2	35.1	20.7	6.4	3.6	1,498	14	1.06			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.09	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.09	42.0	33.8	17.7	4.3	2.3	1,454	58	0.98			

Q1-Q18の当区分平均値	3.92
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科	社会学専攻
履修者数	—	—
回答者数	2,035	2,035

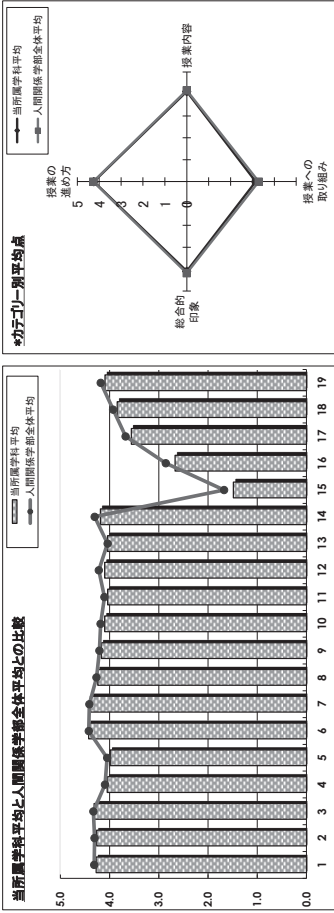
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.24	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.27	51.7	31.5	10.8	4.5	1.5	2,033	2	0.93			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.27	49.8	32.4	13.4	3.1	1.2	2,031	4	0.89			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合、5をマーク	4.31	55.6	26.2	13.6	3.1	1.4	2,032	3	0.92			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	41.4	31.6	19.5	5.4	2.1	2,029	6	1.01			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.99	42.1	28.7	19.0	6.3	3.9	2,028	7	1.10			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.43	59.9	26.1	11.5	1.8	0.7	2,031	4	0.82			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	54.6	32.3	11.3	1.2	0.6	2,029	6	0.78			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.12	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	48.1	33.0	14.8	3.2	1.0	2,031	4	0.89			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.17	44.8	34.1	15.9	3.8	1.4	2,030	5	0.93			
10	授業の内容は興味深いものであった	4.10	43.9	32.1	16.4	5.6	2.1	2,031	4	1.00			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.04	39.3	35.1	18.2	5.4	2.1	2,027	8	0.99			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.10	42.9	33.2	17.2	4.8	2.0	2,030	5	0.98			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	40.0	32.7	20.8	4.7	1.8	2,016	19	0.98			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.15	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.19	49.7	29.0	13.3	6.1	1.8	2,019	16	1.00			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.49	2.2	2.6	6.6	18.7	69.9	2,027	8	0.90			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.67	14.8	16.4	23.4	12.0	33.4	1,997	38	1.45			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.56	25.2	29.8	27.6	10.6	6.8	2,023	12	1.17			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.84	33.4	32.5	23.4	6.4	4.2	2,024	11	1.09			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.09	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.09	43.7	31.4	18.1	4.2	2.6	1,961	74	1.01			

Q1-Q18の当区分平均値	3.91
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科	社会	臨床心理学専攻
履修者数			—
回答者数			1,622

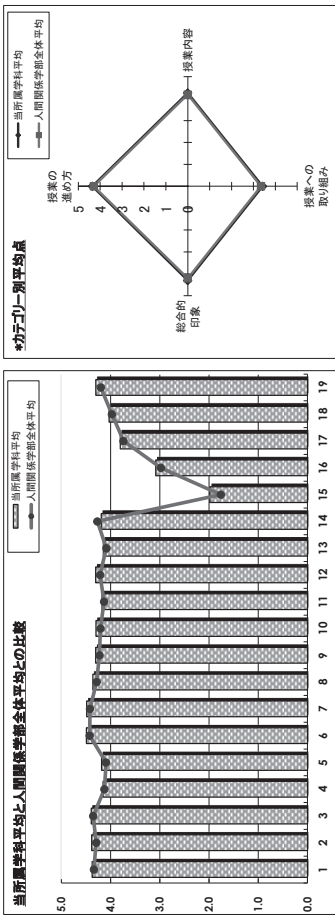
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.35
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	総率
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	58.3	27.0	9.9	3.6	1.2	1,614	8	0.89	
2	理解に役立った	4.39	56.8	28.9	11.1	2.2	0.9	1,615	7	0.84	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.39	59.2	24.8	12.9	2.4	0.7	1,612	10	0.85	
4	※授業が静かなので注意を集中しやすかった場合は、5をマーク	4.15	46.7	30.0	16.6	5.3	1.4	1,613	9	0.97	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	47.7	29.9	17.0	3.9	1.5	1,610	12	0.95	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.49	64.5	23.0	10.5	1.4	0.6	1,616	6	0.79	
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.49	62.4	25.8	10.0	1.6	0.2	1,610	12	0.76	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.26
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	総率
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.36	55.5	29.9	10.5	3.3	0.8	1,617	5	0.86	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.30	53.7	29.1	12.1	3.7	1.3	1,614	8	0.91	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.30	53.2	29.7	12.3	3.5	1.4	1,616	6	0.91	
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.18	46.4	32.8	14.2	5.1	1.5	1,617	5	0.96	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.30	52.9	30.0	13.1	2.6	1.4	1,614	8	0.89	
13	※授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.15	44.4	31.6	19.6	3.2	1.2	1,609	13	0.92	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.42
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	総率
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.19	50.2	27.3	15.1	5.9	1.4	1,612	10	0.99	
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.99	4.5	5.7	15.4	32.7	41.7	1,604	18	1.10	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.08	18.8	20.2	29.1	14.5	17.4	1,576	46	1.34	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.80	31.9	32.9	23.0	8.2	4.0	1,606	16	1.10	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.03	39.2	34.6	18.7	5.2	2.3	1,603	19	1.00	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.30
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	総率
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.30	53.7	28.4	13.4	3.1	1.3	1,558	64	0.91	

Q1-Q18の当区分平均値	4.06
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科	社会	臨床心理学専攻
履修者数			—
回答者数			1,485

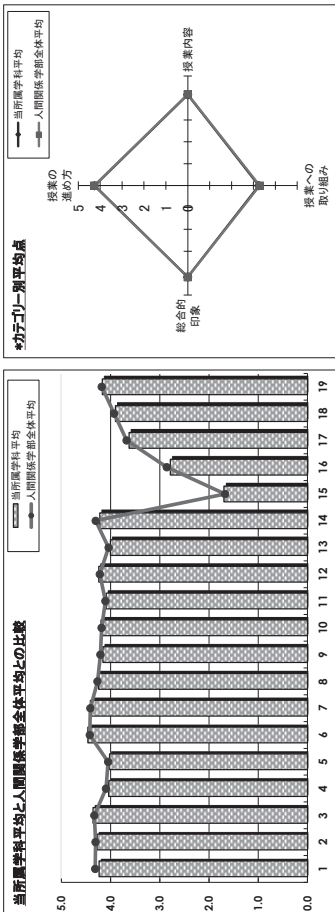
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.26
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	総率
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.23	53.0	28.7	9.2	6.8	2.3	1,484	1	1.02	
2	理解に役立った	4.27	52.6	29.6	11.9	4.2	1.7	1,481	4	0.94	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした	4.36	59.1	24.3	10.5	5.0	1.0	1,481	4	0.93	
4	※授業が静かなので注意を集中しやすかった場合は、5をマーク	4.04	41.8	32.7	15.6	7.4	2.4	1,482	3	1.04	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	41.9	31.0	17.3	7.3	2.6	1,481	4	1.06	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.46	63.7	23.6	9.1	2.2	1.3	1,483	2	0.85	
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	60.0	25.6	11.0	2.4	1.0	1,481	4	0.85	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.15
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	総率
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	51.8	29.7	11.5	5.1	1.9	1,482	3	0.97	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.16	49.6	27.9	13.6	6.4	2.5	1,481	4	1.04	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.20	51.1	27.8	13.4	4.8	2.8	1,480	5	1.03	
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.09	45.3	30.8	14.3	6.8	2.8	1,480	5	1.06	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	51.3	29.3	13.5	4.0	1.9	1,484	1	0.96	
13	※授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.00	40.0	30.8	21.4	5.2	2.6	1,472	13	1.03	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.25
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	総率
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	51.4	28.1	12.8	6.2	1.4	1,478	7	0.99	
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.70	3.6	3.4	8.9	27.5	56.7	1,481	4	1.01	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.79	17.1	15.0	25.0	15.7	27.3	1,471	14	1.43	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.63	28.5	29.9	24.6	9.8	7.2	1,483	2	1.20	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.90	36.5	33.6	18.1	7.3	4.6	1,472	13	1.11	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.17
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	総数	総率
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.17	50.3	28.1	13.3	4.9	3.4	1,421	64	1.05	

Q1-Q18の当区分平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	人間福祉学専攻
履修者数	—	—
回答者数	1,749	1,749

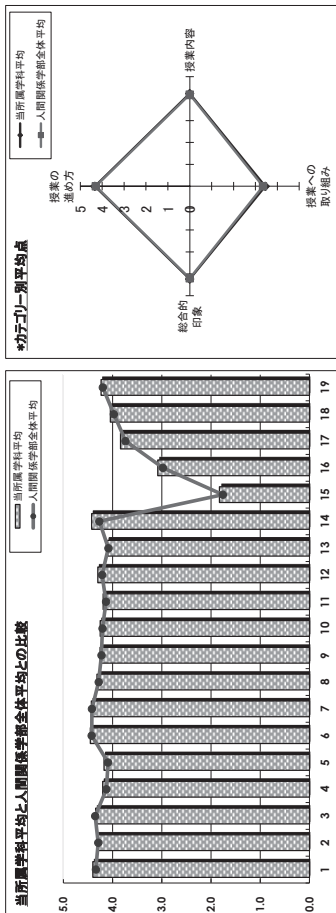
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.33	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総数	総数	総数
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.40	60.4	25.2	10.3	2.8	1.4	1,745	4	0.89			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	55.4	27.5	12.3	2.9	1.8	1,743	6	0.92			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.35	57.7	24.8	13.4	2.4	1.7	1,742	7	0.91			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	50.5	27.6	15.7	4.3	2.0	1,741	8	0.99			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	48.6	27.9	18.0	3.3	2.1	1,743	6	0.98			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	62.9	23.4	10.8	1.8	1.1	1,737	12	0.84			
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.43	60.9	25.8	10.5	1.4	1.4	1,738	11	0.85			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.24	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総数	総数	総数
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.32	54.9	27.8	13.3	2.4	1.7	1,742	7	0.91			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと感じた	4.26	54.0	26.0	13.9	4.1	2.1	1,740	9	0.98			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	53.3	27.1	13.5	3.7	2.4	1,740	9	0.98			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.19	50.3	27.9	15.0	4.2	2.5	1,741	8	1.01			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.30	54.7	27.2	13.3	2.9	1.8	1,736	13	0.93			
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.10	46.4	26.2	21.6	3.1	2.8	1,733	16	1.02			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.45	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総数	総数	総数
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.43	61.7	24.4	9.6	3.5	0.9	1,732	17	0.87			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.83	6.6	3.9	10.6	23.4	55.4	1,734	15	1.18			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.08	26.6	16.9	25.3	12.6	21.6	1,723	26	1.45			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.84	38.0	25.6	23.8	7.7	4.9	1,737	12	1.16			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.05	45.5	26.2	19.3	5.6	3.4	1,730	19	1.09			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.24	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総数	総数	総数
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	52.6	26.4	15.3	3.4	2.3	1,668	81	0.98			

Q1-Q18の当区分平均値	4.06
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科	人間福祉学専攻
履修者数	—	—
回答者数	2,183	2,183

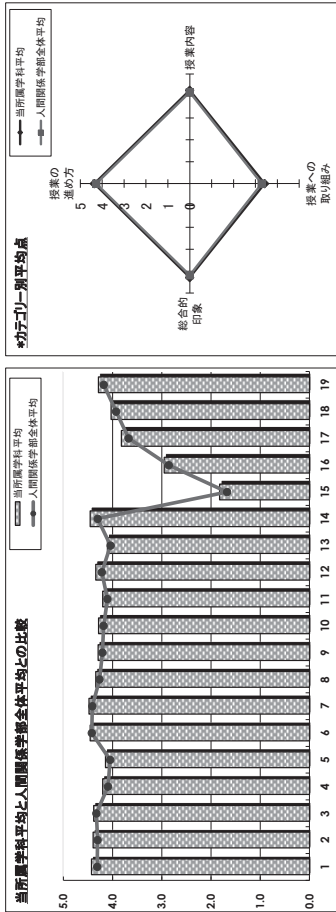
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.36	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総数	総数	総数
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.43	60.4	26.1	10.4	2.1	1.0	2,183	0	0.84			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	57.9	27.4	11.7	2.1	0.8	2,179	4	0.84			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.38	58.3	25.6	13.1	2.2	0.9	2,180	3	0.86			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	49.8	27.6	17.1	4.0	1.5	2,181	2	0.96			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	48.4	25.3	20.6	3.9	1.8	2,177	6	0.99			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.46	62.4	23.4	12.3	1.2	0.7	2,171	12	0.81			
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.48	62.5	25.1	10.7	1.3	0.7	2,168	15	0.77			

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.26	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総数	総数	総数
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.34	55.7	27.3	13.5	2.8	0.8	2,175	8	0.87			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと感じた	4.30	54.9	25.4	14.9	3.6	1.1	2,173	10	0.92			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.29	54.3	25.9	15.3	3.0	1.4	2,173	10	0.93			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.20	51.2	25.6	16.6	5.0	1.5	2,168	15	0.99			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.34	57.7	24.4	13.9	2.5	1.5	2,170	13	0.92			
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.11	46.2	24.5	24.7	3.0	1.6	2,162	21	0.98			

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.42	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総数	総数	総数
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.46	45.8	20.4	8.9	3.7	1.3	2,157	26	0.90			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.83	6.3	3.8	10.9	24.2	54.8	2,169	14	1.16			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.95	21.5	14.0	26.7	13.7	24.1	2,148	35	1.45			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.82	37.5	24.7	25.4	7.3	5.0	2,164	19	1.16			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.03	44.4	25.6	21.9	4.9	3.2	2,160	23	1.07			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.29	
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総数	総数	総数
			5	4	3	2	1						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.29	56.4	23.5	14.7	3.2	2.2	2,087	96	0.98			

Q1-Q18の当区分平均値	4.08
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 介護福祉学専攻	履修者数	—
回答者数	431		

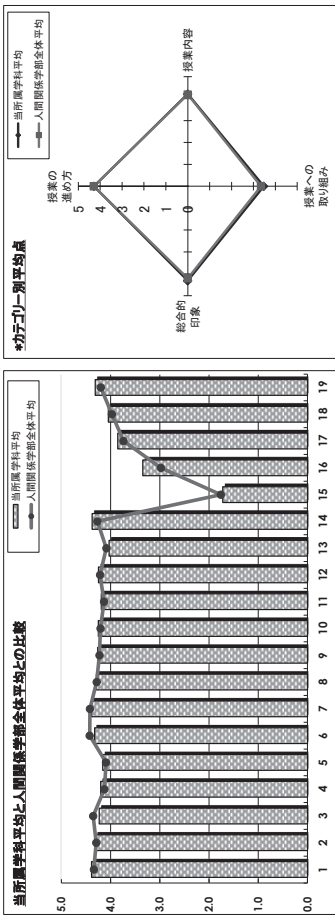
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	1	2	3	4	
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.39	53.0	37.2	6.3	2.6	0.9	430	1	0.79			
2	教材 資料提示 (版権、プリント、パワーポイント、ビデオ等) は授業の理解に役立った	4.31	49.9	35.9	10.7	2.1	1.4	429	2	0.85			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.23	49.5	30.9	14.4	3.3	1.9	430	1	0.94			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	45.7	35.7	13.3	4.0	1.4	429	2	0.91			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.16	45.7	33.1	14.9	4.2	2.1	429	2	0.97			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.33	50.9	35.1	10.5	2.6	0.9	430	1	0.83			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	54.4	33.5	9.3	2.1	0.7	430	1	0.80			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				標準 偏差	有効 回答 割合	4.21
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答								
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.29	49.8	35.1	10.5	3.5	1.2	430	1	0.87						
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと感じた	4.26	48.5	36.1	10.0	4.0	1.4	429	2	0.90						
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	49.1	33.4	12.4	3.7	1.4	428	3	0.91						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.19	46.2	34.7	12.6	4.9	1.6	429	2	0.95						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	48.5	34.9	11.0	4.0	1.6	427	4	0.92						
13	「授業内容(シラバス)」は科目の現状や学習の参考になった	4.03	38.9	34.0	21.3	3.0	2.8	427	4	0.99						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	1	2	3		
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	60.7	24.6	7.7	5.6	1.4	427	4	0.95			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.72	4.0	4.2	8.4	26.9	56.5	428	3	1.05			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.35	25.5	26.5	22.0	9.1	16.9	427	4	1.39			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.85	34.9	34.9	18.4	4.4	7.4	430	1	1.17			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.05	41.9	34.4	14.5	4.7	4.4	427	4	1.07			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	有効割合	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	51.3	34.2	10.2	2.9	1.4	421	10	0.87			

Q1-Q18の当区分平均値	4.05
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 介護福祉学専攻	履修者数	—
回答者数	454		

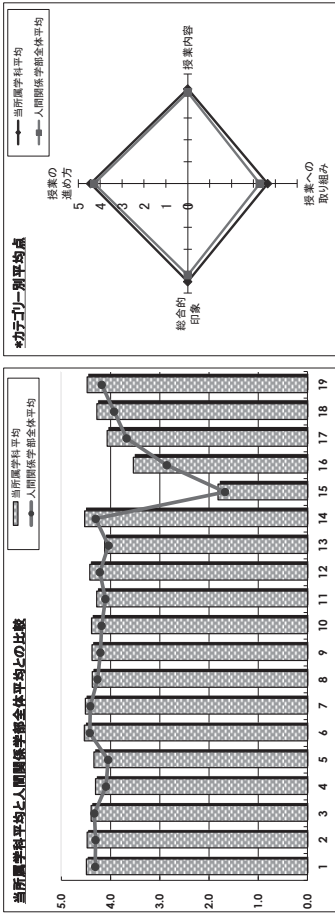
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	1	2	3	4	
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.49	59.9	31.3	7.3	1.1	0.4	454	0	0.72			
2	教材資料提示（板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等）は授業の理解に役立った	4.48	59.3	30.6	9.0	0.9	0.2	454	0	0.71			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.40	59.4	25.6	11.5	2.2	1.3	453	1	0.87			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	52.6	31.5	11.0	3.5	1.3	454	0	0.90			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.34	54.8	28.9	12.6	2.9	0.9	454	0	0.87			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.53	63.4	28.9	5.5	2.0	0.2	454	0	0.71			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	62.3	28.5	7.5	1.8	0.0	453	1	0.71			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	割合 回答	4.33				
			5	4	3	2	1							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.37	56.3	29.6	9.9	3.3	0.9	453	1	0.86				
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと感じた	4.38	55.4	31.1	10.2	2.4	0.9	453	1	0.83				
10	授業の内容は興味深いものだった	4.39	56.5	29.6	10.6	2.9	0.4	453	1	0.82				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.28	52.3	29.6	12.8	4.6	0.7	453	1	0.90				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.42	58.0	30.5	8.2	2.4	0.9	452	2	0.81				
13	「授業内容(シラバス)」は科目の現状や学習の参考になった	4.12	46.2	30.2	17.1	2.4	4.0	450	4	1.04				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	1	2	3	4	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.53	70.5	18.6	5.5	3.8	1.6	451	3	0.88			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.82	4.2	4.9	10.4	29.8	50.8	453	1	1.07			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.54	30.3	27.9	20.4	7.9	13.5	445	9	1.35			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.07	41.8	33.1	17.1	6.4	1.6	450	4	0.99			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.28	49.8	32.5	14.8	1.8	1.1	446	8	0.86			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	割合	割合			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.48	60.7	28.4	9.3	1.1	0.5	440	14	0.75			

Q1-Q18の当区分平均値	4.20
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	1～15名	履修者数	397
		回答者数	343

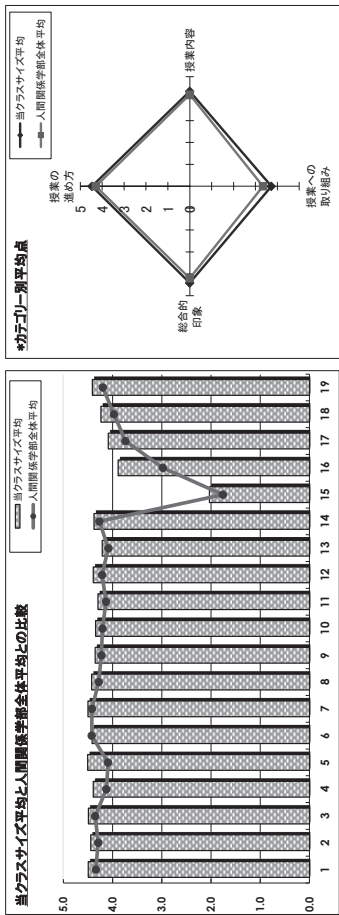
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.49	63.5	26.0	7.6	2.3	0.6	342	1 0.78
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.44	59.5	29.0	8.5	2.1	0.9	341	2 0.80
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.49	65.6	21.9	9.9	1.5	1.2	343	0 0.82
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.39	61.1	24.6	8.5	4.1	1.8	342	1 0.93
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.51	65.2	23.7	8.8	1.2	1.2	342	1 0.80
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	62.7	23.6	8.2	3.8	1.7	343	0 0.92
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.50	64.1	25.4	8.2	1.2	1.2	343	0 0.79

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.43	59.9	28.9	6.7	2.6	1.8	342	1 0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.35	55.8	30.4	8.8	3.2	1.8	342	1 0.90
10	授業の内容は興味深いものだった	4.35	56.4	29.8	7.9	3.5	2.3	342	1 0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.30	52.6	31.9	9.4	5.0	1.2	342	1 0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.39	59.5	26.7	8.8	3.5	1.5	341	2 0.90
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	50.6	28.9	14.0	3.8	2.6	342	1 1.00

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席したか	4.38	57.0	30.4	6.4	5.6	0.6	342	1 0.88
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.04	8.2	5.3	13.8	27.3	45.5	341	2 1.24
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.89	37.1	31.8	19.1	7.1	5.0	340	3 1.13
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.09	43.9	32.7	16.1	2.9	4.4	342	1 1.05
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.24	52.3	27.8	13.5	4.1	2.3	342	1 0.99

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.41	58.9	27.6	10.2	2.4	0.9	333	10 0.84

Q1-Q18の当区分平均値	4.23
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	1～15名	履修者数	471
		回答者数	418

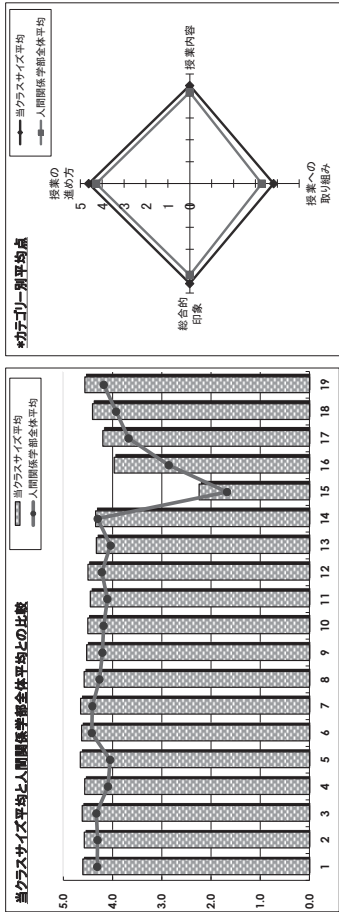
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.61	71.3	20.1	6.7	1.7	0.2	418	0 0.71
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.58	67.1	24.2	7.7	1.0	0.0	417	1 0.68
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.62	73.6	16.1	9.1	1.0	0.2	417	1 0.71
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.57	69.6	19.9	8.4	1.9	0.2	418	0 0.75
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.66	74.8	17.7	6.0	1.2	0.2	417	1 0.67
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.63	74.6	16.8	6.2	1.9	0.5	417	1 0.73
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.65	73.3	19.7	5.8	1.2	0.0	416	2 0.64

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.58	68.2	23.2	6.9	1.7	0.0	418	0 0.70
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.53	63.1	22.8	9.1	1.7	0.2	416	2 0.75
10	授業の内容は興味深いものだった	4.50	66.7	25.2	9.4	1.2	0.5	416	2 0.75
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.45	61.2	26.1	10.0	1.9	0.7	418	0 0.81
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.50	64.1	24.2	9.6	1.9	0.2	418	0 0.77
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.33	58.1	21.3	17.7	1.5	1.5	413	5 0.92

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席したか	4.34	57.7	27.0	8.9	5.0	1.4	418	0 0.94
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.24	10.4	7.0	16.6	28.7	37.3	415	3 1.30
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.97	40.3	29.7	20.5	5.3	4.1	414	4 1.09
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.20	48.4	30.2	15.6	4.3	1.4	417	1 0.95
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.41	57.8	28.6	10.7	2.4	0.5	412	6 0.81

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.57	67.8	22.4	8.6	1.0	0.2	407	11 0.71

Q1-Q18の当区分平均値	4.37
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	16～49名	履修者数	1,666
		回答者数	1,291

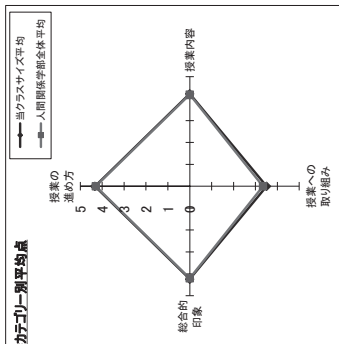
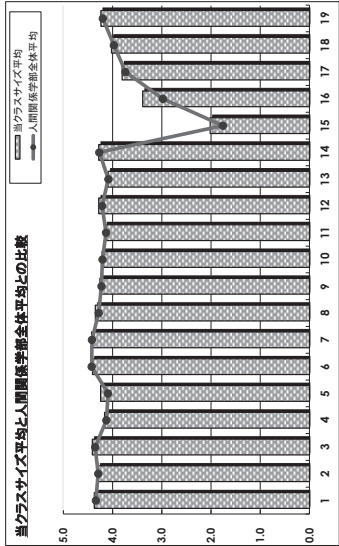
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー-平均点			標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	平均点				
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.37	57.3	28.7	8.9	4.0	1.1	1,287	4	0.88			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	52.2	29.8	14.5	2.4	1.2	1,284	7	0.88			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.41	61.0	23.4	12.5	2.1	1.0	1,281	10	0.86			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	48.6	28.9	14.6	6.0	1.9	1,281	10	1.01			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.24	52.4	26.5	15.6	4.0	1.5	1,281	10	0.96			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.41	60.7	24.7	10.7	2.7	1.2	1,286	5	0.88			
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.43	60.4	25.9	10.8	2.0	1.0	1,279	12	0.84			

Ⅱ. この授業の内容について													当カテゴリー-平均点			標準 偏差	有効 回答	4.22
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	当カテゴリー-平均点									
			5	4	3	2	1											
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	56.1	28.9	10.3	3.4	1.3	1,286	5	0.89								
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.26	52.2	29.4	12.2	4.3	1.9	1,283	8	0.96								
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	51.5	27.7	14.0	4.1	2.6	1,284	7	1.01								
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.16	47.0	31.5	14.1	5.3	2.2	1,280	11	0.90								
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	54.2	27.1	13.6	3.2	2.0	1,282	9	0.95								
13	「授業内容(シラバス)」は科目の現状や学習の参考になった	4.09	43.6	28.9	22.0	3.8	1.7	1,275	16	0.98								

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について												当カテゴリー-平均点		標準 偏差	有効 回答	3.50
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答								
			5	4	3	2	1									
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	55.4	26.0	11.9	5.2	1.6	1,282	9	0.97						
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.02	7.8	6.9	12.9	24.1	48.2	1,269	22	1.26						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.39	28.2	22.0	25.1	9.9	14.9	1,257	34	1.38						
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.81	35.2	27.7	25.0	7.0	5.1	1,279	12	1.14						
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.02	41.4	31.5	18.3	5.7	3.2	1,271	20	1.06						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー-平均点		4.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	平均点	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	51.2	29.2	14.2	3.3	2.2	1,241	50	0.96			

Q1-Q18の当区分平均値	4.06
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	16～49名	履修者数	1,607
		回答者数	1,314

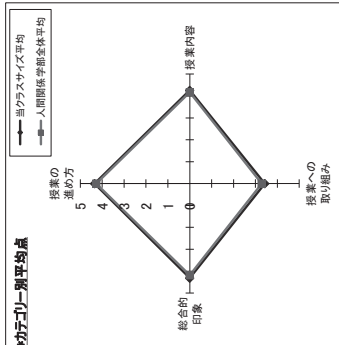
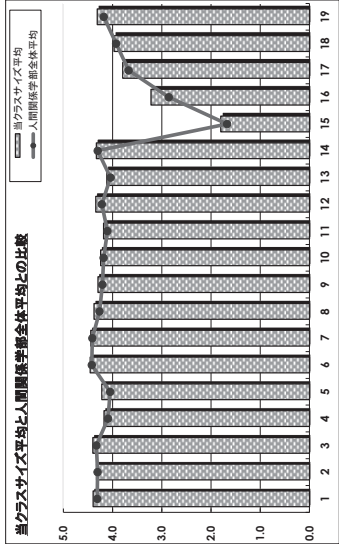
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について												標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	当カテゴリー平均点	4.35		
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.40	57.9	28.0	10.6	3.0	0.5	1,313	1	0.83		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	53.7	29.3	14.0	2.1	0.8	1,311	3	0.85		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.40	59.5	25.0	12.4	2.5	0.6	1,310	4	0.84		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.17	49.1	28.4	15.2	5.3	1.9	1,309	5	1.00		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.22	50.1	28.0	17.0	3.5	1.4	1,307	7	0.94		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.46	63.2	22.8	11.3	2.0	0.8	1,312	2	0.83		
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.44	59.7	27.0	11.4	1.5	0.3	1,311	3	0.78		

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー-平均点			有効 回答	標準 偏差	4.26
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答							
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.38	56.7	27.3	13.4	2.0	0.5	1,310	4	0.83					
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.30	52.3	29.8	13.9	3.4	0.6	1,310	4	0.87					
10	授業の内容は興味深いものだった	4.24	49.6	30.3	16.1	3.1	1.0	1,309	5	0.90					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	47.1	30.8	16.6	4.5	1.0	1,307	7	0.93					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.34	55.3	28.1	13.4	2.2	1.1	1,310	4	0.87					
13	「授業内容(シラバス)」は科目の現状や学習の参考になった	4.12	43.7	30.1	22.0	2.8	1.4	1,307	7	0.94					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		有効 回答	標準 偏差	有効 回答	3.42
No.	設問文	平均点	回答率(%)												
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	58.3	24.6	10.7	4.7	1.8	1,303	7	1.11					
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.80	4.7	4.6	11.4	24.8	54.5	1,307	11	0.96					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.22	23.2	22.0	25.6	12.2	17.1	1,290	24	1.38					
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.79	33.6	27.7	27.6	6.8	4.3	1,302	12	1.11					
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.97	38.8	29.7	23.9	5.0	2.5	1,296	18	1.03					

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー-平均点		標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	平均点			
			5	4	3	2	1					
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	54.8	26.8	14.7	2.3	1.4	1,282	32	0.90		

Q1-Q18の当区分平均値	4.08
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名	履修者数	3,183
		回答者数	2,201

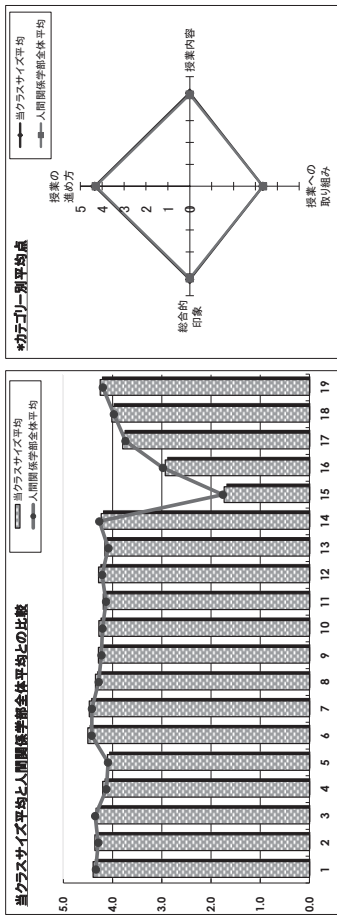
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.34	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.40	58.0	28.4	9.7	3.2	0.7	2,191	10	0.84			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	55.9	29.5	10.9	2.3	1.5	2,190	11	0.87			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.34	56.4	25.8	14.0	2.8	1.0	2,193	8	0.89			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	47.8	30.7	16.5	4.0	1.1	2,192	9	0.93			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.11	44.6	29.9	19.0	4.7	1.8	2,190	11	0.99			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.50	63.2	25.4	9.9	1.2	0.1	2,193	8	0.73			
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.47	60.9	27.3	10.3	1.2	0.3	2,191	10	0.75			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.26	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	54.4	29.9	12.5	2.6	0.5	2,192	9	0.84			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.29	53.1	28.7	13.2	3.9	1.1	2,190	11	0.91			
10	授業の内容は興味深いと思った	4.28	51.6	30.5	13.2	3.7	1.0	2,192	9	0.90			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.19	47.5	31.8	14.5	4.8	1.5	2,192	9	0.95			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	51.2	31.2	13.5	2.9	1.1	2,186	15	0.89			
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.16	45.6	30.6	19.2	2.9	1.6	2,183	18	0.84			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.34	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	51.1	27.8	15.4	4.6	1.1	2,183	18	0.95			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.73	3.4	3.5	10.5	28.3	54.3	2,187	14	1.01			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.93	17.5	17.8	28.2	13.3	23.2	2,158	43	1.39			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.80	33.2	30.0	24.4	8.3	4.2	2,180	21	1.12			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.02	40.2	32.2	19.3	5.4	2.8	2,179	22	1.03			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.25	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	51.3	28.9	15.0	3.5	1.3	2,099	102	0.93			

Q1-Q18の当区分平均値	4.05
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	50～100名	履修者数	3,637
		回答者数	2,862

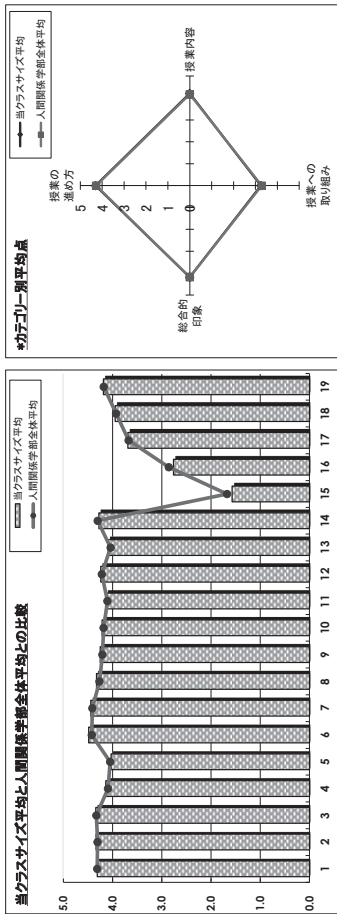
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.30	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.31	54.8	29.7	9.3	4.4	1.8	2,858	4	0.94			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	54.0	31.0	10.9	2.9	1.2	2,855	7	0.87			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.34	56.5	26.8	12.3	3.4	1.1	2,855	7	0.90			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	44.3	33.3	16.1	4.6	1.7	2,857	5	0.96			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.03	42.4	29.9	19.0	5.9	2.9	2,854	8	1.05			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.49	62.9	25.7	9.4	1.3	0.8	2,851	11	0.78			
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.44	59.3	28.5	10.2	1.3	0.7	2,847	15	0.79			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.21	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.33	53.1	31.4	11.7	2.7	1.1	2,853	9	0.86			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.25	51.1	30.2	13.1	3.9	1.6	2,850	12	0.94			
10	授業の内容は興味深いと思った	4.21	50.6	28.8	14.0	4.4	2.1	2,850	12	0.99			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	45.5	31.8	15.1	5.6	2.0	2,844	18	1.00			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	50.6	30.4	13.5	3.5	2.0	2,849	13	0.95			
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.09	43.6	29.9	20.3	4.1	2.1	2,830	32	0.99			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.25	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	54.9	26.6	11.4	5.7	1.3	2,842	20	0.97			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.57	3.3	2.5	6.9	22.6	64.7	2,847	15	0.97			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.76	17.5	14.1	25.1	14.2	29.2	2,808	54	1.45			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	31.2	28.5	24.8	8.8	6.6	2,842	20	1.19			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.95	38.9	31.6	19.4	4.4	2.8	2,835	27	1.10			

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.19	
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.19	49.6	29.4	14.2	4.1	2.8	2,720	142	1.01			

Q1-Q18の当区分平均値	3.99
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上	履修者数	3,106
		回答者数	2,120

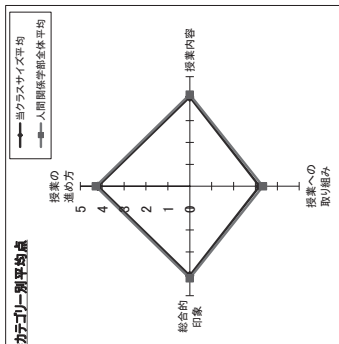
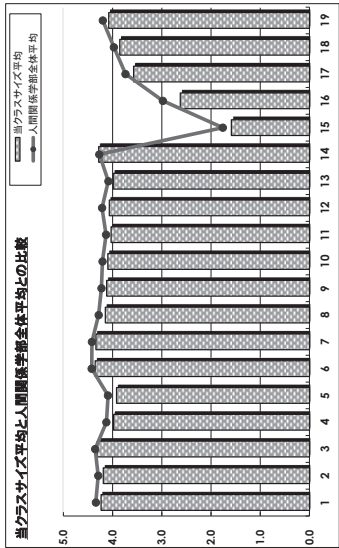
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.19
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総率
			5	4	3	2	1				
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.24	50.4	30.6	12.8	4.3	1.8	2,115	5	0.96	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.19	47.3	32.3	14.4	3.8	2.1	2,112	8	0.96	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.31	53.7	28.4	14.3	2.6	1.0	2,112	8	0.88	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.98	38.8	30.8	22.4	5.9	2.1	2,113	7	1.02	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.92	36.6	31.0	23.0	6.5	2.9	2,107	13	1.05	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.35	55.3	28.3	13.9	1.7	0.9	2,108	12	0.85	
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	53.1	31.6	12.4	2.1	0.8	2,107	13	0.83	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.08
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総率
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.15	45.2	31.7	17.2	4.2	1.7	2,114	6	0.96	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.12	43.4	30.5	17.1	5.0	2.1	2,114	6	1.00	
10	授業の内容は興味深いものであった	4.10	44.5	30.8	16.9	5.2	2.5	2,110	10	1.02	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.03	41.0	31.5	19.7	5.4	2.4	2,112	8	1.02	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.07	42.8	31.1	18.7	4.8	2.6	2,105	15	1.02	
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.99	38.9	29.8	25.1	3.7	2.5	2,094	26	1.01	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.19
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総率
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	55.0	26.1	12.2	5.4	1.2	2,098	22	0.96	
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.59	3.2	3.1	8.1	20.4	45.2	2,098	22	0.99	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.63	13.3	13.9	26.5	14.7	31.6	2,080	40	1.39	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.57	26.5	28.7	27.2	11.1	6.6	2,104	16	1.18	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.86	34.8	31.9	22.0	6.7	4.6	2,095	25	1.11	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.08
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総率
			5	4	3	2	1				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.08	43.0	31.8	18.1	4.3	2.8	2,036	84	1.01	

Q1-Q18の当区分平均値	3.86
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上	履修者数	2,957
		回答者数	2,244

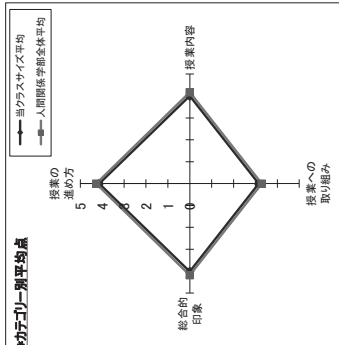
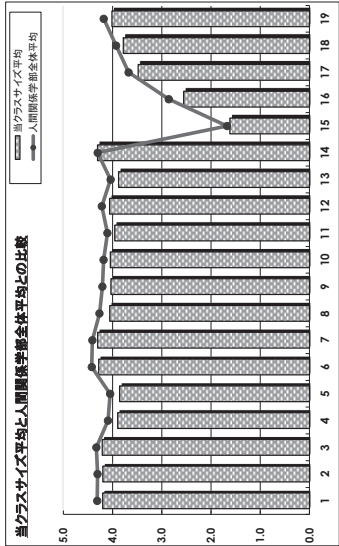
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.14
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総率
			5	4	3	2	1				
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.20	49.2	30.4	13.6	4.9	1.9	2,242	2	0.98	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.20	48.4	30.5	15.4	3.7	1.9	2,239	5	0.96	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.21	51.2	26.9	15.7	4.1	2.0	2,242	2	0.99	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.90	36.1	29.8	24.5	6.9	2.7	2,241	3	1.06	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.86	36.8	27.2	24.7	7.6	3.8	2,238	6	1.11	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.28	53.1	26.9	16.2	2.5	1.3	2,234	10	0.91	
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.30	52.9	29.1	14.4	2.6	0.9	2,231	13	0.88	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.01
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総率
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.06	42.5	31.0	18.6	5.7	2.2	2,234	10	1.02	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.03	42.7	28.5	20.5	6.0	2.3	2,237	7	1.04	
10	授業の内容は興味深いものであった	4.05	44.3	28.2	18.5	5.9	3.1	2,238	6	1.07	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.96	40.2	28.3	21.5	7.0	3.0	2,233	11	1.08	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.06	43.8	28.9	19.5	5.1	2.7	2,235	9	1.04	
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.88	35.9	28.0	27.4	5.4	3.3	2,220	24	1.06	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.15
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総率
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.31	57.2	24.4	11.8	5.0	1.6	2,215	29	0.97	
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.62	3.7	2.9	8.0	22.2	63.1	2,234	10	1.01	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.56	13.4	11.8	26.2	14.4	34.3	2,215	29	1.40	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.48	25.6	26.1	27.8	11.8	8.7	2,230	14	1.23	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.78	34.1	28.7	24.2	7.5	5.5	2,223	21	1.15	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.01
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	総率
			5	4	3	2	1				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.01	44.1	26.7	19.7	5.7	3.9	2,146	98	1.10	

Q1-Q18の当区分平均値	3.83
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義
履修者数	6,530
回答者数	4,484

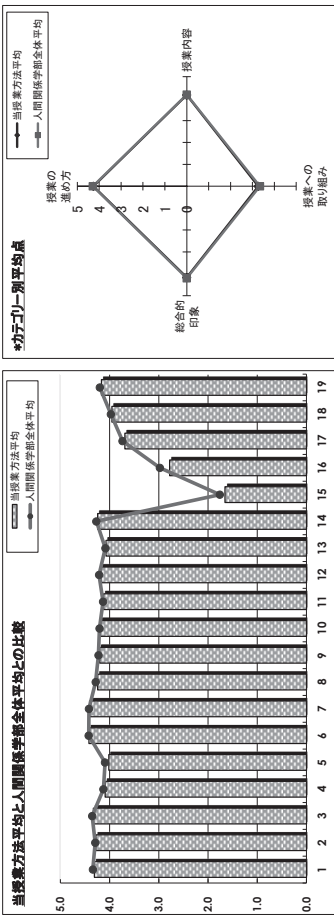
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			総評 満足 程度
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	有効 回答	4.26			
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.31	54.0	29.5	11.3	3.9	1.3	4,469	15	0.91			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.28	51.8	30.7	12.7	3.0	1.7	4,465	19	0.92			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.33	55.7	26.2	14.6	2.6	0.9	4,467	17	0.88			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	43.3	30.7	19.3	5.1	1.6	4,467	17	0.98			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	41.0	30.1	21.0	5.7	2.4	4,458	26	1.03			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	59.2	26.6	11.9	1.7	0.6	4,463	21	0.81			
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.41	57.3	29.0	11.5	1.7	0.6	4,458	26	0.80			

Ⅱ. この授業の内容について										当該カテゴリ平均点			総評 満足 程度	4.17
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	有効 回答					
			5	4	3	2	1							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	49.7	30.8	14.7	3.5	1.2	4,468	16	0.91	0.97			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと答えていた	4.20	49.3	29.6	15.1	4.3	1.7	4,464	20	0.97				
10	授業の内容は興味深いものであった	4.19	48.7	30.0	14.8	4.7	1.8	4,463	21	0.97	0.99			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12	44.9	31.5	16.6	5.0	2.0	4,465	19	0.99				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.18	47.6	30.4	16.1	4.0	1.9	4,452	32	0.97	0.98			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	42.5	29.9	22.1	3.5	2.0	4,438	46	0.98				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について												3.27
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	総評 満足 程度			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	52.2	27.6	14.0	5.1	1.2	4,442	42	0.96	1.01	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.66	3.7	3.1	8.5	24.7	60.0	4,445	39	1.01		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.78	15.8	15.7	27.2	13.7	27.6	4,392	92	1.41	1.16	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	30.5	28.9	25.5	9.6	5.5	4,448	36	1.16		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.96	38.6	31.6	20.1	6.0	3.7	4,433	51	1.07	4.17	

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			有効 回答 総数	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	有効 回答 総数					
			5	4	3	2	1							
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.17	47.4	29.9	16.5	4.1	2.1	4,291	193	0.98				

Q1-Q18の当区分平均値	3.97
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義
履修者数	7,030
回答者数	5,438

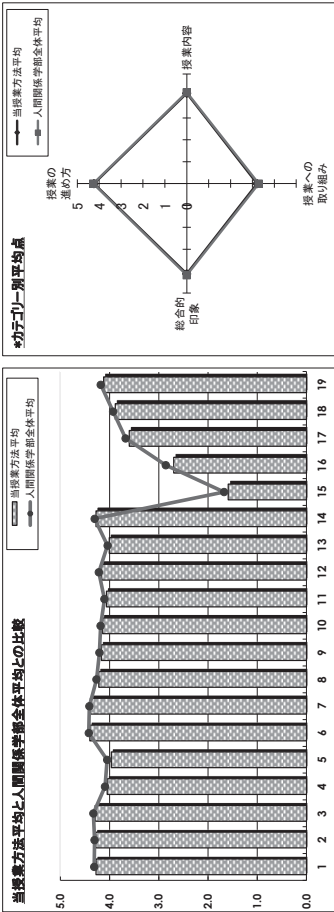
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		有効 回答	有効 回答	総評 満足 程度
No.	設問文	平均点	回答率 (%)											
			5	4	3	2	1							
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.28	52.8	30.0	11.2	4.4	1.7	5,432	6	0.94	11	0.91	4.24	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.28	51.7	30.9	12.8	3.1	1.5	5,427	11	0.91				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	54.6	26.7	13.7	3.6	1.5	5,428	10	0.93	9	1.01		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	41.7	31.1	19.7	5.4	2.2	5,429	9	1.01				
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.97	40.7	28.3	21.3	6.5	3.2	5,423	15	1.08	18	0.84		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.40	58.9	26.1	12.3	1.8	1.0	5,420	18	0.84				
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.39	56.7	28.8	12.0	1.8	0.8	5,410	28	0.82				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答	総評 満足 程度	4.13
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答							
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.22	48.8	31.0	14.9	3.9	1.4	5,418	20	0.93					
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと答えていた	4.17	47.7	29.6	16.3	4.7	1.7	5,419	19	0.98					
10	授業の内容は興味深い内容だった	4.14	47.6	28.9	16.1	5.1	2.4	5,421	17	1.02					
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.06	43.4	30.1	18.1	6.1	2.2	5,407	31	1.03					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.16	47.5	29.8	16.3	4.1	2.2	5,417	21	0.99					
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.01	40.7	29.0	23.4	4.5	2.5	5,383	55	1.02					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		有効 回答	総評 満足 程度	3.21
No.	設問文	平均点	回答率(%)											
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	54.8	26.4	11.7	5.5	1.5	5,392	46	0.97	3.21			
15	この授業のために毎回予・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.59	3.4	2.7	7.5	22.5	63.9	5,413	25	0.98				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.70	16.0	13.6	25.6	13.9	30.9	5,349	89	1.44				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.60	28.7	27.2	26.9	9.9	7.3	5,403	35	1.21				
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.89	37.0	30.3	21.7	6.4	4.7	5,385	53	1.12				

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		有効 回答	有効 回答	満足 程度	4.12
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答							
			5	4	3	2	1								
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.12	47.1	28.3	17.0	4.4	3.1	5,200	238	1.04					

Q1-Q18の当区分平均値	3.93
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	演習	履修者数	1,252
		回答者数	998

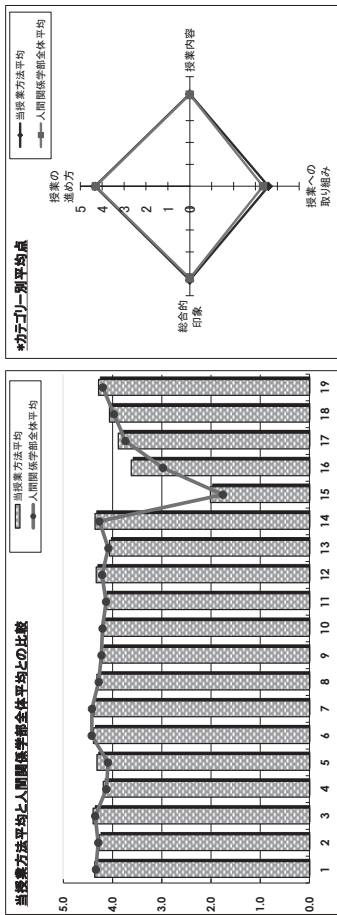
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.33
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.36	56.4	29.4	9.1	4.0	1.0	995	3	0.88	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.27	50.6	32.0	13.1	2.9	1.4	989	9	0.90	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.40	60.2	25.0	10.8	2.3	1.7	989	9	0.90	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.19	51.2	27.5	13.0	5.8	2.5	989	9	1.03	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.32	55.7	27.2	11.9	3.4	1.7	992	6	0.93	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.39	59.9	25.2	10.8	2.5	1.7	994	4	0.90	
7	授業は教員の十分な準備と意欲をもって行われた	4.38	57.7	27.7	10.9	2.3	1.3	989	9	0.87	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.22
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.32	53.9	30.8	10.1	3.6	1.6	994	4	0.91	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.21	50.4	29.8	12.4	5.4	1.9	992	6	0.99	
10	授業の内容は興味深いと思った	4.21	50.2	30.3	12.6	3.7	3.1	992	6	1.01	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	46.3	32.6	13.5	5.4	2.2	990	8	0.99	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.33	55.9	28.0	11.4	2.8	1.8	989	9	0.92	
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.06	43.0	29.7	20.8	4.0	2.6	987	11	1.01	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.59
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
14	この授業にどの程度出席したか	4.36	59.1	25.0	9.6	4.9	1.3	991	7	0.94	
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	2.01	7.4	6.5	13.3	25.4	47.4	981	17	1.24	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.62	32.2	26.4	22.1	9.8	9.4	976	22	1.28	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.88	36.9	30.4	21.6	6.5	4.7	988	10	1.12	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.06	42.9	31.6	17.4	4.9	3.1	986	12	1.04	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.28
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.28	52.3	30.4	12.8	2.4	2.1	966	32	0.92	

Q1-Q18の当区分平均値	4.10
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	演習	履修者数	1,110
		回答者数	954

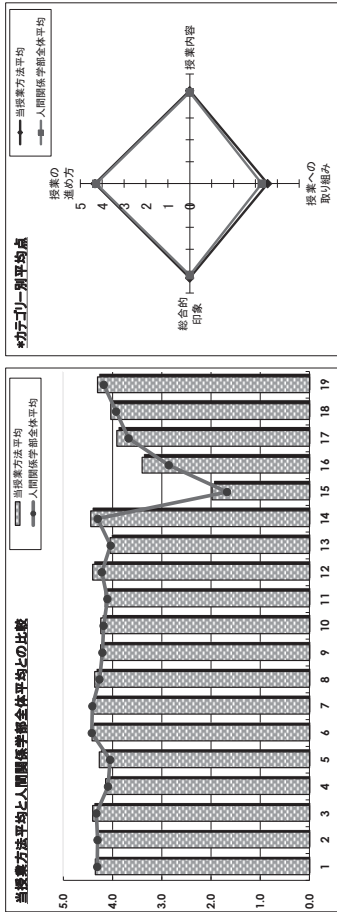
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.33
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.35	55.8	28.7	11.1	3.6	0.8	954	0	0.87	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	52.4	30.8	13.6	2.6	0.5	950	4	0.84	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.40	60.0	23.7	13.5	2.3	0.5	951	3	0.84	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	47.5	29.1	15.1	6.4	1.8	951	3	1.01	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.27	52.3	28.0	15.4	3.3	1.1	947	7	0.91	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	61.2	23.7	11.5	2.8	0.7	948	6	0.86	
7	授業は教員の十分な準備と意欲をもって行われた	4.39	57.9	27.1	12.1	2.5	0.4	949	5	0.83	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.24
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.36	55.8	28.8	12.0	2.5	0.8	951	3	0.85	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.24	50.4	29.2	15.0	3.5	1.4	949	5	0.93	
10	授業の内容は興味深いと思った	4.24	50.3	29.8	16.4	2.5	1.6	949	5	0.92	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.15	45.7	31.8	16.2	4.4	1.9	951	3	0.97	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.41	59.1	26.4	11.5	2.2	0.8	950	4	0.84	
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.05	42.1	28.6	23.7	3.6	2.0	947	7	0.99	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.56
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
14	この授業にどの程度出席したか	4.44	64.6	21.5	8.7	4.0	1.2	941	13	0.90	
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.98	6.9	6.2	13.3	25.0	48.6	945	9	1.22	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.40	26.2	25.0	24.5	11.5	12.8	936	18	1.33	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.92	37.4	30.3	22.4	6.6	3.4	942	12	1.08	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.04	42.0	29.3	21.1	5.6	2.0	940	14	1.02	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.31
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	55.6	26.4	12.8	3.2	1.9	924	30	0.95	

Q1-Q18の当区分平均値	4.10
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	実技	履修者数	94
		回答者数	71

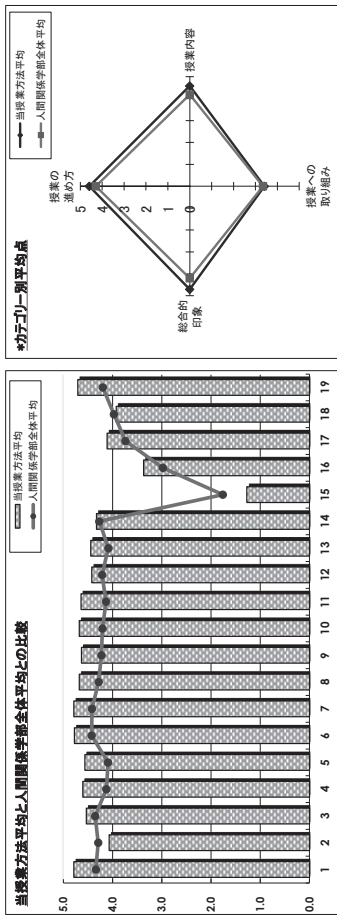
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.59
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	4.59
			5	4	3	2	1				
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.79	80.3	18.3	1.4	0.0	0.0	71	0	0.44	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.07	49.3	18.3	26.8	1.4	4.2	71	0	1.10	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かであることで注意を向けなかった場合は、5をマーク	4.54	67.6	21.1	8.5	2.8	0.0	71	0	0.77	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.61	70.4	19.7	9.9	0.0	0.0	71	0	0.67	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.56	71.8	15.5	9.9	2.8	0.0	71	0	0.79	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.77	83.1	12.7	2.8	1.4	0.0	71	0	0.57	
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.79	81.7	15.5	2.8	0.0	0.0	71	0	0.48	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.58
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	4.58
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.68	73.2	21.1	5.6	0.0	0.0	71	0	0.58	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.63	70.4	23.9	4.2	1.4	0.0	71	0	0.64	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.68	76.1	18.3	4.2	0.0	1.4	71	0	0.69	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.64	74.3	17.1	7.1	1.4	0.0	70	1	0.68	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.42	60.6	26.8	9.9	0.0	2.8	71	0	0.89	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.44	65.7	18.6	12.9	0.0	2.9	70	1	0.93	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.40
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	3.40
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	54.3	30.0	11.4	2.9	1.4	70	1	0.90	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.28	2.9	0.0	4.3	7.2	85.5	69	2	0.80	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.37	40.0	11.4	18.6	5.7	24.3	70	1	1.63	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.11	47.9	28.2	15.5	4.2	4.2	71	0	1.09	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.93	47.8	17.4	21.7	5.8	7.2	69	2	1.26	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.71
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	4.71
			5	4	3	2	1				
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.71	77.9	17.6	2.9	0.0	1.5	68	3	0.67	

Q1-Q18の当区分平均値	4.29
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	実技	履修者数	127
		回答者数	94

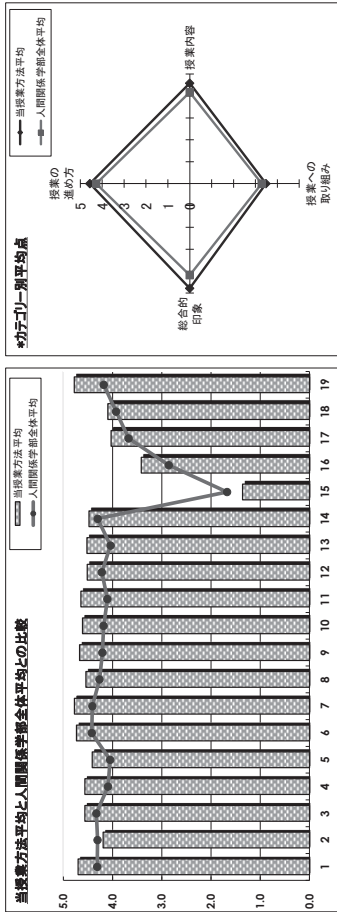
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.56
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	4.56
			5	4	3	2	1				
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.70	76.6	18.1	4.3	1.1	0.0	94	0	0.60	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.19	55.3	17.0	23.4	0.0	4.3	94	0	1.07	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かであることで注意を向けなかった場合は、5をマーク	4.56	66.0	25.5	7.4	1.1	0.0	94	0	0.68	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.56	62.8	31.9	4.3	1.1	0.0	94	0	0.63	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.41	59.6	23.4	16.0	1.1	0.0	94	0	0.80	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.73	79.8	13.8	6.4	0.0	0.0	94	0	0.57	
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.78	79.8	18.1	2.1	0.0	0.0	94	0	0.47	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.58
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	4.58
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.54	67.0	22.3	9.6	0.0	1.1	94	0	0.76	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.67	73.4	21.3	4.3	1.1	0.0	94	0	0.61	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.61	71.0	21.5	5.4	2.2	0.0	93	1	0.69	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.65	74.2	18.3	5.4	2.2	0.0	93	1	0.69	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.52	67.7	19.4	10.8	1.1	1.1	93	1	0.82	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.52	67.4	21.7	8.7	0.0	2.2	92	2	0.83	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.48
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	3.48
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.48	43.8	23.4	10.6	1.1	1.1	94	0	0.81	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.36	6.4	0.0	3.2	4.3	86.2	94	0	1.04	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.42	36.6	17.2	16.1	11.8	18.3	93	1	1.53	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.03	48.9	19.1	22.3	5.3	4.3	94	0	1.15	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.10	52.2	18.5	21.7	2.2	5.4	92	2	1.15	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.78
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	総数	4.78
			5	4	3	2	1				
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.78	81.1	15.6	3.3	0.0	0.0	90	4	0.49	

Q1-Q18の当区分平均値	4.29
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・演習	履修者数	447
		回答者数	374

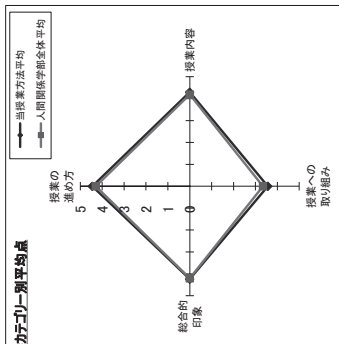
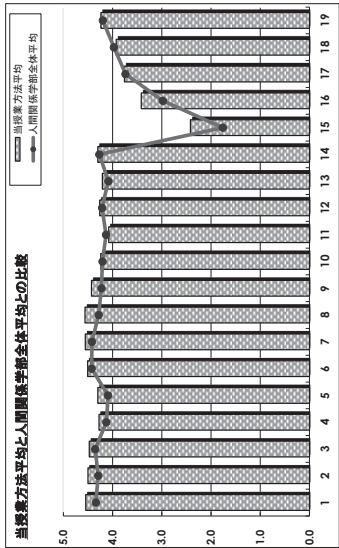
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.45
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.55	64.5	27.2	6.7	1.6	0.0	372	2	0.69	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.50	61.8	27.8	9.4	0.8	0.3	374	0	0.72	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、Sをマーク	4.47	61.8	26.5	9.4	2.1	0.3	374	0	0.77	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.28	50.9	31.1	13.4	3.8	0.8	373	1	0.89	
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.30	52.3	27.8	18.1	1.3	0.5	371	3	0.85	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	62.8	26.5	9.4	1.1	0.3	374	0	0.73	
7	授業は教員の十分な準備と意意をもって行われた	4.55	64.4	27.3	7.8	0.3	0.3	374	0	0.67	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.30
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.56	65.7	25.7	7.5	1.1	0.0	373	1	0.68	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.43	57.2	30.7	9.9	1.9	0.3	374	0	0.77	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.24	48.7	31.6	16.3	2.1	1.3	374	0	0.89	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	41.0	34.6	16.6	7.0	0.8	373	1	0.96	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	50.0	31.6	14.4	2.7	1.3	374	0	0.90	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	46.1	32.3	18.6	2.2	0.8	371	3	0.87	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.56
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	57.0	24.3	11.5	6.1	1.1	374	0	0.97	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.42	7.0	12.9	25.7	23.9	30.6	373	1	1.24	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.42	23.6	26.0	29.5	10.3	10.6	369	5	1.25	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.76	30.0	29.5	31.4	4.9	4.3	370	4	1.07	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.93	33.7	36.4	21.3	6.2	2.4	371	3	1.01	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.24
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	48.0	32.4	15.6	3.1	0.8	358	16	0.88	

Q1-Q18の当区分平均値	4.16
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・演習	履修者数	380
		回答者数	333

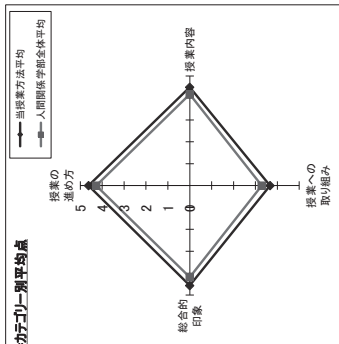
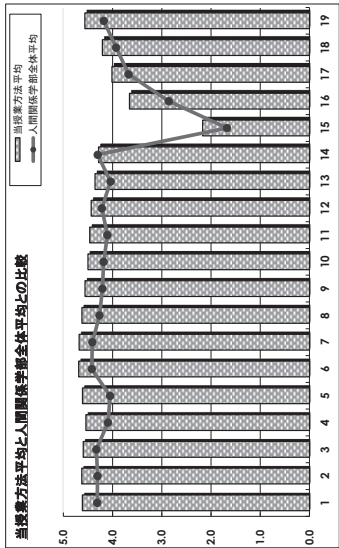
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	4.62
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.61	72.9	18.1	6.6	2.4	0.0	332	1	0.72	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.63	72.0	19.9	6.9	1.2	0.0	332	1	0.67	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、Sをマーク	4.60	71.7	18.7	7.2	2.4	0.0	332	1	0.73	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.54	66.9	23.2	7.5	2.1	0.3	332	1	0.75	
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.61	70.6	21.3	6.9	1.2	0.0	333	0	0.67	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.69	78.4	14.4	5.7	0.9	0.6	333	0	0.67	
7	授業は教員の十分な準備と意意をもって行われた	4.68	75.1	18.3	6.3	0.3	0.0	333	0	0.60	

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.49
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.62	71.8	20.4	6.3	1.5	0.0	333	0	0.67	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.56	68.1	22.9	6.3	2.4	0.3	332	1	0.75	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.50	63.1	26.3	8.8	1.2	0.6	331	2	0.76	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.46	40.2	28.9	8.1	2.4	0.3	332	1	0.77	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	59.5	27.9	10.2	1.5	0.9	333	0	0.81	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.36	54.7	28.3	15.5	1.2	0.3	329	4	0.81	

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.67
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	57.5	23.5	10.8	6.3	1.8	332	1	1.01	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.17	8.1	5.7	16.6	34.3	35.2	332	1	1.21	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.66	32.0	26.0	25.1	9.7	7.3	331	2	1.22	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.01	39.9	32.4	19.5	5.1	3.0	333	0	1.04	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.21	46.7	33.3	16.1	2.1	1.8	330	3	0.91	

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.56
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.56	68.1	22.3	7.7	1.5	0.3	323	10	0.73	

Q1-Q18の当区分平均値	4.33
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・実習	履修者数	29
		回答者数	28

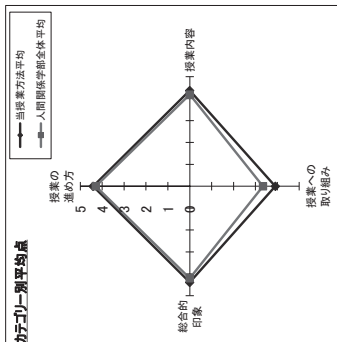
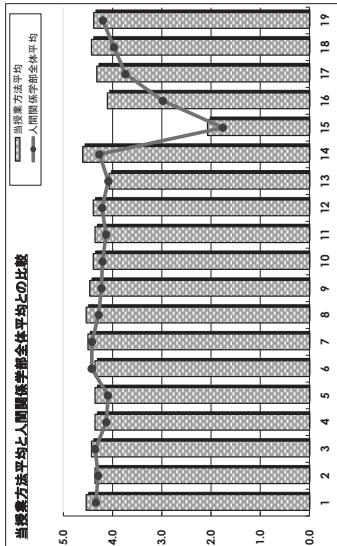
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効 回答 割合	4.41
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	1	2	3	4	5	
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.54	71.4	14.3	10.7	3.6	0.0	28	0	0.84				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	60.7	17.9	17.9	3.6	0.0	28	0	0.91				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.43	60.7	25.0	10.7	3.6	0.0	28	0	0.84				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.36	64.3	14.3	14.3	7.1	0.0	28	0	0.99				
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.36	60.7	17.9	17.9	3.6	0.0	28	0	0.91				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.36	64.3	17.9	7.1	10.7	0.0	28	0	1.03				
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.50	67.9	17.9	10.7	3.6	0.0	28	0	0.84				

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			有効 回答	満足 程度
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	1	2	3	4	5	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.54	71.4	14.3	10.7	3.6	0.0	28	0	28	0	0.84		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.46	67.9	17.9	7.1	7.1	0.0	28	0	28	0	0.92		
10	授業の内容は興味深いものであった	4.39	60.7	25.0	7.1	7.1	0.0	28	0	28	0	0.92		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.36	64.3	14.3	14.3	7.1	0.0	28	0	28	0	0.99		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.39	64.3	17.9	10.7	7.1	0.0	28	0	28	0	0.96		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	50.0	17.9	25.0	3.6	3.6	28	0	28	0	1.12		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効 回答	総評 満足度
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	1	2	3	4	5	
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.61	71.4	21.4	3.6	3.6	0.0	28	0	28	0	0.74		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.07	18.5	0.0	7.4	18.5	55.6	27	1	1.54				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	4.11	46.4	21.4	28.6	3.6	0.0	28	0	28	0	0.96		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.32	53.6	28.6	14.3	3.6	0.0	28	0	28	0	0.86		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.43	64.3	21.4	7.1	7.1	0.0	28	0	28	0	0.92		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答		集約 回数	満足 度			
			5	4	3	2	1	有効 回答						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.38	65.4	19.2	7.7	3.8	3.8	26	2	1.06				

Q1-Q18の当区分平均値	4.27
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・実習	履修者数	25
		回答者数	19

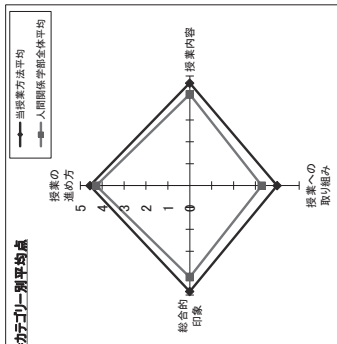
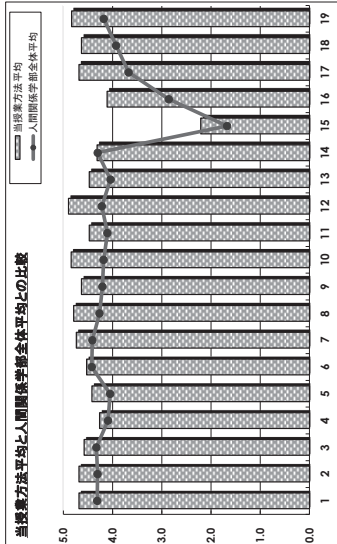
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			有効 回答	総 平均 得点	4.56
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	1	2	3	4	5		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.48	73.7	21.1	5.3	0.0	0.0	19	0	19	0	0.58			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.48	78.9	10.5	10.5	0.0	0.0	19	0	19	0	0.67			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.58	68.4	21.1	10.5	0.0	0.0	19	0	19	0	0.69			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.26	63.2	10.5	15.8	10.5	0.0	19	0	19	0	1.10			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.42	52.6	36.8	10.5	0.0	0.0	19	0	19	0	0.69			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.53	63.2	26.3	10.5	0.0	0.0	19	0	19	0	0.70			
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.74	73.7	26.3	0.0	0.0	0.0	19	0	19	0	0.45			

Ⅱ. この授業の内容について													4.68
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					当カテゴリー平均点			有効 回答	総 評 満 足 度	
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.79	78.9	21.1	0.0	0.0	0.0	19	0	0.42			
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.63	68.4	26.3	5.3	0.0	0.0	19	0	0.60			
10	授業の内容は興味深いものだった	4.84	84.2	15.8	0.0	0.0	0.0	19	0	0.37			
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.47	57.9	31.6	10.5	0.0	0.0	19	0	0.70			
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.89	89.5	10.5	0.0	0.0	0.0	19	0	0.32			
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.47	57.9	31.6	10.5	0.0	0.0	19	0	0.70			

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点				有効 回答	満足 度
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	満足 度						
			5	4	3	2	1								
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	63.2	21.1	5.3	5.3	5.3	19	0	1.16					
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.21	5.3	0.0	26.3	47.4	21.1	19	0	0.98					
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	4.11	50.0	16.7	27.8	5.6	0.0	18	1	1.02					
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.68	78.9	10.5	10.5	0.0	0.0	19	0	0.67					
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.63	73.7	15.8	10.5	0.0	0.0	19	0	0.68					

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリ平均点		4.83
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	満足 割合			
			5	4	3	2	1					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.83	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	18	1	0.38		

Q1-Q18の当区分平均値	4.46
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任	履修者数	4,734
		回答者数	3,266

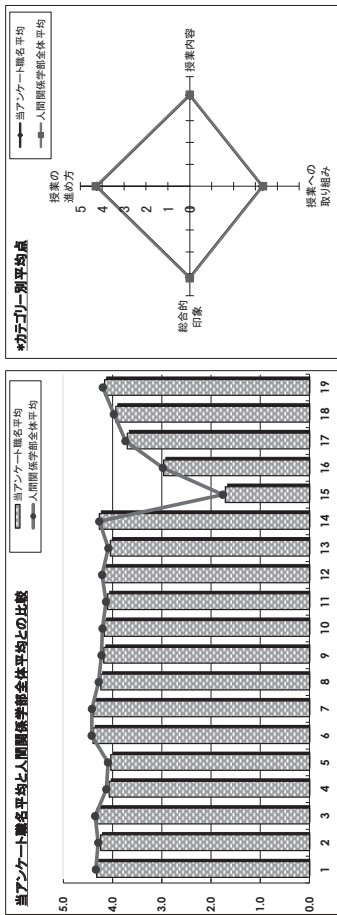
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー-平均点		4.25	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				総集計
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.32	55.0	28.9	11.0	3.8	1.3	3,279	7				0.91
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.24	51.0	29.9	13.7	3.4	2.0	3,273	13				0.95
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けていた場合は、5をマーク	4.31	55.7	25.9	13.8	3.2	1.3	3,272	14				0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.07	44.3	28.5	19.3	5.9	2.0	3,271	15				1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.04	42.4	29.5	20.0	5.6	2.4	3,270	16				1.03
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.40	58.8	26.2	12.2	2.0	0.9	3,274	12				0.84
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	57.1	28.2	11.9	1.8	1.0	3,268	18				0.84

II. この授業の内容について										当カテゴリー-平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				総集計
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	50.7	29.7	14.3	3.7	1.6	3,276	10				0.94
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.18	49.3	28.6	14.9	5.1	2.1	3,272	14				1.00
10	授業の内容は興味深いものだった	4.17	48.1	29.9	15.0	4.7	2.2	3,273	13				1.00
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.10	44.7	31.1	16.4	5.3	2.5	3,272	14				1.02
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.19	49.1	29.1	15.5	4.2	2.1	3,260	26				0.98
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	42.1	29.1	22.4	4.1	2.4	3,254	32				1.01

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー-平均点		3.32	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				総集計
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.2	28.1	12.6	5.0	1.1	3,257	29				0.94
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.71	4.7	4.1	9.0	21.8	60.3	3,256	30				1.10
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.96	19.9	17.3	26.1	12.9	23.9	3,222	64				1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	31.6	28.1	25.2	9.1	6.0	3,258	28				1.18
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.94	38.8	30.4	20.4	6.4	3.9	3,244	42				1.10

IV. 総合的な印象										当カテゴリー-平均点		4.16	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				総集計
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.16	47.9	29.5	15.9	4.3	2.4	3,145	141				1.00

Q1-Q18の当区分平均値	3.97
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	3.兼任	履修者数	5,146
		回答者数	4,047

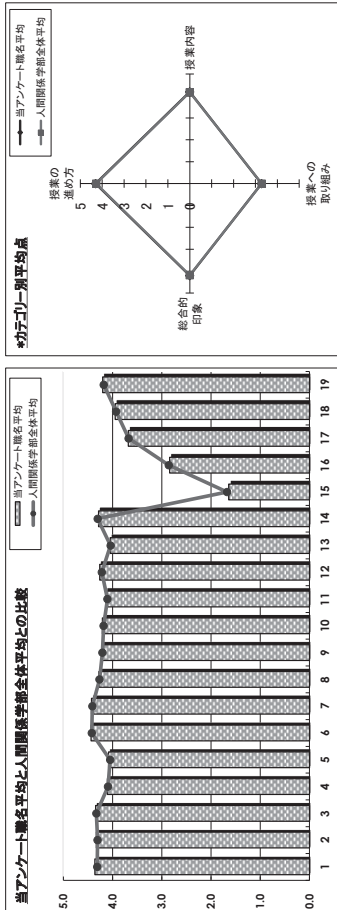
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー-平均点		4.30	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				総集計
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.36	56.4	28.9	9.9	3.5	1.2	4,045	2				0.88
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	53.7	30.6	12.1	2.5	1.1	4,036	11				0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けていた場合は、5をマーク	4.35	57.4	25.4	12.8	3.4	1.0	4,039	8				0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	44.1	31.4	17.5	5.3	1.8	4,038	9				0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.08	44.4	28.9	19.4	5.2	2.1	4,033	14				1.01
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.44	61.4	24.4	11.5	1.9	0.8	4,031	16				0.83
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.43	59.5	26.9	11.1	1.9	0.6	4,027	20				0.81

II. この授業の内容について										当カテゴリー-平均点		4.19	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				総集計
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	52.1	29.8	13.3	3.5	1.2	4,035	12				0.91
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.22	50.0	29.1	15.0	4.3	1.5	4,034	13				0.95
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	50.0	28.7	15.4	4.0	1.9	4,031	16				0.97
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	46.1	30.4	16.4	5.2	1.9	4,028	19				0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	51.5	29.7	14.2	2.9	1.7	4,031	16				0.93
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.05	42.1	29.6	21.9	3.9	2.5	4,014	33				1.01

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー-平均点		3.28	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				総集計
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	55.0	26.6	11.6	5.4	1.4	4,004	43				0.96
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.64	3.6	3.3	8.1	23.8	61.2	4,028	19				1.01
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.84	17.8	16.1	25.6	13.7	26.8	3,979	68				1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.68	30.8	28.0	26.1	8.8	6.3	4,015	32				1.18
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.95	38.3	31.3	21.0	5.5	3.9	3,997	50				1.08

IV. 総合的な印象										当カテゴリー-平均点		4.20	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				総集計
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	50.9	27.6	14.9	3.9	2.7	3,869	178				1.01

Q1-Q18の当区分平均値	3.99
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	Ⅰ.専任	履修者数	3,618
		回答者数	2,669

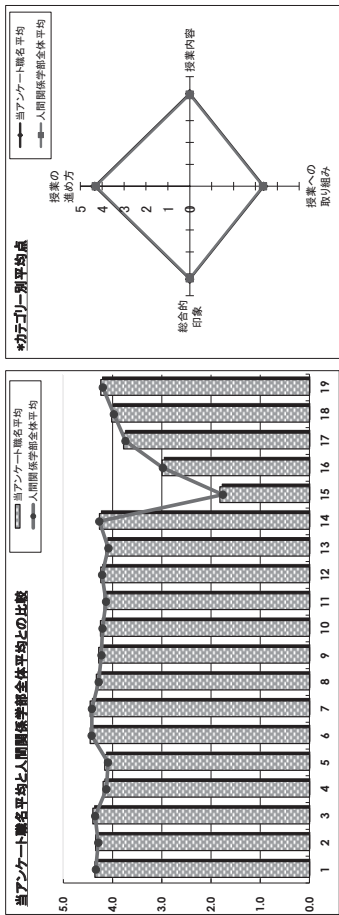
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー-平均点		4.34	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.36	56.0	29.4	9.9	3.6	1.0	2,656	13	2,656	13	0.88	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	53.8	31.3	11.6	2.1	1.1	2,654	15	2,654	15	0.85	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けていた場合は、5をマーク	4.40	58.5	26.0	13.2	1.7	0.6	2,657	12	2,657	12	0.82	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.19	47.0	31.8	15.8	4.1	1.2	2,657	12	2,657	12	0.93	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.16	47.3	28.8	18.0	4.2	1.7	2,650	19	2,650	19	0.97	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.46	61.1	26.1	10.4	1.8	0.5	2,656	13	2,656	13	0.79	
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.46	59.5	28.7	10.0	1.5	0.3	2,652	17	2,652	17	0.76	

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー-平均点		4.23	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.33	53.2	31.0	12.2	2.9	0.7	2,658	11	2,658	11	0.85	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほめていた	4.28	51.5	30.8	13.2	3.4	1.1	2,657	12	2,657	12	0.90	
10	授業の内容は興味深いものであった	4.25	50.8	30.1	13.6	3.9	1.6	2,655	14	2,655	14	0.94	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.17	46.1	32.3	15.5	4.9	1.2	2,654	15	2,654	15	0.95	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	49.6	31.1	14.6	3.1	1.6	2,654	15	2,654	15	0.92	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.13	44.3	30.8	20.6	2.7	1.6	2,640	29	2,640	29	0.94	

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー-平均点		3.38	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	54.5	25.6	13.5	5.1	1.4	2,648	21	2,648	21	0.97	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.82	4.4	4.3	12.0	27.9	51.5	2,639	30	2,639	30	1.08	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.99	18.9	19.2	26.8	12.4	22.7	2,613	56	2,613	56	1.41	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.78	32.1	30.4	24.9	8.3	4.3	2,647	22	2,647	22	1.11	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.02	39.8	33.3	18.8	5.1	3.0	2,643	26	2,643	26	1.03	

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー-平均点		4.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	49.8	30.4	15.4	3.0	1.4	2,564	105	2,564	105	0.92	

Q1-Q18の当区分平均値	4.05
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	Ⅰ.専任	履修者数	3,526
		回答者数	2,791

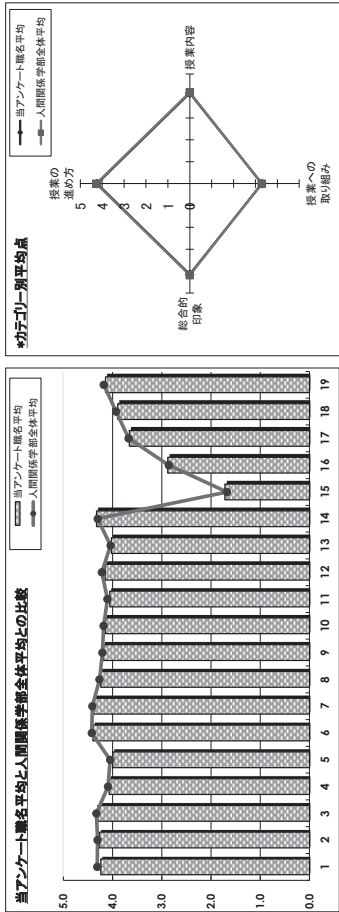
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー-平均点		4.24	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.24	51.8	29.1	12.1	5.0	1.9	2,786	5	2,786	5	0.98	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.27	51.8	29.5	13.7	3.4	1.5	2,786	5	2,786	5	0.93	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けていた場合は、5をマーク	4.30	55.0	26.5	13.8	3.2	1.5	2,785	6	2,785	6	0.93	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.07	44.2	28.8	19.2	5.5	2.3	2,787	4	2,787	4	1.03	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.00	43.6	26.4	20.0	6.4	3.6	2,783	8	2,783	8	1.10	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.40	59.1	25.8	12.3	1.8	1.1	2,783	8	2,783	8	0.85	
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.38	56.1	29.3	12.3	1.6	0.8	2,778	13	2,778	13	0.82	

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー-平均点		4.14	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	50.0	30.2	15.0	3.5	1.3	2,780	11	2,780	11	0.92	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほめていた	4.19	48.7	29.2	16.0	4.5	1.6	2,779	12	2,779	12	0.97	
10	授業の内容は興味深いものであった	4.15	48.0	28.7	15.8	5.1	2.4	2,782	9	2,782	9	1.02	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.06	43.5	29.7	18.3	6.2	2.3	2,774	17	2,774	17	1.03	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.15	48.2	28.1	16.6	4.8	2.3	2,781	10	2,781	10	1.01	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.03	41.8	27.6	24.1	4.4	2.1	2,756	35	2,756	35	1.01	

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー-平均点		3.30	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	58.6	24.0	10.8	4.9	1.7	2,774	17	2,774	17	0.97	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.72	5.0	3.4	9.6	22.5	59.5	2,775	16	2,775	16	1.09	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.88	19.8	15.5	24.7	12.7	27.3	2,748	43	2,748	43	1.47	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.66	31.0	27.3	25.4	9.5	6.8	2,776	15	2,776	15	1.20	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.90	38.6	28.4	21.7	6.7	4.6	2,769	22	2,769	22	1.13	

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー-平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	有効回答	無効回答	有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.15	48.4	27.6	16.9	4.3	2.8	2,686	105	2,686	105	1.03	

Q1-Q18の当区分平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	36～40歳
履修者数	1,249
回答者数	855

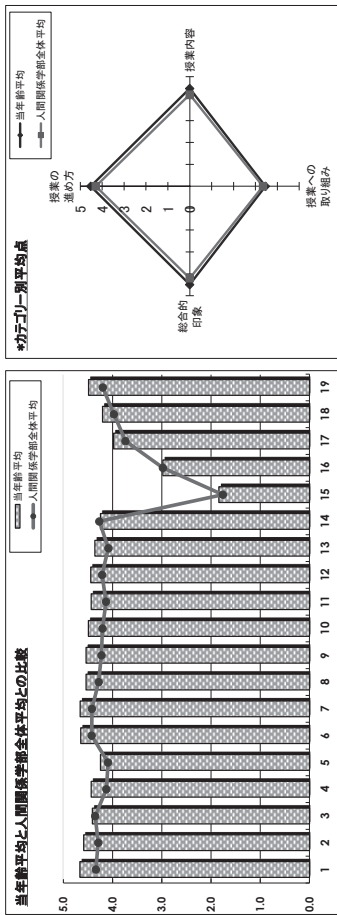
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点				無効回答		4.52
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答				無効回答	総集計			
			5	4	3	2	1		1	2	3	4	5			
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.67	72.2	22.6	4.8	0.2	0.1	85.4	1	0.59						
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.59	68.4	23.9	6.4	0.8	0.5	85.4	1	0.69						
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.41	61.2	22.5	13.1	2.5	0.7	85.4	1	0.86						
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.44	59.4	26.7	12.2	1.5	0.2	85.5	0	0.78						
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.25	51.2	28.1	16.2	2.9	1.5	85.3	2	0.93						
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.65	73.0	19.7	6.8	0.4	0.2	85.4	1	0.64						
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.66	72.9	20.2	6.8	0.1	0.0	85.3	2	0.61						

Ⅱ. この授業の内容について										当該カテゴリ平均点				有効回答数	総集計
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	1	2	3	4	5		
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.54	64.8	25.7	8.4	0.8	0.2	85.3	2	0.70					
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.54	65.9	23.9	8.8	1.1	0.4	85.3	2	0.73					
10	授業の内容は興味深いものであった	4.49	62.3	26.9	8.9	1.4	0.5	85.4	1	0.75					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.44	59.3	28.2	9.9	1.9	0.7	85.5	0	0.80					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	61.0	25.6	10.8	1.9	0.7	85.1	4	0.81					
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.36	56.0	26.8	15.2	1.2	0.8	85.4	1	0.84					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について													当カテゴリー平均点			無効回答		総集計	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	1	2	3	4	5	有効回答	割合	集計			
			5	4	3	2	1												
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.25	52.3	27.5	13.8	5.2	1.2	85.4	1	0.96									
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.84	4.5	3.3	11.8	32.9	47.5	85.3	2	1.05									
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.98	18.1	20.1	26.6	12.4	22.9	84.7	8	1.40									
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.98	39.0	31.1	21.8	5.0	3.0	85.3	2	1.04									
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.20	46.9	33.2	15.1	2.7	2.0	85.2	3	0.93									

IV. 総合的な印象											当カテゴリー平均点			無効回答		総集計	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	1		2	3	4	5			
			5	4	3	2	1										
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.49	61.6	27.7	9.1	1.0	0.6	82.6	29	0.75							

Q1-Q18の当区分平均値	4.22
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	36～40歳
履修者数	899
回答者数	739

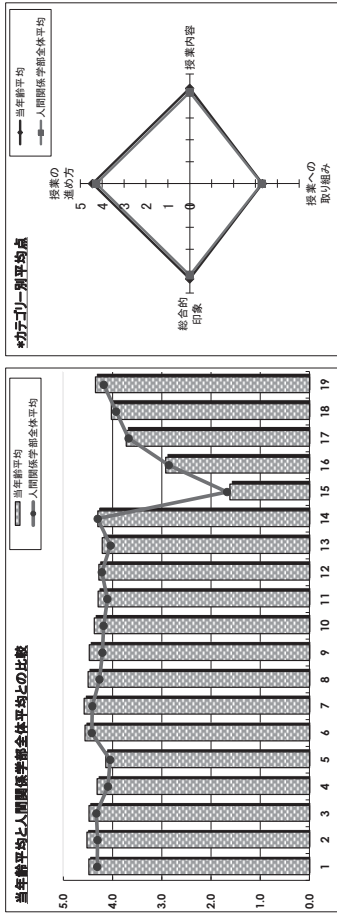
I. 教員のこの授業の進め方について													当カテゴリー平均点		有効回答 割合	無効回答 割合	4.44
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答 割合	無効回答 割合								
			5	4	3	2	1										
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.48	61.8	27.7	7.6	2.6	0.3	73.9	0	0.77							
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.52	62.6	29.4	6.4	0.9	0.7	73.8	1	0.72							
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.48	63.4	24.1	9.9	2.3	0.3	73.8	1	0.79							
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.32	52.3	31.4	12.3	3.4	0.5	73.8	1	0.86							
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	46.7	29.4	17.1	5.0	1.9	73.9	0	1.00							
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.56	67.3	24.0	6.6	1.5	0.5	73.7	2	0.73							
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.58	66.9	25.4	6.8	0.7	0.3	73.7	2	0.67							

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				無効回答	総集計
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	1	2	3	4	5		
			5	4	3	2	1								
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.50	61.0	29.8	7.6	1.4	0.3	73.8	1	0.72					
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.47	60.2	29.5	8.1	1.9	0.3	73.8	1	0.75					
10	授業の内容は興味深いものだった	4.37	56.1	29.3	10.7	3.4	0.4	73.6	3	0.84					
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.29	50.5	32.6	13.1	3.4	0.4	73.4	5	0.85					
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	51.8	30.4	12.9	3.8	1.1	73.6	3	0.91					
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	47.2	31.2	17.9	2.9	0.8	73.1	8	0.89					

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			有効回答数	総集計
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	割合	割合	割合			
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	55.9	25.9	11.2	6.4	0.7	73.5	4	0.95				
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.62	3.5	2.9	8.0	23.0	42.6	73.6	3	1.00				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.92	19.3	16.6	26.7	11.6	25.8	73.0	9	1.44				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.72	32.2	27.7	25.3	9.8	5.0	73.6	3	1.16				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.02	40.1	33.2	18.7	5.2	2.9	73.4	5	1.03				

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			無効回答		総集計	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	割合	割合	割合	割合	割合			
			5	4	3	2	1									
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.35	54.3	30.4	12.3	1.7	1.3	70.5	34	0.85						

Q1-Q18の当区分平均値	4.11
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	41～45歳
履修者数	1,006
回答者数	729

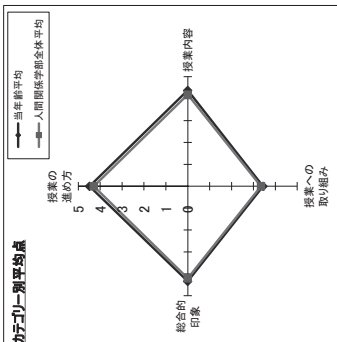
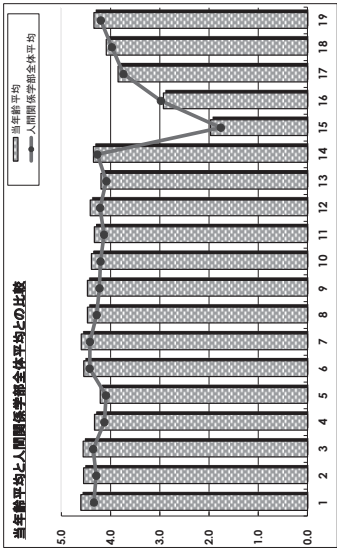
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー-平均点		標準偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.61	70.2	21.8	6.9	0.7	0.4	725	4	4.49		
2	理解に役立った	4.55	66.6	24.3	7.2	1.4	0.6	724	5	0.68		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.56	69.2	19.6	9.3	1.7	0.3	724	5	0.74		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.33	56.0	25.5	14.7	3.2	0.7	722	7	0.75		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.21	50.8	25.6	18.8	3.7	1.1	723	6	0.89		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.55	67.3	21.8	9.7	0.8	0.4	724	5	0.95		
7	授業は教員の十分な準備と意意をもって行われた	4.60	70.3	20.7	7.7	0.8	0.4	723	6	0.74		

II. この授業の内容について										当カテゴリー-平均点		標準偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.47	62.3	25.7	9.4	1.9	0.7	724	5	4.38		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.47	61.5	27.4	8.3	2.2	0.6	725	4	0.80		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.39	59.1	26.0	11.2	2.2	1.5	724	5	0.78		
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.33	54.9	28.4	12.4	3.5	0.8	723	6	0.88		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.41	60.5	25.3	10.4	2.5	1.3	719	10	0.87		
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.20	49.1	27.5	19.1	2.5	1.8	719	10	0.95		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー-平均点		標準偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	55.8	28.9	10.1	4.4	0.7	722	7	3.44		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.97	6.6	7.0	14.6	20.3	51.4	710	19	0.88		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.93	19.2	15.6	28.3	12.5	24.4	710	19	1.24		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.85	34.5	31.6	22.2	7.7	4.1	716	13	1.42		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.09	44.0	31.0	17.6	4.6	2.8	716	13	1.10		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー-平均点		標準偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.34	56.8	26.3	12.5	3.0	1.4	697	32	4.34		

Q1-Q18の当区分平均値	4.17
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	41～45歳
履修者数	1,169
回答者数	912

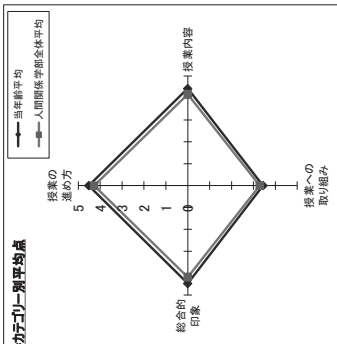
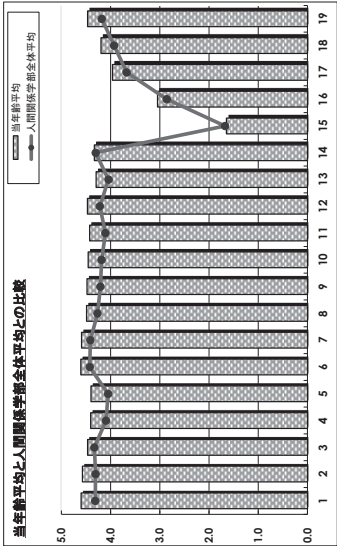
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー-平均点		標準偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.60	68.6	24.7	5.4	0.8	0.5	911	1	4.52		
2	理解に役立った	4.57	68.6	22.7	6.7	1.2	0.8	908	4	0.68		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.47	62.5	25.3	9.5	2.1	0.7	910	2	0.74		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.41	58.1	28.1	11.4	1.2	1.2	911	1	0.80		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.40	58.6	26.7	11.5	2.4	0.8	911	1	0.83		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.61	69.9	21.9	7.4	0.4	0.3	908	4	0.84		
7	授業は教員の十分な準備と意意をもって行われた	4.59	68.5	23.7	6.6	0.9	0.3	907	5	0.67		

II. この授業の内容について										当カテゴリー-平均点		標準偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.49	61.9	27.7	8.4	1.5	0.5	910	2	4.44		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.48	63.6	25.0	8.3	2.2	1.0	909	3	0.76		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.46	61.9	26.3	8.8	1.8	1.3	910	2	0.82		
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.43	60.5	26.1	10.1	2.2	1.1	909	3	0.83		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.47	62.2	26.0	9.5	1.3	1.0	908	4	0.84		
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.30	53.8	26.6	16.1	2.1	1.3	901	11	0.80		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー-平均点		標準偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	58.2	25.1	10.4	4.3	2.0	904	8	3.44		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.65	4.3	3.4	7.7	21.9	62.7	908	4	0.96		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.05	23.1	16.6	25.2	12.2	22.9	901	11	1.05		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.96	40.8	27.8	21.9	5.6	3.9	906	6	1.46		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.20	49.9	28.3	15.8	3.5	2.4	904	8	1.10		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー-平均点		標準偏差
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.47	65.2	21.3	10.2	1.9	1.5	864	48	4.47		

Q1-Q18の当区分平均値	4.21
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	46～50歳	履修者数	974
		回答者数	769

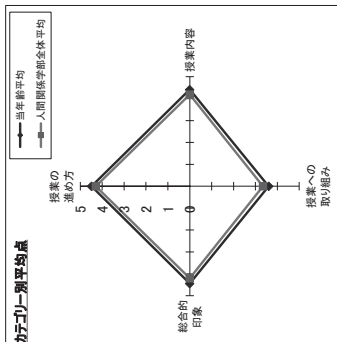
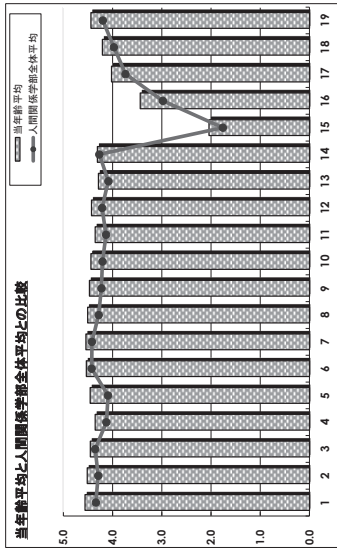
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.49
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.56	64.5	28.3	6.2	0.9	0.1	763	6	0.66		
2	理解に役立った	4.52	61.8	29.0	8.2	0.7	0.3	765	4	0.70		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かであることで注意を受けた場合は、5をマーク	4.45	59.1	28.8	10.6	1.2	0.3	763	6	0.75		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.35	52.9	33.0	11.1	2.2	0.7	763	6	0.82		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.45	58.6	29.8	10.2	1.1	0.3	761	8	0.74		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.53	64.4	25.9	8.5	0.3	0.764	5	0.71			
7	授業は教員の十分な準備と意意をもって行われた	4.54	64.1	27.5	7.3	0.5	0.5	763	6	0.70		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.42
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.51	61.7	28.6	8.6	0.8	0.3	765	4	0.71		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.47	59.8	30.0	8.2	1.4	0.5	764	5	0.75		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.44	59.9	28.0	9.2	2.0	0.9	764	5	0.81		
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.35	54.1	31.9	10.2	2.9	0.9	765	4	0.85		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	58.0	30.2	9.2	2.0	0.7	762	7	0.79		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.29	51.2	30.6	15.2	2.0	1.1	756	13	0.87		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.60
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.31	56.7	25.0	11.7	5.7	0.9	759	10	0.95		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.04	8.0	7.3	11.9	28.4	46.3	762	7	1.26		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.44	28.3	23.9	23.9	11.1	12.8	749	20	1.34		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.02	41.6	29.9	20.4	5.5	2.6	765	4	1.04		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.21	48.7	30.3	15.9	3.6	1.6	760	9	0.94		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.44
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.44	60.4	26.9	9.8	2.3	0.7	737	32	0.81		

Q1-Q18の当区分平均値	4.23
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	46～50歳	履修者数	759
		回答者数	626

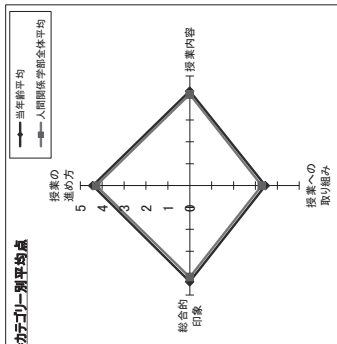
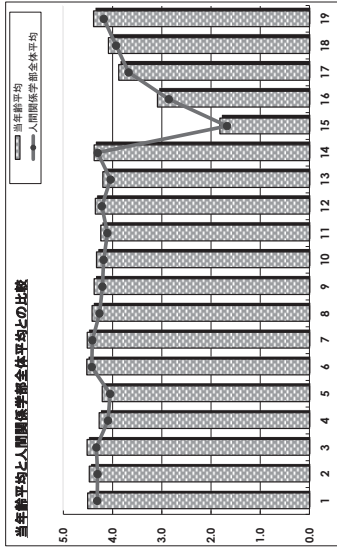
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		4.43
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.51	64.4	24.1	9.6	1.6	0.3	626	0	0.76		
2	理解に役立った	4.47	59.9	28.4	10.7	1.0	0.0	624	2	0.72		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かであることで注意を受けた場合は、5をマーク	4.52	65.4	23.3	9.3	1.4	0.5	622	4	0.76		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.27	51.5	29.9	14.0	3.9	0.8	623	3	0.90		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.21	47.9	31.5	15.8	3.5	1.3	622	4	0.92		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.52	65.9	22.7	9.7	1.6	0.2	621	5	0.75		
7	授業は教員の十分な準備と意意をもって行われた	4.52	63.2	26.5	9.2	1.0	0.2	620	6	0.72		

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		4.32
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.42	56.8	29.8	11.8	1.6	0.0	620	6	0.76		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.37	55.5	30.2	11.3	2.4	0.6	620	6	0.83		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.33	54.9	27.5	13.6	3.4	0.6	619	7	0.88		
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.24	48.5	32.9	13.8	3.9	1.0	621	5	0.90		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.35	52.9	31.9	12.7	2.1	0.3	620	6	0.80		
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.20	46.3	31.9	18.1	2.9	0.8	618	8	0.89		

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		3.45
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	59.9	24.5	10.0	4.4	1.1	609	17	0.92		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.82	6.0	4.9	9.7	24.1	55.3	617	9	1.16		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.09	22.3	20.0	24.3	11.2	22.1	605	21	1.44		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.88	33.4	34.2	22.3	6.8	3.1	614	12	1.05		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.09	40.3	34.4	20.6	3.1	1.6	611	15	0.94		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.39
No.	教員文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	58.6	24.8	13.8	2.3	0.5	596	30	0.85		

Q1-Q18の当区分平均値	4.14
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	51～55歳
履修者数	1,622
回答者数	1,185

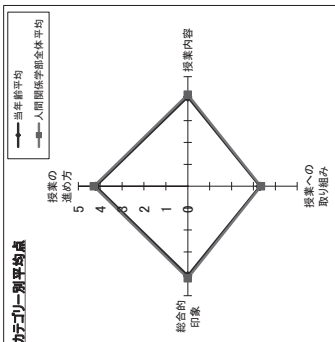
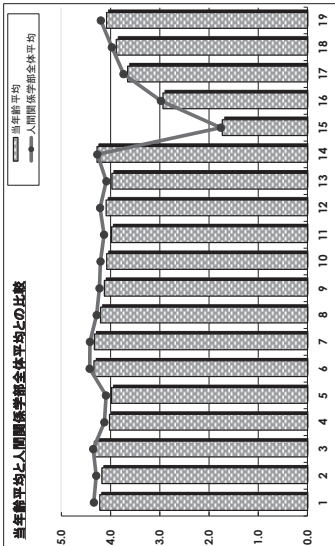
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について									
No.	教本文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.22	48.6	32.5	12.6	4.7	1.5	1,184	0.94
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.18	46.6	32.5	15.0	4.0	1.9	1,183	0.96
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマージ	4.33	54.4	28.8	13.4	2.4	1.1	1,183	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.02	40.8	30.4	20.3	7.2	1.3	1,183	2.101
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	39.1	30.3	22.5	6.1	2.0	1,182	3.102
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.34	53.6	29.9	13.3	2.9	0.3	1,182	3.083
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.33	52.2	32.1	12.9	2.3	0.5	1,179	6.082

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	教本文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.20	46.6	32.7	15.9	4.0	0.8	1,182	3.090
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.13	45.3	30.8	16.9	5.6	1.4	1,180	5.098
10	授業の内容は興味深いものであった	4.08	43.9	30.1	17.9	5.9	2.1	1,181	4.102
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.98	39.6	31.2	19.5	7.3	2.4	1,181	4.105
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.09	42.9	31.8	18.6	4.7	2.0	1,179	6.099
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.98	38.2	30.6	24.3	4.6	2.4	1,174	11.101

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	教本文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	54.3	26.7	12.5	5.2	1.3	1,173	12.096
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたの程度自習しましたか	1.73	4.3	3.5	10.0	25.5	56.7	1,175	10.106
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.94	18.9	16.6	27.4	13.4	23.7	1,161	24.142
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.65	28.7	28.9	26.9	10.1	5.5	1,173	12.115
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.89	36.1	30.8	22.5	7.1	3.6	1,170	15.109

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	教本文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.08	43.4	30.7	19.0	4.7	2.2	1,130	55.100

Q1-Q18の当区分平均値	3.92
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	51～55歳
履修者数	1,756
回答者数	1,372

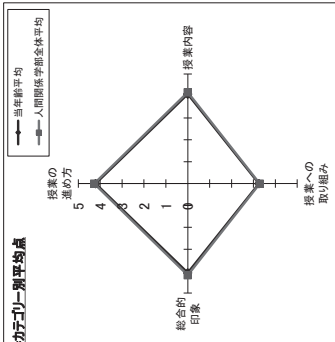
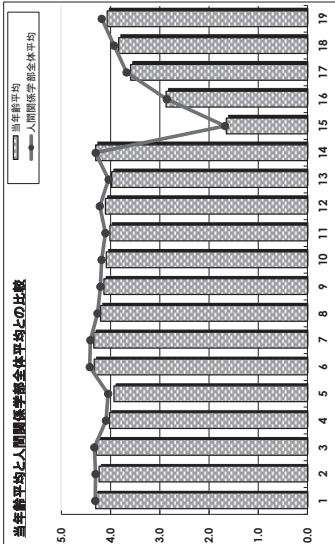
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について									
No.	教本文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.30	53.5	29.2	12.5	3.7	1.1	1,368	4.090
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.23	48.6	32.0	14.7	3.4	1.2	1,370	2.091
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマージ	4.29	53.7	26.8	15.3	3.2	1.0	1,371	1.091
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.02	42.0	28.9	20.6	6.4	2.1	1,370	2.104
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93	40.7	26.1	22.6	7.2	3.5	1,370	2.111
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.33	55.6	27.1	13.6	2.6	1.2	1,371	1.089
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	53.9	29.5	14.2	1.8	0.7	1,368	4.083

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	教本文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.20	47.1	31.6	16.7	3.6	1.0	1,368	4.091
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.14	45.5	30.1	18.1	5.1	1.2	1,368	4.096
10	授業の内容は興味深いものであった	4.09	45.3	27.8	19.3	5.3	2.2	1,370	2.102
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.01	41.9	29.2	19.3	7.6	2.0	1,368	4.105
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.11	45.9	28.6	18.1	4.9	2.5	1,369	3.102
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.98	39.5	28.8	24.7	4.3	2.8	1,362	10.103

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	教本文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	56.8	25.2	11.0	5.5	1.5	1,367	5.097
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたの程度自習しましたか	1.65	3.9	3.4	8.7	22.0	62.0	1,366	6.104
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.87	19.3	16.0	24.7	13.0	27.1	1,350	22.146
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.59	28.1	27.8	26.9	10.0	7.3	1,365	7.120
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.84	35.8	28.8	23.5	6.9	4.9	1,360	12.113

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	教本文	平均点	回答率(%)					有効回答	総集計
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.07	44.5	28.3	19.4	5.0	2.8	1,309	63.104

Q1-Q18の当区分平均値	3.91
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	56～60歳
履修者数	1,025
回答者数	743

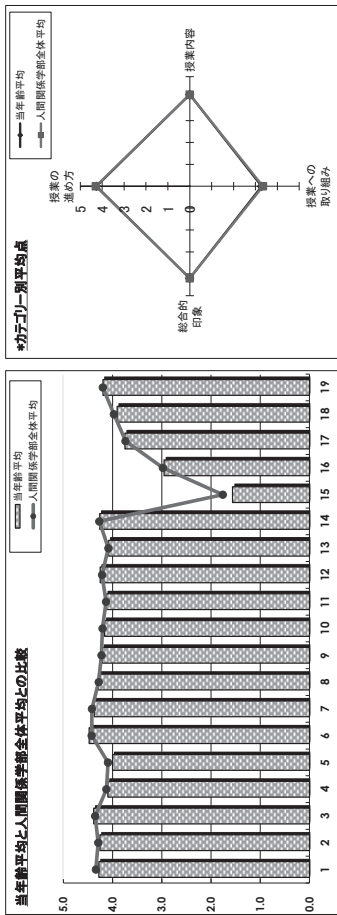
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答				
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.28	54.8	28.7	8.5	5.9	2.2	743	0	0.99			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.26	50.3	31.8	13.0	3.1	1.8	738	5	0.92			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.38	58.5	26.2	11.5	2.8	0.9	737	6	0.87			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	45.9	29.2	15.9	6.5	2.4	740	3	1.04			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.00	44.2	27.0	17.5	7.7	3.7	738	5	1.12			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.48	63.8	23.9	8.9	2.8	0.5	741	2	0.81			
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.37	55.6	30.5	10.3	3.0	0.7	738	5	0.84			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答 数	無効 回答 数	4.19
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数							
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.29	51.6	32.5	10.2	4.4	1.2	742	1							
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまでしていた	4.21	49.8	30.4	12.6	5.4	1.8	739	4							
10	授業の内容は興味深いものだった	4.16	48.3	30.4	13.4	5.0	2.8	739	4							
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	45.3	32.0	14.9	5.8	1.9	737	6							
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	51.1	30.6	13.0	2.8	2.4	741	2							
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.08	43.1	29.2	22.3	3.4	2.0	737	6							

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		有効 無効 割合	標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答					
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.26	55.4	23.9	14.2	4.3	2.2	740	3	1.00	0.97		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.57	3.7	1.9	7.2	21.8	65.4	737	6	0.91			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.96	21.8	17.8	22.2	10.4	27.8	734	9	1.51	1.16		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.75	33.3	27.7	24.6	9.4	5.0	741	2	1.16			
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.91	38.1	30.1	20.8	6.4	4.5	734	9	1.12	4.20		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.20
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答				
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	49.0	30.1	14.9	3.5	2.5	720	23	0.98			

Q1-Q18の当区分平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	56～60歳
履修者数	1,086
回答者数	857

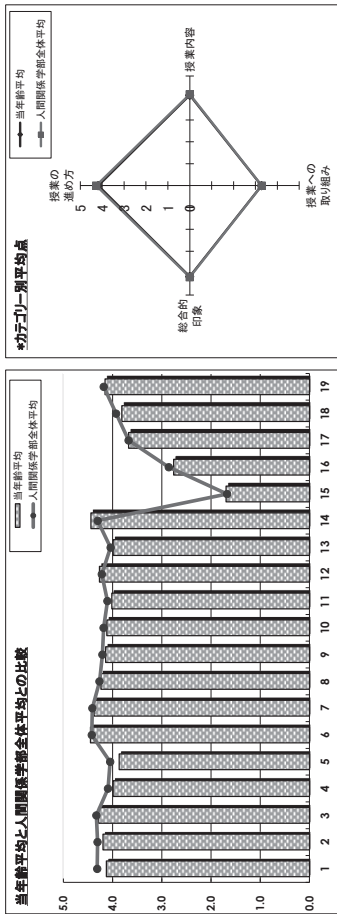
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答数	無効 回答数				
			5	4	3	2	1						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.13	51.8	25.3	10.5	8.5	3.9	857	0	1.14			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.20	49.6	28.6	15.8	3.7	2.2	854	3	0.98			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.29	56.1	24.1	14.2	3.6	2.0	854	3	0.97			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.99	42.2	29.2	17.2	8.1	3.3	855	2	1.10			
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.87	40.9	23.4	22.5	8.0	5.2	849	8	1.19			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	63.2	22.0	12.4	1.5	0.9	855	2	0.84			
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.38	56.6	28.0	12.8	1.6	0.9	853	4	0.84			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.13
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答	無効 回答							
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	51.1	29.1	14.3	3.5	2.0	853	4	0.96						
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとまで思った	4.14	48.7	27.3	15.9	5.6	2.5	850	7	1.04						
10	授業の内容は興味深いものだった	4.12	48.5	26.2	17.1	5.2	3.1	852	5	1.06						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.02	43.7	27.8	18.4	6.5	3.5	851	6	1.09						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	54.4	26.0	13.7	3.5	2.3	853	4	0.98						
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.99	40.0	28.5	24.3	5.0	2.2	847	10	1.02						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答			
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	62.5	24.2	9.3	2.9	1.1	851	6	0.86		
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.69	4.9	3.1	9.5	21.6	60.9	852	5	1.09		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.76	18.2	14.9	22.2	14.1	30.6	844	13	1.48		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.68	32.3	26.4	25.0	9.4	6.9	849	8	1.21		
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.81	37.0	26.8	22.5	7.9	5.8	846	11	1.18		

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		4.15	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効 回答	無効 回答	標準 偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.15	50.6	25.9	15.3	4.7	3.5	826	31	1.07			

Q1-Q18の当区分平均値	3.93
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	61～65歳
履修者数	814
回答者数	539

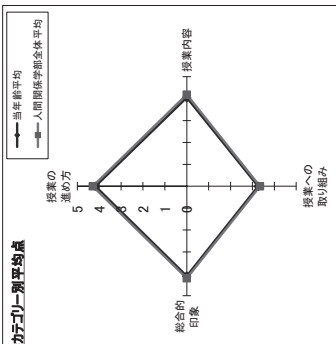
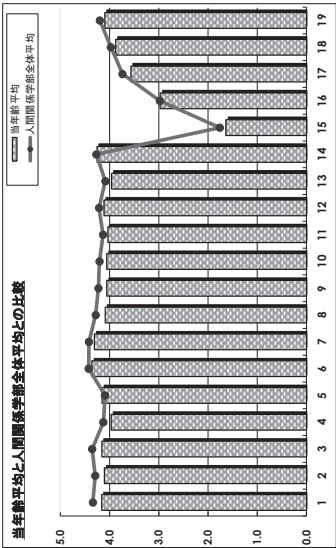
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	1	2	3	4	
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.16	46.5	31.5	14.9	5.8	1.3	536	3	0.97			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.11	42.9	34.5	15.3	4.9	2.4	536	3	0.99			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.16	47.9	28.5	17.1	4.7	1.9	537	2	0.99			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.97	36.9	34.0	21.3	4.7	3.2	536	3	1.03			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	44.7	33.5	16.3	3.7	1.9	535	4	0.95			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.36	55.9	28.6	12.3	1.9	1.3	535	4	0.86			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.31	50.8	33.0	13.2	2.2	0.7	537	2	0.84			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	1	2	3	4		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.09	42.5	33.0	16.9	6.1	1.5	537	2	0.98				
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.06	42.0	32.1	17.7	6.2	2.1	536	3	1.01				
10	授業の内容は興味深いものだった	4.06	41.5	32.7	17.9	5.8	2.1	535	4	1.00				
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.04	38.9	34.6	19.6	4.8	2.0	537	2	0.98				
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	43.4	33.7	16.3	4.1	2.4	534	5	0.98				
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.96	38.2	31.1	22.4	4.9	3.4	531	8	1.05				

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点			標準偏差	有効回答数
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	1	2	3	4		
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.26	56.1	22.8	13.5	6.0	1.7	535	4	1.01				
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.64	3.8	3.6	8.4	21.4	62.9	533	6	1.03				
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.97	19.2	16.8	27.3	15.4	21.3	531	8	1.39				
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.57	27.3	27.3	26.9	12.0	6.5	535	4	1.19				
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.88	35.4	32.2	21.9	5.6	4.9	534	5	1.11				

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	有効割合	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.10	42.6	31.8	19.8	3.9	1.8	509	30	0.97			

Q1-Q18の当区分平均値	3.89
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	61～65歳
履修者数	1,288
回答者数	998

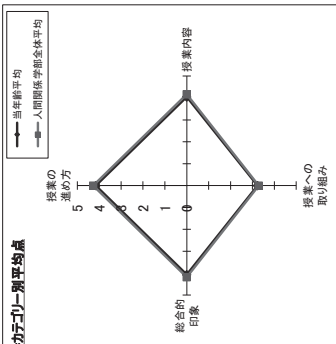
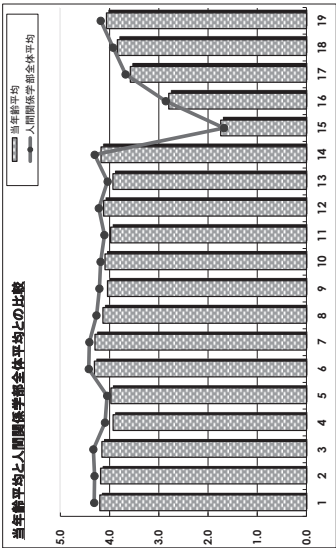
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	1	2	3		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.20	47.6	32.4	14.0	4.2	1.8	996	2	0.95			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.18	46.1	33.4	14.9	3.6	1.9	997	1	0.95			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.16	48.8	27.0	17.4	4.6	2.2	997	1	1.01			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.93	37.1	30.6	23.1	6.7	2.5	995	3	1.05			
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.97	40.0	29.0	22.3	5.9	2.8	997	1	1.05			
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.31	54.4	27.7	14.0	2.4	1.5	993	5	0.91			
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.30	52.6	30.0	13.1	3.1	1.2	993	5	0.90			

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				標準偏差	有効回答	4.05
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	1	2	3	4	5			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.13	45.6	31.1	16.7	4.4	2.2	996	2	0.99						
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.04	42.3	30.2	19.5	5.6	2.4	997	1	1.03						
10	授業の内容は興味深いものだった	4.10	44.5	31.1	17.0	4.3	3.1	996	2	1.03						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.98	39.6	30.9	20.8	5.5	3.2	991	7	1.06						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	45.7	30.5	17.3	3.4	3.1	995	3	1.02						
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.93	39.1	26.6	26.4	4.2	3.6	989	9	1.07						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		標準偏差	
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	1	2	3	4	
			5	4	3	2	1						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	51.7	25.4	13.6	7.3	2.0	986	12	1.05			
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.74	4.4	3.7	9.7	26.2	56.0	994	4	1.07			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.80	16.2	16.0	26.5	14.0	27.2	980	18	1.41			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.58	28.4	26.3	27.4	10.5	7.3	996	2	1.21			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.84	36.0	28.7	24.0	6.3	5.1	990	8	1.13			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	1	2	3	4	
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.07	44.3	30.6	16.4	4.7	4.0	966	32	1.07		

Q1-Q18の当区分平均値	3.87
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



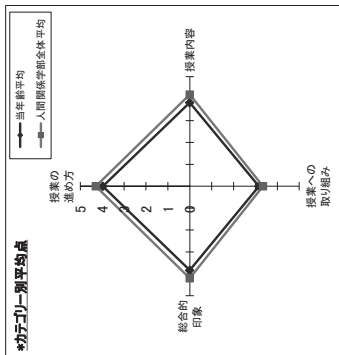
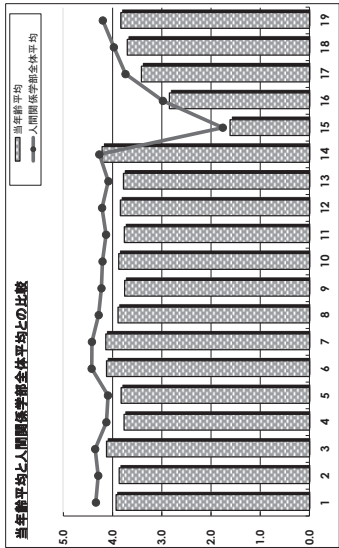
2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	66歳以上
履修者数	1,278
回答者数	888

I. 教員のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	標準偏差
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.93	34.5	36.2	19.5	7.2	2.5	883	5
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	3.87	31.3	37.0	22.7	5.3	3.7	882	6
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.13	46.1	27.8	20.8	3.2	2.1	885	3
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.77	30.1	32.5	25.5	8.1	3.8	884	4
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.83	32.6	31.0	26.3	6.8	3.3	881	7
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.12	45.0	30.8	18.5	3.3	2.5	883	5
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.14	43.2	34.4	17.4	3.1	1.9	881	7

Q1-Q18の当区分平均値	3.70
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



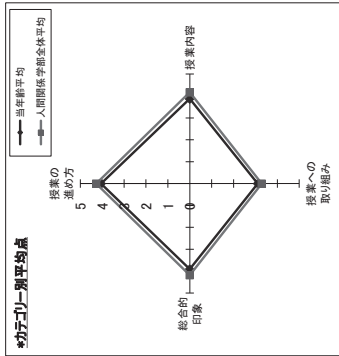
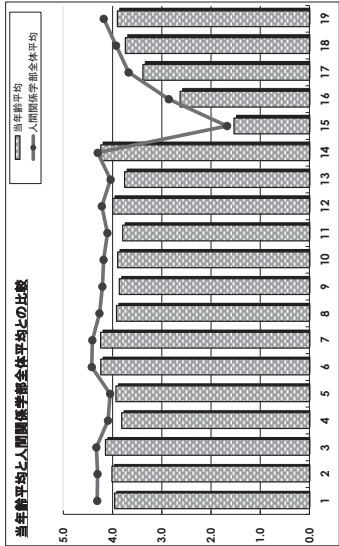
2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	66歳以上
履修者数	1,121
回答者数	892

I. 教員のこの授業の進め方について										
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					当カテゴリー平均点		有効回答数
			5	4	3	2	1	有効回答数		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3.96	35.7	37.8	16.1	7.8	2.6	892	0	1.03
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.01	37.6	35.9	19.1	5.3	2.1	889	3	0.99
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.15	46.0	31.0	16.4	4.9	1.7	890	2	0.98
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.82	29.7	34.9	25.6	6.8	2.9	891	1	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93	36.2	32.2	22.5	6.5	2.5	887	5	1.03
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.24	49.8	29.4	17.2	2.3	1.4	888	4	0.91
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.24	48.9	31.5	15.8	2.8	1.0	886	6	0.89

Q1-Q18の当区分平均値	3.74
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



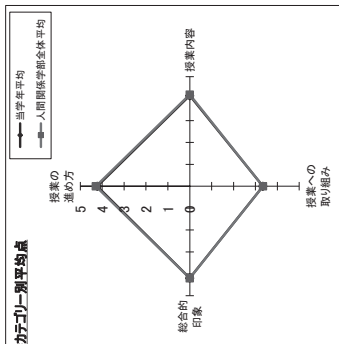
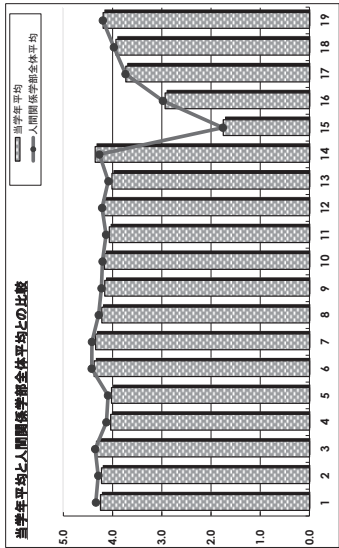
2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	1年	—
履修者数		1,899
回答者数		

I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	総集計結果
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答		
			5	4	3	2	1				
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.25	51.0	30.8	11.7	4.9	1.6	1,892	7	0.95	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.23	47.6	33.2	14.6	3.1	1.4	1,889	10	0.91	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.33	54.0	29.1	13.4	2.6	0.9	1,886	13	0.87	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.04	40.9	31.8	19.6	5.9	1.8	1,889	10	1.00	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	39.7	32.5	20.3	5.5	2.0	1,886	13	1.00	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.38	56.0	28.9	12.7	1.7	0.7	1,887	12	0.83	
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.34	52.4	33.2	11.6	2.0	0.8	1,883	16	0.82	
II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.14
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答		
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.22	47.3	33.7	14.2	3.5	1.3	1,890	9	0.91	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと答えていた	4.16	46.0	32.2	15.3	4.7	1.8	1,891	8	0.97	
10	授業の内容は興味深いものであった	4.17	47.3	30.9	14.7	4.9	2.1	1,886	13	0.99	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.07	42.7	31.4	17.8	6.2	2.0	1,887	12	1.01	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	48.9	30.2	15.2	3.9	1.9	1,886	13	0.96	
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.01	38.6	31.1	24.9	3.6	1.8	1,879	20	0.97	
III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.34
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答		
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	60.1	23.6	9.3	5.3	1.5	1,872	27	0.96	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.75	4.6	3.8	9.3	26.6	55.6	1,875	24	1.08	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.93	19.0	17.4	25.6	14.0	24.0	1,861	38	1.43	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.73	31.5	29.9	24.0	9.5	5.1	1,886	13	1.15	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.93	38.0	31.6	19.9	6.8	3.7	1,877	22	1.09	
IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.19
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答		
			5	4	3	2	1				
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.19	48.4	31.0	14.4	3.8	2.4	1,825	74	0.98	

Q1-Q18の当区分平均値	3.96
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



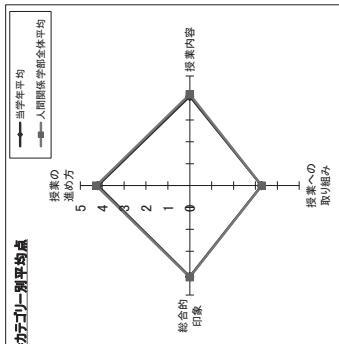
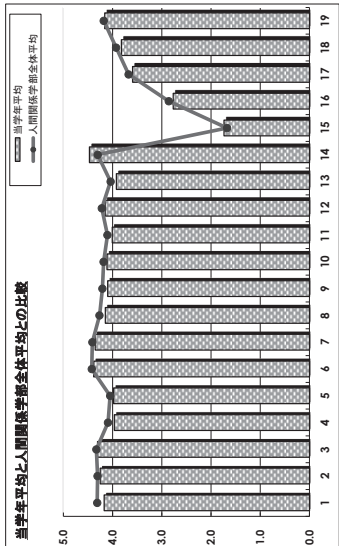
2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	1年	—
履修者数		2,016
回答者数		

I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点	総集計結果
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答		
			5	4	3	2	1				
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.17	48.6	30.1	12.9	6.6	1.8	2,015	1	1.01	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.25	49.1	32.6	14.1	2.9	1.3	2,007	9	0.89	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31	54.7	26.1	15.3	2.9	1.0	2,010	6	0.90	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.97	38.4	31.3	21.0	7.1	2.2	2,010	6	1.04	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	39.7	30.1	21.1	6.6	2.4	2,003	13	1.05	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.38	56.8	27.2	14.0	1.5	0.4	2,004	12	0.81	
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.36	53.2	31.4	13.5	1.5	0.3	2,002	14	0.80	
II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点	4.07
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答		
			5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.15	45.5	31.3	17.2	4.6	1.4	2,005	11	0.96	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと答えていた	4.10	43.4	31.7	18.4	4.8	1.7	2,003	13	0.98	
10	授業の内容は興味深いものであった	4.12	45.4	29.9	17.5	5.4	1.8	2,003	13	1.00	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.01	40.4	30.9	20.4	6.1	2.4	1,999	17	1.03	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.15	47.5	28.6	17.2	5.1	1.6	2,002	14	0.99	
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.92	35.0	30.7	27.8	4.7	1.8	1,995	21	0.99	
III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点	3.28
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答		
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.47	67.1	19.4	8.2	4.1	1.3	1,974	42	0.90	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.74	4.1	4.1	10.0	25.0	56.8	2,000	16	1.06	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.77	15.2	16.0	27.7	12.9	28.2	1,985	21	1.41	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.60	27.5	28.4	26.9	10.6	6.6	1,995	21	1.18	
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.82	33.4	30.7	25.1	6.5	4.3	1,992	24	1.10	
IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点	4.16
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答		
			5	4	3	2	1				
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.16	48.0	29.5	15.5	4.7	2.4	1,941	75	1.01	

Q1-Q18の当区分平均値	3.92
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	2年	履修者数	—
		回答者数	2,327

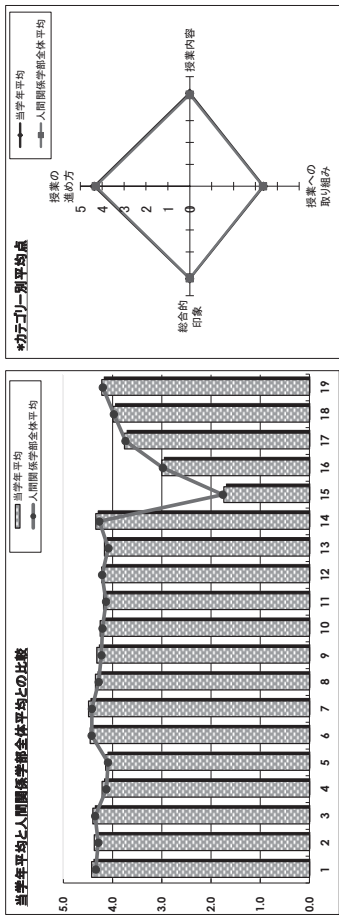
I. 教員のこの授業の進め方について											当該カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答 数	無効 回答 数	4.36
No.	設問文	平均点	回 答 率 (%)					有効 回答 数									
			5	4	3	2	1										
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.43	59.7	27.4	9.5	2.6	0.8	2,325	2	0.83							
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	56.8	28.3	11.4	2.3	1.2	2,326	1	0.86							
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.40	59.6	24.8	12.6	2.1	0.9	2,326	1	0.85							
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.21	50.0	27.9	16.9	4.0	1.3	2,326	1	0.95							
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.14	47.8	26.3	19.8	4.4	1.6	2,319	8	0.99							
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	62.0	24.7	10.7	1.9	0.7	2,325	2	0.81							
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.49	62.7	25.2	10.6	1.2	0.3	2,323	4	0.75							

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				標準 偏差	有効 回答 数	4.25
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数								
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	55.9	27.6	12.8	3.0	0.7	2,325	2	0.87						
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.32	54.5	28.4	12.8	3.4	0.9	2,323	4	0.89						
10	授業の内容は興味深いものであった	4.25	51.2	29.6	13.9	3.7	1.5	2,325	2	0.94						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	47.5	30.9	15.7	4.5	1.4	2,323	4	0.95						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	49.7	29.7	15.2	3.7	1.6	2,316	11	0.94						
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.16	46.8	29.3	19.2	3.2	1.6	2,310	17	0.95						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について												当カテゴリ平均点			標準 偏差	有効 回答 数	無効 回答 数	3.37
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答									
			5	4	3	2	1											
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.34	56.7	26.6	12.1	3.6	1.1	2,320	7	0.90								
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.74	3.6	4.4	11.2	24.1	56.7	2,316	11	1.06								
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.00	19.8	18.5	25.9	13.5	22.4	2,286	41	1.42								
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.76	32.7	28.3	25.8	8.7	4.5	2,309	18	1.13								
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.99	40.5	30.2	20.3	6.1	2.9	2,305	22	1.06								

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.22
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	49.9	29.1	15.8	3.6	1.7	2,223	104	0.95			

Q1-Q18の当区分平均値	4.06
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	2年	履修者数	—
		回答者数	2,598

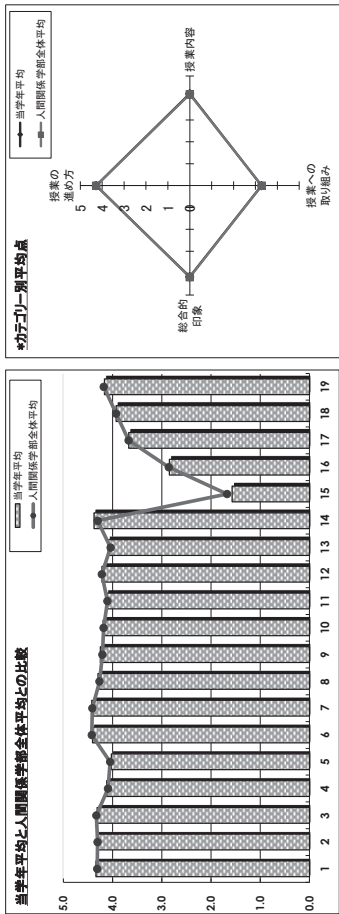
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.28
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答								
			5	4	3	2	1									
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.34	56.0	28.0	11.4	3.2	1.4	2,597	1	0.90						
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	54.3	28.3	13.2	2.9	1.3	2,597	1	0.90						
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	56.5	25.2	13.0	4.0	1.3	2,597	1	0.94						
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	46.6	27.9	18.8	4.9	1.9	2,596	2	1.00						
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.03	44.5	25.3	21.3	5.9	3.0	2,596	2	1.08						
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.41	60.9	23.7	11.8	2.4	1.2	2,594	4	0.87						
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.42	60.0	25.7	11.5	2.0	0.8	2,591	7	0.83						

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				標準 偏差	有効 回答	4.19
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答								
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.30	53.4	28.7	13.5	3.2	1.2	2,596	2	0.91						
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.25	52.7	26.7	14.9	4.4	1.4	2,594	4	0.96						
10	授業の内容は興味深いものであった	4.19	50.9	26.3	16.2	4.2	2.3	2,593	5	1.01						
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.12	46.8	28.3	17.2	5.8	2.0	2,591	7	1.02						
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	50.8	28.0	15.8	3.1	2.4	2,593	5	0.98						
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	45.3	27.7	20.3	4.0	2.6	2,581	17	1.02						

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について											当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答	無効回答					
			5	4	3	2	1							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	58.6	26.5	9.8	4.1	0.9	2,593	5		0.89			
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.57	3.3	1.9	8.2	22.0	64.7	2,592	6		0.96			
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.85	19.4	14.7	23.7	15.4	26.7	2,558	40		1.46			
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.67	32.0	26.0	25.8	9.7	6.5	2,584	14		1.20			
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.93	40.2	27.6	21.4	6.6	4.2	2,575	23		1.12			

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				
			5	4	3	2	1						
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.17	50.9	25.2	16.5	4.1	3.2	2,486	112	1.05			

Q1-Q18の当区分平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	3年	履修者数	—
		回答者数	1,440

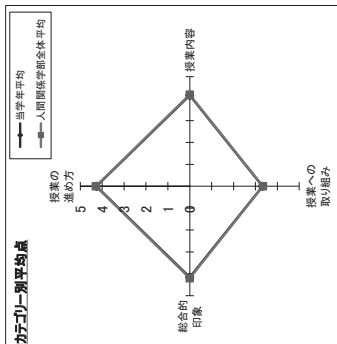
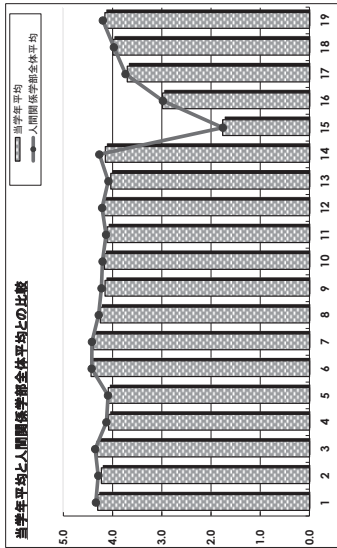
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点				標準 偏差	有効 回答 数	4.26
No.	設問文	平均点	回 答 率 (%)					有効 回答 数								
			5	4	3	2	1									
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.30	53.3	30.3	10.9	4.2	1.3	1,434	6	0.91						
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.23	50.2	30.8	13.1	3.4	2.4	1,431	9	0.97						
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.31	56.8	23.5	15.6	2.7	1.4	1,432	8	0.93						
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.08	43.8	30.9	17.3	5.7	2.3	1,429	11	1.02						
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	45.5	29.6	16.3	5.2	3.3	1,432	8	1.06						
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.44	61.6	24.3	11.3	2.0	0.8	1,434	6	0.83						
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.39	57.9	27.8	11.0	2.2	1.0	1,431	9	0.85						

Ⅱ. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				標準 偏差	有効 回答	無効 回答	4.15
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答									
			5	4	3	2	1										
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.25	50.9	30.4	13.2	3.9	1.7	1,436	4	0.94							
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと答えていた	4.15	48.8	28.3	15.0	5.3	2.6	1,433	7	1.03							
10	授業の内容は興味深いものだった	4.16	48.0	30.2	14.7	4.5	2.6	1,435	5	1.01							
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.11	44.4	33.3	14.7	4.7	2.9	1,434	6	1.02							
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.19	48.4	30.9	14.7	3.8	2.2	1,431	9	0.97							
13	「授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	41.6	30.1	21.3	4.0	2.9	1,424	16	1.02							

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について											当カテゴリ平均点			有効 回答 数	標準 偏差	3.32
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	無効 回答 数							
			5	4	3	2	1									
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.15	45.2	31.5	17.0	5.5	0.8	1,434	6	0.94						
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.77	5.8	4.3	9.5	21.6	58.8	1,426	14	1.15						
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.99	19.6	18.2	27.8	10.1	24.3	1,414	26	1.43						
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	30.9	29.8	24.6	8.1	6.6	1,430	10	1.18						
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.00	38.9	34.4	18.0	4.6	4.1	1,426	14	1.06						

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			4.16
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1						
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.16	46.8	30.6	16.4	4.1	2.1	1,397	43	0.98			

Q1-Q18の当区分平均値	3.95
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	3年	履修者数	—
		回答者数	1,701

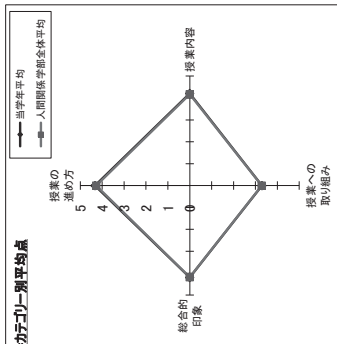
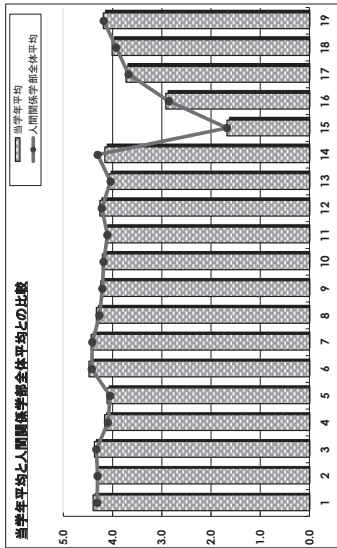
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点			標準 偏差	有効 回答 数	4.33
No.	設問文	平均点	回 答 率 (%)					有効 回答 数							
			5	4	3	2	1								
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.40	57.1	30.8	7.9	3.2	1.1	1,700	1	0.85					
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	53.2	31.2	11.4	3.2	0.9	1,697	4	0.87					
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.37	57.7	26.9	11.5	2.7	1.2	1,697	4	0.88					
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	44.8	34.1	15.3	4.2	1.6	1,698	3	0.94					
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.11	45.5	30.4	16.5	4.9	2.6	1,698	3	1.02					
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.48	62.9	25.3	9.5	1.5	0.8	1,697	4	0.79					
7	授業は教員の十分な準備と意気をもって行われた	4.44	59.1	28.6	9.9	1.8	0.6	1,693	8	0.79					

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点				標準 偏差	有効 回答 数	4.21
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効 回答 数	1	2	3	4				
			5	4	3	2	1									
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.33	52.5	32.5	11.3	2.7	0.9	1,698	3					0.85		
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと答えていた	4.24	49.5	32.2	12.7	4.3	1.4	1,698	3					0.93		
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	48.5	32.2	13.0	4.4	2.0	1,698	3					0.96		
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.14	44.5	34.1	14.2	5.4	1.8	1,696	5					0.97		
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	49.6	33.0	12.5	3.2	1.6	1,698	3					0.91		
13	「授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	42.6	30.2	21.1	3.9	2.2	1,680	21					0.99		

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について											当カテゴリー平均点			標準偏差	有効回答数	無効回答数	3.30
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答									
			5	4	3	2	1										
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.16	48.3	29.6	13.7	6.5	1.9	1,695	6	1.02							
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.68	4.7	4.0	7.2	22.5	61.6	1,696	5	1.08							
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.92	19.6	17.2	25.4	10.9	26.8	1,674	27	1.46							
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.73	31.0	29.9	26.1	7.3	5.8	1,695	6	1.14							
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.01	39.5	33.8	18.4	4.7	3.6	1,686	15	1.04							

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリー平均点			標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答				
			5	4	3	2	1						
19	※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.19	49.0	29.3	15.7	3.5	2.5	1,629	72	0.99			

Q1-Q18の当区分平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	4年	—
履修者数		214
回答者数		214

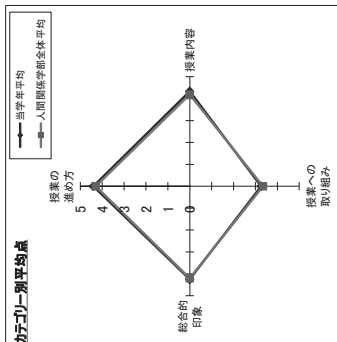
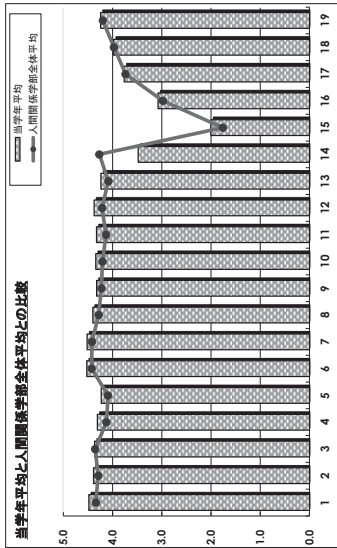
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		総集計
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			総集計
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.48	64.5	23.7	8.5	2.4	0.9	211	3	0.82		0.82
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	59.2	27.0	9.0	2.8	1.9	211	3	0.91		0.91
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.36	58.3	25.6	10.9	4.7	0.5	211	3	0.89		0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.31	54.0	28.9	11.4	5.2	0.5	211	3	0.90		0.90
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.23	49.3	28.9	18.5	2.4	0.9	211	3	0.90		0.90
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.53	64.9	24.6	9.0	0.9	0.5	211	3	0.74		0.74
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.52	65.6	23.1	9.9	0.5	0.9	212	2	0.77		0.77

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		総集計
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			総集計
			5	4	3	2	1					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.40	58.8	27.5	10.4	1.9	1.4	211	3	0.86		0.86
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.33	57.9	23.9	12.4	4.3	1.4	209	5	0.95		0.95
10	授業の内容は興味深いものであった	4.34	57.6	24.3	13.3	4.3	0.5	210	4	0.90		0.90
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.33	56.7	26.2	11.4	4.8	1.0	210	4	0.92		0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	57.6	25.7	13.8	2.4	0.5	210	4	0.85		0.85
13	1「授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.24	51.9	25.2	19.0	2.4	1.4	210	4	0.94		0.94

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		総集計
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			総集計
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.48	25.2	21.9	31.9	17.6	3.3	210	4	1.15		1.15
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.00	7.2	4.8	12.4	32.5	43.1	209	5	1.18		1.18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.08	19.1	20.6	29.9	9.8	20.6	204	10	1.38		1.38
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.77	34.0	24.4	30.1	7.2	4.3	209	5	1.13		1.13
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.98	41.1	26.8	24.4	4.3	3.3	209	5	1.07		1.07

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		総集計
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			総集計
			5	4	3	2	1					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	53.1	23.5	19.9	2.0	1.5	196	18	0.95		0.95

Q1-Q18の当区分平均値	4.06
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	4年	—
履修者数		435
回答者数		435

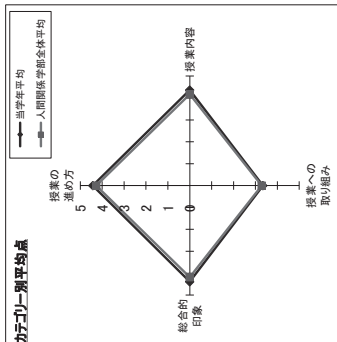
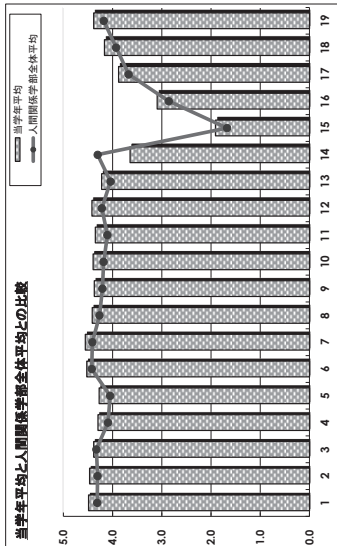
I. 教員のこの授業の進め方について										当カテゴリー平均点		総集計
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			総集計
			5	4	3	2	1					
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.49	64.5	24.2	8.5	1.2	1.6	434	1	0.83		0.83
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.47	62.4	26.5	8.1	1.4	1.6	434	1	0.83		0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.39	59.6	24.9	11.3	2.8	1.4	433	2	0.89		0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.30	54.7	27.3	13.2	2.8	2.1	433	2	0.94		0.94
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.27	54.6	24.8	15.7	3.0	1.9	432	3	0.96		0.96
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.53	67.1	22.5	7.9	0.9	1.6	432	3	0.81		0.81
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.56	68.1	22.5	7.6	0.7	1.2	432	3	0.76		0.76

II. この授業の内容について										当カテゴリー平均点		総集計
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			総集計
			5	4	3	2	1					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.41	62.0	23.4	10.4	2.3	1.9	432	3	0.90		0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.37	60.0	22.9	13.4	1.6	2.1	433	2	0.92		0.92
10	授業の内容は興味深いものであった	4.40	59.6	24.9	12.7	1.2	1.6	433	2	0.87		0.87
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.35	58.2	24.1	13.7	2.3	1.6	431	4	0.92		0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.42	61.0	24.4	11.6	1.6	1.4	431	4	0.86		0.86
13	1「授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.22	52.8	23.6	18.9	2.3	2.3	428	7	0.99		0.99

III. この授業への取り組みとその成果について										当カテゴリー平均点		総集計
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			総集計
			5	4	3	2	1					
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.65	28.1	30.2	24.4	13.0	4.4	431	4	1.15		1.15
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.91	6.5	4.6	12.1	27.1	49.7	431	4	1.18		1.18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.09	24.9	16.9	23.1	12.7	22.4	425	10	1.48		1.48
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.88	40.5	26.4	20.4	6.0	6.7	432	3	1.20		1.20
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.17	48.5	28.7	16.3	4.0	2.6	429	6	1.01		1.01

IV. 総合的な印象										当カテゴリー平均点		総集計
No.	教員文	平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答			総集計
			5	4	3	2	1					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	58.6	25.6	12.7	1.9	1.2	418	17	0.87		0.87

Q1-Q18の当区分平均値	4.12
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部(共通科目)	履修者数	692
		回答者数	507

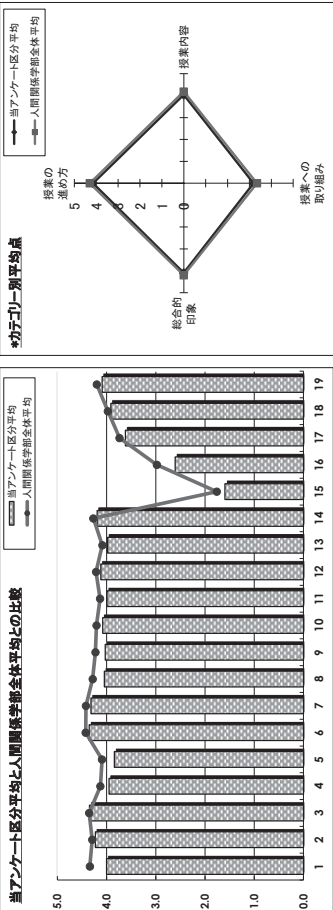
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.00	44.1	27.4	16.1	8.9	3.4	503	4
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.23	47.3	33.8	14.5	3.2	1.2	503	4
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.35	57.3	23.9	15.7	2.8	0.4	503	4
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.95	36.9	32.9	20.6	7.3	2.2	504	3
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.84	36.3	27.9	23.0	9.2	3.6	501	6
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.36	56.9	26.3	13.0	3.0	0.8	501	6
7	授業は教員の十分な準備と意欲をもって行われた	4.32	51.4	32.8	12.6	2.6	0.6	500	7

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.05	41.0	33.3	17.3	6.2	2.2	502	5
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.03	41.6	31.9	17.1	6.4	3.0	502	5
10	授業の内容は興味深いものだった	4.08	44.8	30.0	16.4	6.0	2.8	500	7
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.99	41.2	29.8	18.7	7.8	2.6	503	4
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	47.7	26.3	18.8	4.4	2.8	501	6
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.98	39.6	28.2	25.0	5.2	2.0	500	7

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.19	52.7	24.7	13.7	6.8	2.0	497	10
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.60	3.0	2.4	7.6	25.3	61.7	501	6
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.61	14.5	12.5	25.9	13.3	33.7	495	12
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.62	30.1	26.7	25.1	11.2	7.0	502	5
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.92	38.1	32.3	18.0	6.4	5.2	499	8

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.09	46.1	28.2	18.1	4.1	3.5	486	21

Q1-Q19の当区分平均値	3.86
Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部(共通科目)	履修者数	1,190
		回答者数	975

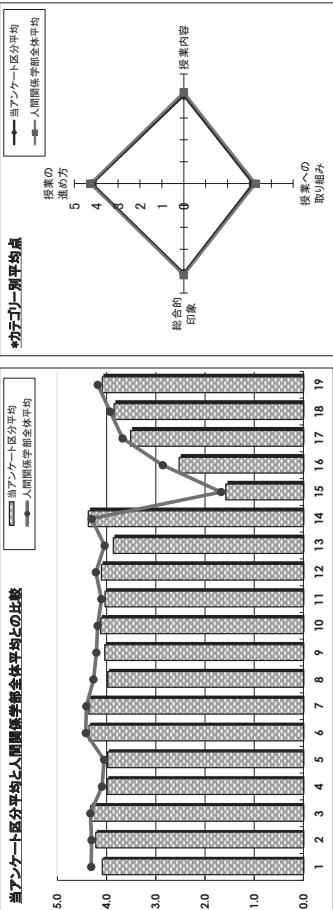
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.09	48.2	27.5	12.3	8.7	3.2	973	2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.22	49.6	30.3	14.5	3.5	2.1	971	4
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.32	57.3	23.3	14.8	3.4	1.1	973	2
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.99	40.7	29.3	20.6	7.2	2.3	974	1
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	43.4	27.1	17.4	8.2	3.8	970	5
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.36	55.6	27.6	14.5	1.4	0.8	970	5
7	授業は教員の十分な準備と意欲をもって行われた	4.36	55.0	29.0	13.7	1.8	0.6	967	8

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.98	40.4	30.1	19.2	7.5	2.8	970	5
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.04	43.2	29.1	19.0	5.7	3.0	968	7
10	授業の内容は興味深いものだった	4.12	48.2	27.3	15.3	6.6	2.6	970	5
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.03	43.6	28.0	19.0	6.3	3.0	967	8
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.11	46.3	27.6	18.6	5.5	2.1	968	7
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.86	35.2	28.9	26.2	6.6	3.1	966	9

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	62.2	21.1	10.4	4.6	1.8	954	21
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.58	3.4	2.9	7.1	21.4	65.1	967	8
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.53	13.1	12.5	24.5	13.8	36.1	961	14
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.51	26.9	27.8	23.9	12.3	9.0	965	10
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.85	36.2	30.7	19.8	8.0	5.2	963	12

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点	
			5	4	3	2	1	有効回答	総集計
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.09	48.1	25.9	16.1	6.7	3.3	932	43

Q1-Q19の当区分平均値	3.86
Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	52人間関係学部 (学科共通科目)	履修者数	1,027
		回答者数	745

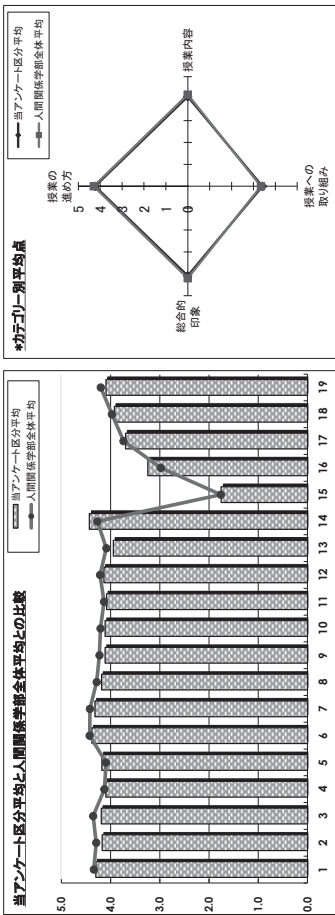
I. 教員のこの授業の進め方について		当カテゴリー-平均点					総集計 標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				
			5	4	3	2	1
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.30	57.0	24.5	12.0	4.6	1.9
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.17	49.3	29.0	14.3	4.5	3.0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.19	51.0	25.5	17.0	4.3	2.2
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	47.4	27.0	17.3	4.9	3.5
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	49.3	27.8	16.8	3.4	2.7
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.38	60.0	23.9	12.2	2.0	1.9
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.32	56.0	27.2	11.8	2.6	2.4

II. この授業の内容について		当カテゴリー-平均点					総集計 標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				
			5	4	3	2	1
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.18	49.0	29.7	14.8	3.6	2.8
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.11	47.0	29.5	14.7	5.1	3.6
10	授業の内容は興味深いものであった	4.11	46.5	29.9	15.7	4.5	3.5
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	46.0	29.7	15.1	5.0	4.2
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.14	46.9	30.2	15.9	3.5	3.4
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	3.94	39.5	28.6	23.3	4.0	4.6

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー-平均点					総集計 標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				
			5	4	3	2	1
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.43	60.6	26.8	8.4	3.5	0.7
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.76	6.4	3.4	9.0	22.0	59.2
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.24	26.2	19.6	25.5	10.0	18.8
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.70	32.4	28.5	22.9	8.7	7.5
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.92	40.1	28.4	20.0	6.5	4.9

IV. 総合的な印象		当カテゴリー-平均点					総集計 標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				
			5	4	3	2	1
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.09	45.9	28.8	17.6	4.4	3.4

Q1-Q18の当区分平均値	3.97
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	52人間関係学部 (学科共通科目)	履修者数	790
		回答者数	671

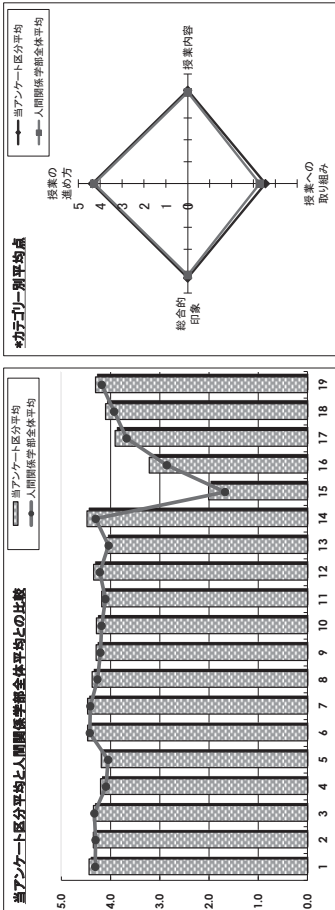
I. 教員のこの授業の進め方について		当カテゴリー-平均点					総集計 標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				
			5	4	3	2	1
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.44	62.3	23.5	10.9	2.2	1.0
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	56.6	27.2	12.1	3.1	1.0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けた場合は、5をマーク	4.35	58.5	23.6	13.7	2.7	1.5
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	50.6	27.3	16.3	3.6	2.2
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.19	51.9	23.4	18.7	3.7	2.2
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.47	64.1	22.2	11.2	1.5	1.0
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	62.0	25.5	10.1	2.0	0.5

II. この授業の内容について		当カテゴリー-平均点					総集計 標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				
			5	4	3	2	1
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.38	57.3	27.1	12.3	2.4	0.9
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.29	55.5	24.6	15.0	3.7	1.2
10	授業の内容は興味深いものであった	4.29	55.1	25.4	14.8	3.0	1.8
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	51.6	25.0	15.4	6.1	1.9
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.35	58.9	23.6	12.9	2.5	2.1
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.09	46.9	22.7	24.8	3.3	2.3

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー-平均点					総集計 標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				
			5	4	3	2	1
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.48	66.7	20.4	8.2	3.6	1.0
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	2.01	7.9	5.5	13.3	26.1	47.2
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.22	26.7	18.7	24.1	10.7	19.9
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.91	40.5	25.6	23.0	6.0	4.8
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.10	48.3	24.4	20.0	4.4	3.0

IV. 総合的な印象		当カテゴリー-平均点					総集計 標準 偏差
No.	設問文	平均点	回答率 (%)				
			5	4	3	2	1
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	57.4	23.5	14.0	2.6	2.5

Q1-Q18の当区分平均値	4.11
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学科社会専攻(専門科目)
履修者数	1,401
回答者数	981

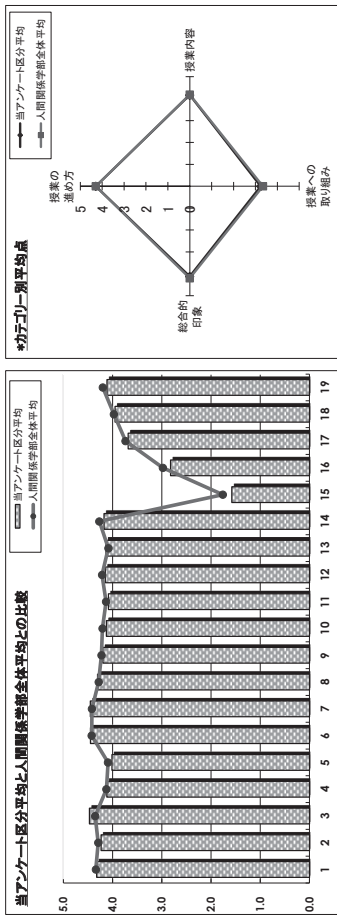
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.33	52.1	33.8	9.1	4.6	0.4	977	4
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.24	49.4	31.6	14.1	3.1	1.9	972	9
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けていた場合は、5をマーク	4.47	63.1	23.2	11.7	1.7	0.3	977	4
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	44.7	30.7	17.3	6.1	1.1	976	5
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.01	42.5	27.3	21.4	6.9	1.9	975	6
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	60.4	26.9	10.2	2.1	0.3	978	3
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	58.4	30.1	9.9	1.3	0.2	976	5

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	52.0	30.9	13.3	3.2	0.6	977	4
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.20	48.3	30.2	15.8	4.4	1.3	977	4
10	授業の内容は興味深いものだった	4.13	45.0	31.4	16.1	6.0	1.4	977	4
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	41.9	33.5	17.5	5.5	1.6	974	7
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.15	44.8	32.4	16.8	4.5	1.4	975	6
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.13	44.1	30.7	20.7	3.7	0.8	971	10

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	46.1	32.2	15.7	4.9	1.0	973	8
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.58	3.3	3.9	7.3	18.6	66.9	974	7
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.82	17.3	17.5	25.4	10.0	29.9	961	20
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.68	29.0	28.7	28.6	9.5	4.3	970	11
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.95	36.3	34.5	19.9	6.5	2.8	970	11

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.12	42.5	34.2	17.5	4.1	1.7	942	39

Q1-Q18の当区分平均値	3.97
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学科社会専攻(専門科目)
履修者数	1,701
回答者数	1,320

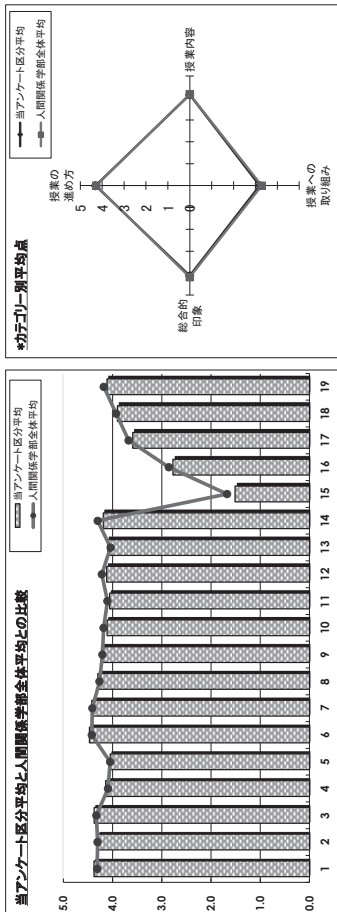
Ⅰ. 教員のこの授業の進め方について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.38	53.7	34.1	9.2	2.4	0.7	1,319	1
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	50.9	32.1	12.9	3.2	0.9	1,319	1
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けていた場合は、5をマーク	4.37	57.5	27.0	11.8	2.6	1.1	1,319	1
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	44.1	33.3	16.9	3.9	1.7	1,317	3
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.05	43.9	29.3	18.0	5.4	3.4	1,317	3
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.47	62.8	24.9	9.9	1.7	0.8	1,319	1
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	56.1	32.3	9.9	1.2	0.5	1,317	3

Ⅱ. この授業の内容について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.30	49.8	33.8	13.4	2.5	0.5	1,320	0
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.22	46.6	34.8	14.2	3.2	1.2	1,319	1
10	授業の内容は興味深いものだった	4.11	43.8	33.1	15.6	5.6	1.9	1,320	0
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.06	39.6	36.2	16.9	5.4	1.9	1,316	4
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	42.6	35.0	16.1	4.4	1.9	1,318	2
13	「授業内容(シラバス)」は科目の選択や学習の参考になった	4.10	41.9	33.6	18.7	4.3	1.5	1,308	12

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.19	47.9	31.7	13.3	5.8	1.4	1,316	4
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.51	2.6	3.2	7.1	17.4	69.8	1,314	6
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.77	16.9	17.7	22.9	11.1	31.5	1,297	23
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.59	25.4	31.1	27.5	9.1	6.8	1,314	6
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.90	34.5	35.3	20.4	5.6	4.2	1,314	6

Ⅳ. 総合的な印象									
No.	質問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	無効回答数
			5	4	3	2	1		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.11	43.8	32.6	17.5	3.6	2.5	1,270	50

Q1-Q18の当区分平均値	3.96
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	S4人間関係学科社会 臨床心理学専攻(専門科目)	履修者数	1,239
		回答者数	951

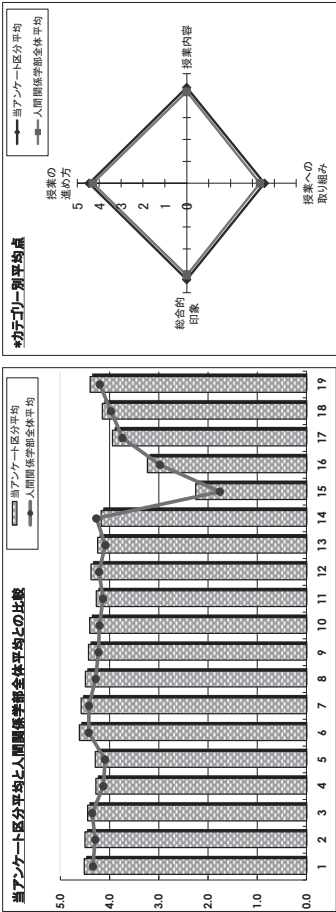
I. 教員のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	信頼性
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.52	65.4	24.5	7.4	2.0	0.7	944	0.78
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.50	63.4	26.5	7.7	1.6	0.8	945	0.78
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けたかった場合は、5をマーク	4.45	62.1	24.0	11.1	2.1	0.6	944	0.82
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.28	52.8	28.8	13.1	4.3	1.0	944	0.92
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.29	52.8	29.1	14.0	2.8	1.4	944	0.90
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.61	71.1	20.1	8.0	0.5	0.2	948	0.67
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.58	68.3	22.6	8.0	0.8	0.2	946	0.69

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	信頼性
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.49	62.4	27.1	8.1	1.8	0.5	948	0.76
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと感じていた	4.43	60.8	25.7	9.9	2.6	1.0	947	0.85
10	授業の内容は興味深いものだった	4.40	59.4	26.5	10.5	2.3	1.3	948	0.86
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.27	51.1	31.4	12.0	4.3	1.2	947	0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	57.1	28.4	10.8	2.5	1.2	946	0.86
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.24	48.9	31.1	16.2	2.9	0.8	944	0.88

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	信頼性
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	49.1	27.3	16.1	6.5	1.0	947	0.99
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	2.25	6.6	7.9	20.0	35.1	30.4	938	1.16
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.23	22.6	21.9	27.3	12.6	15.7	924	1.35
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.94	37.3	32.3	21.0	5.8	3.5	941	1.06
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.15	44.3	33.5	16.7	3.7	1.8	940	0.95

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	信頼性
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	59.1	25.4	12.3	2.2	1.0	912	0.86

Q1-Q18の当区分平均値	4.19
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	S4人間関係学科社会 臨床心理学専攻(専門科目)	履修者数	956
		回答者数	756

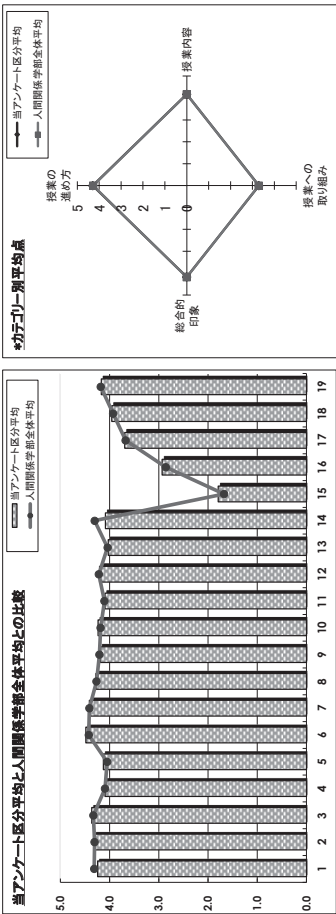
I. 教員のこの授業の進め方について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	信頼性
			5	4	3	2	1		
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.24	53.0	29.4	8.9	6.5	2.2	756	1.01
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	54.3	29.9	9.9	4.1	1.7	755	0.93
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けたかった場合は、5をマーク	4.36	59.4	24.5	10.1	4.8	1.2	754	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	45.4	30.7	14.3	7.2	2.4	753	1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.13	45.1	32.1	15.2	5.6	2.0	756	0.99
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.48	66.0	22.1	7.8	2.5	1.6	755	1.087
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	60.6	25.1	10.3	2.7	1.3	754	0.88

II. この授業の内容について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	信頼性
			5	4	3	2	1		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	53.5	29.8	9.9	4.6	2.1	755	1.097
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと感じていた	4.19	52.1	27.0	11.4	6.9	2.7	753	1.06
10	授業の内容は興味深いものだった	4.23	53.1	28.0	11.0	4.8	3.1	753	1.03
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.10	46.2	31.0	12.2	7.4	3.2	754	2.108
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	48.8	31.2	13.8	4.0	2.2	756	0.97
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.03	41.8	29.9	20.4	5.1	2.8	749	1.04

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	信頼性
			5	4	3	2	1		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.08	45.9	28.5	15.6	8.1	1.9	754	2.105
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.80	4.2	3.7	10.3	30.9	50.9	755	1.05
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.93	18.8	17.2	25.3	16.0	22.7	750	6.141
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.69	31.4	29.5	22.9	9.3	6.9	755	1.120
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	3.96	39.2	32.9	16.6	7.2	4.1	748	8.110

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答	信頼性
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.17	51.7	26.6	12.8	4.6	4.3	725	31.109

Q1-Q18の当区分平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	55人間福祉学科人間福祉学専攻（専門科目）	履修者数	1,093
		回答者数	778

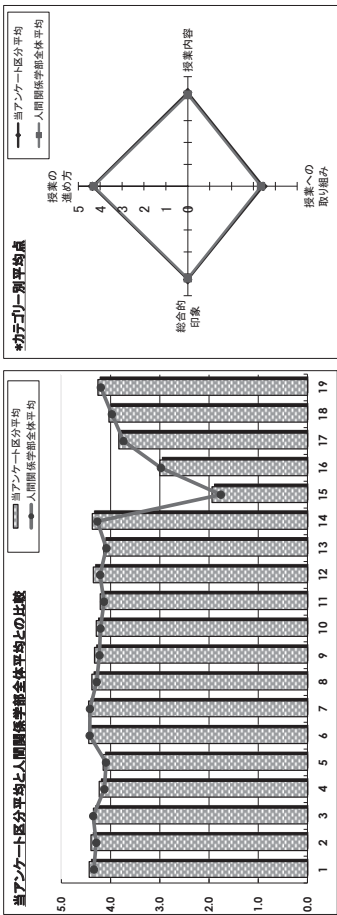
I. 教員のこの授業の進め方について		回答率 (%)					当カテゴリー-平均点			総集計
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1	有効回答数	有効回答率	
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.44	60.7	26.9	9.0	1.9	1.4	777	1	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	58.9	27.2	10.1	2.6	1.3	776	2	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.35	56.8	26.8	12.8	1.8	1.8	775	3	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.23	51.0	28.2	15.0	4.8	1.0	773	5	
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	46.4	29.7	18.3	3.6	1.9	774	4	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.44	60.9	25.7	11.0	1.9	0.5	774	4	
7	授業は教員の十分な準備と意欲をもって行われた	4.45	60.9	26.0	10.9	1.6	0.8	774	4	

Ⅱ. この授業の内容について										4.28
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	総集計	
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.38	57.6	27.1	12.0	2.4	0.9	776	2	0.86
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.33	57.3	24.6	13.1	3.8	1.3	772	6	0.93
10	授業の内容は興味深いものだった	4.29	54.8	26.4	13.2	4.3	1.3	772	6	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.21	49.7	29.1	15.3	4.4	1.6	773	5	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.35	55.7	28.7	11.8	2.7	1.2	774	4	0.88
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.14	47.9	25.7	21.2	3.3	2.0	769	9	0.99
Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について										3.44
当カテゴリー-平均点										

No.		設問文	平均点	回答率 (%)					有効回答数	総集計	
				5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか		4.37	59.8	24.0	11.1	4.2	1.0	748	10	0.91
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか		1.94	6.8	4.7	12.3	28.4	47.8	770	8	1.18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した		3.00	20.7	17.2	25.5	14.5	22.1	768	10	1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った		3.83	37.0	25.6	25.8	7.3	4.4	771	7	1.14
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった		4.03	44.9	25.7	20.5	5.6	3.3	766	12	1.08

IV. 総合的な印象		当カテゴリー-平均点						4.26		
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答数		
			5	4	3	2	1			
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.26	52.2	27.6	15.4	3.1	1.6	735	43	0.94

Q1-Q18の当区分平均値	4.06
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	55人間福祉学科人間福祉学専攻（専門科目）	履修者数	1,289
		回答者数	1,021

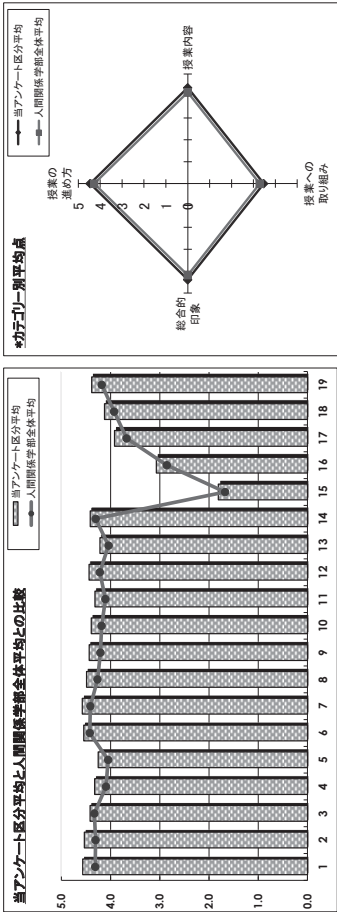
I. 教員のこの授業の進め方について		回答率 (%)					当カテゴリー平均点		有効回答数	4.46
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1			
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.57	46.8	24.8	7.4	0.6	0.5	1,020	1	0.70
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.53	45.3	24.6	8.8	0.7	0.6	1,019	2	0.73
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.42	59.1	27.0	11.3	1.8	0.9	1,019	2	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.32	56.3	25.7	13.5	3.1	1.4	1,020	1	0.92
5	疑問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.25	52.7	25.5	17.6	2.6	1.6	1,019	2	0.94
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.54	66.1	23.6	9.2	0.7	0.4	1,016	5	0.72
7	授業は教員の十分な準備と意欲をもって行われた	4.58	68.2	22.7	8.1	0.8	0.3	1,015	6	0.70

II. この授業の内容について		回答率 (%)					当カテゴリー平均点		有効回答数	総集計
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.49	62.5	25.9	9.9	1.3	0.4	1,018	3	0.76
9	授業の構成は体系的で把握しやすいと思った	4.44	60.9	25.0	11.4	2.0	0.7	1,019	2	0.82
10	授業の内容は興味深いものだった	4.39	58.6	26.3	12.3	1.5	1.4	1,019	2	0.86
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.32	55.8	26.2	13.2	3.6	1.2	1,014	7	0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	61.9	24.1	11.3	1.3	1.4	1,017	4	0.85
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.22	50.4	25.5	21.0	1.5	1.6	1,013	8	0.93

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について		回答率 (%)					当カテゴリー平均点		有効回答数	集計値
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.41	64.0	21.1	9.1	4.2	1.7	1,016	5	0.94
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.81	5.5	3.2	11.3	27.0	53.0	1,015	6	1.13
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.07	23.3	15.2	28.0	12.5	21.0	1,003	18	1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.92	40.9	24.9	23.9	6.2	4.2	1,018	3	1.13
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.12	48.4	25.1	20.0	3.2	3.3	1,014	7	1.04

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	平均点	回答率(%)					有効回答数	
			5	4	3	2	1		
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	59.4	24.4	12.9	1.7	1.5	979	42
									0.88

Q1-Q18の当区分平均値	4.17
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	56人間福祉学科介護福祉学専攻（専門科目）	履修者数	203
		回答者数	192

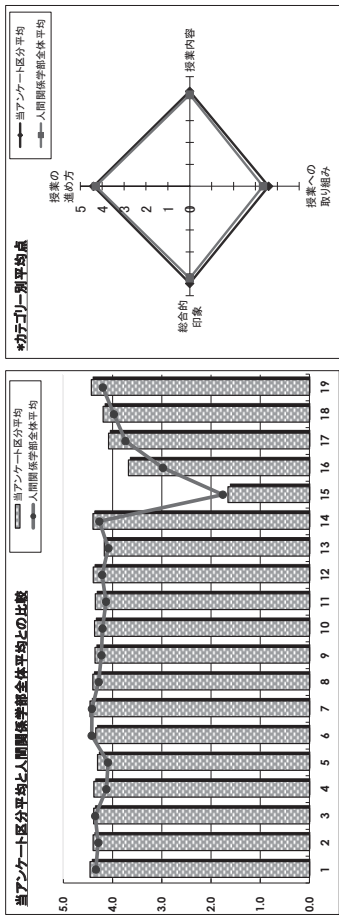
I. 教員のこの授業の進め方について		当カテゴリー-平均点					総評 満足度
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.46	55.2	38.5	3.6	2.1	0.5
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	53.1	36.5	7.8	2.1	0.5
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けていた場合は、5をマーク	4.39	56.3	29.7	10.9	2.6	0.5
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.38	53.1	36.5	6.3	3.6	0.5
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.31	51.0	33.9	10.9	3.1	1.0
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.34	52.6	34.9	7.3	4.7	0.5
7	授業は教員の十分な準備と意欲をもって行われた	4.46	57.8	33.9	5.2	2.6	0.5

II. この授業の内容について		当カテゴリー-平均点					総評 満足度
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.40	52.9	38.2	5.8	2.6	0.5
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほめていた	4.36	51.3	37.7	6.8	3.7	0.5
10	授業の内容は興味深いものだった	4.37	54.5	34.6	5.8	3.7	1.6
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.35	52.9	35.6	5.8	5.2	0.5
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.39	55.5	33.5	6.3	4.2	0.5
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.17	44.0	34.6	16.8	3.7	1.0

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー-平均点					総評 満足度
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.40	64.9	21.5	4.7	6.3	2.6
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.66	2.6	4.2	10.0	22.6	60.5
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.68	34.4	29.1	17.5	7.9	11.1
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.08	44.8	33.9	10.9	5.7	4.7
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.19	47.9	34.9	8.9	5.2	3.1

IV. 総合的な印象		当カテゴリー-平均点					総評 満足度
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.43	59.5	30.0	5.8	3.7	1.1

Q1-Q18の当区分平均値	4.17
Q1-Q18の学部全体平均値	4.01
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	56人間福祉学科介護福祉学専攻（専門科目）	履修者数	339
		回答者数	301

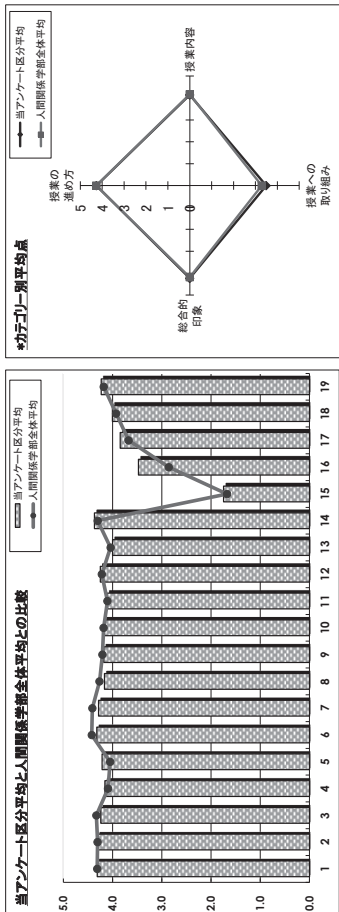
I. 教員のこの授業の進め方について		当カテゴリー-平均点					総評 満足度
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.31	52.2	30.6	14.3	2.3	0.7
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	50.2	32.9	14.0	3.0	0.0
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けていた場合は、5をマーク	4.24	52.7	24.7	17.3	4.7	0.7
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	48.5	26.6	16.9	8.0	0.0
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.21	50.8	24.6	19.9	4.3	0.3
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.32	55.8	28.2	12.6	5.0	0.3
7	授業は教員の十分な準備と意欲をもって行われた	4.29	52.3	28.7	15.0	3.3	0.7

II. この授業の内容について		当カテゴリー-平均点					総評 満足度
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.17	47.2	29.1	17.1	6.7	0.0
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとほめていた	4.18	49.2	26.8	17.1	7.0	0.0
10	授業の内容は興味深いものだった	4.17	49.8	23.7	20.4	5.7	0.3
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.11	47.5	24.7	19.4	8.0	0.3
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	51.7	27.7	15.7	4.0	1.0
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.00	43.1	25.8	22.1	6.0	3.0

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー-平均点					総評 満足度
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	64.2	18.4	9.7	5.4	2.3
15	この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか	1.75	4.0	3.0	11.7	26.3	55.0
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.47	31.1	22.5	20.5	14.7	11.3
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.85	37.7	24.9	23.9	11.1	2.4
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.00	41.9	27.7	21.3	7.1	2.0

IV. 総合的な印象		当カテゴリー-平均点					総評 満足度
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1
19	*総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	54.5	21.7	17.5	4.9	1.4

Q1-Q18の当区分平均値	4.02
Q1-Q18の学部全体平均値	3.98
Q1-Q18の学部全体平均値-2σ	3.29



2017年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体	
履修者数	8,352
回答者数	5,955

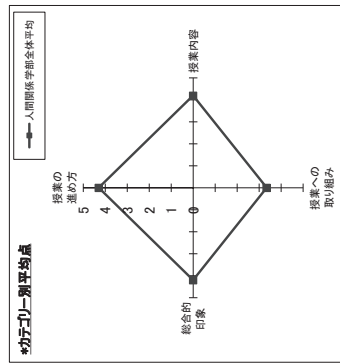
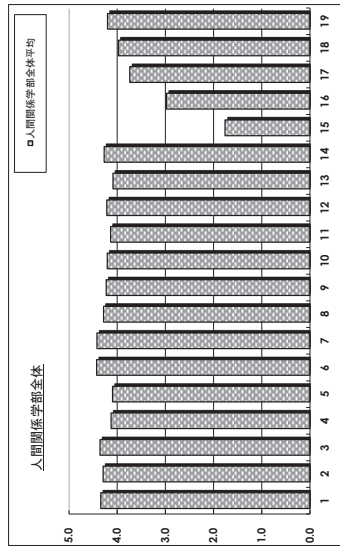
I. 教員のこの授業の進め方について												集計 偏差
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					当カテゴリ平均点			集計 偏差	
			5	4	3	2	1	有効 回答				
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.34	55.5	29.1	10.5	3.7	1.2	5,935	20	0.89		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	52.3	30.5	12.8	2.9	1.6	5,927	28	0.91		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、Sをマーク	4.35	57.0	26.0	13.6	2.5	1.0	5,929	26	0.88		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.13	45.5	30.0	17.7	5.1	1.7	5,928	27	0.99		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	44.6	29.2	19.1	5.0	2.1	5,920	35	1.01		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	59.8	26.2	11.4	1.9	0.7	5,930	25	0.82		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	58.2	28.4	11.0	1.7	0.7	5,920	35	0.80		

Ⅱ. この授業の内容について											4.19
No.	教員文	平均点	回答率 (%)					当りカテゴリ平均点		集計 偏差	
			5	4	3	2	1	有効 回答数			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	51.8	30.3	13.4	3.4	1.2	5,934	21	0.90	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.23	50.3	29.6	14.1	4.4	1.6	5,929	26	0.96	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.20	49.3	30.0	14.4	4.3	2.0	5,928	27	0.97	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.13	45.3	31.6	16.0	5.1	1.9	5,926	29	0.99	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.21	49.4	30.0	15.1	3.7	1.8	5,914	41	0.96	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	43.1	29.9	21.6	3.5	2.0	5,894	61	0.98	

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について												3.34
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					当カテゴリ平均点			無効 回答 数	
			5	4	3	2	1	割合				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.8	26.9	13.0	5.1	1.2	5,905	50	0.95		
15	この授業のために毎回予習・復習をなぜどの程度自習しましたか	1.76	4.6	4.2	10.3	24.5	56.4	5,895	40	1.09		
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.98	19.5	18.1	26.4	12.7	23.3	5,835	120	1.42		
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.74	31.8	29.2	25.0	8.7	5.2	5,905	50	1.15		
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.97	39.3	31.7	19.7	5.8	3.5	5,887	48	1.07		

Ⅳ. 総合的な印象										当カテゴリ平均点		4.20	
No.		問題文	回答率 (%)					有効回答数		集計偏差			
			平均点	5	4	3	2	1	有効回答数	集計偏差			
19		※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	48.7	29.9	15.6	3.7	2.0	5,709	246	0.97		

Q1-Q19の学部全体平均値	4.01
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.23



2017年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体	
履修者数	8,672
回答者数	6,838

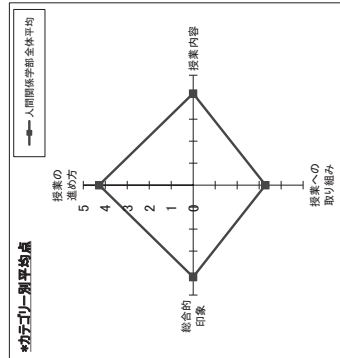
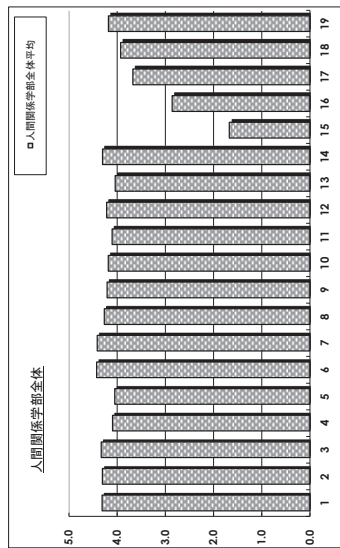
I. 教員のこの授業の進め方について												有効回答数	集計偏差	4.27
No.	設問文	平均点	回答率 (%)					当カテゴリー平均点						
			5	4	3	2	1	有効回答数						
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.31	54.6	29.0	10.8	4.1	1.5	6,831	7	0.92				
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	52.9	30.1	12.8	2.9	1.3	6,822	16	0.89				
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.33	56.4	25.8	13.2	3.3	1.2	6,824	14	0.91				
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	44.1	30.4	18.2	5.3	2.0	6,825	13	1.00				
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.05	44.0	27.9	19.7	5.7	2.7	6,816	22	1.05				
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	60.5	25.0	11.8	1.8	0.9	6,814	24	0.84				
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	58.1	27.9	11.6	1.8	0.7	6,805	33	0.81				

Ⅱ. この授業の内容について			回答率 (%)					当カテゴリー平均点		有効回答数	集計偏差
No.	設問文	平均点	5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.26	51.3	30.0	14.0	3.5	1.3	6,815	23	0.91	
9	授業の構成は体系的で把握しやすいとされていた	4.21	49.5	29.2	15.4	4.4	1.6	6,813	25	0.96	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.18	49.1	28.7	15.6	4.5	2.1	6,813	25	0.99	
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.10	45.0	30.1	17.2	5.6	2.1	6,802	36	1.01	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	50.1	29.1	15.2	3.7	2.0	6,812	26	0.96	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	42.0	28.8	22.8	4.1	2.3	6,770	68	1.01	

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について											3.29
No.	設問文	平均点	回答率(%)					当カテゴリー平均点		有効回答数	集計偏差
			5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.30	56.5	25.5	11.2	5.2	1.5	6,778	60	0.96	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.67	4.1	3.3	8.7	23.3	60.5	6,803	35	1.04	
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.86	18.6	15.8	25.3	13.3	27.0	6,727	111	1.45	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.67	30.9	27.7	25.8	9.1	6.5	6,791	47	1.19	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.93	38.4	30.1	21.3	6.0	4.2	6,766	72	1.10	

IV. 総合的な印象		設問文	回答率 (%)					当カテゴリ平均点		有効回答数	集計偏差	4.18
No.			平均点	回答率 (%)				有効回答				
				5	4	3	2		1			
19		※総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	49.9	27.6	15.7	4.1	2.7	6,555	283	1.02	

Q1-Q19の学部全体平均値	3.98
Q1-Q19の学部全体平均値-2σ	3.29



Ⅱ－２ 授業アンケートへの対応

前期・後期と実施した学生に対する授業アンケートに教員自身がどう対応するかを教員に尋ね回答をえた。その結果をここに紹介する。

Ⅱ－２－１ 前期授業アンケートへの教員の主な回答

（１）授業の改善点

① 私語への対応

授業の改善点について書かれたなかで、多くの教員が触れていたものの一つが私語への対応であった。教員が私語に対応することについて、学生からの要望も強いようであるが、他方で「注意しすぎ」と感じる学生もいることが教員の対応の難しさを示しているようだ。なかには私語対策として座席指定を検討する者、すでに実施している者もみられた。

「受講生が 200 名近かったため、どうしても私語が止まなかった。……一部の学生から何度も「私語に厳重に対処してほしい」との要望もあったため、その都度厳しく注意していた。そのことについてアンケートでは「注意をしてくれてよかった」との意見があった一方で、逆にその注意に対し「うるさい」という意見がいくつかあった。……今期から初回授業において「私語は厳重に注意する」と前もって学生に伝えることにした」（社会非常勤）。

「私語等への授業を妨げる行為への適切な措置」について、対応が不十分であったと思います。全く対応しなかったわけではないのですが、次回からさらに毅然とした態度で臨もうと思います」（福祉非常勤）。

「授業中の私語が多かったと感ずる。気になるときには注意を行ったつもりではあるが、今後も引き続きこまめに注意を与えていくしかない」（福祉専任）。

「100 名のクラスの私語対策は（これまで避けてきた）席順指定方式を一度は試してみることも考える必要がある」（社会専任）。

「座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる……という点での評価が高い」（社会専任）。

② 予習・復習（自習）を促す工夫

予習・復習を行っている時間が少ないという結果になったと書いている教員が多く、学生に予習・復習を促すような工夫についてさまざまな対応策が出されていた。

「予習復習等の自習の程度についてがアンケート結果としては低く、改善方法としては、次の授業内容の予告と復習が必要なポイントを授業内で明確にアナウンスするなどの工夫をしていきたいと思います」（福祉非常勤）。

「毎回、予習用の資料を配布しましたが、あまり活用されなかったようです。授業への学生

の参加を促すことと併せて、プリントの活用を工夫したいと思います」(福祉非常勤)。

「予習・復習ノートづくり……の機会を増やすことを検討する」(福祉専任)。

他方、アンケートの結果には表れていないが、教員が課した予習・復習の課題を学生が行っていることや、学生が自主的に行った班での準備作業などは確かにあったとし、以下のような意見を書いた教員もいた。

「意識的には予習・復習という自覚がないのかもしれませんが……、予習と復習という位置づけをきちんと明示した教示をし、自覚してもらえるようにしたいと思います」(社会臨床心理専任)

「自習に関することに対して改善をする必要があると考えている。……課題等も出したが「自習」つまり、まなびとして捉えていない部分もあったのではないかと考える」(福祉非常勤)。

なかには自習時間を増やすことに成功した例も報告された。

「昨年度の結果と比較して、自習をしたという割合が増えていたことが良かった」(社会臨床心理専任)。

③ 学生の積極的参加を促す工夫

学生の質問や意見を引き出し、積極的な参加を促すさらなる工夫についてもコメントが寄せられた。

「グループでのディスカッション時間を増やし、積極的に参加せざるを得ない状況をつくっていききたいと思います」(福祉非常勤)。

「授業中に行っているほぼ毎回のリアクションペーパーの提出も、授業をしっかりと聞き、自分の意見をまとめるのに大いに役立っていると思われます。今後も続けていこうと考えます」(社会非常勤)。

「今後は、課題の設定なども含めて、より活発な意見交換ができるよう改善したいと考える」(心理非常勤)。

(2) 施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望

① 情報機器への要望

施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望については、まず、PCや映像など、情報機器にかんする要望がいくつか寄せられた。

「全員がPCを使いながら授業ができる環境が整うとさらに良い」(社会臨床心理専任)。

「ゼミ教室で学生ひとりひとりがパソコンまたはタブレットを使える環境が整うとよい」(社

会臨床心理専任)。

「貸出ノート PC の台数増加と、そのためのネットワーク環境の拡充を望みます」(社会臨床心理非常勤)。

「200 人規模の授業で 7127 教室を使う場合、後方の席での着席の場合、若干映像が小さく、字幕等が見づらいケースがある」(社会専任)。

② 設備の劣化

設備の劣化についても改善の要望があった(注：二番目の要望については、定期改修によってすでに改善がなされたことが確認された)。

「6113 教室の黒板が、非常に使いがてが悪かった。……この教室の黒板は、早く変えたほうが良いと思う」(福祉専任)。

「手動用ベッドのキャスターが劣化しており、実技でベッドを使用する際にストッパーをかけてもベッドが動いてしまう」(福祉非常勤)。

③ 教室規模

教室の規模にかんする要望も見られた。

「教室の大きさと受講生数があっていない。広い教室で少ない人数の授業を行うと教育効果が薄くなるので、大きな教室の使用はやめてほしい」(社会専任)。

④ 教室の椅子や机に対する要望

演習やアクティブ・ラーニングには固定の椅子や机はそぐわないという意見が出された。他方、可動式に教室に変えてもらえたためよい効果が得られたとの指摘もあった。

「座席が固定されている教室では学生の動きが制約され、十分な演習効果が得られないという状況があると思われます」(福祉非常勤)。

「可能であれば、アクティブ・ラーニング等も考えているため、……移動可能な机やいすのある教室が望ましい」(福祉非常勤)。

「ディスカッションを行うために可動式の机・椅子の教室を用意してもらえたので、昨年度までよりもアクティブな授業を展開できた」(社会非常勤)。

⑤ 学生数

履修学生の数にかんする要望もあった。

「1 回あたりの学生数も、……もう少し少ない 30 名程度が効果的と考えます」(福祉非常勤)。

「受講生の数が多いと私語の注意が行き届かず、また個々の学生の知識に合わせた柔軟な指導ができていないのが現状。できれば 100 名以下のクラスが望ましい」(福祉非常勤)。

（３）学生に望むもの

① 積極的に自習を

学生への要望では、積極的な自習を求める意見が多く見られた。

「積極的に自分なりの予習・復習スタイルを構築し、取り組むことで、さらに力が付くと思います」（社会臨床心理専任）。

「予習用のプリントは読んできてほしいと思います」（福祉非常勤）。

「教科書を読んで予習してほしい」（社会専任）。

「予習・復習が基本と考えてほしい」（福祉非常勤）。

② 積極的に質問を

積極的に質問をするようにとの要望もあった。

「講義内容について不明瞭な点があれば、その場で解決して欲しいと思います。……お手持ちの問題を教員にぶつけてください」（社会非常勤）。

「わからないところは、できるだけそのままにせず、質問をして欲しい」（社会臨床心理専任）。

③ 私語を慎んで

私語を学生自ら慎むようにとの要望もあった。

「私語は慎むよう伝えていますが、……自発的に守ってほしいです」（社会臨床心理専任）。

「とにかく私語は慎んでもらいたい」（福祉専任）。

Ⅱ—２—２ 後期授業アンケートへの教員の主な回答

（１）授業の改善点

① 自習（予習・復習）を促す工夫

自習を促す工夫については、前期と同様さまざまな試みについて言及されていた。また、出された課題を課外で行うことが自習と意識されていないようであること、自習と意識づける必要性もあるのではないかということも述べられていた。

「今回、本を紹介する「ビブリオバトル」という課題を出したところ、No.15 の回答が 1.5 ポイント近く上昇したので、このような課題を出すと予習復習の評価がこう変わることが分かった。次年度は課題の出し方をさらに工夫したい」（社会専任）。

「ほぼ毎週、manaba でミニ課題を提出してもらっているのだが、学生の実感としては、「自習」や「積極的な参加」には結びついていないようである。今後は、授業時間内でワークシ

ョップなどを行い、「積極的な参加」を感じてもらえるようにしたい」(社会非常勤)。

「自宅での学習課題を折々に提示すること、特に参考文献の紹介などをおこなってみたものの、提示した後の学生からの反応を確認できなかったこともあり、授業へ反映することができていなかった。予習の確認をする時間も確保できるように授業内容を再考すべきであった」(社会臨床心理非常勤)。

「予習復習についての評価が低いのですが、毎回事前学習課題と事後課題を出しているのに、予習復習はできているように思います。課題と予習復習は別物と考えている可能性があるもので、意識付けをする必要があるようです」(社会臨床心理非常勤)。

② 積極的参加を促す工夫

学生の積極的参加を促す工夫についても書かれていた。アクティブ・ラーニングの実施について検討する者もいた。

「今後は、講義の導入部分もしくは初回講義時に講義内容に関連する簡単なアンケートを実施し、その結果を学生たちに提示しながら講義を進めていくことにする。そのことで講義に参加してもらい、講義時間の15分ほどを学生とのディスカッションの時間としていきたい。また、……グループディスカッションを講義内容に組み込んでいくこととしたい」(社会非常勤)。

「今年度は授業中に学生に向けた「このことについて皆さんはどう思いますか？」という問いかけをする機会を増やしてみた。そして、その成果といえるかもしれないが、29年度後期はこの項目について例年よりやや高い評価を得たように思われる。したがって、来年度以降もこのような方針で授業に臨みたいと思う」(福祉常勤)。

「授業中に、学生同士で授業内容を確認しあう時間を設けているので、活発な意見交換を促したい」(社会臨床心理専任)。

「一部にでもアクティブ・ラーニング法などを取り入れて、受講生が自身の頭と手を動かす時間を作れるように授業内容を改める必要があるかと考えております」(全学共通科目非常勤)。

「学部FD研修会で学んだアクティブ・ラーニングの手法を取り入れられるように検討していきたいと考えております」(福祉専任)。

③ 私語への対応

前期と同様、私語にいかに対応するかについても触れられていた。

「授業の妨げとなる私語について、適切な対応をとっていく」(福祉非常勤)。

「私語等への対応が求められていることを自覚できた。一回目の授業でマナー等について注意を喚起する他、妨害行為があった場合は、その都度指摘するようにする」(福祉非常勤)。

④ 板書の量

板書の分量を学生の能力に応じて調整する工夫についても言及されていた。

「毎年、板書の量が多いとのご指摘をいただいております。……次年度は更に情報量を抑えて講義を行うよう工夫してまいります」（福祉非常勤）。

（２）施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望

① 教室について

受講学生の人数に対して教室の大きさが適切であることを要望する意見があった。また、稼働椅子と机のある教室を希望する意見も見られた。

「少人数のセミナー系の授業を大教室で行うのはやりにくいので、小さい教室をお願いできればと思います」（社会専任）。

「固定席での授業は学生の移動が制限されるため、できれば移動ができる教室をお願いします」（福祉非常勤）。

「100 名弱でもアクティブ・ラーニングが実施できるように、できる限り固定式ではなく、可動式の机と椅子のある部屋で授業を行いたい」（社会臨床心理専任）。

② 情報処理機器関連の要望

情報処理機器関連の要望がいくつか見られた。そのなかには、manaba についての新しい機能の要望もあった。

「今年度は 6 号館で情報処理室の合同授業が出来た点はよかったですと思いました。7 号館でも実施できるようになるとありがたいと思います」（社会臨床心理非常勤）。

「引き続き一人一台の PC 環境の整った教室で授業ができることを望みます。……学生が気軽に PC を持ち込んで授業が受けられる環境が整うとよいかと思います」（社会臨床心理専任）。

「他大学の manaba ではバージョンアップされて小テストにタイマー機能が備わっています。本機能があると公正な成績評価が可能になるかと思われます」（社会臨床心理非常勤）。

「履修登録後にコース分けを行う授業のため、manaba の活用が難しい。開講後のコース別に web 提出やインタラクションが可能なしくみがほしい」（社会臨床心理専任）。

③ 受講者数の調整

より少ない人数の受講者を希望する声があった。

「受講者に授業内でグループワークをさせるという本講義の特質上、受講者数につきましてはなるべく少ないほうがありがたいです」（全学共通科目非常勤）。

(3) 学生に望むもの

① 積極的参加を

学生への要望では、授業への積極的参加を望む意見が見られた。

「授業に積極的に参加すること、休まないことが大切な授業です。また、わからないことをわからないままにせずに質問してほしいです」(社会臨床心理非常勤)

「社会人予備軍としての自覚を促す再教育が望まれます。学生には能動的に講義に臨む姿勢を求めたいところです」(福祉非常勤)。

「できれば積極的にコミュニケーションをとりながら授業に参加してもらいたいと思います」(福祉非常勤)。

「授業は参加するもの」です。私も工夫をするので要望も聞かせてください」(福祉専任)。

② manaba を見ること

もっと manaba を参照するよう学生に求める声があった。

「講義資料を manaba で掲示しているのですが、半分以上の方にしか参照されていないことが少々残念に思います」(全学共通科目非常勤)。

③ 質問をすること

質問についても積極的に行うよう要望が書かれていた。

「疑問点については、積極的に質問してほしい」(福祉専任)。

「疑問点、不明点に対し積極的に授業時間内に発言してほしい」(福祉非常勤)。

「授業中であっても、わからない事は、積極的に質問してもらいたい」(社会臨床心理専任)。

④ 予習をすること

予習を求める意見があった。

「教科書を読んで予習してほしい」(社会専任)。

(4) その他

特に教員にたいして質問の項目を設けていたわけではないが、アンケートの実施方法それ自体についての意見(改善要求)も見られたので、ここに紹介する。

「アンケートは、答える学生の氏名を書くべきであると考えます。……ある大学ではアンケートをパソコン(携帯)にしています。このほうが簡単だと思うのですが、如何でしょう」

(全学共通科目非常勤)。

「次年度の改善のためには、シラバスをつくるまえにアンケート結果がわかるとよりよいのではと思います」(全学共通科目非常勤)。

Ⅲ 学科・専攻における平成29年度FD活動への取り組み

1. 人間関係学科

(1) 社会学専攻におけるFD活動に関する取り組み

1) 社会学全体としての取り組み

i 社会学専攻としては、およそ隔週のペースで専攻会議を開催している。会議の内容で大きな比重を占めているものの一つが、問題を抱えた学生たちへの対応である。そうした学生たちについての対応の方法を検討している。

ii 問題をかかえた学生のなかには、障がいをもった学生も存在する。そういった学生がつつがなく学生生活を送ることができるように、クラス指導主任や障がい学生支援委員ほか各種委員と学生相談センター（カウンセラー）とで連携をとりながら、さまざまな問題を話し合っている。また、今年度は学生からの要請に応じて支援チームを結成し、専攻会議で情報を共有するなどして解決にあたっている。

iii 専任教員の休職（のち平成29年10月に退職）にともない、代行する非常勤講師の手配などにあたった。

iv 5月末の非常勤講師懇談会においては非常勤の先生方のご意見をいただき、専攻としての取り組むべき改善作業の参考にした。毎年参加してくださる非常勤の先生もおられ、有意義な会となっている。

v 社会学専攻では、基礎セミナーの平準化が他専攻に比べて遅れているとの認識を抱き、平成25年度から「社会学基礎セミナーⅠ」に限って平準化を行うことにした。共通のテキストを指定して、レジュメの作り方、図書館の利用法、テキストの輪読、グループワークの実施など、担当教員が行う授業内容を取り決めた。採点基準については、「社会学基礎セミナーⅠ」、「社会学基礎セミナーⅡ」とも、Sは1割以内、AとSの合計は5割を超えないという評価の分布の基準を設けるとともに、授業での報告を中心とした平常点と期末レポートの比重をそれぞれ50%とし、その合算によって成績評価を決めるということが確認された。この方針は平成30年度においても継続される。また、「社会学基礎セミナーⅠ」のテキストは2年ごとに変更している。来年度は変更の年ではなかったもので、変更の必要がなく来年度も同じテキストを用いることを確認した。

vi 社会学専攻では、2年次の「社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱ」の授業の一環として学生による報告会を毎年12月上旬に開催している。主たる目的は学生の発表であるが、この会には社会学の教員も原則全員参加しており、そのため他の教員が演習という授業をどのように行っているのかが分かり、次年度からの授業運営の参考になるという意味で、教員のFDにとっても有意義な会となっていると考える。

vii 専任教員の退職に伴う新規採用のため専門科目の見直し・変更を行った。

2) 教員個々の取り組み

i 伊藤美登里

①文章の書き方や論文の書き方の指導の工夫

1 年の社会学基礎セミナー I・II において、(英語圏の大学への留学者を対象としたアカデミックライティングの) 英語のテキストを用いて、そのテキストの文章は日本語に翻訳したうえで、アイデアの出し方とまとめ方、一つの段落の書き方、エッセイの書き方などについて指導し、実際に文章を書いてもらいそれを添削して返却するという指導を行った。

3 年の社会学セミナー II では、社会学基礎セミナー I・II の内容を(復習しつつ) 発展させ、学術論文の書き方について、実際に一つの学術論文を精読し、内容を分解して、論文というのがどのような構造で書かれているのかを指導した。その中で、学生各自の卒論がどのような章構成になりうるかを個別に指導していった。さらに、4 年の社会学セミナー III・IV では、実際に提出された卒論原稿(未完成)を添削する形の指導を行った。

②manaba の活用

学部 FD 研修会での内容を参考に、セミナー系の授業でデータや情報共有のために manaba を活用した。

ii 大出春江

①学生に読んでほしい課題資料は pdf 化し manaba のコンテンツとしてアップロードしている。学生は各自でダウンロードしてそれらを読み、講義内容とその資料とを組み合わせ所定の日までに課題を提出することになる。

②社会学基礎セミナー I・II と社会調査及び演習 I・II のグループワークにおいて manaba のプロジェクトをグループワーク用に活用している。機能としては締切に幅をもたせられないことと、複数ファイルを受け付けないという融通のなさが難点であり、この点は掲示板を併用することで補っている。

③学生が課題を読んでまとめ、それに考察を加えるまでの力を身につけるのは簡単ではない。この点は、レポートの提出に対し添削をして返却することを、社会学セミナーにおいておこなっている。本来は 1 年次の社会学基礎セミナー I・II からすることが望ましく、これは課題である。

iii 久保田滋

今年度は、前年度に引き続き、manaba を用いつつ学生教員間、そして学生間のコミュニケーションを活性化することを試みた。特に、グループワークをより充実させ、そのプレゼンテーションへ向けての作業を掲示板等の機能を用いおこなうよう指導をおこなった。学生らには、掲示板での議論を促したが、実際には活発なやり取りに結びつくことは難しい部分があった。一部の学生間において Line 等で連絡し合い、その結果を掲示板上に代表者がアップロードするような形となる場合が多かった。

また、初年度教育では、基礎セミナー等において、レジュメの作り方と報告の仕方、論文の書き方などの指導を、前年度より時間をかけておこなった。しかし、個々の既存の授業の中ではそのような指導の時間を十分にとることができないということも、同時に認識するに至った。むしろ、全学共通教育や学部共通教育において、必修のアカデミック・リテラシーの講義・演習を設置し、大学教育への導入を組織的に充実させる必要があると考える。

iv 小谷敏

- ①本年度も社会学合同ゼミナールに参加し、他大学の先生方の指導法から多くを学んだ。
- ②講義科目の授業においては、毎回リアクションペーパーを書かせ、それを次の授業中に読み上げ続ける続けている。ある学生の発言に他の学生が反論をして、「リアクションペーパーバトル」とも呼ぶべき論争が起きるなど、さまざまな知見と教訓が得られた。

v 齊藤豊

社会学セミナーI において、パルテノン多摩の博物館とコラボレーションを行い、若者を博物館に呼び寄せる案を2グループに別れたゼミ生が考案した。

ゼミ生は多摩地域に隣接する地域にある博物館などを調査分析し、若者の感性を博物館への興味へ繋げる解決策を博物館に対してプレゼンテーションした。

パルテノン多摩 博物館は、その解決策を元にInstagramでの告知試行を開始している。
参考 URL: https://www.instagram.com/par_tama_museum/

vi 玉井和博

社会学領域の中でも、観光学特に私の専門とする宿泊産業論関係は、他の学問領域に比べより実学中心となる。現実の産業界で起きている社会環境（マーケット）の変化や問題点をリアルタイムに認識、把握し授業に取り入れることが肝要となる。

そのため授業では、なるべく多岐にわたる産業界のトップ（社長や総支配人）をゲスト講師として招聘し、知識・理論だけでなく、ホスピタリティ産業で働くことの厳しさや楽しさ、そしてその意義を直接受講生に語っていただいた。また、授業理解の一助としてテーマ関連映像（DVD等）を併用した。

後、日々の経済社会問題そして政治問題に関しても受講生の意見、考え方を問い、できれば観光産業との関連性も含めたディスカッション形式を試みたが、この進め方には更なる検証が必要と実感している。

vii 千川剛史

①講義形式の数十名以上の授業において、学生の私語を防いで静粛を保つために、同じクラスの学籍番号の近い学生同士が隣り合わないよう工夫して作成した着席表を用いて学生を着席させている。

②講義において、PC、パワーポイント、プロジェクターやインターネット、DVDなどの視聴覚機器を毎回用いて、また、授業内容に関連した新聞記事をプリントして配付し、できる限り具体的な事例を紹介しながら、学習内容を学生が理解しやすいようにしている。

③講義で、毎回、コメントペーパーを学生に配付して記入させ、それを回収し・読むことで、各学生の授業の理解度を把握し、出席状況を確認している。また、回答すべき質問・意見がコメントペーパーに記入されている場合は、次の講義の冒頭で、それに回答している。必要があれば、その質問・意見に関連した資料をプリントして配付したり、プロジェクターで提示したりして、わかりやすく説明している。

viii 牧野智和

①調査演習を用いたレポート執筆のワーク

1 年の基礎セミナーなどでもレポートの書き方が扱われることがあるが、それが身に付ききらないままに卒業論文の執筆を迎える学生も少なくない。それが身につかないのは、扱うレポートのテーマと内容が、個々人の関心や生活に深く結びついていないところにあると考え、今年度は2年の調査演習において、1年間かけて学生自らが企画・立案・実行した調査の報告書において、章・節・項の構成などを厳格に指定して執筆を行わせた。また報告書原稿を一度提出させ、全員に赤入れをするかたちでレポートの形式に沿わせ、また考察の質を高める指導を行った。こうした指導が実を結ぶかどうかは、次年度以降の卒論ゼミで確かめたい。

（２）社会・臨床心理学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

教員個々の特筆すべきFD上の取り組みを“Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会”、“Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト”、“Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み”に分けて記述し、その成果を報告する。

香月菜々子

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

１）７月 国際ロールシャッハ・投映法学会（パリ大会）

臨床現場での描画法の活用と描画を用いた心理アセスメントに関して、国際的に支持されている国際ロールシャッハ・投映法学会にて

The Star-Wave Test: How It Reflect the Personality Growth

・Re-test of non-patient adults 11 years after the first administration・

と題して発表し、青年期から成人期にかけて、人はどのような成熟を果たすのかをテーマに他の国の心理士の方々と意見交換を行った。加えて各国の現場で求められている心理士としての技能と、大学および大学院等の教育機関にてこれらを培うにはどのような工夫が必要なのか、国内にとどまらず、改めて広い視点から見つめなおす機会となった。

２）５月・７月・１０月・１２月 ロータス（分析心理学）研究会

臨床心理士による面接事例の検討を行う研究会に参加し、夢をはじめとするイメージを用いた心理療法の実践を学び、その教育の在り方について示唆を得た。

３）９月 絵とことば研究会

2013年より現役臨床心理士を中心に発足した研究会を主体として、心理臨床家を主たる対象とした講演会の共同企画を継続している。今年はこれまでの研究会での活動の振り返りを兼ねて、現在、書籍出版の準備中である。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

一般高校生・大学生を対象とした、メンタルヘルスに関するテキストを現在作成中である。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、臨床心理士のキャリア研究を継続して担当。学部・大学院での学びの効果とその後の職業選択の在り方について、インタビュー研究をまとめ、11月に開かれた日本心理臨床学会にて、複数の修了生とともにポスター発表をおこなった。結果、非常に活発な意見交換の場が展開し、今後の研究のアイディアを得られた。こうした修了生向けの教育を兼ねた、研究活動をこれからも継続していく予定である（研究代表：古田雅明准教授）。

高田知恵子

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

FD 研修会

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

「インタビューガイド」：卒論・修論でインタビュー調査を行う学生・院生のためのガイド

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

ゼミ等の小規模クラスでのマナバ活用：ほぼ毎回コースニュースで次回のゼミ内容を伝え、学生たちのレディネスの強化を図った。

田中 優

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

1) 学部 FD 研修会に参加

12月8日（金）学部 FD 研修会に参加した

2) その他、学部・大学主催の研修会にはほぼ毎回出席した。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) すべての授業において、授業内容を視覚的に説明するパワーポイントを作成している。

2) すべての授業において、毎回の授業内容に則したプリントを作成している。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 2月に、卒業予定の4年生、3年生、および、次年度のゼミ生となる2年生の3学年合同で、3年生の卒論計画発表会を軸としたゼミ合宿を行っている。各学年の参加については、4年生は、2年間のゼミ活動から得た自身の学びを振り返り、ゼミ生同士の関係を強め、また、自身の卒論、ゼミでの活動、就活について、下級生に体験を伝えている。3年生は、卒論計画発表会を実施することで3年次のゼミ活動を中心とした卒論をより具体的に進めることができる。また、3月からの就活開始にそなえて、ある程度の計画をまとめることで、就活と卒論の両立が見込める。2年生は、3、4年生を良きモデルとして、新年度のゼミ活動、卒論、就活に対するイメージを掴むことができている。

2) 講義科目においては、manaba等で、学生の意見をできるだけ吸い上げ、授業の中でフィードバックし、それを元に討議する形を取り、学生の考える時間と双方向のコミュニケーションを多くする努力をした。

西河正行

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

日本心理学会第81回大会（2017年9月20日から22日）、日本心理臨床学会第36回秋季大会（2017年11月18日から21日）、日本精神分析学会第63回大会（2017年11月3日から5日）に参加した。日本心理学会第81回大会では「“前に踏み出す力”を引き出す心理学教育 — 『キャリア心理学セミナー』の授業実践から—」（八城ほか）についてポスター発表を行った。日本心理臨床学会第36回秋季大会では、広報委員会主催シンポジウムに司会として関わり、心理臨床のあり方についてさまざまな示唆を得られた。学部生の指導にあたり有益であった。また、大学院「臨床心理学特論」、「臨床心理査定演習A」、「コミュニティ・アプローチ特論演習」、学部「グループワークA、B」の参考となった。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

「力動的心理査定」(岩崎学術出版社)を上梓した。継起分析の章を担当し、力動的査定についてのテキストとして使用する予定である。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

<論文>

- 1) 西河正行 (2017). 「キャリア心理学セミナー」の授業概要と意義 ―心理学教育を通した社会人基礎力の育成― 大妻女子大学人間生活文化研究 27, 259-268.

<学会発表>

- 1) 八城薫・古田雅明・香月菜々子・向井敦子・西河正行 (2017). 「“前に踏み出す力”を引き出す心理学教育 ―『キャリア心理学セミナー』の授業実践から―」 日本心理学会第 81 回抄録集.

福島哲夫

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- 1) 5 月 2017 年度大妻心理臨床研究会主催シンポジウム「若手が語る心理臨床のリアリティ～医療・教育・福祉の現場から～」を共同企画し、当日の司会とコメンテーターを担当した。近隣の臨床心理士や大学院生、本学修了生が参加した。なお、これは本学心理相談センターとの共催イベントであった。
- 2) 9 月 社会・臨床心理学専攻の専任教員全員が勝浦において FD 合宿を行った。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 福島哲夫監修、福島哲夫・尾久裕紀・山蔦圭輔・本田周二他編 『公認心理師必携テキスト』(学研メディカル秀潤社)を全体の企画監修・編集とともに、6 つの章を執筆した。今後、公認心理師資格取得を目指す、学部生、大学院生の教科書になる予定である。
- 2) 福島哲夫著「ユングタイプ論から考える自己理解・他者理解」(成城カウンセリングオフィス出版部)執筆・出版した。これは大学生向けの教養書として、香川大学工学部で教科書採用された。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

大学院生の竹下亜美とともに「初心者セラピストの共感疲労についての研究―初心者セラピスト 6 名へのインタビューから―」と題する研究を行い、心理臨床学会第 36 回大会において発表、また大妻電子ジャーナルへの論文投稿などを行った。

古田雅明

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- 1) 4 月から隔月で年 6 回 大学院修了生や臨床心理士の研修会である多摩精神分析セミナー・アセスメントコースの講師を務め、心理アセスメントの講義を行った。
- 2) 4 月から毎月 1 回 大学院修了生や臨床心理士の研修会であるフロイト古典抄読会において、精神科医師と共に講師を務めた。
- 3) 5 月 2017 年度大妻心理臨床研究会主催シンポジウム「若手が語る心理臨床のリアリティ～医療・教育・福祉の現場から～」を研究会代表として企画し、当日の運営と司会等を担当

当した。近隣の臨床心理士や大学院生、本学修了生が参加した。なお、これは本学心理相談センターとの共催イベントであった。

- 4) 9月 社会・臨床心理学専攻の専任教員全員が勝浦においてFD合宿を行った。専攻主任として合宿の企画・司会進行等を担当した。
- 5) 12月 多摩心理臨床研究室 2017年度学術集会において指定討論者を担当し、スクールカウンセリングにおける母親面接の事例について精神分析的な立場から発言した。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 福島哲夫・尾久裕紀・山蔦圭輔・本田周二他編 『公認心理師必携テキスト』 学研メディカル秀潤社において、多職種連携や地域連携に関する第3章を執筆した。今後、公認心理師資格取得を目指す、学部生、大学院生の教科書になる予定である。
- 2) Christopher Bollas 著 When The Sun Bursts: The Enigma of Schizophrenia (クリストファー・ボラス著 館直彦監訳 坂井俊之・下平憲子・橋爪龍太郎・橋本貴裕・古田雅明・横川滋章訳『太陽が破裂するとき ―統合失調症の謎―』) の翻訳(第2章、第11～13章)とあとがきを担当した。大学院生や心理相談センター研究員等の指導に活用できる書である。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、「日本の大学における教育カリキュラムの体系化―心理学分野に着目して―」について研究を行った(研究代表: 本田周二)。
- 2) (公財)精神分析武田こころの健康財団の研究助成を受け「ロールシャッハテストの力動的継起分析の初期教育に関する研究」を行った(研究代表: 加藤佑昌)
- 3) キャリア支援教育に関して以下の学会発表や論文執筆を担当した。

香月菜々子・古田雅明・児玉成未・齊藤圭・西河正行 臨床心理士のキャリア形成に関する基礎研究3 ―グループインタビューの内容分析― 日本心理臨床学会第36回大会

八城薫・古田雅明・香月菜々子・向井敦子・西河正行 “前に踏み出す力”を引き出す心理学教育 ―「キャリア心理学セミナー」の授業実践から― 日本心理学会第81回大会(本発表は学術大会優秀発表賞を受賞した)

西河正行・八城薫・向井敦子・古田雅明・香月菜々子 「キャリア心理学セミナー」の授業概要と意義 ―心理学教育を通じた社会人基礎力の育成― 人間生活文化研究 27巻 259-268頁

本田周二・八城薫・古田雅明・香月菜々子・堀洋元・井上修一・牧野智和 日本の大学における教育カリキュラムの体系化 ―心理学分野に着目して― 大妻女子大学人間関係学研究 19巻 103-112頁

堀 洋元

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- 1) 2017.7.21(金) 参加 大妻女子大学 第1回SD・FD研修会
「大妻学院の目指すもの」
- 2) 2017.12.8(金) 参加 人間関係学部FD研修会

「授業をよりよくするための Tips —その 3—」

第 3 分科会：授業をよくするためのちょっとした工夫

3) 2018.1.25 (木) 参加 大妻女子大学 後期 FD 講演会

「良い講義の条件とその実践 —いくつかの授業事例に学ぶ—」

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

「社会心理学概論」では事後学修教材として、紙媒体によるふりかえりテストと manaba による授業の要約を独自に作成した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 「社会心理学概論」では、初学者向けに講義と事後学修を中心とした授業を進めた。

2) 「キャリア心理学セミナー」では、制作した作品のピアレビューを行い、作品を鑑賞する側の意見やアイデアを取り込みやすいよう工夫した。

本田周二

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

1) 大学教育学会第 39 回大会「教養教育の再考」

日時：2017 年 6 月 10 日 (土)、11 日 (日)

場所：広島大学東広島キャンパス

2) 関西大学高等部授業見学

日時：2017 年 7 月 15 日 (土)

場所：関西大学高等部

3) 全学 FD 研修会「大妻学院の目指すもの」

日時：2017 年 7 月 21 日 (金)

場所：大妻女子大学

4) 大学生研究フォーラム 2017

日時：2017 年 8 月 17 日 (土)、18 日 (日)

場所：京都大学吉田キャンパス

5) 河合塾高大接続シンポジウム

日時：2017 年 8 月 24 日 (木)

場所：ホテルメトロポリタンエドモンド

6) 社会・臨床心理学専攻の専任教員全員による FD 合宿

日時：2017 年 9 月 4 日 (月)、5 日 (火)

場所：千葉県勝浦

7) 2017 年度大学教育学会課題研究集会「大学教育は“役に立つ”のか」

日時：2017 年 12 月 2 日 (土)

場所：関西国際大学尼崎キャンパス

8) 学部 FD 研修会「授業をより良くするための Tips (その 3)」

日時：2017 年 12 月 9 日 (金)

場所：大妻女子大学

- 9) 全学 FD 研修会「よい講義の条件とその実践」
日時：2018 年 1 月 25 日（木）
場所：大妻女子大学
- 10) インターンシップフォーラム～ともに考えよう「教育効果の高いインターンシップとは」～
日時：2018 年 2 月 13 日（火）
場所：日本大学会館
- 11) 朝日新聞「女子と教育」シンポジウム
日時：2018 年 2 月 22 日（木）
場所：サピアホール
- 12) 第 24 回大学教育研究フォーラム
日時：2018 年 3 月 20 日（火）、21 日（水）
場所：京都大学吉田キャンパス

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 「社会・臨床心理学研究法」：心理学研究法資料の作成
- 2) 「社会心理学実験研究法」：予習理解度小テスト・回答の作成
- 3) 「基礎統計学Ⅱ」：自主学習課題の作成
- 4) 「キャリア心理学セミナー」：高校での出張授業実施要項および資料の作成
- 5) 福島哲夫・尾久裕紀・山蔦圭輔・本田周二他編 『公認心理師必携テキスト』 学研メディカル秀潤社において、研究法、実験法、社会および家族・集団に関する心理学に関する複数の章を執筆した。今後、公認心理師資格取得を目指す、学部生、大学院生の教科書になる予定である。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 毎回、授業実施後に reas および manaba において学生に授業についてのコメントを書かせ、次回の授業で教員からフィードバックすることで授業内容の理解および授業改善に役立てた。
- 2) 講義形式の授業において、自身で考えた後に他者と意見を共有させるアクティブラーニングを導入することで、学生の深い学びへとつなげた。また、毎回の予習・復習課題を manaba で提出させることによって授業時間外の学習を積極的に促した。
- 3) 3 年ゼミにおいて、一人の発表に対して必ずすべての学生にコメントをさせることで、発表内容に対する聞く姿勢や自身の意見を述べることのトレーニングを積ませた。また、半期ごとに一人に対して 45 分程度の個別面談を行い、サポートを行った。
- 4) 4 年ゼミにおいて、全体ゼミとは別に個別ゼミを定期的実施することで、一人一人の進度に合わせた指導を行った。
- 5) 人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、「日本の大学における教育カリキュラムの体系化 - 心理学分野に着目して - 」について研究を行った（研究代表：本田周二）。
- 6) 教育関連における、以下の論文・著書の執筆を担当した。

本田周二・三保紀裕 第 2 章 アクティブラーニングとしての反転授業における教育効果

(1) アクティブラーニング型授業としての反転授業―理論編― ナカニシヤ出版
p.37-53.

三保紀裕・本田周二 第3章 アクティブラーニングとしての反転授業における教育効果

(2) アクティブラーニング型授業としての反転授業―理論編― ナカニシヤ出版
p.55-72.

本田周二・八城薫・古田雅明・香月菜々子・堀洋元・井上修一・牧野智和 日本の大学における教育カリキュラムの体系化 ―心理学分野に着目して― 大妻女子大学人間関係学研究 19 巻 103-112 頁

本田周二 心理学教育を通じた社会人基礎力の育成 「大学におけるキャリア教育科目の開発と評価―プログラム開発編―」 ナカニシヤ出版 (印刷中)

八城 薫

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

1) 明星大学心理相談センター公開講演会「はじめてのマインドフルネス」

講師：熊野宏昭氏（早稲田大学人間科学学術院教授）

日時：2017 年 11 月 3 日（金・祝）13 時 00 分 から 15 時 00 分

会場：28 号館 205 教室

2) 学部 F D 研修会「授業をより良くするための Tips―その 3―」

第 4 分科会「授業時間外の自己学習を促進する方法」

日時：2017 年 12 月 8 日（金）17:00～19:00

場所：7 号館 3 階， 7387 室

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) サイエンス社「質問紙調査と心理測定尺度」（第 10 章「卒業論文・レポートの書き方」）

増版見直し

2) 社会心理学調査研究法一連の資料の改訂およびレポート評価ルーブリックの改訂

3) キャリア心理学セミナー OG インタビュー調査実施要項および実施報告書書式の作成

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 論文「「キャリア心理学セミナー」の授業概要と意義―心理学教育を通じた社会人基礎力の育成―」（人間生活文化研究 27 巻）の調査、分析、執筆を担当

2) 論文「日本の大学における教育カリキュラムの体系化 - 心理学分野に着目して - 」

（人間関係学研究 19 巻）の調査、分析、執筆を担当

3) 「基礎統計学 I」プレイスメントアンケートの作成と実施

4) 「基礎統計学 I・II」「社会心理学調査研究法」「キャリア心理学セミナー」はチームティーチングのため、授業前後に授業会議を実施して進行状況や内容を確認しながら行った。

5) 「社会心理学調査研究法」について、manaba を使用した独自の授業評価アンケート（双方向型の授業振返り）を毎回実施した。

2. 人間福祉学科

人間福祉学科では両専攻において社会福祉士国家試験受験資格の取得が可能であり、さらに人間福祉学専攻ではこれに加えて精神保健福祉士国家試験受験資格が、また介護福祉学専攻では介護福祉士国家試験受験資格が、それぞれ取得可能なカリキュラム編成となっている。

卒業後に福祉現場に就職する者はもちろんのこと、そうでない者についても、学科のデュプロマ・ポリシーである「様々な課題を抱えた人々と『共生』できる知識・技能」を修得して、それぞれの職場で発揮していけるような人材の育成を目指している。

1) 福祉実習発表会・福祉実習教育懇談会 【福祉実習委員長 藏野 ともみ】

平成 29 年度の福祉実習発表会（人間関係学会福祉分科会）および福祉実習教育懇談会を平成 29 年 12 月 1 日に開催した。

本会は、実習指導者及び在校生、教員が一同に会し、社会福祉、介護福祉の実践現場での実習について考える機会となっている。実習を行った学生だけでなく、1 年生や 2 年生も自分のキャリアや具体的な実習選択について考えることを目的としている。また、実習指導者と教員も自らの実践や教育について考えるだけでなく、より良い実習教育のあり方について意見交換を行う貴重な時間ともなっている。

当日の前半では、今年度春から秋にかけて行った介護福祉士実習、社会福祉士実習、精神保健福祉士実習の代表学生 9 名が、スライドを使って実習での学びについて発表を行った。発表者は多くの実習経験と利用者との出会い、それらの中で学んだことから論点を絞り、自分の言葉で発表する機会となった。



〈実習発表会の様子〉



〈企画・運営を行った学生代表からの挨拶〉

後半の部では、学生は卒業生の講話を聴き、実習指導者と教員は会場を変えて、福祉実習教育懇談会を行った。卒業生講話では、福祉・介護・医療の現場や一般企業で働く卒業生 5 名を招き、仕事内容だけでなく、大学における福祉の学びがそれぞれの生き方や働き方にどの様に活かされているのかについて話を聴くことができた。

一方、福祉実習教育懇談会では、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の各分科会に分かれ、実習指導者との意見交換を行った。多様化する社会情勢を受け、各実践現場でも様々な

社会的ニーズに応えることが求められており、実習においても専門的知識や技術だけでなく、社会人として振る舞いや対応が必要とされることが多い。それらをどの様に学生に教育していくか、また学生ひとり一人に沿った実習教育のあり方の工夫などについてアイディアを出し合い、考える貴重な会であると実感している。今後も実習指導者と緊密な連携を保ちながら、さらに充実した実習の実現を目指したい。



〈卒業生講話〉



〈在校生との質疑応答〉

2) 国家試験対応及び受験対策講座 【国家試験対応委員 藏野 ともみ】

本学科では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の養成を行っており、3つの国家試験に向けて、年間を通して1年生から4年生まで段階的な受験対応を行っている。

受験対策としては、①模擬試験、②対策講座、③国家試験対策科目の設置、④個別学習指導及びグループ指導という4つがある。

また、受験手続きの支援として、4年生に対し受験説明会の開催や事務と連携して書類を作成するだけでなく、受験までの学習の進め方や前日や当日の心構え等について話しをする機会を設けている。

今年度から介護福祉士国家試験が養成校にも課されたことに伴い、本学科でも本格的に受験対応と対策に取り組んだ。

今年度の受験対応の実施内容について以下の通り報告する。

①模擬試験の実施

社会福祉士模擬試験については、1年生は年1回、2年生から4年生に対しては年4回実施した。精神保健福祉士模擬試験は、精神保健福祉士履修課程受講者3～4年生を対象として、年間3回実施した。さらに、介護福祉士模擬試験は、1・2年生は年1回、3・4年生は年4回実施した。

すべての模擬試験で、受験後の学習を重視しており、各学年に応じた勉強方法と課題を提示し、提出された課題については、クラス担任やゼミ担当教員で分担し、学生個別の学習進捗状況に応じたコメントを付けて1ヶ月以内を目処に返却した。



〈模擬試験の様子〉



〈教員や卒業生からのアドバイス〉



②対策講座の実施

社会福祉士については、4年生を対象に本学科専任教員による社会福祉士主要科目の「受験対策講座」を授業外に実施している。後期の総仕上げの時期に、その学年の模擬試験の結果を分析し、正答率の低い科目、点数が伸びると考えられる科目を選定し、10科目を実施した。本対策講座は学生の自主的な申し込みによるものであり、今年度は4年生の全受験者のうち90%が受講した。

介護福祉士については、夏季休暇中の集中的な受験対策講座と国家試験前の1月に直前講座を実施し、模擬試験結果で学生の正答率の低い科目を中心に取り組んだ。

③国家試験対策科目の設置

学科の正規授業の中に、前期・後期ともに社会福祉士と介護福祉士の国家試験対策科目を設置している。

④個別学習指導及びグループ学習支援

ゼミを母体として各教員による個別指導とグループ学習支援を実施した。また、精神保健福祉士コースや介護福祉学専攻では、それぞれ受験対策を行った。

さらに、学期中及び夏、冬、春の長期休暇中に自習室を確保し、学生が各自の勉強スケジュールに合わせて学習できる環境を整えた。また、年末年始も含め、夜遅くまで勉強する学生に対して学科教職員だけでなく、事務や図書館の職員、守衛室の皆様等にもご理解とご協力を賜り、温かい励ましの言葉等もかけて頂いた。



〈グループ学習の様子〉

3) 複数教員で担当している科目における教員間の連携

社会福祉士等の国家試験受験資格取得のための教育課程においては、将来実際に福祉現場に

就職した際に直面する多様な問題への対応能力を養うため、下記のような1クラス 20 人以下の少人数で編成される講座を多く開講している。これらの科目の授業担当者を構成していくためには専任教員だけでは人数が足りず、必然的に非常勤講師の力に頼ることになるが、その場合にも各講座の教育目標やシラバスの内容、あるいは成績評価の方法等の基本的事項について、全員が共通認識を持って授業に臨む必要がある。そこで、学期の開始前に打ち合わせの会を設定したり、前期の授業担当者懇談会の機会を利用して意見交換を行う等、科目担当者間の連携を密にするための努力を日頃から心がけている。

①相談援助実習指導、実習事前・事後指導【嶋貫 真人】

社会福祉士受験資格取得課程を希望した学生にとって、同課程のために開講されている多くの科目の中でも特に重要な位置を占めるのが、多くの者が3年次に履修する「相談援助現場実習」である。

学生にとって、児童福祉施設・高齢者福祉施設等の各福祉現場の業務について具体的なイメージを描くことは難しいため、2年前期の「相談援助実習指導Ⅰ」の授業では、障害者福祉・児童福祉・高齢者福祉等の各福祉現場で相談援助業務に従事しておられる職員の方をゲストスピーカーとしてお招きして、“悩み”や“戸惑い”といった本音も交えながら、現場実践者の生の声を聞いてもらう時間をもうけている。また、2年生の夏休みを利用して福祉現場でのボランティア活動体験を受講者全員へのノルマとして課しており、サービス利用者とコミュニケーションをとることの楽しさ・難しさを、この機会に知ってもらうことを目指している。そして、このようなプロセスを経て、それまで漠然としたイメージとして描いていただけだった「福祉援助」というものが、徐々に現実的で具体的な目標として見えてくるようになるのである。

2年後期の「相談援助実習指導Ⅱ」では、「相談援助実習指導Ⅰ」の内容をさらに発展させた形で、現場実習において要求される実践的な能力（利用者との面接の技法、ケース記録の書き方等）を学ぶことになる。

3年次の「相談援助現場実習」に向けた「事前・事後指導」の授業は、夏実習組と春実習組とで履修時期が異なってくるが、いずれも高齢・障害・地域・児童の実習分野ごとに現場で求められる専門知識を身に付けていく。このように実習分野ごとに分かれたクラス編成とすることで、授業担当者間で指導内容の統一性が保てなくなる危惧もあるが、そのようなマイナス面は毎月開催される「実習委員会」の場で補うようにしている。なお、実習中の巡回指導をお願いしている非常勤講師との間でも、授業担当者懇談会や日常のメールでのやり取りを通じて十分な意思疎通ができており、非常勤講師を含む教員全員が学生指導に関する情報を共有することができるようになっている。

②相談援助演習【井上 修一】

実践能力の高い社会福祉士になるためには、知識の習得を基礎にしながらも、実習・演習科目のなかで、体験的に理解を深めていく必要がある。

本学においても、厚生労働省のシラバスに沿った内容を踏まえ、よりきめ細かい対応ができるように努めている。そのため、相談援助演習をⅠ～Ⅴに分け、それぞれ段階的に、また共通シラバスをもとに授業を行っている。ちなみに相談援助演習Ⅰ・Ⅱはミクロ、Ⅲはメゾ、Ⅳはマクロ、Ⅴは統合的な位置づけとなっている。今年度の試みとしては、相談援助演習Ⅳにおい

て多摩市の 10 エリアの地域課題とその解決に向けた事前学習とヒヤリング調査を実施したことにある。最終的には、調べた情報を解決のための計画づくりに発展させた。この試みをさらに深め、多摩市の地域課題の解決に貢献できればと考えている。

本学科では、実習と演習の連動性を意識され、理解の深まりを下支えしている。各演習を取りまとめるのは常勤の教員であり、非常勤講師との情報共有が丁寧になされるだけでなく、それぞれ工夫された教材を持ち寄り、学生にとってわかりやすい授業展開を試みている。

③社会福祉学基礎セミナーⅠ【丹野 真紀子】

本科目は、入学直後の 1 年前期に開講されている。入学して間もない新入生に、専門科目の授業とは違った視点から多様な福祉実践のあり様を学び、大学での学習に求められる言語表現、文章作成能力、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の基礎を身につけることを目的としている。「社会福祉学基礎セミナーⅠ」は 6 名の教員が担当し、1 クラス 20 人以下の少人数制をとっていることから、学生が個性を発揮しやすい。

内容としては、3 つのテーマを掲げている。1 つ目のテーマは、「福祉の世界の扉を開こう」とし、担当教員がそれぞれの専門領域の現場について概説する。次に、「利用者、援助者両者の立場で考察してみよう」をテーマに、車椅子や白杖などを用いた要支援者の体験を行う。3 つ目のテーマは「福祉の現場を知り、自分の目で見て学んでこよう」とし、福祉現場の実践者から話を聞くこと、学生自身がハンセン病資料館を見学し、ハンセン病をめぐる福祉問題についてクラス内で発表する、というものである。1 年次の前半で、福祉実践の多様性を知り、レポート作成やプレゼンテーションの基礎を学び、文章作成のルールや文献の活用、文章構成など基本的な部分を身に付けられるようにプログラムを構成している。そのため、上記 3 つのテーマそれぞれに対して「仮説」「検証」「結果」「考察」という点でコメントやレポートを書かせ、回を追うごとに文献活用や考察視点を深めていけるよう工夫した。

進め方においては、複数教員による授業運営のため、教員間の情報共有が重要である。授業期間開始前、期間中も複数回、また最終評価時にも担当者が打ち合わせの場をもち、クラス間で大きな差が出ないように配慮した。その他、学生が意欲的に授業に臨めるよう、学生が提出したものについては、担当教員がコメントを寄せて学生に返却するよう試みた。

施設見学やプレゼンテーションは、入学後間もない 1 年生にとって負担もあったようだが、達成感も見受けられた。少人数制の授業ということで学生間や教員との相互のコミュニケーションが図れ、入学当初以上に福祉のイメージが広がったり、大学生活全体への不安が軽減したり、その後の生活に希望を見出す機会にもなっていると思われる。

④社会福祉学基礎セミナーⅡ【嶋貫 真人】

前期の「セミナーⅠ」で大学での学びに必要な基礎的素養を身に付けた後、本授業ではさらにそれを 2 年次以降の専門科目の学習へと発展させていくための橋渡しの役割を担っている。具体的には、「読む・聴く・書く・話す・考えるの基礎訓練」という共通テーマを掲げて、13 ～15 名程度の少人数クラス（6 つ）に分かれ、それぞれの担当教員が作成したシラバスに沿った授業を提供している。上記の共通テーマは、多分に社会福祉士等の現場実習で求められるコミュニケーション能力や実習日誌作成能力等の涵養を意識して設定されているものではあるが、これらの実習を行なわない学生についても、3・4 年次の「社会福祉学セミナー」においてメン

バーの前で自分の研究内容を発表し、またそれを「卒業論文」の形でまとめる際に必要となる能力であると考えられる。

したがって、本授業では学生自らが主体的に学ぶ過程を特に重視している。具体的には、15回の授業の中の終盤のおおむね5回程度を「グループ研究」の時間にあてており、2～4名程度で構成されたグループのメンバーが話し合って研究テーマを決め、それについて図書館やインターネットを使って資料を収集した後、グループ内で議論を行なう作業を課している。そして、この小グループによってまずクラス内で研究発表が行なわれ、さらに29年度の場合、14回目の授業時間を使って全クラス合同授業の形で、各クラスから選抜されたグループ1つがスライドを使って研究発表を行った。

29年度の6名の科目担当者の内訳は、「専任教員3名＋非常勤3名」という構成であったが、非常勤講師の方とは開講前の打ち合わせ会議や日常のメール等を利用して頻繁に連絡を取り合い、共通テーマに沿った授業展開を行えるよう工夫している。

⑤介護実習及び介護総合演習【金 美辰】

介護福祉士養成教育の新カリキュラム移行（平成21年）に合わせ、介護実習は「実習施設・事業等（Ⅰ）」と「実習施設・事業等（Ⅱ）」に分類された。前者は、多様な施設で利用者の暮らしを理解することが目的である。後者は、全実習時間である450時間の3割を占め、介護過程の展開を目的としている。介護福祉学専攻では、平成28年度より、既存の「介護実習Ⅰ」から「介護実習Ⅳ」に加え、「介護入門実習」を取り入れて、5段階に分けて介護実習を実施している。「介護実習Ⅰ」は、2年次に介護老人保健施設で12日間実施する。「介護実習Ⅱ」は、3年次に障害児・者施設で12日間、「介護実習Ⅲ」は、3年次に介護老人福祉施設で28日間実施する。「介護実習Ⅳ」は、4年次に居宅介護サービス事業所で5日間を実施する。また、平成28年度より導入された「介護入門実習」は、1年次に「介護実習Ⅲ」で配属される介護老人福祉施設で5日間見学実習として実施し、3年次の「介護実習Ⅲ」（平成28年度入学生からは23日間実施）での学びを深める。介護実習は、1年次から4年次までの間に、計57日間、456時間実施される。本専攻では、各段階の実習目標が達成できるように、実習関連科目の連携を重視した組み立てで授業を展開している。実習の事前及び事後指導科目として、「介護総合演習Ⅰ～Ⅳ」を2年次前期から3年次後期に配当している。「介護総合演習」では、グループ演習を通して、実習施設の法的根拠や目的、人員配置、利用者像、サービス内容などの理解を目指すほか、実習後のフィードバックを行う。介護過程の展開を目的とする「介護実習Ⅲ」の終了後に開講する「介護総合演習Ⅲ」では、実習で展開した介護過程をもとに、ケーススタディを行い、受け持ち利用者の状況や状態に応じた、学問的・科学的根拠に基づく介護のあり方の視点を養う。また、この成果を「介護総合演習Ⅲ」の授業で発表し、ケーススタディ報告書としてまとめることで、情報の共有や介護のあり方についての学びを深める。

⑥介護技術科目【佐藤 富士子】

介護は生活能力が加齢や障害によって低下し、今まで自分で出来ていたことが出来なくなると言う変化が生じることで必要とされる職業である。介護は人の役に立つことを目指した実践学としての学問です。実践力を身につける科目が生活支援技術であり介護技術で、介護福祉士養成カリキュラムの中では中核となる科目です。単なる手順として身につけていくものではな

く、生活における人の基本動作を理解し、加齢や障害でその動作が出来なくなった場合どのような支援をしていけばよいのかを具体的に考え、判断する、行動できることを目指す。

1 年次後期に、家政学（栄養調理・被服）に関する科目のほか、利用者の「起き上がる」「座る」「立ち上がる」「歩く」といった日常生活の基本動作や介護動作の基本を中心に学ぶ。2 年次は、移動・更衣・食事・排泄・清潔等に関する生活支援技術を学び、3 年次は、心身の状態や生活環境に応じたケアやターミナルケアを中心に学んでいる。当科目は複数教員が同時に指導に入るため、授業担当教員間でズレのないように教授内容や方法について事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業の質の向上に努めている。授業では、講義で習った理論に基づく根拠を踏まえ、学生が利用者、介護者、観察者の立場から介護技術を実施・評価し、考えて実践する力を高めている。

さらに、この科目のつながりは 1 年次から 3 年次までの配当年次に予定されている介護実習（一年次春、2 年次夏季・春季、3 年次夏季）での実践であり、介護行為に含まれていることが利用者さんに対し、Dignity（尊厳的観察）、Risk（リスク回避的観察）、Independence（自立的観察）、Physical（身体的観察）の 4 つの観察力を持って行っていることを理解できるようにすることが目標である。

4）地域連携プロジェクト

①多摩地域障害者雇用企業連絡会との連携による T ボール交流大会【小川 浩】

平成 29 年 4 月 29 日（土）、大妻女子大学多摩キャンパスにおいて約 800 人の参加者を得て開催された。障害者雇用を積極的に行っている多摩地域の 19 社 25 チームが参加、身体障害や知的障害のある各社の従業員が T ボールを楽しんだ。各チームに大妻女子大学の学生ボランティアが加わり、一緒にプレーをしたり応援をしたりして大会を盛り上げた。



②7 号館（旧人間関係学部棟）における焼き菓子・パン等の販売【小川 浩】

7 号館（旧人間関係学部棟）の 1 階ホールで、社会福祉法人由木かたくりの会・ぷらさ.De. かたくり、NPO 法人どんぐりパンと人間福祉学科の学生が協働して、障害者福祉施設で作ったパンやクッキー、パウンドケーキ等の販売を行った。これは 5 年目に入る事業であり、毎週木曜日の昼休みに人間関係学部ホールで学生と障害のある人が一緒に販売していることが当たり前の景色になっている。学生にとっては身近な場所でパンや焼き菓子等を購入でき、福祉施設にとっては売り上げが障害者の工賃向上につながり、相互にとってメリットがある。売り上げ増のためにポイントカードを発行するなど新たな試みも行った。



③地域の福祉施設との交流事業【小川 浩】

人間福祉学科の学生が障害者福祉施設町田福祉園を訪問し、施設内で作業を体験したり、一緒にレクリエーションを体験するなどの交流を行った。さらに、町田福祉園の作業で作られた作品や、学生が企画したハンガーを毛糸で装飾した作品を学園祭で販売することを試みた。



④「誰もが子どもを見守り隊プロジェクト～小さな力で共同しよう～」【藏野 ともみ】

本プロジェクトは、5年前の平成25年度から始まり、児童虐待防止啓発活動の枠に留まらず、子育て支援を前提に大学生として何ができるかを考え取り組んできた。

今年度は、「知ること」「伝えること」「活動すること」の3つの柱の下、これまでの活動を継続することに加え、地域の機関と共に活動することや、大学祭を利用して体験企画を実施することに新たに取り組んだ。

継続している活動としては、「誰もがスマイル宣言」というメッセージツリーの作成、中学校や高等学校、障害者施設を訪問し啓発活動を行うことを実施した。また、虐待通報が誤りで孤立に追いやられた母親、病児や障害児を抱える家族の孤独等について当事者の話を伺うことに加え、新たに虐待対応の最前線と言える救急病院の医療ソーシャルワーカーにその実態と支援者の役割についてお話を伺った。

虐待の誤報により子育ての孤立や新たな虐待が生まれることもあること、病気や障害のために配慮が必要な子どもたちの子育ての戸惑い、支援を行う専門職や機関の葛藤等について知ること、児童虐待について多面的に捉える必要性について考える機会となった。

今年度の新たな取り組みとしては、多摩市社会福祉協議会主催で行われた多摩福祉フェスタ2017に参加し、来場者へのオレンジリボン配付を行った。また、千代田



区と協働して東京駅八重洲口で行われた児童虐待防止啓発活動に参加し、通行人にオレンジリボンやリーフレットを配付した。

また、大学祭において、リボン配付やメッセージツリー作成だけでなく、ベビーカーを押して頂き、段差を超えたり、荷物を運んで貰うなどの体験企画を行い、来場者と一緒に街中や電車等での大変さを学ぶ機会を設けた。

これらの活動の中で「私は何をしたらいいの？」と尋ねてくださる方々とお話しできたのは大きな収穫と喜びとなった。また、活動を通じて、自分たちにできることは何か、日常的の中で気づいていくことの大切さを考えるきっかけとなった。



(1) 人間福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた（ただし、助教（実習担当）についてはⅠ・Ⅲのみとした）。

①井上 修一

Ⅰ. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

①平成29年度 大妻女子大学 FD研修会に参加

i 日時：平成30年1月25日（木）14：30～15：50

ii 場所：多摩校 7114 教室

iii 内容：良い講義の条件とその実践 ―いくつかの授業事例に学ぶ―
森和夫氏（株式会社技術・技能教育研究所代表取締役）

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

i. テキスト：『介護福祉士国家試験解説集』中央法規、2018年

執筆担当：「人間と社会」「社会の理解」を分担執筆した。

授業名：本学科では当該科目なし。

内 容：

担当した章では、国家試験の科目である「人間と社会」「社会の理解」を担当した。「社会の理解」では、日本国憲法をはじめとするわが国の法制度の歴史、憲法の中でも生存権の理解、福祉六法の成立過程、障害者自立支援法の成立年、社会福祉法のポイントなどを解説した。

また、「人間と社会」では、軽度認知症のある方の事例問題解説、社会福祉士及び介護福祉士法に定める義務規程と、日本介護福祉士会の倫理綱領に基づいた解説を行った。作成した教材は授業等で知識を確認するために活用した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

i. 「成年後見制度」の授業において、多摩市消費者生活センターの相談員を招き、多摩市における消費者被害の実態と対応策について講義してもらった。この取り組みは、今年で年目に入り、消費生活センターも今後継続して連携することを検討している。学生にとっては、多摩市の消費者被害の実態を知るだけでなく、社会資源を知るうえで意義があった。

ii. 相談援助実習・非常勤巡回指導講師との打ち合わせ

相談援助実習事前・事後指導場面において、2人の非常勤巡回指導講師と連携しながら学生指導を行った。担当学生が所属するクラスへの参加、事前面接、巡回指導、実習発表会への参加など、一貫して関わる機会を持ったことが充実した指導につながった。

②上野 優子

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・日本体育学会 68 回大会
日時：平成 29 年 9 月 8 日（金）～10 日（日）
場所：静岡大学
内容：「保育者の運動指導能力向上を目指した『愉しくわかる』教材づくりに ICT を活用する試み—2 面同時再生ができる映像教材の利便性—」について、発表ならびに情報交換を行った。
- ・第 72 回日本体力医学会大会
日時：平成 29 年 9 月 16 日（土）～18 日（月）
場所：松山大学
内容：「ネットワークカメラの利便性に着目した高齢者が行うポールウォーキング実施前後の歩容分析」について、発表ならびに情報交換を行った。
- ・第 76 回日本公衆衛生学会
日時：平成 29 年 10 月 31 日（火）～11 月 2 日（木）
場所：鹿児島県文化センター
内容：「鹿児島県 I 市で開催したポールウォーキング教室から予見する参加意欲の向上条件と提案」について、発表ならびに情報交換を行った。
- ・Australian Association of Gerontology 50th AAG CONFERENCE
日時：平成 29 年 11 月 8 日（水）～10 日（金）
場所：CROWN PERTH WESTERN AUSTRALIA
内容：ポスター発表ならびに情報交換を行った。
- ・東京都レクリエーション研究大会参加
「みんなのスポーツ・レクリエーションフェスティバル」
日時：平成 29 年 12 月 3 日（日）
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
内容：「レクリエーションとオリンピック・パラリンピック」における基調講演、その後 4 分科会別の研修会に参加し情報交換を行った。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・文部科学省指定の体力測定の実施に関する資料について、本学の学生向けに作成した。
- ・低負荷による筋力トレーニング（無酸素運動）の充実に向けて、女子大学生用にアレンジした。
- ・有酸素運動の充実に向けて、ノルディックウォーキング用ポールを導入した。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・前期の猛暑時は、屋外はもとより体育館内もかなりの高温となるため、脱水状態にならないように特段の配慮を要する。温湿度計の設置は必ず行うようにしている。また、総合グラウ

ンドの人工芝については、地面の温度が 50 度を超えることもあるので、中高の体育教員とも連携をとり、お互いに注意を促すようにしている。

③小川 浩

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・人間関係学部 FD 研修会に参加した。
- ・大妻女子大学多摩キャンパスを会場にジョブコーチ養成研修を平成 29 年 2 月と平成 30 年 2 月に開催した。学生もボランティアとして関わることで、障害者就労支援について学ぶ機会となった。
- ・高等教育評価機構が主催する大学第三者評価に関わる研修会に参加した。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・障害者支援と障害者自立支援制度 I・II では、例年通り、授業で使用する PPT をリニューアルした。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・manaba でプリントを配布し、予習・復習をしやすくした。
- ・障害者支援と障害者自立支援制度 I では、障害者福祉を身近に感じてもらうため、障害者福祉施設で働く卒業生を 2 回、ゲスト講師として招いて実際の仕事の様子を伝えてもらった。

④藏野 ともみ

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- 1) 平成 29 年度社会福祉士実習演習教員講習会「相談援助演習方法論Ⅱ」講師として参加

日時：平成 29 年 8 月 8 日（火）

場所：日本社会福祉士養成校協会事務局（東京都品川）

内容：本事業は、社会福祉士及び介護福祉士法に則り、日本ソーシャルワーク教育学校連盟が実施している「社会福祉士養成に関わる相談援助演習担当教員及び相談援助実習担当教員の講習会」である。今年度も「相談援助演習方法論Ⅱ」の講師を担当した。教授法の講義及び事例を用いた 4 パターンの授業展開、15 回（90 分×15 回）と 75 回の授業シラバスを提案し、演習の教授法を中心に、実習や講義科目と関連づけた展開方法や学生指導の工夫点とポイントについて提示した。

- 2) 平成 29 年度認定社会福祉士特別研修(集合研修)に講師として参加

日時：①平成 29 年 7 月 8 日（土）～9 日（日）、平成 29 年 9 月 9 日（土）

②平成 29 年 10 月 14 日（土）～30 日（日）、平成 29 年 12 月 24 日（日）

③平成 30 年 1 月 20 日（土）～21 日（日）、平成 30 年 3 月 10 日（土）

場所：①TKP 大阪堺筋本町カンファレンスセンター（大阪府）

②TFT ビル・全理連（東京都）、③タイム 21（東京都）

内容：本事業は、2007 年の社会福祉士及び介護福祉士法改正の際に付帯決議で示された専門社会福祉士に関わる研修であり、認定社会福祉士認証・認定機構が主催するものである。今年度は日本社会福祉士会が実施する研修に講師として参加した。「社会福祉実践における価値—知識と実践の融合—」の講義、及び演習「ピアスーパービジョンの手法を用いた事例検討」のファシリテーターとして参加し、受講者への助言・指導、認定審査を行った。本事業は経過措置であり、今年度で終了する。来年度からは正規ルートでの研修が行われることになっている。現在、認定社会福祉士認証・認定機構において正規ルートの研修内容等について検討する委員として活動している。今後は、本学卒業生も多く対象となってくることが考えられ、専門職卒後教育の一端を担いたいと考える。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 講義・演習・実習等、担当している科目全てにおいて、毎年オリジナルのレジメをバージョンアップし、授業のオリエンテーションの段階で全部を配布している。それらに加え、必要に応じて別途追加プリントを配布した。事前に配布することで、学生が全体を理解した上で学習スケジュールを立てることを促し、復習及びレポート作成の進め方を指示することをねらいとしている。また、オリジナルの小テスト等は翌週には学生に返却するように細かく採点とコメントをするように心がけている。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 相談援助技術に関わる演習科目の研究会の実施

他大学の教員と教授方法や教材についての研究会を実施している。今年度は、実習前後の学生自身の実践力に関する自己評価について、スケール開発を目的として検討を行った。参加者は8名で、平成29年9月23日（土）、24日（日）に大妻女子大学で行った。

- 2) 精神保健福祉援助実習に関わる実習指導者との連携

学生の配属実習前に、全実習指導者（スーパーバイザー）に対して、実習生の大学での指導状況や学生の課題について、書類及び対面での個別打ち合わせを行った。また、実習先主催の打合会に参加し（6/2：埼玉精神神経センター、6/10：豊芯会）、他大学の教員及び学生、施設職員及び当事者の4者での打ち合わせ・見学を行った。

⑤嶋貫 真人

I．企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・7月21日（金）全学FD研修会 「大妻学院の目指すもの」に参加
- ・12月9日（金）学部FD研修会 「授業をより良くするためのTips（その3）」を企画し、参加
- ・1月25日（木）全学FD研修会 「よい講義の条件とその実践」に参加（以上、学内）

- ・7月12日（水）弁護士と保健・福祉職との合同勉強会「改正個人情報保護法と介護における個人情報の扱い」に参加。福祉現場実習での利用者の個人情報の扱いについて、意見交換を行なう。
- ・9月9日（土）埼玉県社会福祉士会の勉強会に講師として参加「生活困窮者自立支援法の課題」。この新しい制度についての指導法をめぐって、実習先指導者と意見交換を行なう。
（以上、学外）

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・「社会福祉学セミナーⅠ～Ⅳ」では、昨年度に引き続き、社会保障の各領域から題材をとった初学者向け教材の増補・改訂作業を行ないました。このプリントは、当該テーマに関する問題の所在を提示するための資料であると同時に、末尾にいくつかの設問を置いてゼミでの活発な議論を促す効果もねらっています。福祉系学部生のために、法学初学者にわかりやすく、なおかつ学生の興味を引きそうなテーマを用いた教材となるよう心がけているものです。
- ・社会福祉士国家試験を受験する学生のための模擬問題とその解説（更生保護・福祉行財政）について、最新の出題傾向をふまえた改訂を行ない、あわせて受験対策講座の授業を実施しました。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・講義形式の授業においてはほぼ毎回レジュメを配布し、授業の理解を助けるとともに、学生の復習の便宜となるように配慮しました。
- ・manaba を利用して学生からの質問や意見を受け付け、双方向の授業となるよう工夫しました。

⑥丹野 真紀子

Ⅰ. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 学部 FD 研修会に参加

開催日：2017年12月8日（金）

テーマ：授業をよりよくするための Tips

第3分科会で「授業をよりよくするためのちょっとした工夫」の発題者を担当した。小テーマを①manabaを使わず宿題をやってきてもらう方法、②コメントの活用、③PPの活用、④板書の活用、⑤新しいトピックをどう伝えるかとして報告し、参加者の皆様から様々な意見を頂き参考になった。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 授業で用いるための教材、配布資料を改定した。当該科目は、「社会福祉援助技術論Ⅱ-A」「社会福祉援助技術論Ⅱ-B」「社会福祉援助技術論Ⅲ-A」「保健医療サービス」の4科目である。社会福祉援助技術論の科目では、なるべく最近の現状に合った事例を提供するため、新しい事例を加えたり、既存の事例を制度改正に合わせて修正・加筆することを行った。また、「保健医療サービス」では、統計データや法令の改定及び廃止等への対応も行った。

レジメの使用は、教科書だけでは理解できない対人援助の実際をよりリアルに理解できるようにするために効果的であると考えている。

- 2) すべての授業で、毎回フィードバックを書かせている。その用紙に書かれていた質問について次の授業で取り上げ、その質問に対する資料を別に作成し配布している。これを行うことで、前回の授業の復習にもなり、学生自身、自分の苦手分野に気付くようである。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 学生に課した個別課題に関しては、manaba の活用と直接提出の併用を試みた。学生の選択に任せたこともあり、多くの学生が時間通りに提出できていた。また、課題については全員にコメントをつけて返却した。それにより、学生自身、できない項目の理由がわかり、再提出の際、かなりの改善が見られた。
- 2) 社会福祉援助技術論と相談援助演習の関係は深い。担当していない相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴの授業進行状況を把握し、学生が演習と理論とを関連して学べるよう意識した。それぞれの担当者から、演習の進み具合や、演習で学生が困っている点などを伺った。そのうえで、講義の中で理論的に説明し、この理論と演習の意味を伝えることで、ソーシャルワークを机上の理論として理解するのではなく、身近に活用する技術として理解することができたと思う。
- 3) 相談援助演習Ⅲでは、共通シラバスを作成し、教育内容の共通化、授業展開の共有化を試み、学生がどの教員が担当することになっても一定レベルの教育の質を確保できるよう調整した。
- 4) 相談援助実習事前指導、事後指導においては、学生の個別作業も多く、学生間の格差が見られた。そのため、授業外でも学生が自由に相談できる場を提供し、学生の個別作業がしやすく、また、学生自身の力で乗り越えられるようサポートした。これにより、学生は自分で考えることの重要性、時間はかかってもできるという自信をつけ相談援助実習に臨むことができたと言っていたので教育的効果は高かったと思われる。
- 5) ソーシャルワークの理論を理解するためには事例による全員参加の学習を目指した。事例の見方、問題点の整理の仕方を学生自身が考え、多くの学生に板書してもらうことを通して、全員参加の事例研究となった。これは、社会福祉現場などの実践で活用することも意識している。

⑦松山 博光

Ⅰ. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

①第1回 SD・FD 研修会

日 時：平成 29 年 7 月 21 日（金）午後 4 時 30 分～午後 6 時 00 分

講 師：伊藤正直 理事長・学長

テーマ：『大妻学院の目指すもの』

場 所：多摩キャンパス 7 号館 1 階 7114 講義室

②2017 年度人間関係学部 FD 研修会

日 時：平成 29 年 12 月 8 日午後 5 時 00 分～午後 7 時 00 分)

テーマ：『授業をよりよくするための Tips—その 3—』

場 所：第 1 分科会（人間関係学部 7384 教室）：「牧野智和／manaba の効果的な活用法」

③平成 29 年度後期 FD 講演会

日 時：平成 30 年 1 月 25 日（木曜）14：30～15：50

講 師：森 和夫（株式会社 技術・技能教育研究所）

テーマ：良い講義の条件とその実践～いくつかの授業事例に学ぶ～

場 所：多摩キャンパス 7 号館 1 階 155 講義室

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

前年度と同じく、全授業・演習・実習において新たな資料やデータを組み入れた教材を作成した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

専門科目では、学生の教室外の事前・事後学習として「講義ノート」を作成させて理解度を深めさせた。

⑧平野 貴大

Ⅰ. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) IT ヘルスケア学会への参加および発表

開催日 2017 年 5 月 27 日・28 日

場 所 名古屋医療センター附属名古屋看護助産学校

テーマ IT ヘルスケアのこれから ～在宅、災害対策から AI まで～

内 容 医療分野の情報化の流れの中での介護との連携のあり方や方法論について、医療分野、情報通信分野の専門家と意見交換を行った。合わせて、「医療・介護連携における課題～情報共有における言葉に着目して～」と題して、医療介護連携に関する発表を行い、多方面からの意見などを受けた。

2) 日本コミュニティ心理学会 第 20 回記念大会の運営

開催日 2017 年 7 月 1 日・2 日

場 所 上智大学

テーマ パラドックスの中を生きる

内 容 日本コミュニティ心理学会の大会の運営について、事務局長として全体の運営マネジメントに携わった。また、コミュニティへの介入などを含めたアプローチの方法論などについて、心理、福祉その他の専門家・研究者と意見交換を行った。

3) 日本コミュニティ心理学会研究委員会ワークショップへの参加

開催日：2017 年 8 月 19 日

会 場：広島県広島市安佐北区可部地域

内 容：写真投映法を用いた、相互の価値観などに関する相互理解を深める方法論を実践的

に学ぶワークショップに参加し、その内容等について意見交換を行った。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 相談援助実習における教員と実習助教の連携

社会福祉士の相談援助実習について、実習事前指導から事後指導まで一貫して担当教員とともに学生の状況等の情報共有、各種指導などを行うことにより、学生が実習で多くの学びが得られるような体制を整えた。

(2) 介護福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた（ただし、助教（実習担当）についてはⅠ・Ⅲのみとした）。

①尾久 裕紀

Ⅰ. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 第113回日本精神神経学会学術総会に参加

日時：平成29年6月22日～6月23日

場所：名古屋国際会議場

2) 第24回日本産業精神保健学会に参加

日時：平成29年7月1日

場所：杏林大学

3) 東京精神医学会主催第25回生涯教育研修会に参加

日時：平成27年7月8日

場所：帝京大学

4) 第14回日本うつ病学会総会・第17回日本認知療法・認知行動療法学会に参加

日時：平成29年7月21日

場所：京王プラザホテル

5) 日本精神神経学会 ECT・rTMS 等検討委員会主催 第8回 ECT 講習会に参加

日時：平成29年9月2日

場所：TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター

6) 第8回司法精神医学研修会に参加

日時：平成29年9月2日

場所：名古屋栄ガスビル

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

毎回オリジナルプリントを作成し、配布した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) manaba を活用し、オリジナルのドリルを作成し、実施した。

2) 授業の初めに前回範囲の確認テストを実施した。

3) 授業の積極的学びを推進するための工夫を試みた。（参考図書、文献の紹介など）

②金 美辰

I.「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 対人援助学会第9回大会

日 程：2017年11月4日（土）・5日（日）（1日目 11:00～19:00、2日目 9:00～16:10）

テーマ：危機の時代のヒューマンサービス―地域と対人援助―

会 場：立命館大学（衣笠キャンパス） 敬学館2階

2) 全学FD研修会「大妻学院の目指すもの」

日 時：2017年7月21日（金）

場 所：大妻女子大学

3) 学部FD研修会「授業をより良くするためのTips（その3）」

日 時：2017年12月9日（金）

場 所：大妻女子大学

4) 全学FD研修会「よい講義の条件とその実践」

日 時：2018年1月25日（木）

場 所：大妻女子大学

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

授業では、レジュメを作成・配布している。授業と関連のある新しい制度の社会の動向等については、別途プリントを配布しています。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

授業でフィードバックペーパーを活用し、個々の学生の理解度や知識、意識レベルを確認しながら授業に取り組んでいます。介護総合演習Ⅰ・Ⅱの授業では、教員間で教える内容にズレがないように、事前に打ち合わせを行い、授業後にも教員間で振り返ることで、連携しながら授業の質向上に努めています。社会福祉学セミナーでは、在日外国人の集住地域で住民と交流するし、多文化共生のあり方について理解を深めました。また、学生と一緒に、一日デイサービスを企画・実施することで、地域の高齢者と交流し、高齢者の現状を把握するほか、企画力や実践力を身につけられるように努めました。

③佐藤 富士子

I.「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

<企画>

11月：日本介護福祉学会関東ブロック研修を京都大学安里先生の研究室と共催し企画運営をする。当日司会を担当「高齢者ケアはどう変わってきたか：台湾とドイツにみる制度と人材育成」台湾の前台湾政衛生福利部政務次長の李玉春氏とドイツ在住の吉田恵子氏、安里和晃氏が登壇。

<参加>

7月：介護福祉士養成大学連絡協議会全国研修に参加「大学で介護福祉士を学ぶことの意義

～介護福祉士養成大学連絡協議会として介護人材教育の方向性をどう考えるか」

11月：介護福祉士養成協会主催全国教職員研修会「“あらためて介護を創造する”未来を見据えた介護の専門性～表現する・発信する・つながる～」

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

高齢者施設あるいは在宅においてケアを実践している介護職向けに、現場で役立つはや引きして活用できる「介護用語辞典」と「介護の医学知識―ハンドブッカー」の2冊を監修。介護福祉士養成においても十分利用可能である。

④山本 真知子

I．「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

大妻女子大学 FD 研修会「良い講義の条件とその実践 ―いくつかの授業事例に学ぶ―」

1/25に行われた、学内のFD研修会に参加した。講義形式の授業の方法を学ぶことができた。基本的な教授方法に加え、さまざまな取り組みを学ぶことで、自らの講義を見つめなおすことができた。来年度以降の講義に活かしていきたい。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

主に今年度は、毎回の授業のレジュメを作成した。そのほかに、ミネルヴァ書房の教科書を『施設実習指導』や中法法規出版『社会的養護』について執筆した。児童分野の実習指導や児童福祉の講義に活用していきたい。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

大妻女子大学に着任して2年目ということもあり、1年目の授業の反省を生かすとともに、学生の理解度や関心興味を引き出すため、授業や学年によって授業の方法を変えた。今年度は後期の講義形式の授業を産休のため受け持つことができなかったため、相談援助実習指導等の演習形式の授業の中でロールプレイを行ったり、グループ作業を行ったりすることで、授業を展開した。

⑤武山 美子

I．「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 第24回全国大会／第15回日本介護学会 in とやま

開催日：平成29年7月15日（土）、7月16日（日）

場 所：1日目・2日目 富山県民会館

内 容：「介護福祉士のより高い専門性を目指して」「～自律・自立を促進する介護とは」をテーマに開催。認知症ケアについての公開シンポジウム「認知症の人が住み慣れた地域で、場所で暮らし続けるために」及び2日目の各研究発表分科会に参加する。

2) 東京都高齢者福祉施設協議会 人材対策委員会

介護福祉士養成校と高齢者施設の意見交換会

開催日：平成 29 年 8 月 18 日（金）

場 所：飯田橋セントラルプラザ地下 1 階 会議室

内 容：(1) 都内の福祉人材の状況に関する意見交換、(2) 今後の取り組みについて
外国人技能実習生の動向について（議題 1）資料の説明後、オブザーバーとして講師を迎え各出席者との意見交換および情報交換を行う。

3) 第 25 回日本介護福祉学会大会

開催日：平成 29 年 9 月 30 日（日）、10 月 1 日（日）

場 所：岩手県立大学

内 容：災害と介護のこれから一被災地における介護が果たす役割一をテーマに開催、東日本大震を改めて振り返り、復興の状況を示しながら、被災地における介護果たす役割を考え、災害と介護を共有することが趣旨とした大会。1 日目、2 日目大会企画シンポジウム、各分科会に参加する。

4) 介護福祉士養成施設協会 平成 29 年度 全国教職員研修会

開催日：平成 29 年度 11 月 19 日（日）～21 日（火）

場 所：1 日目 大阪城南女子短期大学、2 日目 BIG - i 国際障害者交流センター

内 容：あらためて介護を創造する未来を見据えた介護の専門性～表現する・発信する・つながる～をテーマに開催。1 日目介護創造力コンテストプレゼンテーション（学生たちによる介護過程の展開を発表）と講演 「新しい介護福祉士の養成について」、2 日目厚生省最新情報をテーマにした基調講演と分科会「地域包括ケアに求められる介護福祉士の専門性」、3 日目シンポジウム“外国人介護福祉士養成と専門機関との連携”に参加する。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 「相談援助実習事前指導」、相談援助実習（児童・地域分野）における連携と取り組み

事前指導において、担当教員のご指導のもと実習先への提出書類の確認、実習指導者への依頼と調整、学生指導を行った。

2) 介護実習指導における教員との連携と取り組み

介護福祉学専攻の教員のご指導、助言のもと、実習における指導、実習報告書作成の指導を行った。

⑥古市 孝義

I. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 社会福祉士 演習担当教員講習参加

開催日：平成 29 年 8 月 1 日（火）～平成 29 年 8 月 4 日（金）

場 所：東京都漁連会館

内 容：厚生労働省令に定められた社会福祉士の養成課程における演習担当教員の要件を満たすために参加。

2) 平成 29 年度 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

関東信越ブロック教員研修会

開催日：平成 29 年 9 月 29 日（金）

場 所：オークラフロンティアホテルつくば

内 容：「望まれる日本の高齢福祉と新たな介護教育の在り方」についての研修。国家試験対策についての参加各校の取り組みについての意見交換。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

生活支援技術における演習補助

介護福祉学専攻の教員の指導、助言のもと、実技演習の為の物品準備、演習補助を行う。実習室物品等の管理・点検・補修を行う。

1) 介護実習事前・事後指導及び巡回指導

介護実習入門～Ⅳに向けた実習目標立案の助言・指導、実習巡回指導、実習施設との連絡調整、実習報告書作成に際しての指導を行った。

2) 実習に関する意見交換会

施設実習意見交換会・懇談会に参加。現在実習施設として配属している施設と、現在は配属していない施設に参加し、今後の実習配属や実習の取り組みについて意見交換を行った。

⑦山田 真由美

I. 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

1) 平成 29 年度 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

関東信越ブロック教員研修会

開催日：平成 29 年 9 月 29 日（金）

場 所：オークラフロンティアホテルつくば

内 容：「望まれる日本の高齢福祉と新たな介護教育の在り方」についての研修。国家試験対策についての参加各校の取り組みについての意見交換。

2) 第 65 回日本社会福祉士会全国大会

開催日：平成 29 年 10 月 22 日（日）

場 所：首都大学東京南大沢キャンパス

内 容：『「包摂型社会」への提言一人ひとりの生の剥奪と再生』をテーマとして開催。実習教育、司法福祉の口頭発表に参加した。

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 生活支援技術における演習補助

専任教員の指導、助言のもと、実技演習の為の物品準備、演習補助を行う。実習室物品等の管理・点検・補修を行う。

2) 介護実習事前・事後指導及び巡回指導

介護実習入門～Ⅳに向けた実習目標立案の助言・指導、実習巡回指導、実習施設との連絡調整、実習報告書作成に際しての指導を行った。

3) 相談援助実習事前・事後指導及び巡回指導

専任教員の指導、助言のもと、相談援助実習に向けた実習目標立案の助言・指導、実習巡回指導、実習施設との連絡調整、実習報告書作成に際しての指導を行った。

IV 保護者懇談会

平成 29 年度も、前期は千代田キャンパスで開催される千鳥会で、後期は多摩キャンパスで開催される大妻多摩祭の 1 日目に保護者懇談会が行われた。

I. 千鳥会での保護者懇談会

平成 29 年 6 月 3 日（土）に、本学学生の福利厚生と教職員の教育研究を支援することを目的に、学生の父母及び保証人と本学教職員で組織される「大妻女子大学千鳥会」の「総会」が千代田キャンパスで行われた。「総会」に引き続き、教育評論家・尾木直樹さんを招いた講演会「尾木ママ流 7 つの人生力～ありのままに今を輝かせる力～」、父母と教員の交流を図ることを目的とした「保護者懇談会」が開催された。

1. 千鳥会保護者懇談会 人間関係学部学科別保護者出席者数

人間関係学科：47 名

人間福祉学科：40 名

学部合計：87 名

2. 千鳥会保護者懇談会 人間関係学部学科別教職員出席者数

人間関係学科：13 名

人間福祉学科：5 名

学部合計：18 名

3. 人間関係学部保護者アンケート結果

○参加保護者の内訳

父親：9 名

母親：56 名

父と母：12 名

その他：3 名

○場所について

良い：75 名

悪い：1 名

その他：1 名

未記入：1 名

○時間について

適当：64 名

長い：0 名

短い：0名
未記入：3名

○内容

適当：58名
不適當：0名
未記入：9名

○保護者の意見

- ・時には多摩キャンパスでも実施してほしい。

4. 講演会について

○時間

適当：47名
長い：1名
短い：23名
その他：1名
未記入：4名

○内容

適当：60名
不適當：0名
未記入：16名

○保護者の意見

- ・時間を気にせず、講演できるようにしてほしい。
- ・具体的な例をあげて、もう少し具体的に話してほしい。
- ・もう少し聞きたかった。時間が短かった。
- ・楽しかったが、期待とは違った。
- ・3階の席は聞こえづらかった。
- ・来年も引き続きお願いしたい。
- ・とても分かりやすく、子どもの良いところを延ばせるような内容で良かった。

5. 懇談会について

○時間

適当：45名
長い：2名
短い：0名

その他：0名

未記入：6名

○内容

適当：39名

不適当：0名

未記入：14名

○保護者の意見

- ・先生方が細かく話してくれた。
- ・学生の様子が聞けて良かった。
- ・授業の進め方がよくわかった。
- ・とても良かった。
- ・来年も参加したい。
- ・担任の先生がいなかったため、あまり相談ができずに残念だった。
- ・ゼミ担当教員に会えて嬉しかった。
- ・先生方に会えて良かった。

Ⅱ. 多摩キャンパスでの保護者懇談会

大妻多摩祭の1日目に、以下のようなプログラムで行われた。

プログラム

平成29年10月28日（土） 大妻女子大学多摩キャンパス

①保護者のための就職講演会 13：00～14：30 2322 大講義室

テーマ

「女性の活躍推進と就職活動～意外なところで活躍する卒業生に聞く～」

参加パネラー

平成26年度社会情報学部卒業 キャノンシステムアンドサポート株式会社

平成27年度社会情報学部卒業 東京急行電鉄株式会社

平成28年度人間関係学部卒業 法務省矯正局

平成27年度人間関係学部卒業 株式会社岡三リビック株式会社

インタビュアー

平成20年度社会情報学部卒業 三菱総研 DCS 株式会社

②保護者懇談会 15：00～（受付14:30～）

会 場：人間関係学部棟

14：30～ 受付 1階ラウンジ

15：00～ 全体懇談会（学部長挨拶、学科長挨拶）1階 7127 教室

15：30～ 専攻別懇談会（以下の教室に分かれ開催した）

■社会学 2階 7247 教室

■社会・臨床心理学 2階 7214 教室

■人間福祉学 1年 3階 7318 教室

■人間福祉学 2,3,4年 3階 7338 教室

■介護福祉学 3階 7315 教室

1. 人間関係学部学科別保護者出席者数

保護者懇談会

社会：36名

心理：28名

福祉：73名

介護：7名

学部合計：144名

2. 人間関係学部学科別教職員出席者数

社会：7名

心理：6名

福祉：7名

介護：3名

共同研究室等教職員：10名

学部合計：33名

3. 参加者アンケートから

1) 全体懇談会

- ・初めて大学側の先生の話しが聞けてよかった。
- ・人間関係学科の福島先生が学生や先生方の雰囲気を伝えてくれたことが素晴らしかった。大学生活はトレーニング期間との話しは参考になった。発信力を伸ばしてやれるような環境を家でも作ってやらねばと思った。学生を含め、多摩キャンパスを大切に考えてくれる小川先生の言葉もありがたかった。
- ・人間関係学部のみが多摩キャンパスに残るため心配していたが、本日父母懇談会に参加して安心できた。
- ・多摩キャンパスという自然あふれる環境の中で先生方に4年間育ててもらい、学べたことが良かった。安心して子供を預けられた4年間だった。
- ・人間関係学部の現状を知ることができた。これからも共生社会に対応していけるよう、家庭でも発信力を高めていきたい。

- ・人間関係学部で学ぶ意味が良く分かった。自然にも人にも恵まれた環境で勉強が出来ることに感謝する。
- ・発信力を育てる。人間味のある教育をしてもらっていることに感謝する。学部の現状を知ることができた。
- ・学科ごとの学生の性格の話しが印象的だった。

2) 専攻別懇談会

- ・色々な話しが聞けて、出席して良かった。娘にも、就職活動を含め、多摩キャンパスに通って良かったと思えるような学生生活を送ってもらいたいので、更に素晴らしいアイデアで多摩キャンパスを盛り上げてほしい。
- ・来年度からの多摩キャンパスの取り組みや就職など、具体的な話を色々聴くことができて大変参考になった。
- ・内定するまで心配ではあるが、就職活動に関して知りたいことが分かった。
- ・OMAの問題点がとても興味深かった。自宅からは千代田キャンパスが近いため、来年度千代田キャンパスでも講座を受けられるとありがたい。
- ・担任の話しが聞けて良かった。安心して子供を預けることが出来ると思った。
- ・時間の使い方が良くない。全員の自己紹介は時間が勿体ない。
- ・時間が短過ぎた。最初から学年単位の方が良い。
- ・担任の紹介があり、良かった。各学年の保護者の自己紹介があり、色々な子供に対する気持ちが聞けて良かった。
- ・学部、学科の方向性や活動状況が分かり、改めて娘の学びを支援していく気持ちを固めた。また熱心な指導をしている事が分かり安心した。
- ・国家試験対策が良く分かった。
- ・国家試験に対する知識が無かったので、話が聞けて良かった。就職についても、自分たちの頃とは全く違っているので話しが聞けて良かった。
- ・就職セミナーを短くして、専攻別懇談会を長くしてほしい。
- ・時間がもっと多ければ良かった。他の保護者と交流があれば良かった。
- ・教員や他の父母たちと話しができて楽しかった。

3) その他

- ・2年生も英語を必修にして欲しい。
- ・多摩キャンパスの活気がなくなることが不安だったが、話を聞いて少し安心できた。
- ・110周年事業と言わず、大妻女子大学発信のシンポジウムや講演会を開催してほしい。
- ・終了時間を示して欲しい。
- ・国家試験を受けて、国家資格を必ず取得するように、大学から指示して欲しい。

V オフィスアワー

はじめに

オフィスアワーは、教員が学生の大学生活全般にわたる質問や相談を受けられるように研究室に在る時間である。学生は教員が設定している時間帯であれば、所属学科の教員だけではなく、どの学部、学科、専攻の教員の研究室を一人でもあるいはグループでも訪問してもよく、平成 16 年度から FD 活動の一環として導入し今年度で 13 年目を迎えた。

実施要綱の変更もなく平成 29 年度の実施要綱に表 1 の通りである。

表 1 平成 29 年度オフィスアワー実施要綱

活動目的	オフィスアワーは、学生の大学生活全般にわたる相談を通じて、学生がより良いキャンパスライフを送れるように支援する組織的な活動である。
相談内容	学生生活全般に関わる事柄であり、特別な制約は設けない。
対象者	本学の学生個人又はグループとする（学部・学科・専攻は問わない）
担当者	学生は、クラス指導主任やゼミ担当教員に限らず、人間関係学部の全専任教員（助手は除く）と相談することができる。
相談時間	①月曜日から金曜日までの 1 時限～5 時限、土曜日 1 時限～2 時限のうち、原則として 1 コマを相談時間に当てる。 ②指定時間外は事前予約により相談する。
相談場所	原則として各専任教員の研究室とする。
実施方法	①教員はオフィスアワーとして設定した時間内は研究室に在室している。 ②教員は、学生が安心して相談できるように事前説明を行ない、特別なことがない限り他に漏らさないことを説明する。
周知方法	①教員は、毎年講義開始時にオフィスアワーの利用を学生に伝える。 ②新年度毎に「人間関係学部オフィスアワー・スケジュール一覧表」を作成し、学生への配布および学部掲示板、各共同研究室掲示板に掲示する。 ③学部ホームページに実施要綱とスケジュール一覧表を掲載する。
FD 報告	担当教員は、オフィスアワーに関する意見・感想等を当該年度の FD 報告書に掲載するため、報告書（年度末に別途配布）を提出する。

1. オフィスアワーの結果

各教員のオフィスアワーとしている時間帯をみると、昼休み設定が最も多く、実施要綱では相談時間を原則 90 分となっているが、昼休みは 50 分しかないため、3 名の教員は週 2 回に昼休み設定していた。昼休み 1 回のみとなっている教員は、実施要綱の原則 90 分を見落としている、あるいは 90 分は必要ないと判断していることが予想される。

その他の時間帯にはバラつきがあったが、相談時間は 90 分（一コマ）の設定であった。

曜日別にみると表 2 の通りで、通年を通して火・水・木曜日が多く、月曜日は最も少なかっ

た。授業が入っていないことも要因の一つと考えられる。

表 2 オフィスアワーを設定している曜日と教員数 n=30

	月	火	水	木	金
前期	3 名	7 名	7 名	8 名	4 名
後期	1 名	6 名	7 名	9 名	5 名

オフィスアワーの内容を見ると、学生が自ら生活全般について教員の指導を希望してくるものが多く、履修した授業を受けることによって学生が所属する学部、学科、専攻にとらわれず、教員の専門性に関連する相談も多く見られた。また、指導が必要と判断した学生を教員が呼び出し、その時間を当てると言う例もあった。どちらにしてもオフィスアワーの時間は有効に使われていると思われる。

2. 各教員からの意見や感想について、「特に無し」という 2 名の回答を除き、次のような記述が 19 名からあった。

(井上 修一)

通年水曜日に設定しており、その時間をわかっていて来室する学生もいる一方、十分伝わっていない学生もいた。直接アポイントを取れない学生が、来室する場合の目安として活用されていると感じる。

(上野 優子)

科目の性質上、人間関係学部のみならず社会情報学部や部活動の学生が頻繁に出入りしている。施設使用についても管理しているため、押印の作業などに追われることもある。個別相談には、適宜、応じている。

(小川 浩)

例年通り、オフィスアワーに関わらず学生は質問や相談に訪れるが、こちらとしても、特にオフィスアワーに限定せずに対応している。

(尾久 紀裕)

授業に関する質問等はオフィスアワー以外でも受けていた。

(香月 菜々子)

オフィスアワー制度が学内で定着し、十分に機能していると実感する。本専攻の学生（学部生・院生）ばかりでなく、筆者が担当している全学共通科目の繋がりや、他学部他専攻の学生の訪問もあり、授業内容について質問を受けたほか、大学院進学についての相談を受けることもあった。運営上、現時点では週 1 回という頻度がちょうどよいと感じている。

(金 美辰)

オフィスアワーの時間だけではなく、学生がいつでも研究室を訪問し、相談しやすいように工夫しました。オフィスアワーの時間に相談内容を聞き、面談の時間を新たに設けて、学生が落ち着いてゆっくり相談できるようにしました。

(藏野 ともみ)

定期的に学業と家族のことで相談に来る学生がいた。また、心身の疾病のことで相談が多く、2年から4年生と幅広かった。学生はオフィスアワーを設定している時間を気にしていないようであったので、定期的な相談に来る学生をその時間に約束し、他の学生は空き時間等で行った。

(佐藤 富士子)

オフィスアワーで学生が問題や相談に来るのは、介護実習や福祉実習等実習に関連することが多い。実習中に職員から受けた言葉で自信を失ったり、褒められたことで自信を持ったり等々であるが、実習における巡回教員の役割が重要であることを感じる。

(嶋貫 真人)

オフィスアワーを意識してやって来る学生は、例年同様、ごく少数であったと思われます。

(高田 智恵子)

オフィスアワーの提示をしたことで1年生が心理学について聞きたいと来室した。かなり頻繁に来室したことでゼミ生とも交流し、卒論の協力をしてくれた。

(田中 優)

前期は、頻繁ではないが、学生の来室があった。授業の質問ということで来室するが、本来話したいことが別にあり、結局、授業の質問以外の相談事を話すパターンが多かった。後期は、オフィスアワーの時間に卒論指導を求める学生が多く来室した。

(丹野 眞紀子)

木曜日 4 限にオフィスアワーを設定しているが、多くの学生はオフィスアワーに関わらず様々な要件で研究室を訪問してくる。今年度は自らの将来にかかわる内容が多く、その場で対応するのではなく、別時間を設定し個別対応することが多かった。今後も、オフィスアワーに限定することなく、学生の個別性に合わせた対応をしていきたいと考えている。

(福島 哲夫)

今年もゼミ生を中心に多くの学生がオフィスアワーの時間に来室した。3～4年生はレポートと卒論や進路に関する相談も多く、オフィスアワーを通年昼休みに設定し、ちょうどその日の2限と3限にゼミがあるのでゼミの延長や、前相談として来室する学生が多かった。

(古田 雅明)

今年もゼミ生および担任学生（3 年 A クラス）、大学院生を中心に多くの人がオフィスアワーの時間に来室しました。今年は専攻主任兼大学院の教務委員として、公認心理師資格取得のための説明会を開催したため相談内容は履修に関する相談が例年より多くありました。

3～4 年生はレポートと卒論に関する相談も多くありました。オフィスアワーを通年昼休みに設定しており、さらに 2 限と 3 限にゼミがあるのでゼミの延長として来室する人が多い印象です。

(干川 剛史)

毎週火・木の昼休みに設定しているオフィスアワーに研究室を訪ねてくる学生は、2、3 名しかいなかったが、それ以外の曜日時間帯でも、学生が研究室に来れば、適宜対応している。

(堀 洋元)

必修科目や全学共通科目に前後する昼休みにオフィスアワーを設定し、授業時に定期的に周知した。その結果、時間外に質問や相談に来る学生が減り、十分に認知されているように感じます。

(本田 周二)

ゼミ生および担任学生（3 年 B クラス）がオフィスアワーの時間に来ることが多かったが、後期は、統計の授業に関する質問（1 年生）、卒論に関する質問（他ゼミ 4 年生）もいくつかあった。

また、オフィスアワー以外でもアポイントを取ってから研究室に来る学生に対して対応してきた。

(松山 博光)

予約なしの来室が目立つものの、メールによる予約と来談もあった。履修の単位不足への対応・退学（留学希望）の相談であった。

(八城 薫)

今年度は、2 年生の調査研究法に関する質問が多く、学生の熱心さが感じられました。

(山本 真知子)

2 年次の担任として、昨年度担任するクラスの授業とオフィスアワーの時間が授業で重なり、オフィスアワー時には授業があったため、来室する学生がほとんどいなかった。そのため、今年度も授業に配慮し来室しやすいようにした。他の学年の学生が相談しに来ることが多かった。担任クラスの学生は他の時間（お昼休みなど）で対応することができた。

基本的に研究室のドアに貼ってある在室・不在などの連絡用の紙の表示を必ず正確に示すように心がけ、在室している場合は学生にすぐに対応できるようにしていた。

3. 今後の課題

学生は教員が設定している時間帯であれば、所属学科の教員だけではなく、どの学部、学科、専攻の教員の研究室を一人でもあるいはグループでも訪問してもよいのがオフィスアワーである。教員からの意見や感想から、設定されている時間外でも学生が相談に訪問し学生が活用している状況が伺える。具体的な内容の報告は専攻により特徴的なものであったり、共通したキーワード（学業の不良、授業への質問）であったりしている。さらに、他学科、他専攻での教員間の連携の必要なケースがあったりし、学生の抱えている問題の複雑化が示唆され、より専門的な相談内容も含まれていた。

今後さらなる活性化を図るための一つの方法として、実施要綱にあるように 90 分を原則とした場合、昼休みの場合は週 2 回設定をすることで、より学生が相談できる機会を作るという考えもあるが、一方では原則 90 分が必要なのかという考えもある。特に面談方法ではなく、メール送信であったり等相談方法は多岐になっている。今後は実施要綱の見直しも含め、ホームページから容易に閲覧ができるようにするなど検討が必要と思われる。

平成29（2017）年度人間関係学部オフィスアワー [H29.3.14現在]

◆◆◆ 予約無しで教員の研究室を訪問して相談できる時間帯です。時間を確かめて気軽に活用してください。◆◆◆

月		火		水		木		金	
1	9:00	通年	八城薫					通年	香月菜々子
	10:30							10:30	
2	10:40			通年	小川浩	後期△	田中優	後期△	伊藤美登里
	12:10			後期△	山本真知子	前期◇	山本真知子	12:10	
昼休み		通年	荒井芳廣	前期◇	伊藤美登里	後期△	上野優子	通年	齊藤豊
			前期◇	上野優子	通年	井上修一	金美辰	前期◇	古田雅明
			通年	尾久裕紀	通年	高田知恵子	千川剛史	後期△	堀洋元
			通年	西河正行	通年	福島哲夫	堀洋元	前期◇	松山博光
			通年	古田雅明	前期◇				
			通年	千川剛史					
3	13:00	後期△	小谷敏	通年	佐藤富士子			13:00	
	14:30							14:30	
4	14:40	前期◇	小谷敏	通年	藏野ともみ	通年	久保田滋		
						前期◇	田中優		
					通年	玉井和博			
					通年	丹野真紀子			
5	16:10			通年	本田周二	通年	本田周二	16:10	
	16:20			通年	牧野智和	通年	牧野智和	16:20	
	17:50			通年	大出春江	通年	大出春江	17:50	
月		火		水		木		金	

月	日	曜日	時間等	時間帯	場所:7号館4F
1	9:00 10:30	通年	八城薫	12:10-13:00	74151
	10:40 12:10	通年	小川浩		
2		通年	伊藤美登里	12:10-13:00	74132
		後期△	山本真知子		
3		通年	井上修一	12:10-13:00	74811
		後期△	上野優子		
4		通年	尾久裕紀	12:10-13:00	74872
		通年	西河正行		
5		通年	古田雅明	16:20-17:50	74152
		通年	千川剛史		
6		通年	松山博光	10:40-12:10	74842
		後期△	堀洋元		
7		通年	佐藤富士子	12:10-13:00	74812
		後期△	久保田滋		
8		通年	藏野ともみ	9:00-10:30	74581
		後期△	小谷敏		
9		通年	玉井和博	12:10-13:00	74841
		後期△	丹野真紀子		
10		通年	本田周二	14:40-16:10	74181
		通年	牧野智和		
11		通年	大出春江	14:40-16:10	74851
		後期△			
12		通年	火	14:40-16:10	74142
		後期△	木		
1		通年	金	13:00-14:30	74161
		後期△	木		
2		通年	水	14:10-14:40	74871
		後期△	火		
3		通年	火	13:00-14:30	74822
		後期△	水		
4		通年	水	12:10-13:00	74482
		後期△	火		
5		通年	火	14:40-16:10	74282
		後期△	木		
6		通年	木	10:40-12:10	74861
		後期△	木		
7		通年	木	14:40-16:10	74852
		後期△	木		
8		通年	火	12:10-13:00	74382
		後期△	火		
9		通年	水	12:10-13:00	74381
		後期△	火		
10		通年	火	12:10-13:00	74881
		後期△	火		
11		通年	火	12:10-13:00	74131
		後期△	火		
12		通年	水	12:10-13:00	74281
		後期△	水		
1		通年	木	14:40-16:10	74481
		後期△	木		
2		通年	木	14:40-16:10	71182
		後期△	木		
3		通年	金	12:10-13:00	74831
		後期△	火		
4		通年	火	9:00-10:30	74882
		後期△	水		
5		通年	木	10:40-12:10	74821
		後期△	木		

- ◆ 指定時間外の相談は直接予約してください。
- ◆ 相談場所は原則、7号館4階の各個人研究室です。
- ◆ 変更が生じた際は、学部HP（<http://www.hum.otsuma.ac.jp/>）及び7号館（1階と4階）の掲示でお知らせします。

【本件に関する問い合わせ先】
平成29（2017）年度人間関係学部FD委員会 ningenfd@ml.otsuma.ac.jp
小川浩（学部長）、福島哲夫（学科長）、佐藤富士子（学科長）
社会/伊藤美登里、心理/本田周二、福祉/嶋貴真人（委員長）、介護/金美辰

- ＜周知方法＞
- ・ 4月のガイダンスで配付
 - ・ 7号館に掲示（1階と4階）
 - ・ 学部HPに掲載 <http://www.hum.otsuma.ac.jp/>

VI 平成29年度クラス指導について

本学教育体制の特徴の一つとして、クラス指導主任制度がある。入学時から学生をクラスに分け、いわゆる“クラス担任”が「学習」「学生生活」全般にわたってきめ細かく指導、助言、相談を行う学生支援の仕組みである。

本制度は、全国各地から入学してくる学生が新しい環境に適応し、安心して修学できるよう、きめ細かな指導をする必要性を説いた学祖の意思を継いで設けられている。実際に、新入生は高校から大学へと学習環境が変わるだけではなく、全国各地から親元を離れて入学してくる者も多い。

また、本報告書の元になっている各教員のアンケート結果は、Web上で教員同士が即時に閲覧できるようにメール配信されており、教員相互の研鑽の元にもなっている。

本稿では各教員の声をまとめ、学生指導の様子を浮き彫りにしたい。

以下、平成29年度クラス指導について、「クラス指導の状況」「クラス指導を行う際に工夫している点」「クラス指導に関する意見・感想」の順にまとめた。

1. クラス指導の現状と教員からの意見

(1) 平成29年度のクラス指導の状況

1) 人間関係学科 社会学専攻

- * 4年生のクラス指導主任であったのでうっかり単位不足で卒業延期にならないよう GPA の低い学生を中心に注意を促した。
- * 発達障害等の困難を抱える学生に対して、学生相談センターのカウンセラー、社会学専攻の教務委員と一緒に、対応を行っている。また、GPA の低い学生に対しては、学期初めに呼び出して履修指導を行っている。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- * 今年は、3年生を担当しました。学習面や対人関係面で困難を感じている学生への対応がありました。3年生になるとゼミ担当教員が対応することが多いので、クラスの学生様子は分からないことが多いのですが、適宜、専攻内の会議で情報を得ました。
- * 多くの学生は問題がないが、中に指導に頭を痛める学生が出てきている。
- * GPAによる成績指導については、必ず連絡をし、来室するように指導している。それ以外は、3年生であったため、ほとんどが事務的な手続きの押印などであった。
- * 学生との連絡がつきにくく、面談までに至るのがなかなか難しい状況でした。
- * 今年は、1年生を担当したため、休退学の相談と手続きが中心だった。その結果を、適宜、専攻内の会議で共有した。
- * 身分異動に関する相談、作成書類の承認が主なものであった。
- * 3年Bクラスを担当した。少しずつ卒業後の進路が気になり始める学年であるため、キャリアの視点を加えた指導を心掛けた。
- * クラス担任はしておりませんのでゼミ生について。欠席の多いゼミ生に対してメール、電話

で連絡を入れた。留年確定の告知に際しては専攻主任、教務委員の先生に同席してもらい共同で説明した。また、心身にストレスフルな体験をして長期欠席となった学生に対して、専攻主任と共に親子面談を複数回行った。その後も本人あてにメールを入れてフォローしている。4年生の卒論は最終段階で密にメールも駆使して指導したが、学生との関係、学生同士の関係も密接になり信頼関係が強くなった。必要と思われる学生には学生相談室を紹介した。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- * クラスのメンバーの名前を把握しながら、資格取得の相談、インフルエンザ等の欠席後の相談を行ってきた。資格取得の相談において、部活動との両立に悩む学生がおり、出来るだけ学業と両立できるように受験スケジュール等を検討中である。このように、個別指導が少しずつできている。
- * 今年度のクラス担当は、1年生のため学業に関わる相談が中心であった。
- * 4年生のクラス指導のため、ゼミ単位での相談が主である。
- * 担当クラスが1年生ということもあり、個別面接を中心に全体把握を行った。新年度始まった時期での実施であったため、各自15分程度となってしまった。
成績や友人関係、大学生活について学生自身が課題を抱える後期に設定するべきだったと感じている。
- * 3年生の担当であったが、今年度も前期も後期も授業を担当しており、授業後に学生から相談を受けることが多かった。後期の成績配布時には個別面接を取り入れながら、学生の学習状況のみならず、生活状況等を知る機会を持つようにした。
- * 今年度はクラス担任が2年生であったため、相談の内容は、来年度の現場実習のこと、ゼミの選択に関すること、卒業後の進路のこと等に関するものが多かったと思われます。なお、成績がふるわない学生に対する個別指導についても、例年通り実施しました。
- * 前任者が退職したため、3年次からクラスを持つこととなった。途中からクラス担任が変更となったため、学生との信頼関係の構築に努力しているところである。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- * 4年生のクラス指導主任であるため、就職の相談や履歴書の書き方、面接に関する個別面談や指導及び介護福祉士国家試験受験に向けての特別講座や指導を行いました。
- * 現2年生と現1年生の両クラスの指導を行っている。教員数が不足しているためやむを得ず2クラスを持っていますが、合同で行うことでの先輩・後輩のつながりができるというメリットもあります。
- * 今年度は後期10月～12月まで産休をいただいた関係で、後期のクラス指導が十分にできなかった。前期の間にクラス内の指導には心がけた。気になる学生に関してはメールなどで連絡を取り、研究室で話をする機会を作ることを心がけた。
- * 介護福祉学3年のクラス指導教員として、学生生活等の相談を随時実施した。

（２）クラス指導を行う際に工夫している点

１）人間関係学科 社会学専攻

- *相談しやすい雰囲気を作るよう心がけている。
- *担当クラスで問題を抱えている学生については、適時、社会学専攻会議で状況を報告し、専攻全体の教員で情報を共有しながら、専攻主任と教務委員を中心に対応するようにしている。

２）人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- *自分が臨床心理学を専門としているので、個人的な悩み相談も多くなりがちですが、臨床心理士的な対応をしないように、あくまで教員の立場で対応するように工夫しています。
- *従来通り。
- *学生の呼び出しについては、学生に不要なプレッシャーを与えないように、メールなどでの文章表現を工夫したり、仲の良い学生を通して伝えてもらうなどの配慮をしている。
- *学生個々の情報を１年次から積み上げて整理しており(施錠管理)、これまでの経緯などを総合しながら指導・相談にのるようにしています。
- *自分が臨床心理学を専門としているので、個人的な悩み相談には、臨床心理学的な知見を踏まえながらも、あくまで教員の立場で対応するように工夫している。
- *履修指導の際は、スキル不足の学生が多い印象もあり、履修ガイドや学内掲示などの活用方法を念入りに説明するようにしている。
- *これまで同様、まずは当人の話を聞くことに重点を置いた対応をしてきた。また、本人がアドバイスを受け入れられる状況にあるかどうかを見極めながら適宜指導するように心掛けた。
- *ゼミ指導に際しては上述のマナバおよび大学メールで密に連絡を入れた。

３）人間福祉学科 人間福祉学専攻

- *できるだけ早い時期に名前を覚え、教室での様子、学内での友人関係等を把握しながら、個別に対応できるように工夫している。今年度はその成果が少しずつ見られ、進路等についても気軽に相談できる雰囲気ができてきた。
- *指導は、来談やメール等を通して随時実施している。特に成績（GPA）が好ましくない学生や欠席が目立つ学生に対しては、日頃から声掛けと共に保護者と電話連絡を取りながら指導した。
- *クラス全体での集まりはなかなか難しいが、千鳥会からの助成を有効活用している。
- *１年生は大学生活がスムーズに始められるようにサポートする体制を示しておくことに心がけている。オフィスアワー設定もクラスの学生が空きコマであろうと考えられる時間に設定している。今年度は成績のことで関わる必要のある学生がおらず、今後は意識していかなければならないと思っている。また、２年生前期はキャリアについて話す時間を学生と持ちたいと考える。学年によって、担任がどの様な面に力を入れてサポート体制を組むようにしているかを伝えられるように意識している。
- *３年生であり、ゼミの先生と相談しつつ、併用して相談に来る学生も多かった。個別に面接時間を取り対応し、じっくりと話を聞くよう心掛けた。学生によっては、カウンセラーにつ

なげることもあった。

- * 例年同様、継続的な指導を要すると思われる案件については、次回以降の面談内容に発展させられるよう、その都度面談内容のメモをとるようにしました。同学年の他クラス担当教員と緊密に連携を取り合いながら、1人の学生の状況をできるだけ多角的に把握するように努めました。
- * 学生が気軽に相談に来られるように、研究室のドアを開けておくなど、オープンな姿勢が学生に伝わるように心がけている。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- * 学生と小まめに連絡を取りながら、家族とも情報を共有し連携することで、少しでも安心して充実した就職活動や介護福祉士国家試験受験の準備ができるように工夫しました。
- * 様々なことに積極的に参加する意識を持つように指導している。積極的とは行動で参加することだけではなく、大学や地域で行っていることにもしっかり目を向けることが出来ることです。現一年生は12名と少ないなかで短期留学を夏と春と2名の学生が参加し、同じクラス参加後の状況を話す等クラス内に刺激をくれていると思っています。
- * 表情の確認や授業での席順などでの友人関係の理解、授業以外での声掛け（キャンパス内で会った際の挨拶以上の会話）を心がけている。表情がすぐれない学生がいる場合は、授業の前後などで声をかける等行った。また、2年生になり友人関係で悩みを抱える学生もいたため、相談があった場合には配慮できる形をとっている。
- * 傾聴すること。個人情報に留意すること。

(3) クラス指導に関する意見・感想

1) 人間関係学科 社会学専攻

- * 発達障害等の困難を抱える学生や GPA が低い学生の人数が、これまでのクラス指導主任の経験や他クラスや他学年と比べて、担当クラスに多いので、それに関して社会学専攻全体で迅速に情報共有し対応するだけでは不十分なので、障害学生支援委員会を含めた人間関係学部全体での対応を検討してほしい。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- * クラス指導は1学年にAクラスとBクラスがありますので、大学教員として経験の深い先生と若手の教員もしくは新任の教員がペアになると良いと感じています。
- * 成績が二極化してきており、特に下位の学生についての指導に難しさを感じる。
- * 授業で manaba を使っているが、クラス指導にも使えると思う。ポートフォリオとして、個別のやり取りが残っていると、学生との指導がやりやすいと思う。
- * 昨年同様に、家庭の事情や心身の問題など、やむを得ない事情で留年をする学生が多く、じっくりと対応、見守る一年でした。
- * クラス指導は1学年にAクラスとBクラスがあり、現状では専門性の異なる教員がペアを組んでいる。このことが、ちょうどいいバランスとなり、補佐しあえている面があると感じて

いる。

- *教職員間および学生、保護者とのコミュニケーションをとって、適切に情報共有していきたい。
- *クラス指導を行う中で生じる様々な課題について、適宜、もう片方のクラス担当の教員や専攻会議において共有が出来るため、安心感を持って指導に当たることが出来たと感じる。
- *勉学に意欲的な学生は教員のアドバイスを受け入れ反応も良い。消極的な学生には頻繁に連絡を入れるが、しつこく思うのではないかと危惧しながらも行っている。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- *卒業学年になると、これまで以上に履修状況の把握に苦慮する学生もいるため、様々な会議や教職員間での情報共有で救われることもたびたびあった。
- *47名のクラスであり、全員の状況把握が常にできているのは難しいため、担任がオープンでいることや何が必要かを連絡することに終始したように思う。全員面接は15分×47人となると、時間調整をすると数ヶ月かかるため、年1回しかできないのが現状である。今後模様の様に担任からの情報をオープンに出来るか、試行錯誤していきたい。
- *学生の悩みは多様であり、メンタルに不安を抱える学生も増えてきている。親元を離れて一人暮らしをしている学生もおり、必要に応じての声かけが大事だと感じた。
- *多摩キャンパスの学生数が減って、大学内の就学環境やOMAの開講科目の内容等に関して、千代田との格差に不満を訴える者が多くなってきたように感じます。今後の多摩の大きな課題でしょう。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- *クラスの学生指導の際、クラス指導主任だけではなく、同専攻の教員や授業担当者と連携を取ることで、多角的に学生の状況や状態を把握したうえ、クラス指導を行うことができたと考えます。
- *クラス指導の二年生15名、一年生12名と少数で、クラスの特徴が顕著である。GPAのクラス平均も一年は高くまとまりもある。一方二年は大学に来ていない学生、よく休む学生等バラバラである。将来介護職員として同僚と協働で業務をこなすことを目指す指導を今後していく必要がある。
- *今年度のクラス指導はお休みをいただいたこともあり、十分にできずに先生方に助けていただいたことが多かった。クラスの学生も担任がいないことで不安を持つことも多かったと思うので、3年生となる来年度は再度クラス指導を丁寧に行っていきたい。ゼミも始まるため、ゼミの先生方と連携を取りながら、就活等いつでも相談を受けられるように接していきたいと考える。
- *引き続き適切に行いたい。

2. まとめと課題

昨年度の報告書では、以下の1～3の項目が今後への課題であるとしてまとめた。1. 必要履

修単位数に関する計算ミスをする学生への対応、2. メンタルな問題を抱える学生の増加、3. 学生の二極化傾向から生じる指導の難しさ。

これらが継続的な課題でありながらも、密な教員間での情報共有やきめ細やかなサポートの提供などかなり意識的に取り組むことで対応している様子が見えてきた。

今年度は、これらに加えて「学内外も含めた連携の重要性」が今後の課題として考えられる。学生の二極化の問題やメンタルに不安を抱えた学生への対応については、クラス指導主任の働きかけが重要であるが、それだけでは解決することは困難だと考えられる。学科専攻内での情報共有にとどまらず、保護者や学内の他部署（学生相談センターなど）とも適切に連携を取りながら対応をしていくことが必要だと考えられる。しかし、連携をどのように組んでいけば良いのかについて個々の教員にゆだねるのではなく、学部全体もしくは全学による取り組みが必要と考えられる。個々の教員に過度な負担がかかりすぎることのないように配慮することで、質の高いクラス指導を学部全体で展開していくことが重要であろう。

Ⅶ 平成29年度 人間関係学部FD研修会について

1. 平成29年度学部FD研修会のテーマ・実施方法決定までの経過

平成28年度の第8回FD委員会（平成29年1月20日開催）において、「授業をよりよくする Tips」のテーマで4年間連続して行う旨の基本方針が既に決定されているため、29年度の第3回FD委員会（7月7日開催）において、29年度の研修実施に向けた以下のような具体的な話し合いを行った。

- ・28年度の研修会終了後のアンケートでも、「分科会形式の方が活発に議論ができて良い」という意見が多数を占めたので、今年度も引き続き分科会形式で行うことになった。
- ・各分科会のテーマについては、基本的に昨年度のをそのまま引き継ぐということも28年度のFD委員会で決定されていたが、報告者となっただく先生の負担等も考慮して、第2分科会の尾久先生以外は前年の報告者から顔ぶれを一新することになった。
- ・各報告の概要が固まったら、学部教員全員および事務部の職員に向けて、事前に「参加希望分科会」を募って当日は希望するグループに出席してもらう。ただし、あまり人数が偏るようなら、事前に調整を行う（したがって、「第1希望」「第2希望」...という形で希望を聴取する）。
- ・FD委員は各グループに分散して参加し、司会者を務める（嶋貫が後半の全体会の司会を行なう）。

2. 日時・場所等

- ・平成29年12月8日（金）教授会終了後17:00～
- ・研修会 17:00～19:00 人間棟 7384・7385・7386・7387の各教室
- ・参加者数 22名（教員23名、事務職員2名）

3. 内容

（1）タイムスケジュール

- ・17:00～ 開会の挨拶
- ・17:15～18:30 分科会での議論
- ・18:30～19:00 各分科会の結果報告、まとめ

（2）各分科会の内容

- ・第1分科会：牧野智和先生/manabaの効果的な活用法（司会：嶋貫FD委員長）
- ・第2 〃 ：尾久裕紀先生/著作権法に関する注意事項（司会：伊藤FD委員）
- ・第3 〃 ：丹野真紀子先生/授業をよくするためのちょっとした工夫（司会：佐藤FD委員/学科長）
- ・第4 〃 ：本田周二先生/授業時間外の自己学習を促進する方法（司会：金FD委員）

（３）各分科会における議論の概要

【第１分科会】

社会学専攻の牧野智和先生が報告者となって、「manaba の効果的な活用法」というテーマで意見交換を行った。まず、受講生が教員の発信するコースニュースを確実に閲覧するようにするためには、どうしたらよいかが話し合われた。分科会に参加した各教員とも、コースニュースをメールに転送する等の工夫を加えているものの、学生がメールの受信の設定自体をしていない（あるいはメールを使用する習慣そのものがない）といった事例が増えてきており、閲覧率を上げることに苦慮しているという声が聞かれた。しかし、牧野先生の実践を見る限り、教員からの声かけを根気強く続けていけば確実に閲覧率が上っていく、との期待もある。

第４分科会のテーマである「授業時間学習の促進」とも関連するが、学生が授業を聞いた後の理解度確認のために、manaba を使って小テストを実施する方法が報告された。これはスマートフォンを使って帰りの電車の中などのちょっとした時間を利用して自主学習をさせるものであり、その場で自動的に採点結果が表示されるので、学生にとっても手軽で効果的な復習法ではないかと思われる。私自身、このツールを今後ぜひ自分の授業に取り入れてみたいと感じた。

学期中に何度か学生が講義で使っているノートを提出させて、授業理解度を点検しているという発言をきっかけとして、この「ノート提出」を manaba で行ってみてはどうか、ということも話し合われた。たしかに、manaba を使えば迅速・簡便に学生のノートテイクの状況を把握することができるが、他方でデジタル化されることによって失われる情報、すなわち肉筆の文字から伝わってくる“身体性”（筆跡や漢字の誤りなど）がなくなってしまうマイナス面も大きく、このような方法をとることには賛否両論があると感じた。その他、manaba のアンケートの機能を用いて、授業の感想や質問を受け付けているという教員もあり、双方向の授業を活発化させていくために manaba を活用していく余地はまだ多く残されていると感じた。

文責：嶋貫真人

【第２分科会】

第２分科会では著作権法について研修を行った。尾久裕紀先生によって「著作権法に関する注意事項」というタイトルでQ & A の形で講義が進められ、その後随時参加者から質問や討論がなされた。具体的には、著作権法第 35 条により、学校で教材として既存の著作物や画像や音楽を使用する際には、それ以外の目的で使用する場合に比べて著作権の制約は緩やかなものとなるが、教員が意識せずに著作権を侵すケースも多いことが確認された。まず、複写・配布可能なものとそうでないものがあることが確認された。すなわち、授業であれば、教科書、論文などは 50 人分までを限度として複写し配布することは可能だが、ワーク・ブックやドリル、地図、資料集などの場合は著作権法違反となることが指摘された。また、論文や教科書（の一部）を製本することも違反となる。第二に、「授業」の範囲を正確に把握する必要性が指摘された。例えば、金銭を徴収する研修会は、たとえそれが数百円程度の実費（コピー代）のみの徴収であっても営利目的と判断され、35 条の適用外になること、オープンキャンパスの体験授業も「授業」ではないため同様に適用外になることなどが確認された。第三に、クラウド型教育支援システム使用の際には、ネット上に掲載することによって不特定多数の者の閲覧が可能に

なるため、授業の際の使用であっても、論文などの教材を添付することは著作権法違反となることが確認された。最後に、著作権者からの許諾を得るには本人の合意があればよいこと、具体的には、利用方法、利用期間、利用の場所、二次使用の有無などを明らかにして著作権者本人の合意を得ることが必要になることが示された。

文責：伊藤美登里

【第3分科会】

第3分科会は、「授業をよくするちょっとした工夫」と言うタイトルで、課題提供された丹野先生からの論点に沿ってディスカッションを行った。参加者は司会、発題者を除き、高山副学長を含め教員6名と事務1名と多くはなかったが、「誰もが発言をする」という活発な討論が行われた。論点の一つ、教育支援システムのmanabaや視聴覚教材P.P等の活用は、発題者から学生がmanabaへの拒否があったり、P.Pは映像で刺激を与えるレベルで使用していることについて、教員が必要に応じて行うことが大切で、学生にいかに関心をもたせるか、わかりやすい教授・学習方法そのものについて工夫することであるという意見が出された。論点の二つ目は、リアクションペーパー(RP)についてです。授業に対する感想や質問を記述させる紙媒体のツールであるが、出席票や評価といった教員の目的に合わせて様々な利用が可能となるが、教員が必ずすべきことは学生のコメントにフィードバックを行うべきである。フィードバックすることで学生とのコミュニケーションが創設され、教員と学生の相互作用によって学習意欲が高まるという意見が出された。論点三つ目の板書の活用については、ホワイトボードではなく黒板が良いこと、板書の良さは、右半分、左半分と分割して使えば板書の内容を十分な時間に残しておくことができ、知識の積み重ねが可能になる。しかし、学生はノートをもたない、黒板を“写める”といった行動をとっている。プロジェクター等デジタルを使った講義が増えているが、アナログともいえる板書も必要であるという意見でまとまった。当分科会は「板書を見れば授業の良しあしがわかる」と言われ、教育実習を受けてきた教員が集まったようでした。最後の論点は、発題者から学年ごとに同じテーマ「望まない妊娠」について考えさせた場合、学生の受け取り方には変化が見られたというものであった。学生に自分の体を大切にすることを認識してもらうことを目的としているが、教える側がどのような専門を持っているかで非常に難しい課題であり、十分な話し合いができず時間切れとなった。

最後に教員にとって授業設計は教員の仕事を行っている限り一生の課題であると思った。

文責：佐藤富士子

【第4分科会】

第4分科会では、「反転学習による授業時間外学習の促進チャレンジ事例」をテーマに、本田周二先生による反転学習の簡単な講義後、意見交換が行われた。反転学習が大学の授業に取り入れ始めたのは2014年10月からである。大妻女子大学でも「社会心理学実験法」の授業で、先駆的な反転学習の取り組みが行われている。第4分科会での意見交換の論点は、以下の5つである。

1. 反転学習が適している授業と適していない授業

心理学の実験に関わる基礎知識を身につけ、授業で実験法を用いてデータを収集・分析する「社会心理学実験法」という授業だから反転学習が適しているのではないかという疑問が投げかけられた。反転学習は、学生の自発的学習を促すことが目的の一つである。そのため、学科・専攻で反転学習を取り入れることが効果的な科目を厳選し、初年度教育の必須科目に取り入れることで、大学での自発的学びを意識づけられる効果が得られると確認された。

2. 事前学習をせずに授業に参加した学生への対応

事前学習をせずにグループ討議に参加する学生がいると、真面目に取り組んでいる学生に迷惑をかけるのではないかという意見が出された。授業担当者から、授業の現状としてグループ全体への影響は感じられないと説明された。教員が積極的に介入せず、学生自身がグループ討議への参加しづらさを感じることで、その後の自発的学習に繋がると考えられるとのことだった。

3. 学生の様子が見えないオンライン授業で求められる教員の説明能力

オンライン授業を行う場合、学生が目の前にいないため、学生の理解度が図りにくく、教員の説明能力が重要ではないかという意見があった。教育経験が少ない教員よりも、同じ授業を何度も経験し、学生の躓く部分や理解度が把握できている熟練した教員の方がオンライン授業に向いているのではないかと議論された。

4. オンライン授業の増加に伴う大学事務との連携の重要性

オンライン授業をより効果的に行うためには、機器の選定、使用方法、学内でのシステム構築など、情報関連部署との綿密な連携が求められることが確認された。

5. 今後の課題

反転授業を取り入れたことで、学生や授業にどのような変化や効果があったかについて検証し、より効果的な授業を工夫していくことが必要であると共通認識された。

文責：金美辰

4. 終了後の参加者アンケート結果から

(1) 開催の形式等の全体的な評価

- ・分科会形式について：活発に意見が出るので、とても良かった。(12名)
- ・他の分科会にも聞きたいテーマがあったが、議論に参加できず残念だった。このようなニーズに応えるために、全体会にもっと時間を割いてもよい。(1名)
- ・第1分科会(manaba)に関しては、実際に画面を操作しながら議論する方が効果的なので、情報処理室で開催するのも一案ではないか。(1名)
- ・分科会の数を減らした方がよい。(1名)
- ・分科会の時間が足りない。もう少し議論したかった。(1名)

(2) 今後取り上げて欲しいテーマについて

- ・このテーマでしばらく継続して行って欲しい。(3名)
- ・本学の他学部の授業改善に向けた取り組みの様子(情報交換)(1名)

- ・ manaba に限定することなく、「IT を活用した授業法」というテーマで（2 名）
- ・ 成績評価のあり方について（1 名）
- ・ 図書館の活用法について（1 名）
- ・ オフィスアワーの活用法、クラス指導の方法（1 名）
- ・ アクティブラーニングの方法（1 名）
- ・ FD 委員会でテーマを提示するのではなく、毎回テーマを公募してはどうか。（1 名）
- ・ 年度初めに提出する「教育活動目標」の内容とリンクさせることを意識したテーマ設定にするべき。（1 名）
- ・ この研修の成果を実践してみた結果を報告し合う会、というのをもつべき。（2 名）

（３）実施時期について

- ・ この時期がちょうど良い（5 名）。
- ・ 年度初めの授業スタートのときにやった方がよい。（1 名）

5. 来年度以降の研修会に関する議論

第 7 回 FD 委員会（1 月 19 日開催）において、次年度以降の学部 FD 委員会のあり方について、以下のような意見交換がなされた。

（１）参加者アンケートをふまえた研修会全体の振り返り

- ・ 今回のテーマ・実施方法・実施時期等については、おおむね参加者からの支持を得ているものと思われる。したがって、予定通り来年度も今年度と同じスタイルで「Tips 第 4 弾」を実施するのがよい。
- ・ 大学全体の IT 化に関わる話題になった際に、分科会のメンバーに IT 担当の事務部職員が参加していたため、議論の内容が現実的・具体的なものとなった。事務部と教員とが一体になった研修会であることのメリットを、今回あらためて実感した。
- ・ 第 1 分科会の牧野先生による「manaba の活用法」に関する報告は、他の分科会に参加したメンバーの間でも「ぜひ聞きたかった」という声が強かった。できれば学部教員全員向けに、牧野先生を講師に招いた講習会をあらためて開催して欲しい。
- ・ 参加者アンケートにあるような意見（年度当初に研修会を開催すべき、この研修会で学んだ内容を実践してみた結果を報告し合う会をもつべき etc.）は、それぞれ正論ではあるが、これらの要望を全部取り入れていたら、年 1 回の研修会では足りなくなってしまう。現行の開催頻度・実施時間という制約の中で考えるならば、今のスタイルのまま継続していくのが妥当な線なのではないか。

（２）来年度の研修会に向けた考え方

前述のとおり、「授業をよくする Tips」のテーマでの研修を 30 年度まで継続することが決まっているため、とりあえず 30 年度はこの内容で実施することになる。このテーマは各教員の日々の授業の内容に直結するものであるだけに、今後は研修で得た知見を実際の授業の中で試してみた結果を報告し合う機会が必要であると思われる。

VIII 非常勤講師との教育懇談会

本学では、非常勤講師との教育懇談会を毎年春に開催し、授業の質の充実・向上に向けて率直な意見交換を行っている。人間関係学部においては、例年、学部の全体会を実施した後に、さらに各学科・専攻に分かれて議論が行われている。平成 29 年度の教育懇談会は、5 月 27 日（土）に開催された。

最初に全体会において学部長からの講話があり、その後、学科・専攻に分かれて教育内容に関する熱のこもった意見交換が行われた。最後に多摩キャンパス全体の合同懇親会が開催された。

1. 学部の全体会の概要

小川学部長による以下のような講話があった。

- （１）最初に本学部および人間関係・人間福祉両学科の教育・研究上の目標について簡単な説明が行われた後、3 つのポリシーの見直しが行われたことについて説明された。
- （２）大学全体の動きとして、比較文化学部・社会情報が千代田キャンパスに移転していく経過について解説が行われた。
- （３）平成 30 年度から人間福祉学科の 2 つの専攻が廃止されて、1 つの学科として再出発することになった旨、報告された。また、30 年度からは外部の専門機関と連携して、ネイティブ・スピーカーによる英語の授業が始まることも報告された。
- （４）その他、授業アンケートの実施に関すること、学習支援システム「manaba」について簡単な説明が行われた。

2. 各学科および専攻における懇談会の内容

今年度も昨年同様に、教師からの“一方通行型”の授業ではない、学生参加型の授業をどのようにして実現していくかという点に、多くの参加者の関心が集まっていたように思われる。いわゆる“アクティブラーニング”と呼ばれるこのような授業スタイルへの移行は、本学だけでなく現在全国の大学において同時に進行している動きであるとあらためて感じた。参加された非常勤講師の中には、既に本務校においてこれに向けた実践を開始されているという方もいて、今回はそのような経験を共有し合いながら、昨年以上に中身の濃い議論が展開されていたのではないと思う。

当日出された主な質問・意見等は、以下のとおりである。

【授業の運営方法・学生の指導方法に関すること】

- （１）公認心理師対応に伴う平成 30 年度以降の新カリキュラムに関して、授業内容の変更は求められるのか。⇒シラバスの内容の変更に関しては、求める可能性はあるが、内容に関しては、公認心理師対策に、重点を置くのではなく、先生方のオリジナリティを大切にしたい（社会・臨床心理学専攻）。
- （２）公認心理師対応に関する学部・大学院での実習に関して、どのように考えているか。⇒

現段階で、様々な実習先の開拓および実習に行く学生の数等の検討は行っている。5月31日（水）に公認心理師カリキュラム等検討委員会が開催されるので、そこでの議論を踏まえて決めていきたい（社会・臨床心理学専攻）。

- （3）心理学特別セミナーAでの英語輪読に関して、履修生にとって少しハードルの高い内容を進めているのではという不安を持っている。⇒むしろハードルの高いものを学生に提供していただくことを望んでいるので、そのままお願いしたい（社会・臨床心理学専攻）。
- （4）公認心理師の資格取得に関係ない授業科目を担当しているので、受講生のモチベーションをどう上げていけば良いかを考えながら授業をしている。ただ、授業アンケートに関しては平均以上なのでこの方向で進めていきたい。⇒ぜひ、そのまま続けていただきたい（社会・臨床心理学専攻）。
- （5）基礎セミナーの発表を無断で休む学生がいたが、他の先生はどうされているのか。⇒授業の初回到「発表は休まないこと、休む場合は代理を立てること」と指導している（社会学専攻）。
- （6）あまり発言したがらない学生に発言を促す方法はないか。⇒全員を平等にあてると、かなり意見は出やすくなる。他の人よりも目立ちたくないという気持ちが強いようである（社会学専攻）。
- （7）アクティブラーニングとは何か。⇒学生と教員の双方向のやりとりのある授業のことである（社会学専攻）。
- （8）学生を校外引率する際には、どのような手続をとったらよいのか。⇒共同研に校外引率の書類を提出していただきたい（社会学専攻）。
- （9）授業外の時間に学生にレポートを毎回提出させる方法はないか。⇒manabaのレポート機能を使って提出させる方法がある（社会学専攻）。
- （10）シラバスを授業期間中に変更することは可能か。⇒現時点では困難である（社会学専攻）。
- （11）manabaの活用法がよくわからない。専任教員の皆さんは、実際にこれをどのように活用されているのか。⇒レポートの提出、学生同士のグループ作業、授業に関する質問の受け付け等、専任教員によるいくつかの活用例を紹介した。一方、非常勤講師の中にも、既にレポートの提出等でmanabaを効果的に活用している方がおり、その実践例が報告された（人間福祉学専攻）。
- （12）出欠データの管理に関する質問。社会福祉士国家試験指定科目については、単位認定の前提となる「3分の2以上の出席」というルールが厳格に適用されることになっているが、本学では「全15回のうち欠席は5回まで」というルールをどの程度厳格に遵守しているのか。⇒「5回以上の欠席者は一切定期試験受験を認めない」というふうに、すべての教員がルールどおりに厳格に運用しているわけではなく、一定の幅の中で個々の教員による裁量判断が行われているのが実態。出席していた何名かの専任教員から、自分のやり方について説明を行った（人間福祉学専攻）。
- （13）社会福祉士国家試験について、どの程度意識した授業展開が求められるのか。そもそも当学科の学生はどの程度社会福祉士試験を受験し、どのくらいの割合が実際に福祉現場に就職しているのか。⇒最近の本学科の学生の進路および社会福祉士試験の受験率・合

格率のデータを紹介した。質問者が担当されている授業（選択科目）に限っていえば、受講生のほとんどが社会福祉士試験を受験する者であるため、ある程度国家試験を意識した授業展開にさせていただいた方が、学生のモチベーションを高めるうえでは良いと思われる（人間福祉学専攻）。

- (14) 本務校では学生の入試形態（推薦・一般等の別）と入学後の成績の伸びとは、必ずしも相関関係が見られないというデータがあるが、本学科においてはどうか。⇒手元にデータがないので正確なことは言えないが、おおまかな印象としては、やはり入試形態と入学後の GPA や国家試験合格率との間には、あまり明確な関連性はないように思える（人間福祉学専攻）。
- (15) 来年度から導入されるウェスト・ゲイト社による英語の授業は、たとえば「人間福祉学科の学生には福祉に特化した英語」というふうに、学生の専門分野を意識したカリキュラム編成としているのか。⇒今のところその予定はなく、他学科の学生との合同授業となる予定である（人間福祉学専攻）。
- (16) （人間福祉学専攻専任教員側から非常勤講師への質問）逆にこちらからお聞きしたいのは、外部業者所属のネイティブ・スピーカーに“丸投げ”した授業となったことのマイナス面について、日本人教師としてどのようにお考えか。⇒（非常勤講師からの回答）日常的にネイティブ・スピーカーと接することができることのプラス面は、間違いなく大きい。ただし、日本人特有の「英語のつまずき」が、ネイティブ・スピーカーには理解しにくいということはあるかもしれない。
- (17) 例年、演習のクラスの学生の状況にばらつきがあり演習内のロールプレイを行うグループ作りなどが難しい場合がある。⇒昨年度まではある程度ランダムで学生をクラス分けしてしたが、2 年生の後期になって社会福祉士を取得するのをやめる学生が例年数名出ている状況でランダムのクラス分けの場合偏りが出てしまうことがあった。そのため、今年度は名簿順などランダムに分けるだけではなく、成績や学生の個性等わかる範囲でクラスをなるべく偏りが出ないように分ける際に注意した。事前に演習を行う上で心配な学生などわかる場合は、後期始まる前に先生方にお伝えしたい（人間福祉学専攻）。
- (18) 演習の際のロールプレイなどを行うグループ分けは、どのように行っているか。⇒学生同士の様子を見ながらグループを教員が指定することもあるが、コミュニケーション能力に差がある場合などには、くじ引きでグループ分けをする場合もある（人間福祉学専攻）。
- (19) 「実習指導Ⅱ」の授業では、福祉体験学習ノートを授業の中でもっと活用した方がよいのではないかと。⇒授業 2 回分を使って、夏休みの福祉体験学習を振り返り、深い学びができるようにしたい（人間福祉学専攻）。
- (20) その他、全般的な意見として、最近の学生は高校生までの時期に LINE を用いたコミュニケーションに慣れてしまっているために、大学入学直後の段階ではワードを用いてきちんとした日本語の作法（たとえば話題の転換で段落を設ける、文頭は 1 文字分空ける、必要な箇所句読点を打つ etc.）にのっとり文章を書くことができない者が目立つ、という指摘があった。しかし、入学後にいくつかレポート課題をこなしていく中で、多

くの学生は自然にそのような問題を克服していくように見える、という意見もあった(人間福祉学専攻)。

【学生の言動・授業態度等に関すること】

- (1) 積極的に声掛けをしてくる学生はいないが、こちらから声をかけると反応してくれると感じる。また、リアクションペーパーを書く分量がとても多い。⇒その点は、本専攻の学生の特徴である(社会・臨床心理学専攻)。
- (2) 学生自身の過去の体験(家庭内の特殊事情など)が原因で、深刻なテーマを扱うロールプレイを実施することが難しい場合があった。そのようなときには、どのような対応をしたらよいか。⇒演習が始まる前に学生のそのような事情を把握できる場合もあるが、実際にロールプレイが始まってからの学生の反応によって、初めて判明することもある。その際には、その旨専任教員に伝えていただくとともに、事例やロールプレイが難しいと判断されるようであれば、順序を変えたり事例の内容を少し変更していただいたりしても結構である。なお、2 コマ連続の授業である場合には、クラスごとの大きなプログラムの変更によって授業の進行に極端な差が生じてしまうことも予想されるため、できるだけ共通のプログラムを実行していただくようお願いしたい(人間福祉学専攻)。

【大学の教育設備等に関すること】

- (1) 学部の実習・演習授業を担当しているが、受講生が 60 名程度と大変多く、ロールプレイ等をする際に、非常にやりづらい。また、教室も固定式のところが多く、なかなか適切な場所で授業を実施することが出来ずに困っている。⇒教室変更や TA の配置など可能な点については対応を検討したい(社会・臨床心理学専攻)。
- (2) 教室でも wifi につながるとよい。⇒wifi は整備中であり、いずれ全教室で使えるようになる予定である(社会学専攻)。
- (3) 図書館の蔵書がもっとあればよいのだが。⇒共同研に購入希望図書の申請を行えば、図書館で購入する手続きを行う(社会学専攻)。

【その他】

- (1) 授業アンケートについて、平均だけではなく、分散、SD がどのくらいあるのかも見たい。平均をなぞるような評価だったので、適当に付けているのではないかと不安である。⇒FD 委員会で検討する(社会・臨床心理学専攻)。
- (2) 授業アンケートについて、実施が授業の途中に設定されていることが疑問である。授業は 15 回を通してストーリーを作っているので、最終授業に実施するようにしてもらう方が適切なのではないかと。⇒FD 委員会で検討する(社会・臨床心理学専攻)。
- (3) 大学院の授業を担当しているが、本学から上がってきた学生なのか、別の大学から上がってきた学生なのかあらかじめ分かっていると少し対応がやりやすくなる。⇒対応する(社会・臨床心理学専攻)。
- (4) 就職支援の体制は、どのようになっているのか。⇒事務部の就職支援体制について説明

した（社会学専攻）。

（５）地域との連携はどうなっているのか。⇒地域連携の組織について説明した（社会学専攻）。

IX 人間関係学部におけるFD活動の課題

1. 組織レベルでの課題

平成30年4月に向けた新学部設置計画が消滅したことによって、当面は人間関係学部単独で多摩キャンパスでの教育・研究活動を継続させていくことになった。したがって、今後はいかにして単独学部で魅力的な多摩のキャンパスライフを創造していくかが、本学部にとっての中長期的な課題とされている。

既に30年度からのカリキュラム改編に対応するためのデュプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、そしてアドミッション・ポリシーの策定作業が完了しているため、まずはこれらの3つのポリシーに沿った具体的な教育内容を日々の授業の中で具体的にどのような形で結実させていくのかが問われることになる。

2. 個々の教員レベルでの課題

学生が主体的に学ぶことを目的とするアクティブ・ラーニングの考え方が高等教育の現場に広まってから既に久しいが、それを授業の中で具体的にどのように実践していくかについては、いまだ手探りの状態が続いているように思える。本学部のFD研修会においても、このような問題意識に立った議論が目立つようになってきており、既にいくつかの報告の中では学生が主体的に授業参加できるような教員側の“仕掛け”が成功していると感じさせる、優れたアイデアが提示されている。したがって、今後はこのような先進的な知見を各教員が自分の現場に持ち帰って、授業の中で実践し、試行錯誤を加えながら自分なりのスタイルを構築していくことが求められているのであろう。その意味では、学部のFD研修会がもつ意義は、今後ますます大きくなっていくのではないかとと思われる。

3. 学生満足度の向上に向けた情報の有効活用法について

29年度の本委員会においては、「授業アンケートで得られた情報を、FD活動のためにもっと有効に活用できないのか」という問題意識を出発点として、大学が保有する多くの学生情報を教学内容の向上のために活用する方法について議論を重ねてきた。たとえば、人間福祉学科が行っている入学時から卒業時までの継続的な意識・意向調査の結果を活用することによって、卒業後の進路選択や国家資格取得に向けた考え方が4年間にどのように変化していくかを、ある程度知ることができる。したがって、このようなデータの上に、さらに履修登録時に一斉アンケートを実施して時間割の組みやすさやカリキュラム編成の妥当性に関する学生意見のデータと重ね合わせるとか、あるいは各授業の出席状況のデータとクロス集計してみると、「より学生満足度を高めるためには、どのようなカリキュラム編成が望ましいのか」ということの一端が見えてくるのではないかと期待される。

一部の大学には既にそのような実践例が見られるが、データが豊富に蓄積して、その内容が精緻化してくればくるほど、大学側にとってのデータの有用性が高まってくるが、他方でデータによる個人の識別可能性も高くなるので、個人情報保護法の観点からはかなりセンシティブな問題を伴うことがわかっている。そこで、当面は学生課やアドミッション・オフィスなどの

他部署とのデータ・リンクを目指すのではなく、本学部が収集できるデータの範囲内で、FD活動のために有効活用する方法を検討していきたいと考えている。

資料編 「授業に関するアンケート」に対する教員の回答

2017（H29）年度前期 大妻女子大学人間関係学部
「授業に関するアンケート」について対応策、質問

- ① 氏 名
- ② 科目名
- ③ 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されるおつもりですか。
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘下さい。
- ⑤ 受講生への要望があればお書き下さい。

①池上賢

②日本文化・事情

③学生からの評価については、おおむね人間関係学部の平均と変わらない数字であったが、『この授業への取り組みとその成果について』の項目が、低い平均点となっていた。次年度には、学生からの質問の時間を設けたり、復習のための課題を出すなど、してより積極的な授業参加を促したい。

④特に問題は感じませんでした。

⑤レポート提出に **manaba** を使用したが、使い方を知らない学生が多く説明に時間が取られた。学生には可能であれば、授業支援システムの使用方法について事前に習得しておいてほしい。

①石井三智子

②相談援助演習Ⅴ（4年）、相談援助演習Ⅲ（3年）

③演習Ⅴについて：事例の内容について、受講者のレベルや、関心のある程度、リサーチの上、作成・準備したい。演習Ⅲについて：今年度は、メンバー・グループ間の相互関係を活かすことができ、特にありません。

④特にありません。

⑤演習Ⅴの4年生は、就職活動時期にあたり、一部欠席が続く学生がおり、授業の連続性や、それに対応した理解をしてもらうことがむずかしい場合もある。

①板倉香子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－B

③授業の進め方について、来年度もはっきり、ゆっくり話すよう心がけたいと思います。毎回、予習用の資料を配付しましたが、あまり活用されなかったようです。授業への学生の参加を促すことと併せて、プリントの活用を工夫したいと思います。

④とくにありません。

⑤予習用のプリントは読んできてほしいと思います。

①伊藤美登里

②身体とファッションの社会学

③板書の内容をよりわかりやすく、またより簡潔になるよう工夫します。

④とくにありません。

⑤とくにありません。

①井上修一

②高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ

③概ね良い評価であった。「教員の話し方が明瞭で聞き取りやすかった」「教材は授業の理解に役立った」の得点が高かった。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取

り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①井上修一

②成年後見制度

③概ね良い評価であった。「授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた」の得点が高かった。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①今井信治

②文化表象分析入門

③自主的に予復習をする人がほとんどいなかったことは、いささか問題かと思われました。授業内容が理解できているのならば特に問題視することでもないのかも知れません。しかし、アンケート結果を見る限り、1割を超える受講者が「授業の内容はよく理解できるものであった」にて“1”の評定を付けております。いささか、由々しき事態であるように思えます。本講義が「入門」を謳っている以上、特段の予備知識を必要とするような内容は扱っておりません。ただ、半期の講義を終え、理解の追いつかなかった受講者が無視できない数いたことを事後的に知り、戸惑っております。講義で参照した内容については全て参考文献表を掲げ、manabaを通じて講義スライドを配布しているため、復習はもちろん、発展的な学習も可能な構成にしております。それにもかかわらず、講義内容が理解されていない理由について、考えねばならないでしょう。極端な例ながら、自由記述の「内容がつまらない。言っている意味がよくわからん」というコメントは、実に直裁で、示唆深く感じました。講義予定はシラバスにて提示し、第1回目の授業時に個々の取り扱うテーマについて説明したのですが、それでもコメントを下された方の思い描いていた内容との齟齬が生じてしまったようです。また、各回にて当方の説明が不十分であれば幾らでもご質問いただければと思うのですが、思い出せる限り、受講者からのご質問は欠席時の扱いか期末テストの様式について尋ねるものでした。後はせいぜい、授業とは関係ないプライベートな質問です。これでは残念ながら「よくわからん」とは一体何がわからないのか、こちらもよくわかりません。もちろん受講生にのみ責を負わせるのは本意ではないので、こちらからの働き掛けをもっとすべきだったのかと思います。よって授業の改善を行うとすれば、(1) 各回のテーマをより絞って、かつ明示的な問題設定と、簡潔明瞭な答えを提示する。(2) 講義への参与感を強めるため、事前に上記問題設定について各々考えてきてもらう。場合によっては、参考文献を事前に読んでおいてもらう。(3) 知識の定着を図るための課題を設定する。こうしたことが考えられます。懸念としては、(1) では「入門」として教授すべき内容が減り、また、「分かった気になる」で終わってしまう可能性があること、そして(2) および(3) については受講生の負担が大きくなることでしょうか。どちらに偏重することも好ましくない

ため、バランスを取って任に当たりたく思います。

- ④アクティヴ・ラーニングの形式を強めるならば少々受講者が多いが、講義形式ならば受講者数ならびに教室規模は適切かと思われる。
- ⑤講義内容について不明瞭な点があれば、その場で解決して欲しいと思います。アンケートにて「内容がつまらない。意味がよくわからん」と書くのは実直な感想かと思いますが、ご不満を持つだけでは、双方の益になりません。教員の説明が下手で分かりにくい点があれば、「わからん」で終わらずに、詳細な説明を求めて下さい。また、ご自身の問題意識と懸け離れているために「つまらん」のであれば、お手持ちの問題を教員にぶつけてください。学びたい学生を邪険にする教員はいないと思います。是非、教員と良好な関係を築いていただければと存じます。

①上野奈初美

②スポーツ B、スポーツ C

- ③座学ではないため、資料を用いることが少なかった。学生個人が手元に置いて活用できるような資料を配布することも必要か。単に楽しむだけの授業ではなく、個々人の目標を最初に設定し、到達度を確認できるようなワークシートも一案と思われる。
- ④「暑い」時期での授業もあったが、水分補給や換気など安全管理には努めている。受講人数も適切と思われる。
- ⑤意欲的な学生が多く、スポーツへの関心は高いと思われる。

①上野優子

②スポーツと健康

- ③受講者 160 名の講義科目。全学共通科目であるため、複数の学部学生がいるため、受講者の雰囲気も様々である。試験結果から分かったことは、授業内容の理解度について「よくできる」学生と、再試験に近い学生が目立ったことは、例年通りの内容では適応しないと感じた。次年度は、内容の検討をもう少しわかりやすいものにしたい。
- ④6号館 6113 教室の黒板が、非常に使い勝手が悪かった。上下スライド式タイプであるが、動きが悪く何度も指を切断するのではないかと思うほどであった。改善について聞いたところ、平成 30 年度による建物の変更があるとの事で、それについては了解はした。この教室の黒板は、早く変えた方が良くと思う。
- ⑤特になし

①上野優子

②レクリエーション実技

- ③資格要件に必要な科目である。いろいろなレクリエーションの内容が必要になってきたと感じる。もう少し他に出向き、新しい種目の開拓が必要だと感じた。様々なイベントや講座での勉強をするつもりである。
- ④⑤特になし

①浦尾和江

②生活支援技術 C

③学生の理解度に差があるので、個々の学生の特性に配慮した指導を心がけたい。

④手動用ベッドのキャスターが劣化しており、実技でベッドを使用する際にストッパーをかけてもベッドが動いてしまう。

⑤授業中に習得する技術は、一度のみであるので知識と技術の定着のため復習を心がけてほしい。

①大久保暢俊（のぶとし）

②社会・臨床心理学研究法（木 1）

③アンケート結果より、予習復習等の課外学習に改善の余地があると愚考します。この改善のため、座学で得た知識との関連を問う課題を考えております。このような「授業内で完結させない」課題の設定は、同時に授業外での学習の機会と関連すると考えます。また、遅刻者の扱いについて、より厳密に対応すべきであるとの意見もいただきました。今後は、実習のあり方と、その意義をより明確に受講生に伝えることで、受講生の観点からも、より公平性が保たれる授業運営を務めます。

④研究の全過程を実習してもらうため、ある一定期間、集中的に PC を使う必要があります。もし可能であれば、貸出ノート PC の台数増加と、そのためのネットワーク環境の拡充を望みます。

⑤特にございません（優秀な学生が多いので）。

①大出春江

②社会調査講義 I

③専攻全員の必修の講義科目の場合、緊張がとけてくると私語対策を考えなければならない。自由回答のなかに「そこら辺がうるさい」と会話もしていないのに移動させられたとあった。100 名のクラスの私語対策は（これまで避けてきた）席順指定方式を一度は試してみることも考える必要がある。またこの教科は教科書を用いると同時に、参考資料は WEB にアップロードしておき、学生はそれらを読んで課題レポートとして manaba に提出するようにしている。必修科目であり、勉強をしっかりと欲しいと思って課題を出しているが、昨年より課題の数を減らしているにもかかわらず、レポートが多すぎるとか、テストかレポートのどちらかにして欲しいといった回答があった。さらに減らすか、来年度に向けて検討していく。

④特になし

⑤特になし

①大出春江

②社会学基礎セミナー I、社会調査及び演習 I、現代家族論

③セミナー系科目は 2 つとも学部平均を上回った。これを見る限り、受講する学生サイズが

小さくなると授業への参加態度は積極的になり、併せて満足度も高くなる。基礎セミナーⅠおよび社会調査及び演習Ⅰの場合、翌週の授業までに全員が提出すべき小さな課題を毎回 manaba に提出する形にしていたため、予習・復習の項目が学部平均を 1 ポイント以上、上回る結果となっている。反対に 80 名を超える現代家族論のような講義科目や必修の講義科目については工夫が必要である。

④特になし

⑤特になし

①片山昭義

②レクリエーション論

③「私語等への授業を妨げる行為への適切な措置」について、対応が不十分であったと思います。全く対応しなかったわけではないのですが、次回からさらに毅然とした態度で臨もうと思います。

④私が担当させていただいた「レクリエーション」は、一方的に講義を受けるような科目ではなく、様々な体験から“気づき”を得て、そのことを学生自身の生活や将来就職する仕事の中での支援技術に役立てることが大切であると考えています。それには座席が固定されている教室では学生の動きが制約され、十分な演習効果が得られないという状況があると思われます。また 1 回あたりの学生数も、今回は 60 人と 50 人の 2 コマでしたが、もう少し少ない 30 人程度が効果的と考えます。しかしながら、授業運営上の現実的な問題もあると思われるので、現状の条件で最大の効果をあげられるよう、今後も努力いたします。

⑤ペアになったの演習やディスカッション、グループワークなどをとても苦手になっている学生が多く見受けられました。将来福祉の対人支援職を目指す上で、“苦手でも挑戦する”という姿勢が必要だと思います。実際に授業中に収集したリアクションペーパーでは、「最初は苦手だったけどだんだん楽しさがわかってきた」や「一人で履修して心細かったが、意外に優しい人が多くて楽しく授業に参加できた」など、他の学生との関係を持つことの効果を実感した学生も多く存在したようでした。私としては、今後も積極的に人と関わる演習的な内容を含んだ授業を展開していくつもりなので、是非積極的に授業に参加してもらいたと思いますし、これは非常勤講師の私の立場で言いすぎだと思いますが、他の先生方も一方的な講義で理解されていると思わず、学生の反応を確かめるような、そして伝えたポイントを演習やワークシートで確認するような双方向の授業を展開していただきたいと思います（実際に学生に聞いてみると、講義のみの授業が多いということでした）。

①加藤浩治

②コンピュータ基礎 A

③コンピュータ基礎 A2 コマを担当しました。1 コマは受講姿勢が良好な学生が多く、質問に対する対応にも余裕がありましたが、もう 1 コマは説明の直後に説明したことを問う質問が飛び出すなど、苦勞しました。今後はこうした経験を糧として生かせるよう気をつけたいと思います。

- ④教室の設備、管理ともに行き届いていると感謝しています。
- ⑤受講する前にシラバスに目を通しておいってください。授業の説明は聞き落とさないよう、また、質問があるときは挙手をお願いします。

①門林道子

②老いと死の社会学

- ③昨年のアンケートの結果に、スライドが見にくい、色を使いすぎ、レジュメに情報が詰まりすぎていてわかりにくい、内容を詰め込み過ぎ、レジュメの形式が一定していない、などの指摘がみられたため、今年度はそれについて、自分の方でも改善すべく心がけ、見直しをはかりました。スライドやレジュメを修正し、レジュメの形態をA4で統一しました。授業内容も詰め込み過ぎて消化不良にならないよう、ボリュームも少し整理いたしました。その結果が反映されたのか、昨年までに比べて、評価も多少なりとも上がりました。これからも気をつけて、学生にわかりやすい授業、「履修してよかった」と思ってもらえるような授業を心がけていきたいと考えています。授業中に行っているほぼ毎回のリアクションペーパーの提出も、授業をしっかり聞き、自分の意見をまとめるのにおおいに役に立っていると思われます。今後も続けていこうと考えますし、学生の意見や感想をそのつど授業中に還元、伝えていくつもりです。
- ④例年 80 名から 100 名いた履修者が今年度は他の新たな授業との重なりがあったためか、50 名弱でした。真摯な態度で学ぶ意欲がある学生が前方列に 20 名ほどいたものの、最後列に 2、3 のグループでかたまっては私語がみられる状況も何度かみられ、注意はしました。さらに授業中もっと前方にでてくるように指示したものの、それが継続して、とはなりません。次年度は大教室で人数が少なかった場合の座席についても、全員が受講しやすいクラスの雰囲気はどのようなものなのか、指定席も含めて考えていきたいと思います。

⑤特になし

①久保田滋

②音楽の世界

- ③もともと、大学の授業への動機付けが弱い学生への対応の仕方を検討すべきだと感じた。来年度以降は、学生の数が若干少なくなることが予想できるので、授業の運営方法について再検討したい。
- ④200 人規模の授業で 7127 教室を使う場合、後方の席での着席の場合、若干映像が小さく、字幕等が見づらいケースがある。
- ⑤当たり前のことであるが、授業への出席時は学生証を忘れないようにしてほしい。

①藏野ともみ

②精神保健福祉援助実習事前指導

- ③前期は演習、実習という形態の科目が多く、学生が学内では個別やグループでディスカッションをして、自らの主張を根拠を示しながらプレゼンするだけでなく、学外の実習機関等

と交渉をしなければならない内容となっています。授業時間内だけでなく、個別指導や個人に即した課題の提示等が必要となり、学生自身も主体的に学ばなければならず、それが直接自分に返ってくることになります。また、教員も一人一人の進捗状況に併せた配慮が必要になります。今後も、今回のアンケート結果を参考に、個別指導の中にも、学びあう機会をより一層意識して取り組みたいと思います。

④特にありません。

⑤暗記するだけの学びはありません。「考え」「調べ」「伝える」作業の上で、他者との意見交換やディスカッションを通じて、より「疑問が増えたり」や「他の可能性」を知ることになります。特に人の生き様に関わる専門職の実践を学ぶ本科目は、答えを探すことがゴールではありません。謎かけのようですが、これからも一緒にモヤモヤしながら学びあいましょう。

①小谷敏

②人間関係総論Ⅰ、現代メディア論、社会調査および演習

③私語のひどかった人間関係総論は、ひどい評価でした。昼食後みんなが寝ていた現代メディア論は驚くほど評価が高かった。なるべく受講生を寝させる方向でがんばっていきたいと思います。

④とくにありません。

⑤私語はこの学部ができた当時の方がよほどひどかったと思います。しかし、まじめに授業を聴いている学生がそれを不快に思う度合いが昔よりはるかに高まっている。教室での私語に学生の間で大きな不満が出ています。学生の質が上下にはっきりわかれ、分断が進んでいる印象です。一番よいのは何度注意しても私語をやめない劣悪な部分を入学させないことだとおもうのですが

①齊藤豊

②現代企業論

③配布資料の文字が小さいとの指摘だが、本来、教科書として各自が用意すべきものを多くの受講生が教科書を持って来ないので、急遽、印刷したので、文字が小さくなってしまった。今後は教科書の内容の配布をやめ、学生に用意させるようにしたい。

④教室の大きさと受講生数があっていない。広い教室で少ない人数の授業を行うと教育効果が薄くなるので、大きな教室の使用はやめてほしい。

⑤特になし

①佐藤富士子

②認知症の理解

③団塊世代が75歳を超える2025年には認知症患者が700万を超えている現在、国民も国や自治体に求める認知症施策に対するニーズは高く、そのような影響からか受講している学生の関心度も高いことが伺える。しかし、設問の15は1.50と低く、また16においても3.50のことから、自分の考えを述べるまでには至っていないことがわかる。授業改

善としては、もう少し事例を増やし、ディスカッションする授業展開も考えたい。

④特に無し

⑤特に無し

①嶋貫真人

②社会保障Ⅰ

③全体の平均値を下回ったのは、質問 5（学生の意見を引き出す姿勢）と質問 16（学生自身の授業参加意識）の 2 項目であった。この 2 点については、どちらも授業中に学生に対してその場で考えさせるような問いかけをこちらから積極的に行っていくことが有効と感じている。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①嶋貫真人

②低所得者に対する支援と生活保護制度

③全体の平均値を下回ったのは、質問 3（授業中の私語への対応）・5・16 の 3 項目であった。たしかに今年は授業中の私語が多かったと感ずる。気になるときには注意を行ったつもりではあるが、今後も引き続きこめまに注意を与えていくしかない。質問 5・16 への対応については、上記と同じ。

④特になし

⑤とにかく私語は慎んでもらいたい。

①嶋貫真人

②社会福祉現場実習事前指導

③学生の出席状況は比較的良好で、主体的・積極的に取り組んでくれたと思う。授業評価はいずれの質問も全体の平均値を上回っており、特に改善すべき点はないと思う。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①嶋貫真人

②福祉行財政と福祉計画 A

③全体の平均値を下回ったのは、質問 3・5・16 の 3 項目であった。教壇上ではあまり授業中の私語が気になる瞬間は多くなかったが、今後は個別に受講者の感想を聞くなどして、対応方法を検討していきたい。質問 5・16 への対応については、上記と同じ。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①高田知恵子

②臨床心理学概論

③自由記述で学生に教科書を読ませることへの疑問がありましたが、学生のコミットを高めるために行なってきました。来年度は少し考えたいと思います。

④空調が教室内の場所によって異なるので、同じ温度設定でも寒く感じる者、暑く感じる者がいて難しいです。高田が頻回に調節していますが、何とか改善して頂けると良いのですが、、、

⑤大人の態度として私語は慎むように伝えていますが、怒鳴って止めさせたくないのも、自発的に守ってほしいです。何事にも主体的に取り組んでほしいです。

①高橋佳代

②相談援助演習Ⅴ

③5段階評価のうち、1及び2と回答した設問は、設問 No.15（予習・復習）と No.16（積極的参加）でした。事前に事例を配布し、内容に関係する制度。サービスなどを確認し検討する機会をつくろうと思います。またグループでのディスカッション時間を増やし、積極的に参加せざるを得ない状況をつくっていききたいと思います。

④特になし

⑤就活などで欠席する場合は、必ず所定の手続きを行って下さい。

①高橋佳代

②相談援助演習Ⅲ

③設問 No.15（予習・復習）は標準偏差が最大で、データの散らばりが大きかったことを示しています。本授業がグループワークの演習であるため、授業外での打ち合わせや作業をしたグループと授業内だけの活動に終始したグループとの違いがでたのではないかと推測します。授業内だけで企画から実行までの過程をスムーズに行うことはかなり制約があると思います。授業外でも集まる機会をつくり、話し合いをすすめていただきたいと思います。

④特になし

⑤個別のグループワーク企画にも注目しています。真新しい発想だけではなく、本授業での実体験から見出したアイデアを織り込んで、既存のグループワークのなかにも小さくともキラリと光る企画を考えていただきたいと思います。期待しています。

①田中究

②家族心理学

③リアクション・ペーパーについては今期、学生が比較的関心を持ってリコメントに耳を傾けているように見受けられたこともあり、講師によるリコメントに当初想定していた以上の時間を割いた。今後もリアクション・ペーパーの記入を行う場合には、講義内容をより限定しリコメントにおいて内容の拡充を行う、といった配分も考え得る。また、リアクション・ペーパーへの記入時間を明示的に設ける必要がある。室内の温度管理についてはより留意したい。

- ④なし。
- ⑤授業への積極的な参加を希望する。

①田中優

②心理学概論Ⅰ

- ③「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」の得点が、学部全体平均よりも低いことから、話し方、聞こえ方について、改善と工夫を検討したい。

④特になし

- ⑤毎回 manaba での授業の感想、学びについてのアンケートを取り、できる限り全ての学生に返答をしている。わからないところは、できるだけそのままにせず、質問をして欲しい。

①田中康雄

②社会福祉学概論Ⅰ（４時限・５時限）

- ③パワーポイント資料における見やすさへの工夫を行う。また、受講数が多い（200 名以上）場合、スムーズなレジュメの配布方法を検討していきたい。

④特にございません

⑤特にございません

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－A

- ③相談援助の基本となる科目なのでしっかり授業をしたいと思います。命を支えることの難しさを伝えることも多く、学生にとっては、支援の厳しさを感じてしまう方もいるようです。学生の思いをくみ取りながら授業を考えたいと思います。前回よりも評価点が上がっています。細かい修正の成果が出たと感じています。

④特になし

- ⑤この授業は、社会福祉援助者としての基本的な視座を学ぶ授業です。今までの思考とは別の考え方も学ぶため、理解に時間がかかる授業でもあります。復習に時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助演習Ⅲ

- ③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。「授業への積極的な参加」の評価が高く、学生が熱心に取り組む様子がわかります。

④特になし

- ⑤相談援助演習は、学生が前向きな思いで参加することで、技術が身につく授業となりますので、積極的な参加を望みます。

①丹野真紀子

②相談援助実習事前指導

③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。特に「予習復習」の評価も高く、学生が熱心に取り組む様子がわかりました。

④特になし

⑤この授業は、実習に行く前の準備を行う時間です。ここでの学びは、実習で活きますので、しっかり自分の学びたいことを考えていきましょう。

①丹野真紀子

②社会福祉学基礎セミナーⅠ

③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。

④特になし

⑤特になし

①丹野真紀子

②保健医療サービス

③基本的には学部平均と同じか若干上だが、やや下がる項目もありました。制度改正があり、昨年より教科書のページ数も 30 ページほど増えた科目なので、理解が難しい学生のいるのは分かっていましたが、各自の事後学習を期待して最後の項目までやり終えました。今年は、旧版と新版の教科書利用者がおり、教科書のページ数の指示が伝わりにくかったので、来年度は新版の指定で実施したいと思います。医療現場はなかなか見ることができないため、視覚教材を使用したものは理解しやすかったようなので、これは今後も続けたいと思います。

④特になし

⑤特になし

①土野瑞穂

②女性史、ジェンダーと社会生活

③両科目とも受講生が 200 人近かったことで、どうしても私語が止まなかった。リアクションペーパーを通じて一部の受講生から何度も「私語に厳重に対処してほしい」との要望もあったため、その都度厳しく注意をしていた。そのことについて、アンケートでは「注意をしてくれてよかった」との意見があった一方で、逆にその注意に対し「うるさい」との意見がいくつかあった。真剣に受講する学生の学ぶ権利を他の学生が侵害することはあってはならないので、今期から初回授業において「私語は厳重に注意する」と前もって学生に口頭で伝えることにした。「女性史」に関するアンケート結果をみると、歴史的な事象が自らの生活とのつながりがつかみにくく、そのため興味を持てなかったのではないかと考えられる。したがって、授業で取り上げる様々な事象・トピックが今日ではどのような意味をもつのかという点を重視しながら、学生のこれからの生活にとって役立つ授業を行っていきたい。

- ④学生の主体性や本を読む習慣を引き出す・育てるようなカリキュラムが求められているように思う（レポートではインターネットからのコピー＆ペーストが多いため）。自身が担当する科目では期末レポートを課しているため、授業中にレポートの書き方を説明している。学生からは「レポートの書き方を初めて知ることができて良かった」という意見をもらい、役立っていることを嬉しく思う一方で、多くの学生は書き方をほとんど知らないのではないかなと思う。そこで大学側がレポートの書き方に関する冊子のようなものを作り、図書館などに置いておくのはどうだろうか（他大では図書館に加えてネット上で公開しているところもある）。
- ⑤どのようなテーマでもよいので本をなるべく多く読んでほしい。

①寺島拓幸

②文化とメディア特論Ⅱ

- ③伝統的な講義形式ではなく、視覚教材やアクティブラーニングを取り入れたことは概ね好評だったようだ。ただしペアワークやグループワークは賛否両論で、顔見知り以外とのワークで気まずさを感じた学生もいたようだ。しかし知らない人とのコミュニケーションは大切なものなので今後も続けていきたい。
- ④manaba 活用のため PC 教室で授業を実施した。こちら側からは学生の顔が見えにくい、中間モニターの見えやすさや椅子の座り心地など、学生にとっては快適だったようだ。
- ⑤グループワークで積極的に発言できることを期待したい。

①奈良環

②介護の基本 A

- ③設問 15 の自習に関することに対して改善をする必要があると考えている。介護福祉士は生活に密着した内容が多く、課題等も出したが「自習」つまり、学びとして捉えていない部分もあったのではないかと考える。生活の中の行動を書き留める課題についても、何のためにするのかということを丁寧に説明していきたい。
- ④特にありません。
- ⑤特にありません。

①奈良環

②在宅介護論

- ③授業の取り組みとその成果に関して改善が必要である。自習を促すために個々の地域の情報や細々とした個々の生活について課題を出し、発表などもしたが、何のために行っているのかという点で理解が浅かったのではないかと考える。課題の意味、学んだことがどう役立つのか等をしっかりと説明して行きたい。
- ④今回は受講者の人数が少なかったが、大きな教室だったため、グループワークなどがしにくい状態であった。可能であれば、アクティブラーニング等も考えているため、人数に応じた教室設定、または移動可能な机や椅子のある教室が望ましい。

⑤特にありません。

①西谷内博美

②環境社会学

③環境政策関連の内容には関心が集まらず、難しく感じられたようです。よって、公共政策や政治的な内容を削減します。かわりに、一つの内容（公害輸出）について掘り下げる方式ではなく、より多様な環境関連事項をオムニバス形式に紹介していくスタイルに変更いたします。

④特になし

⑤アクティブラーニングのツールを用いている授業であり積極的な授業参加が必要です。

①長谷川万希子

②医療社会学

③学部全体平均より得点が低かった 3 項目について、下記に改善策を記します。2. 教材資料提示は授業の理解に役立った。本授業は、毎回学生が教科書の担当箇所についてレジュメを作成し、発表し、教員が解説を加える方式で行っている。したがって、教員が作成する教材資料はほとんどなく、教科書と学生が作成したレジュメを使用する。そのため、教員主導で教材提示する形式の授業を想定した本質問は、学生主体の本授業には必ずしも適していない。9. 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた。本授業の構成は、教科書の構成に従っている。そのため、教員が体系的に構成したものではなく、体系的に構成された教科書の内容に沿って、理解と把握がなされるようになっている。14. この授業にどの程度出席しましたか。月曜日 1 時限目の授業への出席は、他の曜日や、より遅い開始時間の授業よりも出席し難いという特徴があると考えられる。その点を考慮して、遅刻しても到着時間に応じて出席考慮を行うようにし、遅刻＝欠席とならないように工夫と、出席の動機づけを行った。また、学期期間中に少なくとも一人 1 回のレジュメ作成と発表を課し、それ以外にも意欲に応じて複数回のレジュメ作衛・発表の機会を用意した。したがって、欠席があっても、自宅学習の時間や学びを深める機会を用意されており、その点で学習効果は補えるように努力した。上記 3 項目以外の全ての科目において、学部平均以上の得点であり、特に 11「この授業の内容はよく理解できるものであった」、16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」、17「この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った」、18「この授業によって、新しいものの見方ができるようになった」、19「総合的に見て、この授業を受けてよかったと思う」の得点が学部平均よりも高かった点から、本授業から学び、有効であったとの回答が多かったことが理解できる。

④ディスカッションを行うために可動式の机・椅子の教室を用意してもらえたので、昨年度までよりもアクティブな授業を展開できた。

⑤いずれの学生も、常に積極的に授業の準備を行い、授業で発表し、積極的に学んでいたため、特に要望はない。

①福島哲夫

②社会・臨床心理学研究法

③すべての項目で満点に近い評価を得た。特に 4「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」、6「教員の接し方は公平だった」、10「授業の内容は興味深いものだった」、14「出席」、19「総合評価」は 5.00 の満点をいただいた。また、これまでどうしても低くなりがちだった 15「自習」の項目が 4.83、16「積極的参加」が 4.75 と高い評価を得た。受講生に恵まれた結果でもあるが、今後とも継続できるように努力していきたい。

④特になし

⑤特になし

①古田雅明

②社会・臨床心理学研究法

③昨年度よりも全体的に高い評価でしたので今後も今年度と同じような授業運営をしたいと考えています。この授業はグループ研究なのでグループ間の役割分担の不均衡を調整するような対応をしてきましたが、それを継続します。あとは、授業外の自習が少ないので、具体的な到達目標を示しつつ、課題を出すような指導を心がけます。

④特にありません

⑤紹介した文献だけでなく、そこからさらに広げて自分なりに興味を広げてください。

①干川剛史

②社会学概論Ⅰ（火 1）・（木 1）、社会調査及び演習Ⅰ、社会学基礎セミナーⅠ

③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅰ（火 1）（106 人）／社会学概論Ⅰ（木 1）（89 人））については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低い、同じ内容でも、社会学専攻必修の社会学概論Ⅰで低いのは、選択の余地なく強制的に受講せざるを得ない不満があるのであろう。また、自由回答を読むと、マイクを通した話し声が聞きづらいなど、改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、学生の扱いが公平である、授業に関連した新聞記事のコピーがほぼ毎回配付され、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。他方で、マイクの使い方を工夫するなど話し方に改善が必要であり、また、授業内容のプリントを見やすくするなど、多くの学生に満足のいくような講義にする工夫が必要である。なお、社会調査及び演習Ⅰ（16 人）と社会学基礎セミナーⅠ（17 人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。

④講義形式の授業は、100 人未満になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。

⑤講義科目もセミナー科目も、教科書を読んで予習してほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教

室に入るようにしてほしい。

①星野尚美

②社会福祉学基礎セミナーⅠ

③用意して下さる計画に沿って、やらせて頂いているので、問題なく、むしろ、色々な方の講義を学生と一緒に受けることができ、私自身、大変勉強になりました。学生の新たな気づきや関心を学習に結びつけられるようにしていきたいと思います。

④少人数でいいと思います。

⑤特になし。

①堀洋元

②社会・臨床心理学研究法

③受講者にとって興味深い内容について吟味し、学生ひとりひとりが主体的に取り組めるような工夫をしたい。

④ゼミ教室で学生ひとりひとりがパソコンまたはタブレットを使える環境が整うとよい。

⑤2年後期までに身につけた心理学やコンピューターに関する知識やスキルを総動員して取り組む授業です。素朴な疑問や身近な興味を素材として取り上げ、心理学研究の枠組みで「料理する」面白さを実感してほしいと思います。

①本田周二

②社会・臨床心理学研究法

③昨年度の結果と比較して、自習をしたという割合が増えていたことが良かった点だと考えています。昨年度から改善した点が反映されていて安心しました。一方、出席の割合が昨年度よりも低くなっていたので、その点についての学生指導をしっかりとしていきたいと思います。

④特にありません。

⑤特にありません。

①牧野智和

②日常生活論

③リアクションペーパーについて、よいコメントにはスタンプを押して加点としていたのだが、一部の学生にスタンプが集中している、ひいきではないかというコメントがあった。特定の学生に肩入れしているということではなく、授業内容にプラスアルファのコメントを書けることが加点の基準で、それが常にできる学生に加点が集中したことによるものだが、加点の基準をもう少し説明した方が不公平感を抱くことがなかったかもしれない（細かく示すと、皆がそれのみを狙ってコメントを書くので、大まかにしか説明はできないが）。

④日常生活論は音楽を教材とすることがあるが、今年度の7214教室は音響設備がよく、昨年度のような音割れがなく授業で来た点はよかった。

⑤特になし

①松山博光

②相談援助実習事後指導、社会福祉学基礎セミナーⅠ、家族福祉論、地域福祉の理論と方法Ⅰ

③「相談援助実習事後指導」当科目平均値は、4.75 である。まずは満足した評価結果である。

学生の授業への取り組み（3.00）において評価が低いため、次回は予習・復習を兼ねたノートづくりを試みる。「社会福祉学基礎セミナーⅠ」当科目平均値は、4.16 である。ほぼ満足した評価結果となった。学生の予習・復習（2.06）と授業中の参加（3.39）を高めるためには、予習・復習ノートづくりとゼミでの質疑応答の機会を増やすことを検討する。「家族福祉論」当科目平均値は、3.99 である。かろうじて全体平均値（3.98）を上回った。本科目でも学生の予習・復習（2.07）と授業中の参加（3.15）を高めるためには、予習・復習ノートづくりとゼミでの質疑応答の機会を増やすことを検討する。「地域福祉の理論と方法Ⅰ」当科目平均値は、3.65 である。残念ながら全体平均値（3.98）を下回った。特に評価が低い項目は、学生の予習・復習（2.13）であった。受講生が多いとは言え、予習・復習ノートづくりと講義中の質疑応答の機会を増やすことを検討する。

④特に改善する点はない。

⑤特に講義科目は、事前の予習、事後の復習を心掛けてほしい。

①馬淵聖二

②心理検査学、心理学特別セミナーA

③心理検査学について：最初少し緊張したためか、講師の表情が固かったようです。来年度はリラックスして初回に臨めるよう工夫したいと思います。レポート課題の説明が分かりにくかった人が数人いたようです。評価する視点も含め、プリントにしたいと思います。心理学特別セミナーA について：受講者数が 30 に対して、最後までついてこれたのが 11 人という結果でした。シラバスにもう少し具体的に説明を加えることで、この差を少なくしたいと考えています。読書量に重きを置き、文法的な学びが少なかったため、次回は文法について、資料を用意しておきたいと思います。予習スケジュールについて、どこまでやれば良いか指定してほしいという要望が数人からありました。次回からは指定しようと思います。回答となる和訳の文章を、最後に配布するようにします。

④特になし

⑤特になし

①壬生尚美

②介護福祉学概論

③大講義室での講義のため、教員からの一方的な講義にならないよう毎回リアクションペーパーを用いて理解度を確認しながら行った。介護・福祉学専攻だけでなく、心理・社会学専攻の学生も受講しており、授業後の感想が大変興味深いものであった。5・4 評価を合わせ発展的に学びたい 62.5%、新しいものの見方ができるようになったと答える学生が 71.8%

おり、介護福祉をそれなりに伝えることができたのではないかと考える。今後も受講生の学習状況を確認しながら焦点を絞って授業を進めていきたい。

④⑤特に無し

①壬生尚美

②介護総合演習Ⅲ

③本授業は、介護実習Ⅱの振り返りと介護実習Ⅲに向けた内容を中心に行っている。授業では、学生が積極的にグループワーク等に参加するなど、これまでの講義・演習・実習の経験を生かしてアクティブに学習していたため、総合的に高い評価となったのではないかと考える。今後も学生参加型授業を目指していきたい。

④⑤特に無し

①森優貴

②障害者心理学

③授業への取組について、授業時間内に学生が意見できるように工夫したが、今後は、課題の設定なども含めて、より活発な意見交換ができるよう改善したいと考える。

④特にありません。

⑤授業で学んだ知識を踏まえて、自分なりにどのように社会貢献に活かすことができるかを考えながら受講してほしい。

①森優優

②教育相談

③授業内容の復習も兼ねてレポートを課したが、自習に対する取り組みが足りていないので、さらに授業時間外でも教育相談に関する内容について考えさせる課題を設定すべきか、検討したいと考える。

④特にありません。

⑤授業で学んだ知識を踏まえて、自分なりにどのように社会貢献に活かすことができるかを考えながら受講してほしい。

①八城薫

②基礎統計学Ⅰ、社会・臨床心理学研究法

③どちらの科目も「予習・復習の程度」や「積極的な参加」といった自主的な取り組みに対する評価の低さが目立つ結果でした。しかしいずれの授業も毎回提出課題を出しており、また基礎統計学Ⅰでは manaba など確認テストを実施したりもして、その準備が復習にもなっています。意識的には予習・復習という自覚がないのかもしれませんが、予習と復習という位置づけをきちんと明示した教示をし、自覚してもらえようになりたいと思います。積極的な参加については、自主性を促すような発展課題などを用意することを検討したいと思います。

- ④基礎統計学Ⅰは、PC 操作の経験と数学への苦手意識でプレースメントを行い、少人数制クラスにしているので、理解度に合わせた授業が実施出来ていると思います。引き続き一人 1 台の PC 環境の整った教室で授業が出来ることを望みます。社会・臨床心理学研究法は、社会・臨床心理学セミナーが連動するので、より沢山の時間をかけてじっくり研究法の実践に取り組むことが出来ています。今後は全員が PC を使いながら授業が出来る環境が整うとさらに良いと思います。
- ⑤積極的に自分なりの予習・復習スタイルを構築し、取り組むことで、さらに力が付くと思います。

①山本真知子

②相談援助実習指導Ⅰ

- ③昨年度の授業アンケートを踏まえ、今年度は授業内容を変更した。その結果、授業アンケートの点数に変化があり、今年度は学生の理解度等に配慮できたと感じる。社会福祉士の専門の授業であるので難しさなどはあると思うが、できるだけその年に受講する学生の理解度など授業期間内に把握し修正していけるようにしていきたい。
- ④特にありません。
- ⑤テストの範囲の中で学習することに慣れる授業でもあると思うので、国家試験を意識しながら受講してほしい。

①山本真知子

②相談援助実習事後指導

- ③演習形式の科目だったので、個別の学生に応じた授業を展開していきたい。予習・復習の点数が事後指導でどのように学生に伝えられるか、来年度に向けて改善したい。
- ④特になし
- ⑤特になし

①山本真知子

②社会福祉基礎セミナーⅠ

- ③演習形式の科目だったので、個別の学生に応じた授業を展開していきたい。特に初年度教育であるので、丁寧に学生に対応していきたい。また、学生が積極的に質問や予習復習ができるように、検討していきたい。
- ④前に使用している授業で机やイスが移動したままであると前回指摘させていただき、その後、掲示をしていただいた。掲示後は改善していたので、来年度も同じようにイスや机の移動に関して掲示や連絡等していただければと思います。
- ⑤特になし

①吉方りえ

②女性と健康、人体の構造と機能及び疾病Ⅰ

- ③授業中の私語に対する注意を積極的に実施する。授業に用いる参考資料を簡潔に理解しやすい書式に変更する。
- ④受講生の数が多いと私語の注意が行き届かず、また個々の学生の知識に合わせた柔軟な指導ができていないのが現状。できれば 100 名以下のクラスが望ましい。
- ⑤予習・復習が基本と考えてほしい。

①渡邊瑞穂

②児童や家庭に対する支援と児童、家庭福祉制度 I

- ③「Ⅲ この授業への取り組みとその成果について」の項目が改善すべき課題であると考えます。特に 15 項目の予習復習等の自習の程度についてがアンケート結果としては低く、改善方法としては、次回の授業内容の予告と復習が必要なポイントを授業内で明確にアナウンスする等の工夫をしていきたいと思います。また、16 項目について、授業では毎回リアクションペーパーをとっており、そこに質問・意見を記入し、次回授業で回答するという方法をとっていたので、授業内での質問等は非常に少ない状況でした。しかし、アンケート結果としては 1～5 まではほぼ同との割合で回答されており、「この授業に対し質問や考えを積極的に述べたと」認識している学生がある一定数いることがわかりました。学生への質問・意見に対しては引き続き対応していけるような授業を考えていきたいと思います。
- ④⑤特にありません。

資料編 「授業に関するアンケート」に対する教員の回答

2017（H29）年度後期 大妻女子大学人間関係学部
「授業に関するアンケート」について対応策、質問

- ① 氏 名
- ② 科目名
- ③ 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されるおつもりですか。
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘下さい。
- ⑤ 受講生への要望があればお書き下さい。

①足立英彦

②心理学特別セミナーB

- ③「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」というアンケート項目の平均評定値が 4.57 であり、授業の進め方に関する項目の中で最も低くなっていました。受講生が 14 人の授業であり、毎回の授業で分からないところはその場でも授業後にでも質問するようにと再三にわたって促していましたが、次年度は毎回の提出物に質問記入欄を設けるなどの措置をとり、質問や意見を引き出したいと思います。
- ④改善したほうがよい点として「2 コマにしてほしい」という要望が寄せられました。1 コマでは扱うべき内容が十分にカバーできていないところもありますので、ご検討いただければ幸いです。
- ⑤この授業は課題が大変多く、エネルギーのいる科目となっています。意欲の高い学生の受講をお待ちしています。

①足立英彦

②キャンパスライフとメンタルヘルス

- ③「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」という項目の評定値が低くなっていました。200 人以上が受講する講義において学生の積極的な参加を促すことは非常に困難なため、リアクションペーパーなどを利用して質問や感想などを集める機会を設けるよう努力していましたが、次年度はリアクションペーパーを活用する頻度をさらに高めるよう努めることで質問や意見などを表現する場を設けたいと思います。「この授業を受けてさらに発展的に学びたいと思った」という項目の評定値が低いため、授業内容が日常生活や将来の生活においてどのように役立つかについてさらに明快に伝わるよう努力し、学習意欲を引き出したいと思います。
- ④何人かの受講生から、「教室が暑すぎる」といった意見が寄せられました。エアコンの機能が講師の手元で細かく調整できるようにしていただければさらに学習環境が改善できると思います。他の大学で、受講人数が 100 人を超える場合には提出物の管理などに関して支援してくれるティーチングアシスタントをつけてくださる例がありました。この授業に関しても、リアクションペーパーや提出物の管理に関連した事務的な作業量が非常に多くなっており、もし可能でしたらそうした対応をご検討いただければ、授業の改善につながると考えられます。
- ⑤少しの私語が他の受講生の迷惑になります。この授業では私語に対しては厳しく対処していくことを予めご了承ください。また、講師が全ての人にとって分かりやすい説明をすべきなのは当然ですが、もしも分からない点があった場合は質問をしにくるようにしていただきたいと思います。

①荒牧美佐子

②a. 発達心理学／b. 心理学概論Ⅱ

- ③a.b. 今年度より、manaba の導入を試みましたが、まだ十分に活用できていないので、次

年度はもっと活用できるようにしたいと思います。また、両科目とも、予習・復習を促す工夫が必要と感じました。

④a.b. 特にありません。

⑤a.b. 心理学専攻の学生さんもそれ以外の方も、熱心に受講してくださいました。

①池見正剛

②環境の社会心理学

③講義内容が更に興味深くなるよう多少の変更点はあったものの、多項目にわたり評価が平均を下回ってしまった点に驚いております。同時に他の先生方の評価の高さに自らの実力の程度が思い知らされました。まず話し方の明瞭さで、内容を増やした分早口になってしまった可能性があるのを以後注意します。理解度への考慮が足りないという点ですが、課題内容にあった一部の抽象的な表現が該当すると思われる来年度は分かりやすく表現します。ただ自由記述では様々な画像があって理解しやすかったという意見もあったのでホッとしています。質問や意見の引き出しも、リアクションペーパーを多用する方向で検討します。授業がもたらす意味や、発展的に学びたいという教養的態度については、より実生活の態度に結び付ける形の課題をいくつか検討してみます。これによって同時に新しい見方が備わったという実感も得られるようにしたいと考えます。昨年度に比べ評価が下がりましたが、今までの講義で一番面白かったという自由記述が唯一の救いになりました。

④他大学の **manaba** ではバージョンアップされて小テストにタイマー機能が備わっています。本機能があると公正な成績評価が可能になるかと思われます。

⑤不明な点があれば尋ねる積極的な態度。

教養が今すぐ役に立つ類の情報ではなく、間接的、普遍的、偶発的、思想的、享乐的に貢献する情報であるという認識。本を読む習慣。などの態度や認識を身につけて頂きたいと個人的には思っております。

①伊藤美登里

②社会学基礎セミナー2、現代社会論セミナー2、哲学と思想、恋愛とファッションの社会学

③講義系の科目について、マイクの声が大きかったと指摘がありました。来年度は若干音量を下げる予定です。また、講義系の科目の板書もより丁寧に行いたいと思います。セミナー系の科目は、全員必ず意見を述べるようにしたところ、自分は授業に積極的にかかわったと判断した学生が増えたことから、このやり方を続けていく予定です。

④セミナー系の授業を大教室で行うのはやりにくいので、小さい教室をお願いできればと思います。

⑤とくにありません。

①井上修一

②社会福祉学概論Ⅱ

③概ね良い評価であった。「授業は教員の十分な準備と熱意を持って行われた」「教員の学生に

対する接し方は公平だった」の得点が高かった。さらに授業内容のレベルアップを図り、わかりやすい授業展開に努めたい。

④特になし。

⑤特になし。

①今井信治

②現代における宗教

③アンケートの平均値を見る限りでは大きな問題は生じていないようで、まずは胸をなでろしております。改善点は学生の積極参加を促す授業を心掛けることになりそうですでしょうか。講義主体の授業スタイルになっておりますので、一部にでもアクティブ・ラーニング法などを取り入れて、受講生が自身の頭と手を動かす時間を作るように授業内容を改める必要があるのかと考えております。

④特になし

⑤講義資料を **manaba** で掲示しているのですが、半分以下の方にしか参照されていないことが少々残念に思います。また、評価や試験に関すること以外に、講義に関するご質問を一度も頂けなかったことが少々残念でした。講義内容を十全に理解されているならばそれでも構わないのですが、ご自身なりに疑問を持ち、教員を活用する姿勢があればより良いかと存じます。

①浦尾和江

②介護技術

③教材や資料の工夫を図り、分かりやすい授業を行っていく。事前・事後課題を提示し、技術や知識の定着を図っていく。授業の妨げとなる私語について、適切な対応をとっていく。

④介護実習室の備品である、ベッドのキャスターが劣化しているため、ベッド移動が困難である。早急に、修理をお願いしたい。

⑤ソーシャルワーク実習で高齢者や障害者等の施設へ行く学生は、事前に、介護技術の授業を選択し、日常生活の自立に向けた考え方、利用者とのかかわり方、支援の基本を学び、実習の準備学習としてほしい。

①江川直子

②社会理論と社会システム

③④特になし

⑤**Do your best!** 皆さんが幸せな人生を送ることができますよう、祈念しています。

①大出春江

②社会学基礎セミナーⅡ、社会調査および演習Ⅱ、ケアの社会学

③1年次社会学基礎セミナーⅡと社会調査特論Ⅱは授業アンケートの時間を確保しなかったため実施せずに終えてしまった。次年度は十分時間を確保するようにしたい。社会調査およ

び演習Ⅱでは社会調査実習室での授業を基本とし、毎回グループ単位で、前回の授業内で進めたこととその後展開させた内容を授業の2日前に manaba のプロジェクトに報告する形で進めた。それを教員が資料として翌週に配布し、全員が共有する形をとった。そのため、授業外とする作業やグループ内でのやりとりも必要だったため、それが授業への取り組みへの回答につながっていたと思う。演習系科目の場合、積極的にかかわる学生とそうでない学生がはっきりするため、そうしたことへの配慮が必要だと思う。ケアの社会学は90名近い講義で、毎回、授業スライドを事前に配布して授業を行うようにしている。社会調査及び演習Ⅱのように少人数で演習クラスとは対照的に「15 この授業のために毎回予習復習」の項目についての評価は学部平均に対し低い。この点に関する工夫が課題である。

④ 2017 年度後期については特になし。

⑤「学生証を忘れ、出席チェックができなかった」という申し出を何人かの学生は授業終了後にしてくる。これらの申し出は授業開始前にと伝えてある。これらをふくめ授業上の注意は学期始めにしているのだから、守ってほしい。

①小川浩

②障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ

③項目 16「授業中質問したり考えを述べたりして積極的に参加した」を除いて、平均より高い評価を得られた。この授業は、国家試験科目であり、制度に関する事項が多いため、学生に関心を持たせ、集中力を維持させるのが難しい科目である。授業中に、国家試験の過去問等を挿入して、より積極的な学習態度を引き出していきたい。

④特になし。

⑤特になし。

①小野智明

②コミュニケーション技術 A

③自宅での学習課題を折々に提示すること、特に参考文献の紹介などをおこなってみたものの、提示した後の学生からの反応を確認できなかったこともあり、授業へ反映することができていなかった。予習の確認をする時間も確保できるように授業内容を再考すべきであった。

④部屋の大きさも適性であり、特段問題ありません。

⑤コミュニケーション技術はすぐに効果が表れるものではなく、人とのかかわりを通じて、徐々に培われていくものである。このような考えのもと、多くのグループワークを取り入れた授業を展開することとしたが、今年度の学生は主体的に学ぶ意欲が高く、授業の趣旨をよく理解してくれたと思う。そのため、グループワークなどもスムーズに実施することができ、ワークの時間を充実させることや振り返りに時間をとることができた。様々な人々と関わり、自分自身が持っている常識や価値観の違いを認め合うという体験を通じてコミュニケーションの幅がひろがってゆくものである。これから別の授業でも議論の場があるだろう。本授業で経験した方法はきっと役に立つであろう。

①小野智明

②コミュニケーション技術 B

③3年生は社会福祉施設等での実習を終了し、援助というものの本質を理解しつつある時期であるともいえる。そのため、授業への取組態度や参加態度についても主体的であった。今年度はコミュニケーションについての基本的知識について理解した後、地域福祉課題を提示し、対人援助に資するコミュニケーション技法について考えていった。講義中心の授業を多く取り入れてみたものの、学生からはワークショップ形式の授業を要望されたので、授業目的を逸脱しない程度にグループワークの授業を急遽組み入れた。

④部屋の大きさも適性であり、特段問題ありません。

⑤コミュニケーション技術はすぐに効果が表れるものではなく、人とのかかわりを通じて、徐々に培われていくものである。学生に求めるのはこの授業を受けたからといってすぐにコミュニケーション能力の向上が実感できるほど即応的ではないという理解である。様々な人々と関わり、自分自身が持っている常識や価値観の違いを認め合うという体験を通じてコミュニケーションの幅がひろがってくるものであると思われる。この授業でおこなったグループワークの手法などは現場で役立ててほしい。

①片山昭義

②福祉レクリエーション援助論

③学生さんの評価は概ね良好であったと思います。授業内容は理論ばかりに偏らず、実践を通してや、映像を活用した授業を心がけ、そのことが理解を深める効果につながったものと考えています。また、自由記述において「楽しい」という具体的な感想が記述されており、目指していた授業が実施できている証左だと感じております。しかしながら一方で、「レクリエーションがいちいち長い」という感想もあり、体験するプログラムによってはルールが理解しにくかったり、内容的に興味を持てないものがあつたのだと想像でき、あまり長くならないように、かつ分かりやすいものを選択して実施していきたいと思います。

④強い要望ではありませんが、固定席での授業は学生の移動が制限されるため、出来れば移動ができる教室を希望します。しかし現状の固定席でも、可能な範囲で実施しています。

⑤学生同士のコミュニケーションを取りながら行う演習形式の授業を苦手とする学生さんが多いようです。友達と一緒に参加していないと、知らない人とペアになったりしますが、出来れば積極的にコミュニケーションを取りながら授業に参加してもらいたいと思います。

①片山昭義

②福祉レクリエーション援助技術

③学生さんの評価は概ね良好であったと思います。授業内容は実技や演習を中心に構成し、学生さんは身体を動かす授業が少ないせいか、とても熱心に楽しそうに参加してくれたことが印象的でした。自由記述でも「他学年の子とふれあえてよかった」という感想があり、学生同士のコミュニケーションを敬遠する傾向がある中で、積極的に演習として取り入れたことが良い交流を促すことができたと考えています。

- ④人数も 30 人程度であり、演習を行うのに適当な人数であることや、教室も机椅子が移動可能であること、そしてスポーツ教育研究室の助手の方が臨機応変に体育館などを確保していただくなど、とても授業としてはやりやすく進めさせていただきました。
- ⑤特にありませんが、積極的に楽しみながら授業に参加してもらいたいと思います。私も楽しみながら学びにつながる授業を心がけます。

①香月菜々子

②キャンパスライフとメンタルヘルス（火曜 5 限）

- ③昨年までは、「ノートテイクが間に合わないのもう少しゆっくりの進みにしてほしい」という意見と、「もっと早くても良い」という意見とに学生主張が分かれていて、なかなか間をとるのも難しいと思いつつ、工夫を考えた。今年度。レジメ上の穴埋め箇所を 1 割少なくしたところ上記のようなリアクションは見られなくなったのでちょうど良いのではないかと判断している。講義内容のエッセンスについては、テスト結果を見ると、全体的に学生の理解が進んだようだったのでこのままの形を続けていきたいと考えている。
- ④100 名規模の授業であるため、昨年度、学生からの意見をを受けて途中で教室移動をお願いした経緯があった。今年からはじめから、移動先となった 7 号館 1 階の大教室で担当させていただいたため、ワークなどもゆったりでき、環境的にも良かったと考えている。
- ⑤今年度は特にありません。今年は、積極的に質問に来られる学生も多く、全体的に熱心で、ありがたいと思いました。とくに本学の女子学生にとって、関心あるトピックなのだろうと感じました。

①加藤浩治

②コンピュータ応用、コンピュータ基礎 B

- ③コンピュータ応用は、今回の受講者数が少なかったことを考え合わせると、毎回の授業で取り組む課題を通して目的とする技術および応用範囲などを明確に示す必要があると改めて思いました。コンピュータ基礎 B は、受講者数が 40 数名と私の力量にはやや多い感じではありましたが、努力して質問には全て答えていたつもりでした。個別対応に満足しない旨の記述を拝見し、質問があるときの挙手の仕方などを授業開始時のみでなく折に触れて話さないといけないことを感じております。以上のような点を中心に、改善に向け努力したいと思います。
- ④教室の設備・管理が行き届いています。
- ⑤受講する前にシラバスに目を通しておいってください。質問があるときは、はっきりと挙手をお願いします。

①金成陽一

②地域と文化

- ③アンケートは、答える学生の氏名を書くべきであると考えます。ネット社会と同じで、匿名の一方的で自己中心的なメッセージには悪意しか感じられません。良かれと思いつつも、学

生を注意する教師は減ってしまうのではないのでしょうか。小生の元同僚など、講義中ずっとスマホをいじっていた女学生から、それを取り上げたことで訴えられました。教師は自分の本をテキストにするなどの指摘。何とも情けなくなります。（商売するつもりなど毛頭ないけど、そのような目線でしか考えられないのですね）。実際には 300 人の履修者中、ほぼ 5 分の 4 の学生はテキストを持っておりません。ある大学ではアンケートをパソコン（携帯）にしています。このほうが簡単だと思うのですが、如何でしょう。個人的にはアンケートが教師に「やる気を起こさせる」ことにはならないと考えております。次元の低い、教師に対する中傷は残念ながら逆効果なのではないかと・・・。

④特にありません。

⑤特にありません。

①亀山晶子

②自己過程の心理学

③授業の進め方、内容、総合的な印象においてすべて全体平均より高く、充実した内容であったとの感想をいただきました。ありがとうございました。しかし、授業への取り組みに関して、予習・復習の平均値が低かったため、今後は授業外学習に関しても内容の充実を図りたいと思います。

④特になし

⑤特になし

①亀山晶子

②社会的認知の心理学

③より専門的な内容の授業構成で進めましたが、授業の進め方、内容など全体平均より高い評価が得られました。今後も説明を丁寧に進めていこうと思います。

④特になし

⑤特になし

①金美辰

②介護過程Ⅱ－B、介護総合演習Ⅱ

③全体的に高い評価を頂きました。「先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」「授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた」「授業の内容はよく理解できるものだった」「総合的にこの授業を受けて良かったと思う」の項目が高く評価されています。自由記述では、「学生の理解度を確認しながら授業を進めてくれるところが良かった」「とてもわかりやすく、説明が具体的で丁寧なので良かった」との記述が多かったです。今回の結果を踏まえ、授業内容を工夫しながら、学生の理解度を踏まえた授業、わかりやすい授業を展開していきたいです。また、学生がより自発的な学習ができるように、予習や復習の課題内容を工夫していきたいです。

④特にありません。

⑤特にありません。

①葛野章

②ケアマネジメント論

③毎年、板書の量が多いとのご指摘をいただいております。本講義は、1 年～4 年まで履修可能な授業となっています。内容の理解を考えると 1 年生のレベルに焦点を当てざるを得ず、つい講義における情報量も多くなる傾向にあります。毎年見直してはいるのですが、次年度は更に情報量を抑えて講義を行うよう工夫してまいります。

④環境的な面での改善点は特にありません

⑤全体的に言えば学生自身のモラルや常識といったあたりが低いですね。（なかには大変わきまえている方もいるので全体的にとしか言えませんが）具体例を挙げれば、授業中の私語、居眠り、飲食、途中退室入室の繰り返し、スマホ操作などは日常的です。また、出席管理システムを採り入れてもカードを忘れてくるものが非常に多い。学生は、紙に書いて出席記録の修正を申し出てきますが、ひどい場合は教壇にメモのように置いてあり、教員が出記録を修正するのが当たり前のごとく要求してくる。また、授業中実施したレポートのレポートの回答用紙の隅に「カード忘れたので修正を求める」といった記載があったり。この 2 事例は、さすがに礼節に欠ける行為として注意いたしました。社会人予備軍としての自覚を促す再教育が望まれます。逆に大学が、現場や社会にそれを押し付けてはならないと思いますね。前段の具体例を授業中に逐次注意していたら講義そのものが成り立ちません。授業改善の学生意見は毎年拝見していますが、学生側の授業を受ける姿勢や工夫のなさ、モチベーションの低さからくる意見ばかりです。学生には能動的に講義に臨む姿勢を求めたいところです。

①藏野ともみ

②精神保健福祉援助実習事後指導、精神保健福祉援助演習Ⅰ、精神保健福祉論Ⅰ、社会福祉学基礎セミナーⅡ

③今回は、講義、演習、実習の異なる形態の 4 科目、また 1 年生から 4 年生まで全ての学年の学生からフィードバックを貰う機会を得ました。当然ですが、初回授業で授業の予定、評価方法、3 ヶ月後くらいを締め切りとするレポートテーマ等、詳細に示すことを心がけています。また、必ずレポートや小テストの直し等の提出物があるので、どの授業でも翌週にはコメントと評価をして返却することになっています。学生自身が自分の学習がどの様に進んでいるのか、次に何に取り組むべきかを可能な限り個別に提示することができればと思っています。今後もそれらを継続するだけでなく、少人数の科目はより学生個人の学習状況を学生自身が分かるようなポートフォリオを用いていきたいと考えています。また学部 FD 研修会で学んだアクティブラーニングの手法を取り入れられるように検討していきたいと考えています。

④特にありません。

⑤講義科目でもディスカッションの時間を設けるようにしています。自分の考えや理解したことを自分の言葉にしてみるとより気づきがあると思っています。「正解」がない問いをして

いることが多いと思います。「授業は参加するもの」です。私も工夫をするので要望も聞かせてください。

①佐藤富士子

②人間関係学総論Ⅳ

③受講者数 153 名、アンケート回答者数 117 名、回収率 76.5%でした。アンケート項目別に見ると学部全体の平均点と同じものは、Ⅰ群の No.3、Ⅱ群の No.9・12、Ⅲ群の No.14・17・18、Ⅳ群の No.9 の 7 項目と昨年度の 3 項目から 4 ポイントの増があったのは評価できることだと思っている。他の項目は学部全体から約 0.2～0.3 位の差が見られた。毎年授業計画と資料作成には担当科目のなかで最も時間をかけていると自負しているが、結果は学部平均並みの評価が得られていない項目があることは残念なことである。学生は、Ⅱ群の No.12「この授業は自分の将来にとって意味があると思う (4.18)」と思っている一方で、Ⅰ群の No.4「学生の理解度を考慮しながら進められた (3.99)」のポイントが低い回答であるのは、リアクションペーパーから推察するとヤングケアラー、LGBT や若年性アルツハイマーを抱えた家族の考え方等授業の中で初めて聞くことが多いものことが要因と思われる。

④特になし

⑤来年度からなくなる科目なので特になし

①佐藤富士子

②医療的ケアⅠ・生活支援技術 A・1・介護過程Ⅰ

③上記の 4 科目は介護福祉士受験資格科目あるいは福祉教職課程科目であり、学生にとっては必修科目であることもあり、学生評価は学部平均を超えていた。特に配当年次 1 年次の科目（生活支援技術 A・1 と介護過程Ⅰ）の 2 科目は、学部平均より高いのは、受講者数が 12 名と少ないので、学生の表情やノートの記述状況等教室内の全体の把握しながら授業の進行が出来ると言うメリットからである。従来通り、教材の工夫やテキストに沿った国会試験合格レベルの知識の習得と理解に力をいれ指導することを心掛けたいと思う。

④特になし

⑤介護福祉士資格試験に関連する科目は、他の科目と関連つけながら覚えてください。

①嶋貫真人

②社会保障論Ⅱ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「この授業のために毎回予習・復習をどの程度したか（質問項目 No.15）」と「授業への積極的参加（同 No.16）」の 2 項目であった。No.15 に関して。授業の終盤にさしかかった頃から、シラバスの記載内容と実際の授業の進行との間に若干のズレが生じてきて、受講生の予習の際に支障をきたすことがあったかもしれない。来年度以降は、毎回の授業の最後に次回の授業の概要について口頭で予告するよう心掛けたい。No.16 に関して。毎年なかなか良い評価を得られない項目であり、苦慮しているところであるが、今年度は授業中に学生に向かって「このこと

について、皆さんはどう思いますか？」という問いかけをする機会を増やしてみた。そして、その成果といえるかもしれないが、29 年度後期はこの項目について例年よりやや高い評価を得たように思われる。したがって、来年度以降もこのような方針で授業に臨みたいと思う。

④特になし

⑤疑問点については、積極的に質問して欲しい。

①嶋貫真人

②更生保護制度

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（質問項目No.5）」のみであった。この点に関しては、上記「社会保障Ⅱ」で述べた「質問No.15」に関する改善策が、ある程度効果をあげるのではないかと期待している。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉援助技術現場実習事後指導

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目はなく、おおむね授業運営は適切に行なわれていたものと思われる。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉学基礎セミナーⅡ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「この授業のために毎回予習・復習をどの程度したか（質問項目No.15）」のみであった。本授業は、そもそも学生に予習・復習を課すことには不向きな内容であり、毎回の授業時間中に受講生の頭脳がフル稼働してくれれば、一応授業の目的は達せられたものとみなされる。よって、授業の運営方法については、特に改善を要するポイントは見当たらない。

④特になし

⑤特になし

①末松恵

②相談援助実習指導Ⅱ

③人間関係学部全体の平均より上回った質問項目は 8 項目で、半分にも及ばなかった。特に学生の評価が厳しかったのは、NO3 の「授業を妨げる行為への措置」で、私語等への対応が求められていたことを自覚できた。一回目の授業でマナー等について注意喚起する他、妨害行為があった場合は、その都度指摘するようにする。また、NO13、「受容内容は科目選

択の参考になったか」の質問項目への評価が低かった。当該科目の意義を進路選択や実習等の目標に引き付けて述べるよう改善していく。個々の学生の感想欄に、「生徒に対してグイグイくるのがいや」「関係ないことを聞いてくる」などの意見があった。学生に対して協調的な態度で接するように心がけていく。大妻女子大は今回初めて講師を務めさせていただきました。不慣れも手伝って、授業内容にも不備があったかと思います。アンケートの内容をふまえ、来期はもっと質の良い授業をめざしたいと存じます。

④とくにありません。

⑤とくにありません。

①関田誠

②社会福祉基礎セミナーⅡ

③予習は毎回出しているが、学生が自学習率が低いので、もう少し難度をあげた方がよさそうである。

④特になし

⑤特になし

①関田誠

②英語 IIIBI

③語学なので予習は必須だが、復習が促されていないように感じる。毎回復習テストを設けることが一つの策と考えられる。

④特になし

⑤特になし

①高橋佳代

②相談援助演習Ⅰ／相談援助演習Ⅱ

③授業の対応策を講じるため、5.4 以外に回答した質問に注視し検討を加えました。3,2,1 に回答した比率の合算が 3 割以上の質問は、10,12,13,15,16,17,18 の 7 つでした。そのなかから 10,12,15,17 をピックアップします。＜授業内容＞の 10「興味深い」、12「将来意味がある」に 3,2,1 を付けた理由のひとつには、将来専門職を目指す学生にとってはこの授業の意味づけができていた反面、それ以外を目指す学生にとってはこの授業の有用性が理解できていなかったのではないかと推察します。あらゆる職場において、コミュニケーション能力を駆使し、良好な人間関係を構築することは必要となります。この授業では、そのスキルを体得する機会となります。授業のはじめに、この点についてしっかりと説明したいと思います。＜取り組みと成果＞の 15「予習・復習、自習」については、知識注入型の授業が主流の高校時代とは異なり、初めての課題解決型の演習であることから、取り組み方に慣れていないこともあるかと思います。このような背景をもとに、本授業では予習の一環として事例に関するレポート、復習の形でロールプレイのふりかえりレポートの提出を求めています。学生にとっては、自らの意思で学習する予習、復習、自習には至っていないとの認識であったの

だと思っています。17「さらに発展的に学びたい」が低調であったことは、極めて残念に思います。演習では「自分ができるようになった」という自己変容の気づきがさらなる課題を生みだし、新たな探求学習へと意欲が高まります。ふりかえりレポートのなかでは、「相手の思いに耳を傾けることができるようになった」「上手く質問ができるようになるとまた課題がうまれた」等々の記述から、確実に自己変容の気づきが見受けられました。その一方で次へのステップの課題が見つかり、自信につながらなかったのかもしれませんが。この演習で「何ができるようになったか」をきっちりと見極め、その自己変容を評価し、自己肯定感を高めていきたいと思っています。本演習では各教科で得た知識や技能を統合し、そのうえで学生の思考力、判断力、表現力をフル活動して課題を解決する探求学習を目指しております。そのため学生に身につけてほしい能力、技能を明示するとともに。その力を他の場所に転移できる力の育成に努めたいと思っています。2 コマ授業のなかで、学生のつまづきを肯定的に見守り、ふりかえりの機会を意図的に設け、じっくり考えるプロセスを辿っていきます。私自身も常に学生と同じ目線で、自らも探求していきたいと考えます。

④⑤特になし

①高橋幸子

②集団心理学

③予習復習や授業中の質問といった、積極的な授業参加を促せるよう工夫したい。

④特になし

⑤分からなかったことはそのままにせず、質問したり調べたりして分かる状態にして欲しい。

①田中優

②ファッションの社会心理学

③今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか。学生の授業への取り組みの程度が低いので、改善を検討したい。マイクの音量について「もう少し上げた方がよい」というコメントがあったので、明瞭で聞きやすい説明を心がけたい。

④特になし

⑤授業中であっても、わからない事は、積極的に質問してもらいたい。manaba などを使っても構わないので、わからない事はそのままにしないでほしい。manaba での質問、感想を求めているが、特定の学生しか反応がないので、積極的に活用して欲しい。

①田中優

②心理学概論 II

③1「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」の評定が低かったので、改善するように努力したい。16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」についての評定が低かった。授業中に、学生同士で授業内容を確認しあう時間を設けているがあるので、活発な意見交換を促したい。

④特になし

⑤毎回 manaba での授業の感想、学びについてのアンケートを取り、できる限り全ての学生に返答をしている。わからないところは、できるだけそのままにせず、質問をして欲しい。

①田中康雄

②A：「社会福祉基礎セミナーⅡ」、B：「社会福祉学概論Ⅱ」

③A について：ゼミ形式の授業形式であり、17 名の受講者の意識や様子を踏まえた上で、毎回の授業において、より工夫した授業運営ができるよう自己研鑽していきたい。B について：福祉系の学科でない受講生に、どうすれば理解が進むか、どうすれば関心が高まるか、それらの疑問を解決できるよう、今後は双方向の授業形式や、タイムリーな話題、事例等をより多く取り入れ改善していきたい。

④特にありません。

⑤（要望はございません）熱心に授業に取り組む学生が多かった印象を受けた。時折、私語等がある学生も見られたため、退屈させない授業づくりを心掛けていきたい。

①種田綾乃

②精神保健福祉援助演習Ⅱ

③昨年度・一昨年度と同様の授業内容での展開ではありましたが、例年の当授業に対する満足度等の状況に比べましても、また、学部全体の平均値と比べましても、本年度の当授業に対する授業評価は、非常に低い状況が顕著でした。特に、「教員の話し方の明瞭さ」、「授業目標の明確さ」、「授業の構成（体系的で把握しやすいか）」といった項目では、特に評価が低い状況でした。学生の授業の取り組み方としても、授業を受けての学びは低く、この授業を受けての発展的な学びなどの実感もきわめて低い状況にあります。講師である私自身の、教え・伝えるスキルの課題とともに、授業内容や進め方の再構成が必要な状況として、重く受け止めました。また、自由記載の中には、「なぜ 4 年生のこの時期に、この授業をするのかわからない」との厳しいご意見もいただいております。現場に出る前に、この演習を行う意義を講師として伝えきれなかった責任は大きいと感じております。次年度は、私自身、本授業を担当することは難しい状況にありますが、今回いただいたご意見は、私自身の教訓として、大切にうけとり、今後、学生さんと向き合う上でのスキルを向上させ、それぞれがより主体的に参加ができるような工夫を重ねていきたいと思っております。

④特になし

⑤本授業は、講師が知識や技術を一方的に提供するというよりは、受講者の方々の主体的な姿勢と相互の学びあいの中で、学びを深めていく授業です。受講者の方自身の実習の体験などと重ね合わせながら、さまざまな事例に向き合いながら、主体的に考える「過程」を大切にしながら学びとっていただければと思います。

①玉井和博

②キャリアデザインⅢ（観光産業の中でもその中核となる総合シティホテルの役割とその収益構造に関し、各事業ごとの商品計画・収益構造を講義した。（ホテル GM 社長・インテリア

デザイナー・出版ディレクター等、各界トップのゲスト講師 3 名による講義。本学学生に対し広くホスピタリティ産業、その中でも特に観光・宿泊（ホテル）産業に関しその社会的意義と働くことの面白さや厳しさを伝え、本産業への興味と理解の醸成を図ることを目標とした。またリアルタイムな社会情勢や政治・経済に関しても授業内に取り入れることとした。）

- ③⑤私の授業はステップアップ式になっているので本講座受講の前提として職業とコミュニティ特論Ⅰ・Ⅱおよび私のキャリアデザイン・Ⅱを受講していることが望ましい。予備知識がなく本講座受講は一部の学生にとって厳しかったのかもしれない。その分、ゲスト講師や写真、DVD 等で理解度の補填を考慮した。「スピード速い、内容詰め込み過ぎ・・・」→伝えたいことが多く、一部の学生にはそのように感じられたと思うので、来期は改善も考慮したい。「言いたいことを言ってるだけ、何を言いたいのか分からない、先生に向いていない・・・」→“先生には不適” 厳しいご指摘ですネ。今迄この様なご指摘はありませんでしたが内容に関しては次の総括をお読み頂きたい。本講座は、全学統一シラバスで履修されるが、上述のとおり、私の授業は、観光・ホテル産業に特化している。状況を知らない学生には、無駄な授業と捉えられたかもしれない。観光産業を広く認知しては貰いたいものの、全く興味のない学生が履修してしまう事の無いよう願う。今年度私の授業は、突然の例外的科目設定であったため学生達は戸惑ったことと推察される。

④特になし

①玉井和博

- ②職業とコミュニティ特論Ⅱ（前期同特論・Ⅰをベースに、総合シティホテルの組織・人事体系を中心にホテルビジネスの実態とホスピタリティ産業の役割や特性を講義した。（ホテルコシェルジュ・ウェディングディレクター・大手ホテル女性部長等第一線のゲスト講師 3 名の講義。本学学生に対し広くホスピタリティ産業、その中でも特に観光・宿泊（ホテル）産業に関しその社会的意義と働くことの面白さや厳しさを伝え、本産業への興味と理解の醸成を図ることを目標とした。またリアルタイムな社会情勢や政治・経済に関しても授業内に取り入れることとした。）

- ③⑤本講座は、社会学専攻の 3 年生対象であり前期同特論・Ⅰと同様の履修対象で、連続履修者も多く、講義しやすい状況であった。「パワーポイントをもう少し見やすくしてほしい・・・」→伝えたいことが多く、一部の学生にはそのように感じられたと思うので、来期は改善も考慮したい。一方、授業内レポート等で“見やすく分かり易い”という意見も多数あった。シラバス内容をある程度理解した学生達であったため、キャリアデザインほど、学生の履修目的と授業内容の齟齬はなかったと思う。今後観光系授業を継続するのであれば、その趣旨と授業内容の明示が必要となろう。今年度私の授業は、突然の例外的科目設定であったため学生達は戸惑ったことと推察される。

④特になし

①玉井和博

②現代社会論セミナーⅡ（前期 同セミナー・Ⅰと連続した年間ゼミ活動でホテル見学会、研修旅行等フィールドワークをベースに各グループ別課題研究と最終論文の作成に向けグループディスカッション中心の授業とした。本学学生に対し広くホスピタリティ産業、その中でも特に観光・宿泊（ホテル）産業に関しその社会的意義と働くことの面白さや厳しさを伝え、本産業への興味と理解の醸成を図ることを目標とした。またリアルタイムな社会情勢や政治・経済に関しても授業内に取り入れることとした。）

③④特になし

⑤社会学専攻 2 年生対象であっても、私の授業を全く履修してない状況では、グループワーク中心のゼミ活動とした前期は、自らの研究課題設定にかなり苦勞したと思われる。フィールドワークの参加状況も大きな課題となった。今年度私の授業は、突然の例外的科目設定であったため学生達は戸惑ったことと推察される。

①玉置佑介

②現代社会理論

③Ⅰ．教員のこの授業の進め方について及びⅡ．この授業の内容についての項目については概ね良好な結果であったと考えられる。そのため、ここではⅢ．この授業への取り組みとその成果についての項目について、今後の改善案を提示する。設問 No.15 の「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」については、非常に反省すべき結果となった。そのため、各講義回の終盤で次の講義への予習として具体的な「課題」を提示し、次の講義回までの提出物として位置づけ、評価に加えていく必要があると考える。また、復習についても予習と同様に位置づけ、評価に加えていくだけでなく学習到達度の目安としていく必要があると考える。上記の予習及び復習課題は 15 回分（30 課題）となる。これを評価項目に加えていく場合、概ね 1 回分の採点配分は 2 点くらいとなるだろうか。すなわち、すべての課題を妥当な形で提出し、内容的に評価できるものと判断できた場合に 2 点、内容的に難がある場合であっても提出点として 1 点を配点していく。これで 60 点分となるが、残る 40 点の評価は小テスト（20 点分）、学期末試験（20 点）とし、具体的な予習及び復習の評価を主軸に据えるべきであると考え。次に、設問 No.16 の「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」についても、反省すべき結果となっている。今後は、講義の導入部分もしくは初回講義時に講義内容に関連する簡単なアンケートを実施し、その結果を学生たちに提示しながら講義を進めていくこととする。そのことで積極的に講義に参加してもらい、講義時間の 15 分ほどを学生とのディスカッションの時間としていきたい。また、2 人 1 組もしくは 3 人 1 組程度の小グループを 20 から 30 ほど組み、講義内容に関するグループディスカッションを講義内容に組み込んでいくこととしたい。また、グループで話しあった内容についてリアクションペーパー等の提出物として評価に組み込んでいくことも併せて付記しておく。

④とくにありません

⑤とくにありません

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－B

③学部平均よりもほとんどの項目で高い評価であった。これからもしっかりした授業を続けて行きたいと思います。

④特になし

⑤この授業は、面接の基礎と、グループワークの学びが中心の授業です。相談援助実習でも使う技術のため復習にも時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助実習事後指導

③学生からの評価は高く、これから学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思います。「予習復習」の評価が学部平均だったので、自主学習ができるよう工夫したい。

④特になし

⑤この授業は、実習後の振り返りを中心に行う時間です。ここでの学びは、その後の様々な授業に活かすことが出来るので、しっかりと自分の言葉で学びを表現できるようにしましょう。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－A

③学生からの評価も高く、これから学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。多くの事例を扱い、学生自身が考える授業形態にしたところ、5・12・15・18・19 の評価が特に高く、今後も続けたいと思います。

④特になし

⑤特になし

①塚田修一

②アイデンティティ論

③全体的には、人間関係学部平均とほぼ一致しており、まずまずの結果なのではないかと思う。だが、質問 15「どの程度自習したか」、質問 16「授業に積極的に参加した」が低い。ほぼ毎週、manaba でミニ課題を提出してもらっているのだが、学生の実感としては、「自習」や「積極的な参加」には結びついていないようである。今後は、授業時間内でワークショップなどを行い、「積極的な参加」を感じてもらえるようにしたい。

④特になし

⑤特になし

①塚田修一

②映像・演劇の世界

③大体の質問項目で学部全体平均と一致しているのだが、質問 3「私語に対して適切な措置をした」、質問 5「積極的な参加を促した」、質問 16「積極的に参加した」がやや低い。これ

は、200 人の履修者への大教室での授業であることが主たる要因であるように思われる。つまり、大教室なので、後ろの方で私語をする学生も出てくるのだが、教員はなかなかそれに気づけない。また、200 人という大人数の学生を皆、授業に積極的に参加させるのもなかなか難しい、ということだ。この授業でも、毎回 **manaba** でミニ課題を提出してもらっていたのだが、うまく「積極的な参加」に結びついていないようだ。来年度からは、試験的にグループワークやワークショップを実施して、「積極的な参加」を促し、また「私語」が問題にならないように、配慮したい。また、学生から「シラバス通りの授業をしてほしい」という意見もあった。しっかりと心に留め、来年度の授業を組み立てたい。しかしながら、受講生の理解や興味・関心、または世の中の流行などに合わせて授業内容を変えているので、学生にもそのように理解してもらいたい、というのが本音である。

④特になし

⑤特になし

①土野瑞穂

②グローバル化とジェンダー（水曜 3 限）、ジェンダーと社会生活（水曜 4 限）

③「グローバル化とジェンダー」に関するアンケートに記載されていた「資料（レジュメ）があるのに何がしたいかわからない」とのコメントについてだが、その原因としては、毎回授業の冒頭で紹介している授業内容のポイントが不明瞭であったこと、あるいは授業内容とマッチしていなかったのではないかとと思われる。来年度からは、授業内容の円滑な理解を進めるために、授業冒頭でより明確にわかりやすくポイントを伝えるようにしたい。また、今年度の「グローバル化とジェンダー」では、世界の実情とジェンダーとのつながりをより身近に感じてもらうために映像資料を多く用いた。そのことが、一部の学生には視覚的に無理（字幕を追う大変さ、映画を見ながらのリアクションペーパーの執筆は大変であるなど）を強いてしまったのではないかと反省している。次回からは映像資料の使い方にも十分配慮したい。「ジェンダーと社会生活」のアンケートにおける「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」の点数が低いことについて、今後は授業中にその都度確認をしながら進めていきたい。また他の項目と比較して点数が低かった「この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った」という点についても、この授業が受講生の現在の生活に直接活かせる知識を提供するものであるもっと明確に打ち出し、学生の主体的な学びや知的好奇心を引き出すことができるよう努めたい。

④特にありません。

⑤普段本を読む習慣がなくとも、せめて期末レポートの時はしっかり読み、自分のことばでレポートを書くようにしてもらいたい。

①西川千登世

②社会心理学調査研究法

③昨年度の結果から、毎授業課題として振り返りアンケートを実施した結果、質問する学生も増え、授業や課題への取り組み方は改善傾向がみられたため、全体的なアンケート結果とし

ては、良かったと感じています。しかしながら、予習・復習や課題の提出状況に関しては、学生によって差があり、授業理解という点では、一部の学生にとっては厳しい状況だった様子もみられます。質問する環境は整えていますが、参加してもらえないことがとても残念でした。時間配分などを調整しながら、引き続き各授業ごとの理解度を確認していきたいと考えます。

④今年度は 6 号館で情報処理室の合同授業が出来た点は良かったと思いました。7 号館でも実施できるようになるとありがたいと思います。

⑤授業に積極的に参加すること、休まないことが大切な授業です。また、わからないことをわからないままにせずに質問してほしいです。休んだり、わからなかったりした時に、先生に質問や相談するのはもちろんですが、友人やグループのメンバーと協力することしてほしいと思います。

①西川千登世

②コミュニケーション論

③かなり良いアンケート結果をいただき感謝しています。学生は、楽しみながらも学んでくれたと感じます。この結果に慢心せず、より良い授業が出来るよう取り組みたいと思います。

④学生にマイクを向けることも多い授業なのでワイヤレスマイクのある教室が希望です。

⑤積極的に授業に参加し、楽しみながら学んでほしいです。

①西河正行

②精神分析

③アンケート結果を見ると、予習、復習をしていない学生が多い。確かに、最近、授業に臨む心構えができていない学生が出てきている。例えば、教科書を購入しない。授業を聞かずに寝ていて、出席していれば成績が取れると思っている。あるいは、5 回まで欠席してもよいと思っている、などである。講義科目は基本的に内容が理解されなければ教育目標が達成されない。そのため、最終試験に出す問題を授業の途中でミニテストとして出して **manaba** で回答させているが、出さない学生がかなりある。そこで、来年度からはミニテストから問題を出すことを明確化しようと思う。

④⑤上記と同じ。

①西河正行

②グループワーク A、B

③授業で何をしているか分からないという学生がいた。担当教員として、そのようになるのは、学生が講義をしないのは授業ではないと思っているのではないかと、つまり、演習科目の意味を分かっていないのではないかとと思う。そこで、授業開始時にその点を明確化しようと考えている。

④⑤上記と同じ。

①原葉子

②女性史

③学生の理解度に関する項目が低いのが目立ちました。ヨーロッパ史を扱う授業で、なじみのない内容が多かったことが要因と思われるため、導入方法や資料などを再検討したいと思います。

④100名を超える授業のため、学生一人一人の理解度を確認しながら進めるのは難しい面もありました。次年度の改善のためには、シラバスをつくるまえにアンケート結果がわかるとよりよいのではと思います。

⑤ご協力によりよい授業環境が保てました。基礎的な知識に関しては、自分で勉強してから授業に臨むような努力もお願いします。

①干川剛史

②社会学概論Ⅱ（火 1）／社会調査及び演習Ⅱ（火 3）／社会学基礎セミナーⅡ（水 3）／情報社会論（木 1）

③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅰ（火 1）（111人）／情報社会論（木 1）（53人）については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低い、特に、社会学概論Ⅰは、社会学専攻必修の授業で、選択の余地なく強制的に受講せざるを得ない不満があるので評定平均が低めになると考えられ、また、自由回答を読むと、前回の授業の振り返りの時間が長く授業がなかなか進まない、リアクションペーパーに授業内容のコメントを記入する時間を設けてほしいなど、改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、学生の扱いが公平である、授業内容のパワーポイントファイルが manaba に掲載されている、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。他方で、授業進行の時間配分に注意する、授業内容のコメントをリアクションペーパーと manaba を併用して記載させるなど、多くの学生に満足のいくような講義にする工夫が必要である。なお、社会調査及び演習Ⅱ（16人）と社会学基礎セミナーⅠ（18人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。

④講義形式の授業は、100人前後になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。

⑤講義科目もセミナー科目も、教科書を読んで予習してほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①堀洋元

②社会心理学概論

③昨年度の結果と比べて、自習や積極的な参加に対する評価が向上していた。次年度も復習を中心として、より多くの受講生が主体的に学ぶ習慣を身につけられるよう改善していきたい。

- ④リアルタイムに集計しながら授業を双方向で進行できるよう、スマートフォンやタブレットなどの機器を積極的に活用したい。
- ⑤専門用語（概念）とその意味（定義）を理解した上で人に説明できるよう、学んだ知識を自分なりに整理して身につけていってほしいと思います。1年生のうちに、コツコツ学んでいくことの楽しさも学んでいきましょう。

①堀洋元

②人間の成長と心理

- ③受講者数が非常に多く、例年以上に授業環境の均質化を意識して授業を行った。さまざまな専攻の学生が受講する授業であったが、次年度は人間関係学部の学生のみとなるため、同じテーマを扱うにしても受講生の専攻に焦点を当てて授業を進めることも考えたい。
- ④指定座席をローテーションするなど工夫したものの賛否両論があり、現状の教室収容人数、受講生数で授業を展開する限界を感じた。季節柄、荷物が多い後期の授業ゆえに、収容人数に余裕を持つことも授業環境の快適さにつながる対処かも知れない。
- ⑤自分自身や対人関係、自分のライフコースについて興味を持って取り組んでほしいと思います。

①堀洋元

②キャリア心理学セミナー

- ③3年前期までに身につけた知識やスキルを活かして取り組んでもらえたように感じた。自発的に時間外学習に取り組んだ人もいて、今後もより多くの受講学生が意欲的になれるよう後押ししていきたい。授業準備も含めて、効率よく進められるようにしていきたい。
- ④履修登録後にコース分けを行う授業のため、manabaの活用が難しい。開講後のコース別にweb提出やインタラクションが可能なしくみが欲しい。
- ⑤今まで身につけた知識やスキルをふりかえり、グループ内で最大限に特長を活かせるよう自ら進んで取り組んでほしいと思います。

①本田周二

②対人関係

- ③昨年度、毎回の予習・復習に関する数値が低かったため、今年度は毎回の予習・復習を評価に加え、授業を進行した。その結果、数値が向上したことは、良かった点である。ただ、まだ数値を上げる工夫が出来ると思うので、次年度は更なる改善を心掛けたい。
- ④100名弱でもアクティブラーニングが実施できるように、出来る限り固定式ではなく、可動式の机といすのある部屋で授業を行いたい。
- ⑤授業で学んだ知識を他者に説明することが出来るようになるまで、理解を深めることが自身の学びに繋がりますので、そこまでを目指して欲しいと思います。

①本田周二

②教育心理学

③「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」という部分が少し数値が低い
ため、次年度は授業形態を大きく変えてみたいと考えている。

④アクティブラーニングが実施できるように、出来る限り固定式ではなく、可動式の机とい
すのある部屋で授業を行いたい。

⑤教育心理学は教員を目指す人だけではなく、すべての人にとって「教育とは何か」を考
える機会になると思います。ぜひ、積極的に授業中に意見交換をしてください。

①本田周二

②キャリア心理学セミナー

③「授業は自分の将来にとって意味があると思う」という項目に関して、8割の学生が5
点をつけていたことは、良い点だったと考える。次年度は後期から前期に時間割が変更になる
ので、気を引き締めていきたい。

④履修登録後にコース分けを行う授業のため、manabaの活用が難しい。開講後のコース別
web提出やインタラクションが可能なしくみが欲しい。

⑤大学での学びをしっかりと振り返ったうえで将来について考える機会は、なかなか取れ
ないと思うので、この授業を有効に活用してください。

①本田周二

②基礎統計学Ⅱ

③昨年度、「授業は、学生の理解度を考慮しながら進められた」に関する数値が低かったた
め、今年度は、毎回学生の反応を収集したうえで、授業を組み立てた結果、平均が1ポ
イント上昇した点は、改善の効果として意味があったと考えている。ただ、予習・復習の
数値が低いので、次年度はこの点を改善していきたい。

④特にありません。

⑤統計は、繰り返し課題を解いていくことで身につけていきます。授業中だけでなく、
授業外での自習を大切にしてください。

①牧野智和

②社会学基礎セミナーⅡ

③今回、本を紹介する「ビブリオバトル」という課題を出したところ、No15の回答が1.5
ポイント近く上昇したので、このような課題を出すと予習復習の評価がこう変わることが
分かった。次年度は課題の出し方をさらに工夫したい。

④セミナー系の科目でも、発表でPCやプロジェクタを使うことがあるので、使用設備など
について希望などを聞いていただけると助かります。

⑤特にありません。

①壬生尚美

②介護総合演習Ⅳ

③本授業は「介護実習Ⅲ」を振り返り、各受講生がタイトなスケジュールで、抄録、本文、パワーポイント作成・発表に取り組まなければならない。今年度は授業計画に沿って情報処理室を活用しながら授業を進めた。学生の受講態度は、出席率も良く、期限も厳守し、熱心に取り組んでいた。そのことは、授業評価に現れている。また、「発展的に学びたい」という意欲が平均より高く、今後の介護専門職としてのあり方に期待される。更に実践を振り返り介護観をより高めていくような授業展開をめざしたい。

④特になし

⑤特になし

①森山拓也

②精神科リハビリテーション学Ⅱ、精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

③両科目とも質問 15「この授業のために毎回予習復習併せてどの程度自習しましたか」質問 16「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」についての平均点が低かった。毎回の授業の中で次回内容の予告や課題の提示し、その課題について授業内で学生とのやり取りを増やしたなど、学生参加型の授業になるよう工夫を検討していきたい。

④今年度と同様の教室（PC、DVD、マイクあり）で授業担当できると幸いです。

⑤特になしです。

①八城薫

②社会心理学調査研究法、心理統計学、キャリア心理学セミナー

③予習復習についての評価が低いのですが、毎回事前学習課題と事後課題を出しているので、予習復習は出来ているように思います。課題と予習復習は別物と考えている可能性があるので、意識づけをする必要があるようです授業時間の延長について指摘がありましたので、時間内に終わられるように努めていきます。

④引き続き一人 1 台の PC 環境の整った教室で授業が出来ることを望みます。全教室無線 LAN も整備されたので、学生が気軽に PC を持ち込んで授業が受けられる環境が整うと良いかと思います。

⑤課題も多い授業でお互いに大変でしたが、「一緒に頑張ったな」と感じられる授業でした。積極的な授業参加と、自分なりの学習スタイルを構築して取り組むことで、さらに力が付くと思います。

①吉方りえ

②「女性と健康」「人体の構造と機能及び疾病Ⅱ」

③ i) 授業に集中できない学生に対し、こまめに声を掛け発言を促すようにする。 ii) 授業に興味を持てるような資料や課題を増やす。

④特になし

⑤授業内容が理解できないため、私語が多くなるのではないかと思います。疑問点、不明点に対し積極的に授業時間内に発言して欲しい。

①吉野薫

②キャリアデザインⅠ（金曜２限）

③科目の狙いをこれまでどおりしっかりと受講者に伝えるように心がけます。

④授業で掲示物を用いるため、教室に磁石をいくつか設置していただけると有り難いです。また、受講者に授業内でグループワークをさせるという本講義の特質上、受講者数につきましてはなるべく少ない方が有り難いです。（今学期は 49 名、前学期は 100 名近くでしたので、今学期は取り組みやすかったです。）

⑤特にありません

平成29(2017)年度人間関係学部FD委員会

委員長 嶋貫 真人 (人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)
委員 小川 浩 (人間関係学部長、人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)
福島 哲夫 (人間関係学科長、人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、教授)
佐藤 富士子 (人間福祉学科長、人間福祉学科、介護福祉学専攻、教授)
伊藤 美登里 (人間関係学科、社会学専攻、教授)
本田 周二 (人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、専任講師)
金 美辰 (人間福祉学科、介護福祉学専攻、准教授)

平成29(2017)年度 人間関係学部 F D 活動報告書

平成30(2018)年5月発行

発行 大妻女子大学人間関係学部
〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1

著作・編集 大妻女子大学人間関係学部 F D 委員会
ningenfd@ml.otsuma.ac.jp

印刷・製本 株式会社相模プリント
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17
TEL 042-772-1275
FAX 042-774-1913